○商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律

（明治三十三年二月二十六日　法律第十七號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

商法中署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

○湖川、港灣及沿岸小航海ノ範圍

（明治三十二年五月二十六日　逓信省令第二十號）

商法施行法第百二十二條ノ規定ニ依リ湖川、港灣及沿岸小航海ノ範圍左ノ通定ム

湖川、港灣ノ範圍ハ平水航路ノ區域ニ依ル

沿岸小航海ノ範圍ハ播磨國明石川口西岸ヨリ淡路國江崎ニ至ル線、淡路國押登埼ヨリ阿波國大磯埼ニ至ル線、伊豫國佐田岬ヨリ高島ヲ經テ豐後國地蔵埼ニ至ル線及豐前國部埼ヨリ長門國宇部村ニ至ル線ヲ以テ限ラレタル內海トス

○有限會社法（昭和十三年四月五日　法律第七十四號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル有限會社法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

有限會社法

第一章　總則

第一條　本法ニ於テ有限會社トハ商行爲其ノ他ノ營利行爲ヲ爲スヲ業トスル目的ヲ以テ本法ニ依リ設立シタル社團ヲ謂フ

第二條　有限會社ハ之ヲ法人トス

第三條　有限會社ハ商行爲ヲ爲スヲ業トセザルモ之ヲ商人ト看做ス

第三條　有限會社ノ商號中ニハ有限會社ナル文字ヲ用フルコトヲ要ス

有限會社ニ非ザル者ハ商號中ニ有限會社タルコトヲ表示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ有限會社ノ營業ヲ讓受ケタルトキト雖モ亦同ジ

第四條　商法第五十四條第二項、第五十五條及第五十七條乃至第六十一條ノ規定ハ有限會社ニ之ヲ準用ス

第二章　設立

第五條　有限會社ヲ設立スルニハ定款ヲ作ルコトヲ要ス

商法第百六十七條ノ規定ハ有限會社ニ之ヲ準用ス

第六條　定款ニハ左ノ事項ヲ記載シ各社員之ニ署名スルコトヲ要ス

一　目的

二　商號

三　資本ノ總額

四　出資一口ノ金額

五　社員ノ氏名及住所

六　各社員ノ出資ノ口數

七　本店及支店ノ所在地

第七條　左ノ事項ハ之ヲ定款ニ記載スルニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ

一　存立時期又ハ解散ノ事由

二　現物出資ヲ爲ス者ノ氏名、出資ノ目的タル財產、其ノ價格及之ニ對シテ與フル出資口數

三　會社ノ成立後ニ讓受クルコトヲ約シタル財產、其ノ價格及讓渡人ノ氏名

四　會社ノ負擔ニ歸スベキ設立費用

第八條　社員ノ總數ハ五十人ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ

特別ノ事情アル場合ニ於テ裁判所ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ遺産相續又ハ遺贈ニ因リ社員ノ數ニ變更ヲ生ズル場合ニハ之ヲ適用セズ

第九條　資本ノ總額ハ一萬圓ヲ下ルコトヲ得ズ

第十條　出資一口ノ金額ハ均一トシ百圓ヲ下ルコトヲ得ズ

第十一條　定款ヲ以テ取締役ヲ定メザルトキハ會社成立前社員總會ヲ開キ之ヲ選任スルコトヲ要ス

前項ノ社員總會ハ各社員之ヲ招集スルコトヲ得

第十二條　取締役ハ社員ヲシテ出資全額ノ拂込又ハ現物出資ノ目的タル財産全部ノ給付ヲ爲サシムルコトヲ要ス

商法第百七十二條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　有限會社ノ設立ノ登記ハ前條ノ拂込又ハ給付アリタル日ヨリ二週間內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

○一　第六條第一號乃至第四號ニ掲グル事項

二　本店及支店

五　存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

四　其取締役ノ氏名及住所

五　取締役ニシテ會社ヲ代表セザル者アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏名

六　數人ノ取締役ガ共同シ又ハ取締役ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スベキコトヲ定メタルトキハ其ノ規定

七　監査役アルトキハ其ノ氏名及住所

商法第九條乃至第十五條、第六十四條第二項及第六十五條乃至第六十七條ノ規定ハ有限會社ニ之ヲ準用ス

第十四條　第七條第二號及第三號ノ財産ノ會社成立當時ニ於ケル實價ガ定款ニ定メタル價格ニ著シク不足スルトキハ會社成立當時ノ社員ハ會社ニ對シ連帶シテ其ノ不足額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第十五條　第十二條第一項ノ規定ニ依ル拂込又ハ給付ノ未濟アル出資アルトキハ會社成立當時ノ取締役、監査役及社員ハ連帶シテ拂込ヲ爲シ又ハ給付未濟財産ノ價額ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フ

第十六條　前二條ニ定ムル義務ハ會社成立ノ日ヨリ五年ヲ經過シタル後ニ非ザレバ之ヲ免除スルコトヲ得ズ

第三章　社員ノ權利義務

第十七條　社員ノ責任ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ出資ノ金額ヲ限度トスル

第十八條　各社員ハ其ノ出資ノ口數ニ應ジテ持分ヲ有ス

第十九條　社員ハ第四十八條ニ定ムル社員總會ノ決議アルトキニ限リ其ノ持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但シ定款ヲ以テ讓渡ノ制限ヲ加重スルコトヲ妨ゲズ

讓渡ニ因リ社員ノ總數ガ第八條第一項ノ規定ニ依ル制限ヲ超ユル場合ニ於テハ遺贈ノ場合ヲ除クノ外其ノ讓渡ヲ無效トス

社員相互間ノ持分ノ讓渡ニ付テハ第一項ノ規定ニ拘ラズ定款ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第二十條　持分ノ移轉ハ取得者ノ氏名及住所竝ニ移轉スル出資口數ヲ社員名簿ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ會社其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第二十一條　有限會社ハ持分ニ付指圖式又ハ無記名式ノ證券ヲ發行スルコトヲ得ズ

第二十二條　商法第二百三條ノ規定ハ持分ガ數人ノ共有ニ屬スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條　持分ハ之ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコトヲ得

第十九條第一項及第二十條ノ規定ハ持分ノ質入ニ之ヲ準用ス

第二十四條　商法第二百八條第一項、第二百九條第一項第四項、第二百十條、第二百十一條及第二百十二條第一項ノ規定ハ社員ノ持分ニ之ヲ準用ス

商法第二百二十四條第一項及第二項ノ規定ハ社員ニ對スル通知又ハ催告ニ之ヲ準用ス

第四章　會社ノ管理

第二十五條　有限會社ニハ一人又ハ數人ノ取締役ヲ置クコトヲ要ス

第二十六條　取締役數人アル場合ニ於テ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務執行ハ取締役ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス支配人ノ選任及解任亦同ジ

第二十七條　取締役ハ會社ヲ代表ス

第二十八條　取締役ハ定款及社員總會ノ議事錄ヲ本店及支店ニ、社員名簿ヲ本店ニ備置クコトヲ要ス

社員名簿ニハ社員ノ氏名及住所竝ニ其ノ出資ノ口數

ヲ記載スルコトヲ要ス

社員及會社ノ債權者ハ營業時間內何時ニテモ第一項ニ掲グル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條　取締役ハ社員總會ノ認許アルニ非ザレバ自己若ハ第三者ノ爲ニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員若ハ取締役ト爲ルコトヲ得ズ

取締役ガ前項ノ規定ニ違反シテ自己ノ爲ニ取引ヲ爲シタルトキハ社員總會ハ之ヲ以テ會社ノ爲ニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ニ定ムル權利ハ監査役アルトキハ監査役ノ一人、監査役ナキトキハ他ノ取締役ノ一人ガ其ノ取引ヲ知リタル時ヨリ二月間之ヲ行使セザルトキハ消滅ス取引ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同ジ

第三十條　取締役ハ監査役アルトキハ其ノ承認、監査役ナキトキハ社員總會ノ認許ヲ得タルトキニ限リ自己又ハ第三者ノ爲ニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民法第百八條ノ規定ヲ適用セズ

第三十一條　社員總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル出資口數ヲ有スル社員ガ訴ノ提起ヲ會社ニ請求シタルトキハ會社ハ請求ノ日ヨリ一月內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ定款ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第三十二條　商法第二百五十四條、第二百五十七條、第二百五十八條、第二百六十一條、第二百六十二條、第二百六十六條、第二百六十七條、第二百六十八條第二項乃至第五項及第二百六十九條乃至第二百七十二條ノ規定ハ取締役ニ之ヲ準用ス

第三十三條　有限會社ハ定款ニ依リ一人又ハ數人ノ監査役ヲ置クコトヲ得

第十一條ノ規定ハ定款ニ於テ監査役ヲ置クコトヲ定メタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條　第三十一條竝ニ商法第二百五十四條、第二百五十七條、第二百五十八條、第二百六十六條、第二百六十七條、第二百六十八條第二項乃至第五項、第二百六十九條、第二百七十條、第二百七十二條及第二百七十四條乃至第二百七十八條ノ規定ハ監査役ニ之ヲ準用ス

第三十五條　社員總會ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外取締役之ヲ招集ス

第三十六條　總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ一週間前ニ各社員ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス但シ此ノ期間ハ定款ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ妨ゲズ

第三十七條　資本ノ十分ノ一以上ニ當ル出資口數ヲ有スル社員ハ會議ノ目的タル事項及招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

第三十一條第二項及商法第二百三十七條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條　總會ハ總社員ノ同意アルトキハ招集ノ手續ヲ經ズシテ之ヲ開クコトヲ得

第三十九條　各社員ハ出資一口ニ付一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ヲ以テ議決權ノ數ニ付別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第四十條　有限會社ガ左ノ行爲ヲ爲スニハ第四十八條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス

一　營業ノ全部又ハ一部ノ讓渡

二　營業全部ノ賃貸、其ノ經營ノ委任、他人ト營業上ノ損益全部ヲ共通ニスル契約其ノ他之ニ準ズル契約ノ締結、變更又ハ解約

三　他ノ會社ノ營業全部ノ讓受

四　取締役又ハ監査役ノ任務懈怠ニ因ル責任ノ免除

第三十一條ノ規定ハ前項第四號ノ決議アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ規定ハ有限會社ガ其ノ成立後二年內ニ其ノ成立前ヨリ存在スル財産ニシテ營業ノ爲ニ繼續シテ使用スベキモノヲ資本ノ二十分ノ一以上ニ當ル對價ヲ以テ取得スル契約ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第四十一條　商法第二百三十四條乃至第二百三十六條、第二百三十八條、第二百三十九條第一項第三項第四項、第二百四十條、第二百四十一條第二項、第二百四十三條、第二百四十四條及第二百四十七條乃至第二百五十三條ノ規定ハ社員總會ニ之ヲ準用ス

第四十二條　總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ總社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

決議ノ目的タル事項ニ付總社員ガ書面ヲ以テ同意ヲ表シタルトキハ書面ニ依ル決議アリタルモノト看做ス

書面ニ依ル決議ハ總會ノ決議ト同一ノ效力ヲ有ス

總會ニ關スル規定ハ書面ニ依ル決議ニ之ヲ準用ス

第四十三條　取締役ハ毎決算期ニ左ノ書類ヲ作ルコト

ヲ要ス

一　財産目錄

二　貸借對照表

三　營業報告書

四　損益計算書

五　準備金及利益ノ配當ニ關スル議案

監査役アルトキハ取締役ハ定時總會ノ會日ヨリ二週間前ニ前項ノ書類ヲ監査役ニ提出スルコトヲ要ス

第四十四條　利益ノ配當ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出資ノ口數ニ應ジテ之ヲ爲スベシ

第四十五條　有限會社ノ業務ノ執行ニ關シ不正ノ行爲又ハ法令若ハ定款ニ違反スル重大ナル事實アルコトヲ疑フベキ事由アルトキハ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル出資口數ヲ有スル社員ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲裁判所ニ檢査役ノ選任ヲ請求スルコトヲ得

檢査役ハ其ノ調査ノ結果ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ監査役アルトキハ監査役、監査役ナキトキハ取締役ヲシテ社員總會ヲ招集セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ商法第百八十一條第二項及第百八十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四十六條　商法第二百八十二條、第二百八十三條第一項、第二百八十四條乃至第二百八十六條、第二百八十八條第一項、第二百八十九條及第二百九十條ノ規定ハ有限會社ノ計算ニ之ヲ準用ス

商法第二百九十五條ノ規定ハ有限會社ト使用人トノ間ノ雇傭關係ニ基キ生ジタル債權ニ之ヲ準用ス

第五章　定款ノ變更

第四十七條　定款ノ變更ヲ爲スニハ社員總會ノ決議アルコトヲ要ス

第四十八條　前條ノ決議ハ總社員ノ半數以上ニシテ總社員ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ有スル者ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

前項ノ規定ハ適用ニ付テハ議決權ヲ行使スルコトヲ得ザル社員ハ之ヲ總社員ノ數ニ、其ノ行使スルコトヲ得ザル議決權ハ之ヲ議決權ノ數ニ算入セズ

第四十九條　左ノ事項ハ定款ニ別段ノ定ナキトキト雖モ資本增加ノ決議ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

一　現物出資ヲ爲ス者ノ氏名、出資ノ目的タル財産、其ノ價格及之ニ對シテ與フル出資口數

二　資本ノ增加後ニ讓受クルコトヲ約シタル財産、其ノ價格及讓渡人ノ氏名

三　增加スル資本ニ付出資ノ引受ヲ爲ス權利ヲ與フベキ者及其ノ權利ノ內容

第五十條　有限會社ガ特定ノ者ニ對シ將來其ノ資本ヲ增加スル場合ニ於テ出資ノ引受ヲ爲ス權利ヲ與フベキコトヲ約スルニハ第四十八條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス

第五十一條　社員ハ增加スル資本ニ付其ノ持分ニ應ジテ出資ノ引受ヲ爲ス權利ヲ有ス但シ前二條ノ決議ニ依リ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十二條　資本增加ノ場合ニ於テ出資ノ引受ヲ爲サントスル者ハ引受ヲ證スル書面ニ其ノ引受クベキ出資ノ口數及住所ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス

有限會社ハ廣告其ノ他ノ方法ニ依リ引受人ヲ公募スルコトヲ得ズ

第五十三條　有限會社ハ出資全額ノ拂込又ハ現物出資ノ目的タル財産ノ給付アリタル日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間內ニ資本增加ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一　增加シタル資本ノ額

二　資本增加ノ決議ノ年月日

第五十四條　第四十九條第一號及第二號ノ財産ノ資本增加當時ニ於ケル實價ガ資本增加ノ決議ニ依リ定メタル價格ニ著シク不足スルトキハ其ノ決議ニ同意シタル社員ハ會社ニ對シ連帶シテ其ノ不足額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第五十五條　引受ナキ出資又ハ出資全額ノ拂込若ハ現物出資ノ目的タル財産ノ給付ノ未濟ナル出資アルトキハ取締役及監査役ハ連帶シテ其ノ引受ヲ爲シ又ハ拂込若ハ給付未濟財産ノ價額ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フ

第五十六條　第十六條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條　第十二條及第四十條第三項竝ニ商法第二百條第二項、第三百五十二條、第三百五十八條第一項、第三百七十一條、第三百七十二條、第三百七十三條第一項及第三百七十四條ノ規定ハ資本增加ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十八條　商法第三百七十六條第二項第二項、第三

百七十九條第一項第二項及第三百八十條ノ規定ハ資本減少ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六章　合併及組織變更

第五十九條　有限會社ハ他ノ有限會社ト合併ヲ爲スコトヲ得但シ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ有限會社ナルコトヲ要ス

會社ガ前項ノ規定ニ依リ合併ヲ爲スニハ第四十八條ニ定ムル決議アルコトヲ要ス

合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關スル行爲ハ各會社ニ於テ選任シタル設立委員共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十八條ノ規定ハ前項ノ選任ニ之ヲ準用ス

第六十條　有限會社ハ株式會社ト合併ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ合併ヲ爲ス株式會社又ハ合併ニ因リテ設立スル株式會社ニ關シテハ商法ノ規定ニ從フコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ガ株式會社ナルトキハ合併ハ裁判所ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ

合併ヲ爲ス會社ノ一方ガ社債ノ償還ヲ完了セザル株式會社ナルトキハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ有限會社タルコトヲ得ズ

前條第二項乃至第四項ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十一條　前條第一項ノ場合ニ於テ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ガ有限會社ナルトキハ商法第二百八條第一項ノ規定ハ從前ノ株式ヲ目的トスル質權ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ質權ノ目的タル持分ニ付出資口數竝ニ質權者ノ氏名及住所ヲ社員名簿ニ記載スルニ非ザレバ其ノ質權ヲ以テ會社其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第六十二條　有限會社ガ合併ヲ爲シタルトキハ第六十三條ニ於テ準用スル商法第四百十二條又ハ第四百十三條ノ規定ニ依ル社員總會ノ終結ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間內ニ合併後存續スル有限會社ニ付テハ變更ノ登記、合併ニ因リテ消滅スル有限會社ニ付テハ解散ノ登記、合併ニ因リテ設立シタル有限會社ニ付テハ第十三條第二項ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第六十三條　商法第九十八條第二項、第九十九條、第百條、第百二條乃至第百十一條、第三百七十九條第一項第二項、第四百八條乃至第四百十條、第四百十二條、第四百十三條及第四百十五條ノ規定ハ有限會社ニ之ヲ準用ス

第六十四條　株式會社ハ總株主ノ一致ニ依ル總會ノ決議ヲ以テ其ノ組織ヲ變更シテ之ヲ有限會社ト爲スコトヲ得但シ社債ノ償還ヲ完了セザル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ組織變更ノ場合ニ於テハ會社ニ現存スル純財產額ヨリ多キ金額ヲ以テ資本ノ總額ト爲スコトヲ得ズ

第一項ノ決議ニ於テハ定款其ノ他組織ノ變更ニ必要ナル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

第六十一條ノ規定ハ第一項ノ組織變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條　前條ノ組織變更ノ場合ニ於テ會社ニ現存スル純財產額ガ資本ノ總額ニ不足スルトキハ前條第一項ノ決議當時ノ取締役、監査役及株主ハ會社ニ對シ連帶シテ其ノ不足額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十六條　株式會社ガ第六十四條ノ規定ニ依リ其ノ組織ヲ變更シタルトキハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間內ニ株式會社ニ付テハ解散ノ登記、有限會社ニ付テハ第十三條第二項ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第六十七條　有限會社ハ總社員ノ一致ニ依ル總會ノ決議ヲ以テ其ノ組織ヲ變更シテ之ヲ株式會社ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ會社ニ現存スル純財產額ヨリ多キ金額ヲ以テ拂込ミタル株金額ト爲スコトヲ得ズ

第一項ノ組織變更ハ裁判所ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ

第六十一條第一項、第六十四條第三項、第六十五條及前條竝ニ商法第二百九條第三項ノ規定ハ第一項ノ組織變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十八條　商法第九十九條及第百條ノ規定ハ第六十四條及前條ノ組織變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七章　解散

第六十九條　有限會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一　存立時期ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生

二　社員總會ノ決議

三　會社ノ合併

四　營業全部ノ讓渡
五　社員ガ一人ト爲リタルコト
六　會社ノ破産
七　解散ヲ命ズル裁判

前項第二號ノ決議ハ第四十八條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第七十條　前條第一項第一號又ハ第二號ノ場合ニ於テハ第四十八條ニ定ムル決議ニ依リテ會社ヲ繼續スルコトヲ得

前條第一項第五號ノ場合ニ於テハ新ニ社員ヲ加入セシメテ會社ヲ繼續スルコトヲ得

第七十一條　有限會社ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後ト雖モ前條ノ規定ニ從ヒテ會社ヲ繼續スルコトヲ妨ゲズ此ノ場合ニ於テハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間內ニ繼續ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第七十二條　有限會社ガ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外取締役其ノ清算人ト爲ル但シ定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ社員總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ依リ清算人ヲ選任ス

第七十三條　殘餘財産ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出資ノ口數ニ應ジテ之ヲ社員ニ分配スルコトヲ要ス

第七十四條　清算人ハ裁判所ノ選任シタルモノヲ除クノ外何時ニテモ社員總會ノ決議ニ依リ之ヲ選任スルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ監査役又ハ社員ノ請求ニ依リ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第七十五條　商法第九十六條、第百十六條、第百二十二條乃至第百二十五條、第百二十八條、第百二十九條第二項第三項、第百三十一條、第百三十四條、第百四十條乃至第百四十二條、第四百十八條乃至第四百二十四條及第四百二十七條乃至第四百二十九條ノ規定ハ有限會社ニ之ヲ準用ス

第二十八條、第三十條、第三十一條、第三十五條及第四十條第一項第四號第三項竝ニ商法第二百三十六條乃至第二百三十八條、第二百四十四條第二項、第三百四十七條、第二百四十九條、第二百五十四條第二項、第二百五十八條、第二百六十一條、第二百六十六條、第二百六十七條、第二百六十八條第二項乃至第五項、第二百六十九條乃至第二百七十二條、第二百七十四條乃至第二百七十八條、第二百八十三條第一項及第二百八十四條ノ規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス

第七十六條　商法第四百七十九條乃至第四百八十二條、第四百八十四條及第四百八十五條ノ規定ハ有限會社ト同種ノ又ハ之ニ類似スル外國會社ニ之ヲ準用ス

第八章　外國會社

第九章　罰則

第七十七條　取締役、監査役又ハ第三十二條若ハ第三十四條ニ於テ準用スル商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者若ハ支配人其ノ他營業ニ關スル或種類若ハ特定ノ事項ノ委任ヲ受ケタル使用人自己若ハ第三者ヲ利シ又ハ會社ヲ害センコトヲ圖リテ其ノ任務ニ背キ會社ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十九條第三項若ハ第六十條第四項ノ設立委員、第六十條第一項ノ規定ニ依リ從フベキ商法第五十六條第三項ノ設立委員、清算人又ハ第七十五條第二項ニ於テ準用スル商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者前項ニ掲グル行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第七十八條　前條第一項ニ掲グル者ハ左ノ場合ニ於テハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　會社ノ設立又ハ資本增加ノ場合ニ於テ出資總口數ノ引受、出資ノ拂込若ハ現物出資ノ給付ニ付又ハ第七條第二號乃至第四號若ハ第四十九條第一號第二號ニ掲グル事項ニ付裁判所ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二　何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ會社ノ計算ニ於テ不正ニ其ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

三　法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ利益ノ配當ヲ爲シタルトキ

四　會社ノ營業ノ範圍外ニ於テ投機取引ノ爲ニ會社財産ヲ處分シタルトキ

有限會社ノ取締役、監査役若ハ第三十二條若ハ第三十四條ニ於テ準用スル商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職

務代行者又ハ株式會社ノ取締役、監査役若ハ商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項、第二百七十二條第一項若ハ第二百八十條ノ職務代行者ガ第六十四條又ハ第六十七條ノ組織變更ノ場合ニ於テ第六十四條第二項又ハ第六十七條第二項ノ純財産額ニ付裁判所又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ亦前項ニ同ジ

第七十九條　第七十七條第一項ニ掲グル者出資ノ拂込ヲ假裝スル爲預合ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス預合ニ應ジタル者亦同ジ

第八十條　前三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第八十一條　第七十七條第一項若ハ第二項ニ掲グル者又ハ檢査役其ノ職務ニ關シ不正ノ請託ヲ受ケ財産上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

第八十二條　左ニ掲グル事項ニ關シ不正ノ請託ヲ受ケ財産上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　社員總會ニ於ケル發言若ハ議決權ノ行使、第四十二條第一項ノ規定ニ依ル議決權ノ行使又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル同意ノ表示

二　本法ニ定ムル訴ノ提起又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル出資口數ヲ有スル社員ノ權利ノ行使

前項ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

第八十三條　第八十一條第一項又ハ前條第一項ノ場合ニ於テ犯人ノ收受シタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第八十四條　第八十一條第二項又ハ第八十二條第二項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第八十五條　第七十七條第一項若ハ第二項ニ掲グル者、外國會社ノ代表者、檢査役又ハ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ五千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　本法ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二　本法ニ定ムル公告若ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲シタルトキ

三　本法ニ違反シ正當ノ事由ナクシテ書類ノ閲覽又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ拒ミタルトキ

四　本法ニ定ムル調査ヲ妨ゲタルトキ

五　官廳又ハ社員總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

六　第二十一條ノ規定ニ違反シテ持分ニ付指圖式又ハ無記名式ノ證券ヲ發行シタルトキ

七　第二十四條第一項ニ於テ準用スル商法第二百十一條ノ規定ニ違反シテ持分失效ノ手續又ハ持分若ハ質權ノ處分ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

八　第二十四條第一項ニ於テ準用スル商法第二百十二條第一項ノ規定ニ違反シテ出資ノ消却ヲ爲シタルトキ

九　定款ニ定ムル取締役又ハ監査役ノ員數ヲ缺クニ至リタル場合ニ於テ其ノ選任手續ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

十　定款、社員名簿、議事錄、財産目錄、貸借對照表、營業報告書、事務報告書、損益計算書、準備金及利益ノ配當ニ關スル議案、決算報告書又ハ商法第三十二條第一項ノ帳簿ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

十一　定款、社員名簿、議事錄、財産目錄、貸借對照表、營業報告書、事務報告書、損益計算書、準備金及利益ノ配當ニ關スル議案又ハ監査役ノ報告書ヲ備置カザルトキ

十二　第四十一條ニ於テ準用スル商法第二百三十四條ノ規定又ハ第四十五條第三項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シテ社員總會ヲ招集セザルトキ

十三　第四十六條第二項ニ於テ準用スル商法第二百八十八條第一項又ハ第二百八十九條ノ規定ニ違反シテ準備金ヲ積立テズ又ハ之ヲ使用シタルトキ

十四　第五十二條第二項ノ規定ニ違反シテ出資ノ引受人ヲ公募シタルトキ

十五　第五十八條、第六十三條又ハ第六十八條ニ於テ準用スル商法第九十九條又ハ第百條ノ規定ニ違反シテ資本ノ減少、合併又ハ組織變更ヲ爲シタルトキ

十六　第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第百二十四條第三項ノ規定ニ違反シテ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

十七　第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第百三

十一條ノ規定ニ違反シテ會社財産ヲ分配シタルトキ

十八　裁判所ノ選任シタル管理人又ハ清算人ニ事務ノ引渡ヲ爲サザルトキ

十九　清算ノ結了ヲ遲延セシムル目的ヲ以テ第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第四百二十一條第一項ノ期間ヲ不當ニ定メタルトキ

二十　第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第四百二十三條ノ規定ニ違反シテ債務ノ辨濟ヲ爲シタルトキ

二十一　第七十六條ニ於テ準用スル商法第四百八十四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ

株式會社ノ取締役、商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者、清算人又ハ同法第四百三十條第二項ニ於テ準用スル同法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者ガ第六十條第一項ノ規定ニ依リ從フベキ又ハ第六十八條ニ於テ準用スル商法第九十九條又ハ第百條ノ規定ニ違反シテ合併又ハ組織變更ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ

第八十六條　第三條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第十章　雜則

第八十七條　本法ニ依リ署名スベキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

第八十八條　第五十八條、第六十三條若ハ第六十八條ニ於テ準用シ若ハ第六十條第一項ノ規定ニ依リ從フベキ商法第百條第一項ノ規定又ハ第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第四百二十一條第一項ノ規定ニ依リ爲スベキ公告ハ裁判所ガ爲スベキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八十九條　有限會社ハ商法ヲ除クノ外他ノ法律ノ適用ニ付テハ之ヲ商法ノ會社ト看做ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十四年勅令第五百十號ヲ以テ昭和十五年一月一日ヨリ施行）

○手形法（昭和七年七月十五日法律第二十號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル手形法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

手形法

第一編　爲替手形

第一章　爲替手形ノ振出及方式

第一條　爲替手形ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　證券ノ文言中ニ其ノ證券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載スル爲替手形ナルコトヲ示ス文字

二　一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單純ナル委託

三　支拂ヲ爲スベキ者（支拂人）ノ名稱

四　滿期ノ表示

五　支拂ヲ爲スベキ地ノ表示

六　支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指圖スル者ノ名稱

七　手形ヲ振出ス日及地ノ表示

八　手形ヲ振出ス者（振出人）ノ署名

第二條　前條ニ掲グル事項ノ何レカヲ缺ク證券ハ爲替手形タル效力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

滿期ノ記載ナキ爲替手形ハ之ヲ一覽拂ノモノト看做ス

支拂人ノ名稱ニ附記シタル地ハ特別ノ表示ナキ限リ之ヲ支拂地ニシテ且支拂人ノ住所地タルモノト看做ス

振出地ノ記載ナキ爲替手形ハ振出人ノ名稱ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス

第三條　爲替手形ハ振出人ノ自己指圖ニテ之ヲ振出スコトヲ得

爲替手形ハ振出人ノ自己宛ニテ之ヲ振出スコトヲ得

爲替手形ハ第三者ノ計算ニ於テ之ヲ振出スコトヲ得

第四條　爲替手形ハ支拂人ノ住所地ニ在ルト又ハ其ノ他ノ地ニ在ルトヲ問ハズ第三者ノ住所ニ於テ支拂フベキモノト爲スコトヲ得

第五條　一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ於テハ振出人ハ手形金額ニ付利息ヲ生ズベキ旨ノ約定ヲ記載スルコトヲ得其ノ他ノ爲替手形ニ於テハ此ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

利率ハ之ヲ手形ニ表示スルコトヲ要ス其ノ表示ナキ

トキハ利息ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

利息ハ別段ノ日附ノ表示ナキトキハ手形振出ノ日ヨリ發生ス

第六條　爲替手形ノ金額ヲ文字及數字ヲ以テ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ文字ヲ以テ記載シタル金額ヲ手形金額トス

爲替手形ノ金額ヲ文字ヲ以テ又ハ數字ヲ以テ重複シテ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ最小金額ヲ手形金額トス

第七條　爲替手形ニ手形債務ヲ負擔スル能力ナキ者ノ署名、僞造ノ署名、假設人ノ署名又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ爲替手形ノ署名者若ハ其ノ本人ニ義務ヲ負ハシムルコト能ハザル署名アル場合ト雖モ他ノ署名者ノ債務ハ之ガ爲其ノ效力ヲ妨ゲラルルコトナシ

第八條　代理權ヲ有セザル者ガ代理人トシテ爲替手形ニ署名シタルトキハ自ラ其ノ手形ニ因リ義務ヲ負フ

其ノ者ガ支拂ヲ爲シタルトキハ本人ト同一ノ權利ヲ有ス權限ヲ超エタル代理人ニ付亦同ジ

第九條　振出人ハ引受及支拂ヲ擔保ス

振出人ハ引受ヲ擔保セザル旨ヲ記載スルコトヲ得支拂ヲ擔保セザル旨ノ一切ノ文言ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

第十條　未完成ニテ振出シタル爲替手形ニ豫メ爲シタル合意ト異ル補充ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ違反ハ之ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ爲替手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二章　裏書

第十一條　爲替手形ハ指圖式ニテ振出サザルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

振出人ガ爲替手形ニ「指圖禁止」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シタルトキハ其ノ證券ハ指名債權ノ讓渡ニ關スル方式ニ從ヒ且其ノ效力ヲ以テノミ之ヲ讓渡スコトヲ得

裏書ハ引受ヲ爲シタル又ハ爲サザル支拂人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得此等ノ者ハ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得

第十二條　裏書ハ單純ナルコトヲ要ス裏書ニ附シタル條件ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

一部ノ裏書ハ之ヲ無效トス

持參人拂ノ裏書ハ白地式裏書ト同一ノ效力ヲ有ス

第十三條　裏書ハ爲替手形又ハ之ト結合シタル紙片（補箋）ニ之ヲ記載シ裏書人署名スルコトヲ要ス

裏書ハ被裏書人ヲ指定セズシテ之ヲ爲シ又ハ單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得（白地式裏書）此ノ後ノ場合ニ於テハ裏書ハ爲替手形ノ裏面又ハ補箋ニ之ヲ爲スニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ

第十四條　裏書ハ爲替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ移轉ス

裏書ガ白地式ナルトキハ所持人ハ

一　自己ノ名稱又ハ他人ノ名稱ヲ以テ白地ヲ補充スルコトヲ得

二　白地式ニ依リ又ハ他人ヲ表示シテ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得

三　白地ヲ補充セズ且裏書ヲ爲サズシテ手形ヲ第三者ニ讓渡スコトヲ得

第十五條　裏書人ハ反對ノ文言ナキ限リ引受及支拂ヲ擔保ス

裏書人ハ新ナル裏書ヲ禁ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ裏書人ハ手形ノ爾後ノ被裏書人ニ對シ擔保ノ責ヲ負フコトナシ

第十六條　爲替手形ノ占有者ガ裏書ノ連續ニ依リ其ノ權利ヲ證明スルトキハ之ヲ適法ノ所持人ト看做ス最後ノ裏書ガ白地式ナル場合ト雖モ亦同ジ抹消シタル裏書ハ此ノ關係ニ於テハ之ヲ記載セザルモノト看做ス白地式裏書ニ次デ他ノ裏書アルトキハ其ノ裏書ヲ爲シタル者ハ白地式裏書ニ因リテ手形ヲ取得シタルモノト看做ス

事由ノ何タルヲ問ハズ爲替手形ノ占有ヲ失ヒタル者アル場合ニ於テ所持人ガ前項ノ規定ニ依リ其ノ權利ヲ證明スルトキハ手形ヲ返還スル義務ヲ負フコトナシ但シ所持人ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ之ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條　爲替手形ニ依リ請求ヲ受ケタル者ハ振出人其ノ他所持人ノ前者ニ對スル人的關係ニ基ク抗辯ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ其ノ債務者ヲ害スルコトヲ知リテ手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條　裏書ニ「回收ノ爲」、「取立ノ爲」、「代理ノ爲」其ノ他單ナル委任ヲ示ス文言アルトキハ所持人ハ爲替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ行使スルコトヲ得但シ所持人ハ代理ノ爲ノ裏書ノミヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ債務者ガ所持人ニ對抗スルコト

ヲ得ル抗辯ハ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ベカリシモノニ限ル

代理ノ爲ノ裏書ニ依ル委任ハ委任者ノ死亡又ハ其ノ者ガ無能力ト爲リタルコトニ因リ終了セズ

第十九條　裏書ニ「擔保ノ爲」、「質入ノ爲」其ノ他質權ノ設定ヲ示ス文言アルトキハ所持人ハ爲替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ行使スルコトヲ得但シ所持人ノ爲シタル裏書ハ代理ノ爲ノ裏書トシテノ效力ノミヲ有ス

債務者ハ裏書人ニ對スル人的關係ニ基ク抗辯ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ其ノ債務者ヲ害スルコトヲ知リテ手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條　滿期後ノ裏書ハ滿期前ノ裏書ト同一ノ效力ヲ有ス但シ支拂拒絕證書作成後ノ裏書又ハ支拂拒絕證書作成期間經過後ノ裏書ハ指名債權ノ讓渡ノ效力ノミヲ有ス

日附ノ記載ナキ裏書ハ支拂拒絕證書作成期間經過前ニ之ヲ爲シタルモノト推定ス

第三章　引受

第二十一條　爲替手形ノ所持人又ハ單ナル占有者ハ滿期ニ至ル迄引受ノ爲支拂人ニ其ノ住所ニ於テ之ヲ呈示スルコトヲ得

第二十二條　振出人ハ爲替手形ニ期間ヲ定メ又ハ定メズシテ引受ノ爲之ヲ呈示スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得

振出人ハ手形ニ引受ノ爲ノ呈示ヲ禁ズル旨ヲ記載スルコトヲ得但シ手形ガ第三者方ニテ若ハ支拂人ノ住所地ニ非ザル地ニ於テ支拂フベキモノナルトキ又ハ一覽後定期拂ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

振出人ハ一定ノ期日前ニハ引受ノ爲ノ呈示ヲ爲スベカラザル旨ヲ記載スルコトヲ得

各裏書人ハ期間ヲ定メ又ハ定メズシテ引受ノ爲手形ヲ呈示スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得但シ振出人ガ引受ノ爲ノ呈示ヲ禁ジタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條　一覽後定期拂ノ爲替手形ハ其ノ日附ヨリ一年內ニ引受ノ爲之ヲ呈示スルコトヲ要ス

振出人ハ前項ノ期間ヲ短縮シ又ハ伸長スルコトヲ得

裏書人ハ前二項ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第二十四條　支拂人ハ第一ノ呈示ノ翌日ニ第二ノ呈示ヲ爲スベキコトヲ請求スルコトヲ得利害關係人ハ此

ノ請求ガ拒絕證書ニ記載セラレタルトキニ限リ之ニ應ズル呈示ナカリシコトヲ主張スルコトヲ得

所持人ハ引受ノ爲ニ呈示シタル手形ヲ支拂人ニ交付スルコトヲ要セズ

第二十五條　引受ハ爲替手形ニ之ヲ記載スベシ引受ハ「引受」其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ以テ表示シ支拂人署名スベシ手形ノ表面ニ爲シタル支拂人ノ單ナル署名ハ之ヲ引受ト看做ス

一覽後定期拂ノ手形又ハ特別ノ記載ニ從ヒ一定ノ期間內ニ引受ノ爲ノ呈示ヲ爲スベキ手形ニ於テハ所持人ガ呈示ノ日ノ日附ヲ記載スベキコトヲ請求シタル場合ヲ除クノ外引受ニハ之ヲ爲シタル日ノ日附ヲ記載スルコトヲ要ス日附ノ記載ナキトキハ所持人ハ裏書人及振出人ニ對スル遡求權ヲ保全スル爲ニハ適法ノ時期ニ作ラシメタル拒絕證書ニ依リ其ノ記載ナカリシコトヲ證スルコトヲ要ス

第二十六條　引受ハ單純ナルベシ但シ支拂人ハ之ヲ手形金額ノ一部ニ制限スルコトヲ得

引受ニ依リ爲替手形ノ記載事項ニ加ヘタル他ノ變更ハ引受ノ拒絕タル效力ヲ有ス但シ引受人ハ其ノ引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第二十七條　振出人ガ支拂人ノ住所地ト異ル支拂地ヲ爲替手形ニ記載シタル場合ニ於テ第三者方ニテ支拂ヲ爲スベキ旨ヲ定メザリシトキハ支拂人ハ引受ヲ爲スニ當リ其ノ第三者ヲ定ムルコトヲ得之ヲ定メザリシトキハ引受人ハ支拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲ス義務ヲ負ヒタルモノト看做ス

手形ガ支拂人ノ住所ニ於テ支拂フベキモノナルトキハ支拂人ハ引受ニ於テ支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ指定スルコトヲ得

第二十八條　支拂人ハ引受ニ因リ滿期ニ於テ爲替手形ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フ

支拂ナキ場合ニ於テハ所持人ハ第四十八條及第四十九條ノ規定ニ依リテ請求スルコトヲ得ベキ一切ノ金額ニ付引受人ニ對シ爲替手形ヨリ生ズル直接ノ請求權ヲ有ス所持人ガ振出人ナルトキト雖モ亦同ジ

第二十九條　爲替手形ニ引受ヲ記載シタル支拂人ガ其ノ手形ノ返還前ニ之ヲ抹消シタルトキハ引受ヲ拒ミタルモノト看做ス抹消ハ證券ノ返還前ニ之ヲ爲シタルモノト推定ス

前項ノ規定ニ拘ラズ支拂人ガ書面ヲ以テ所持人又ハ手形ニ署名シタル者ニ引受ノ通知ヲ爲シタルトキハ

此等ノ者ニ對シ引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第四章　保證

第三十條　爲替手形ノ支拂ハ其ノ金額ノ全部又ハ一部ニ付保證ニ依リ之ヲ擔保スルコトヲ得

第三者ハ前項ノ保證ヲ爲スコトヲ得手形ニ署名シタル者ト雖モ亦同ジ

第三十一條　保證ハ爲替手形又ハ補箋ニ之ヲ爲スベシ

保證ハ「保證」其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ以テ表示シ保證人署名スベシ

爲替手形ノ表面ニ爲シタル單ナル署名ハ之ヲ保證ト看做ス但シ支拂人又ハ振出人ノ署名ハ此ノ限ニ在ラズ

保證ニハ何人ノ爲ニ之ヲ爲スカヲ表示スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十二條　保證人ハ保證セラレタル者ト同一ノ責任ヲ負フ

保證ハ其ノ擔保シタル債務ガ方式ノ瑕疵ヲ除キ他ノ如何ナル事由ニ因リテ無效ナルトキト雖モ之ヲ有效トス

保證人ガ爲替手形ノ支拂ヲ爲シタルトキハ保證セラレタル者及其ノ者ノ爲替手形上ノ債務者ニ對シ爲替手形ヨリ生ズル權利ヲ取得ス

第五章　滿期

第三十三條　爲替手形ハ左ノ何レカトシテ之ヲ振出スコトヲ得

一　一覽拂

二　一覽後定期拂

三　日附後定期拂

四　確定日拂

前項ト異ル滿期又ハ分割拂ノ爲替手形ハ之ヲ無效トス

第三十四條　一覽拂ノ爲替手形ハ呈示アリタルトキ之ヲ支拂フベキモノトス此ノ手形ハ其ノ日附ヨリ一年內ニ支拂ノ爲之ヲ呈示スルコトヲ要ス振出人ハ此ノ期間ヲ短縮シ又ハ伸長スルコトヲ得裏書人ハ此等ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

振出人ハ一定ノ期日前ニハ一覽拂ノ爲替手形ヲ支拂ノ爲呈示スルコトヲ得ザル旨ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ呈示ノ期間ハ其ノ期日ヨリ始マル

第三十五條　一覽後定期拂ノ爲替手形ノ滿期ハ引受ノ

日附又ハ拒絕證書ノ日附ニ依リテ之ヲ定ム

拒絕證書アラザル場合ニ於テハ日附ナキ引受ハ引受人ニ關スル限リ引受ノ爲ノ呈示期間ノ末日ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十六條　日附後又ハ一覽後一月又ハ數月拂ノ爲替手形ハ支拂ヲ爲スベキ月ニ於ケル應當日ヲ以テ滿期トス應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿期トス

日附後又ハ一覽後一月半又ハ數月半拂ノ爲替手形ニ付テハ先ヅ全月ヲ計算ス

月ノ始、月ノ央(一月ノ央、二月ノ央等)又ハ月ノ終ヲ以テ滿期ヲ定メタルトキハ其ノ月ノ一日、十五日又ハ末日ヲ謂フ

「八日」又ハ「十五日」トハ一週又ハ二週ニ非ズシテ滿八日又ハ滿十五日ヲ謂フ

「半月」トハ十五日ノ期間ヲ謂フ

第三十七條　振出地ト曆ヲ異ニスル地ニ於テ確定日ニ支拂フベキ爲替手形ニ付テハ滿期ノ日ハ支拂地ノ曆ニ依リテ之ヲ定メタルモノト看做ス

曆ヲ異ニスル二地ノ間ニ振出シタル爲替手形ガ日附後定期拂ナルトキハ振出ノ日ヲ支拂地ノ曆ノ應當日ニ換ヘ之ニ依リテ滿期ヲ定ム

爲替手形ノ呈示期間ハ前項ノ規定ニ從ヒテ之ヲ計算ス

前三項ノ規定ハ爲替手形ノ文言又ハ證券ノ單ナル記載ニ依リ別段ノ意思ヲ知リ得ベキトキハ之ヲ適用セズ

第六章　支拂

第三十八條　確定日拂、日附後定期拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ支拂ヲ爲スベキ日又ハ之ニ次グ二取引日內ニ支拂ノ爲手形ヲ呈示スルコトヲ要ス

手形交換所ニ於ケル爲替手形ノ呈示ハ支拂ノ爲ノ呈示タル效力ヲ有ス

第三十九條　爲替手形ノ支拂人ハ支拂ヲ爲スニ當リ所持人ニ對シ手形ニ受取ヲ證スル記載ヲ爲シテ之ヲ交付スベキコトヲ請求スルコトヲ得

所持人ハ一部支拂ヲ拒ムコトヲ得ズ

一部支拂ノ場合ニ於テハ支拂人ハ其ノ支拂アリタル旨ノ手形上ノ記載及受取證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四十條　爲替手形ノ所持人ハ滿期前ニハ其ノ支拂ヲ

受クルコトヲ要セズ

滿期前ニ支拂ヲ爲ス支拂人ハ自己ノ危險ニ於テ之ヲ爲スモノトス

滿期ニ於テ支拂ヲ爲ス者ハ惡意又ハ重大ナル過失ナキ限リ其ノ責ヲ免ル此ノ者ハ裏書ノ連續ノ整否ヲ調査スル義務アルモ裏書人ノ署名ヲ調査スル義務ナシ

第四十一條　支拂地ノ通貨ニ非ザル通貨ヲ以テ支拂フベキ旨ヲ記載シタル爲替手形ニ付テハ滿期ノ日ニ於ケル價格ニ依リ其ノ國ノ通貨ヲ以テ支拂ヲ爲スコトヲ得債務者ガ支拂ヲ遲滯シタルトキハ所持人ハ其ノ選擇ニ依リ滿期ノ日又ハ支拂ノ日ノ相場ニ從ヒ其ノ國ノ通貨ヲ以テ爲替手形ノ金額ヲ支拂フベキコトヲ請求スルコトヲ得

外國通貨ノ價格ハ支拂地ノ慣習ニ依リ之ヲ定ム但シ振出人ハ手形ニ定メタル換算率ニ依リ支拂金額ヲ計算スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ振出人ガ特種ノ通貨ヲ以テ支拂フベキ旨(外國通貨現實支拂文句)ヲ記載シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

振出國ト支拂國トニ於テ同名異價ヲ有スル通貨ニ依リ爲替手形ノ金額ヲ定メタルトキハ支拂地ノ通貨ニ依リテ之ヲ定メタルモノト推定ス

第四十二條　第三十八條ニ規定スル期間內ニ爲替手形ノ支拂ノ爲ノ呈示ナキトキハ各債務者ハ所持人ノ費用及危險ニ於テ手形金額ヲ所轄官署ニ供託スルコトヲ得

第七章　引受拒絶又ハ支拂拒絶ニ因ル遡求

第四十三條　滿期ニ於テ支拂ナキトキハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シ其ノ遡求權ヲ行フコトヲ得左ノ場合ニ於テハ滿期前ト雖モ亦同ジ

一　引受ノ全部又ハ一部ノ拒絶アリタルトキ

二　引受ヲ爲シタル若ハ爲サザル支拂人ノ破產ノ場合、其ノ支拂停止ノ場合又ハ其ノ財產ニ對スル强制執行ガ效ヲ奏セザル場合

三　引受ノ爲ノ呈示ヲ禁ジタル手形ノ振出人ノ破產ノ場合

第四十四條　引受又ハ支拂ノ拒絶ハ公正證書(引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書)ニ依リ之ヲ證明スルコトヲ要ス

引受拒絶證書ハ引受ノ爲ノ呈示期間內ニ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス第二十四條第一項ニ規定スル場合ニ於テ期間ノ末日ニ第一ノ呈示アリタルトキハ拒絶證書ハ其ノ翌日之ヲ作ラシムルコトヲ得

確定日拂、日附後定期拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ支拂拒絶證書ハ爲替手形ノ支拂ヲ爲スベキ日又ハ之ニ次グ二取引日內ニ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス

一覽拂ノ手形ノ支拂拒絶證書ハ引受拒絶證書ノ作成ニ關シテ前項ニ規定スル條件ニ從ヒ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス

引受拒絶證書アルトキハ支拂ノ爲ノ呈示及支拂拒絶證書ヲ要セズ

引受ヲ爲シタル若ハ爲サザル支拂人ガ支拂ヲ停止シタル場合又ハ其ノ財產ニ對スル强制執行ガ效ヲ奏セザル場合ニ於テハ所持人ハ支拂人ニ對シ手形ノ支拂ノ爲ノ呈示ヲ爲シ且拒絶證書ヲ作ラシメタル後ニ非ザレバ其ノ遡求權ヲ行フコトヲ得ズ

引受ヲ爲シタル若ハ爲サザル支拂人ガ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合又ハ引受ノ爲ノ呈示ヲ禁ジタル手形ノ振出人ガ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ所持人ガ其ノ遡求權ヲ行フニハ破產決定書ヲ提出スルヲ以テ足ル

第四十五條　所持人ハ拒絶證書作成ノ日ニ次グ又ハ無費用償還文句アル場合ニ於テハ呈示ノ日ニ次グ四取引日內ニ自己ノ裏書人及振出人ニ對シ引受拒絶又ハ支拂拒絶アリタルコトヲ通知スルコトヲ要ス各裏書人ハ通知ヲ受ケタル日ニ次グ二取引日內ニ前ノ通知者全員ノ名稱及宛所ヲ示シテ自己ノ受ケタル通知ヲ自己ノ裏書人ニ通知シ順次振出人ニ及ブモノトス此ノ期間ハ各其ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ進行ス

前項ノ規定ニ從ヒ爲替手形ノ署名者ニ通知ヲ爲ストキハ同一期間內ニ其ノ保證人ニ同一ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

裏書人ガ其ノ宛所ヲ記載セズ又ハ其ノ記載ガ讀ミ難キ場合ニ於テハ其ノ裏書人ノ直接ノ前者ニ通知スルヲ以テ足ル

通知ヲ爲スベキ者ハ如何ナル方法ニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得單ニ爲替手形ヲ返付スルニ依リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得

通知ヲ爲スベキ者ハ適法ノ期間內ニ通知ヲ爲シタルコトヲ證明スルコトヲ要ス此ノ期間內ニ通知ヲ爲ス書面ヲ郵便ニ付シタル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ遵守シタルモノト看做ス

前項ノ期間內ニ通知ヲ爲サザル者ハ其ノ權利ヲ失フコトナシ但シ過失ニ因リテ生ジタル損害アルトキハ

爲替手形ノ金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ

第四十六條　振出人、裏書人又ハ保證人ハ證券ニ記載シ且署名シタル「無費用償還」、「拒絶證書不要」ノ文句其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ニ依リ所持人ニ對シ其ノ遡求權ヲ行フ爲ノ引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ文言ハ所持人ニ對シ法定期間内ニ於ケル爲替手形ノ呈示及通知ノ義務ヲ免除スルコトナシ期間ノ不遵守ハ所持人ニ對シ之ヲ援用スル者ニ於テ其ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス

振出人ガ第一項ノ文言ヲ記載シタルトキハ一切ノ署名者ニ對シ其ノ效力ヲ生ズ裏書人又ハ保證人ガ之ヲ記載シタルトキハ其ノ裏書人又ハ保證人ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生ズ振出人ガ此ノ文言ヲ記載シタルニ拘ラズ所持人ガ拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ其ノ費用ハ所持人之ヲ負擔ス裏書人又ハ保證人ガ此ノ文言ヲ記載シタル場合ニ於テ拒絶證書ノ作成アリタルトキハ一切ノ署名者ヲシテ其ノ費用ヲ償還セシムルコトヲ得

第四十七條　爲替手形ノ振出、引受、裏書又ハ保證ヲ爲シタル者ハ所持人ニ對シ合同シテ其ノ責ニ任ズ

所持人ハ前項ノ債務者ニ對シ其ノ債務ヲ負ヒタル順序ニ拘ラズ各別又ハ共同ニ請求ヲ爲スコトヲ得

爲替手形ノ署名者ニシテ之ヲ受戻シタルモノモ同一ノ權利ヲ有ス

債務者ノ一人ニ對スル請求ハ他ノ債務者ニ對スル請求ヲ妨ゲズ既ニ請求ヲ受ケタル者ノ後者ニ對シテモ亦同ジ

第四十八條　所持人ハ遡求ヲ受クル者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

一　引受又ハ支拂アラザリシ爲替手形ノ金額及利息

二　年六分ノ率ニ依ル滿期以後ノ利息

三　拒絶證書ノ費用、通知ノ費用及其ノ他ノ費用

滿期前ニ遡求權ヲ行フトキハ割引ニ依リ手形金額ヲ減ズ其ノ割引ハ所持人ノ住所地ニ於ケル遡求ノ日ノ公定割引率(銀行率)ニ依リ之ヲ計算ス

第四十九條　爲替手形ヲ受戻シタル者ハ其ノ前者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

一　其ノ支拂ヒタル總金額

二　前號ノ金額ニ對シ年六分ノ率ニ依リ計算シタル

支拂ノ日以後ノ利息

三　其ノ支出シタル費用

第五十條　遡求ヲ受ケタル又ハ受クベキ債務者ハ支拂ト引換ニ拒絶證書、受取ヲ證スル記載ヲ爲シタル計算書及爲替手形ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

爲替手形ヲ受戻シタル裏書人ハ自己及後者ノ裏書ヲ抹消スルコトヲ得

第五十一條　一部引受ノ後ニ遡求權ヲ行フ場合ニ於テ引受アラザリシ手形金額ノ支拂ヲ爲ス者ハ其ノ支拂ノ旨ヲ手形ニ記載スルコト及受取證書ヲ交付スルコトヲ請求スルコトヲ得又所持人ハ爾後ノ遡求ヲ爲スコトヲ得シムル爲手形ノ證明謄本及拒絶證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第五十二條　遡求權ヲ有スル者ハ反對ノ記載ナキ限リ其ノ前者ノ一人ニ宛テ一覽拂トシテ振出シ且其ノ者ノ住所ニ於テ支拂フベキ新手形(戻手形)ニ依リ遡求ヲ爲スコトヲ得

戻手形ハ第四十八條及第四十九條ニ規定スル金額ノ外其ノ戻手形ノ仲立料及印紙稅ヲ含ム

所持人ガ戻手形ヲ振出ス場合ニ於テハ其ノ金額ハ本手形ノ支拂地ヨリ前者ノ住所地ニ宛テ振出ス一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リ之ヲ定ム裏書人ガ戻手形ヲ振出ス場合ニ於テハ其ノ金額ハ戻手形ノ振出人ガ其ノ住所地ヨリ前者ノ住所地ニ宛テ振出ス一覽拂手形ノ相場ニ依リ之ヲ定ム

第五十三條　左ノ期間ガ經過シタルトキハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シ其ノ權利ヲ失フ但シ引受人ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

一　一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ呈示期間

二　引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書ノ作成期間

三　無費用償還文句アル場合ニ於ケル支拂ノ爲ノ呈示期間

振出人ノ記載シタル期間内ニ引受ノ爲ノ呈示ヲ爲サザルトキハ所持人ハ支拂拒絶及引受拒絶ニ因ル遡求權ヲ失フ但シ其ノ記載ノ文言ニ依リ振出人ガ引受ノ擔保義務ノミヲ免レントスル意思ヲ有シタルコトヲ知リ得ベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

裏書ニ呈示期間ノ記載アルトキハ其ノ裏書人ニ限リ之ヲ援用スルコトヲ得

第五十四條　法定ノ期間内ニ於ケル爲替手形ノ呈示又ハ拒絶證書ノ作成ガ避クベカラザル障碍(國ノ法令ニ依ル禁制其ノ他ノ不可抗力)ニ因リテ妨ゲラレタ

ルトキハ其ノ期間ヲ伸長ス

所持人ハ自己ノ裏書人ニ對シ遲滯ナク其ノ不可抗力ヲ通知シ且爲替手形又ハ補箋ニ其ノ通知ヲ記載シ日附ヲ附シテ之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ他ニ付テハ第四十五條ノ規定ヲ準用ス

不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ遲滯ナク引受又ハ支拂ノ爲手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

不可抗力ガ滿期ヨリ三十日ヲ超エテ繼續スルトキハ呈示又ハ拒絶證書ノ作成ヲ要セズシテ遡求權ヲ行フコトヲ得

一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ付テハ三十日ノ期間ハ呈示期間ノ經過前ト雖モ所持人ガ其ノ裏書人ニ不可抗力ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ進行ス一覽後定期拂ノ爲替手形ニ付テハ三十日ノ期間ニ爲替手形ニ記載シタル一覽後ノ期間ヲ加フ

所持人又ハ所持人ガ手形ノ呈示若ハ拒絶證書ノ作成ヲ委任シタル者ニ付テノ單純ナル人的事由ハ不可抗力ヲ構成スルモノト認メズ

第八章　參加

第一節　通則

第五十五條　振出人、裏書人又ハ保證人ハ豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

爲替手形ハ遡求ヲ受クベキ何レノ債務者ノ爲ニ參加ヲ爲ス者ニ於テモ本章ニ規定スル條件ニ從ヒ其ノ引受又ハ支拂ヲ爲スコトヲ得

參加人ハ第三者、支拂人又ハ既ニ爲替手形上ノ債務ヲ負フ者タルコトヲ得但シ引受人ハ此ノ限ニ在ラズ

參加人ハ其ノ被參加人ニ對シ二取引日內ニ其ノ參加ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス此ノ期間ノ不遵守ノ場合ニ於テ過失ニ因リテ生ジタル損害アルトキハ參加人ハ爲替手形ノ金額ヲ超エザル範圍內ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ

第二節　參加引受

第五十六條　參加引受ハ引受ノ爲ノ呈示ヲ禁ゼザル爲替手形ノ所持人ガ滿期前ニ遡求權ヲ有スル一切ノ場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

爲替手形ニ支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載シタルトキハ手形ノ所持人ハ其ノ者ニ爲替手形ヲ呈示シ且拒絶證書ニ依リ其ノ者ガ引受ヲ拒ミタルコトヲ證スルニ非ザレバ其ノ記載ヲ爲シタル者及其ノ後者ニ對

シ滿期前ニ遡求權ヲ行フコトヲ得ズ

參加ノ他ノ場合ニ於テハ所持人ハ參加引受ヲ拒ムコトヲ得若所持人ガ之ヲ受諾スルトキハ被參加人及其ノ後者ニ對シ滿期前ニ有スル遡求權ヲ失フ

第五十七條　參加引受ハ爲替手形ニ之ヲ記載シ參加人署名スベシ參加引受ニハ被參加人ヲ表示スベシ其ノ表示ナキトキハ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五十八條　參加引受人ハ所持人及被參加人ヨリ後ノ裏書人ニ對シ被參加人ト同一ノ義務ヲ負フ

被參加人及其ノ前者ハ參加引受ニ拘ラズ所持人ニ對シ第四十八條ニ規定スル金額ノ支拂ト引換ニ爲替手形ノ交付ヲ請求スルコトヲ得拒絶證書及受取ヲ證スル記載ヲ爲シタル計算書アルトキハ其ノ交付ヲモ請求スルコトヲ得

第三節　參加支拂

第五十九條　參加支拂ハ所持人ガ滿期又ハ滿期前ニ遡求權ヲ有スル一切ノ場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

支拂ハ被參加人ガ支拂ヲ爲スベキ全額ニ付之ヲ爲スコトヲ要ス

支拂ハ支拂拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ得ベキ最後ノ日ノ翌日迄ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十條　爲替手形ガ支拂地ニ住所ヲ有スル參加人ニ依リテ引受ケラレタルトキ又ハ支拂地ニ住所ヲ有スル者ガ豫備支拂人トシテ記載セラレタルトキハ所持人ハ此等ノ者ノ全員ニ手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ得ベキ最後ノ日ノ翌日迄ニ支拂拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

前項ノ期間內ニ拒絶證書ノ作成ナキトキハ豫備支拂人ヲ記載シタル者又ハ被參加人及其ノ後ノ裏書人ハ義務ヲ免ル

第六十一條　參加支拂ヲ拒ミタル所持人ハ其ノ支拂ニ因リテ義務ヲ免ルベカリシ者ニ對スル遡求權ヲ失フ

第六十二條　參加支拂ハ被參加人ヲ表示シテ爲替手形ニ爲シタル受取ノ記載ニ依リ之ヲ證スルコトヲ要ス

其ノ表示ナキトキハ支拂ハ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

爲替手形ハ參加支拂人ニ之ヲ交付スルコトヲ要ス拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ之ヲモ交付スルコトヲ要ス

第六十三條　參加支拂人ハ被參加人及其ノ者ノ爲替手形上ノ債務者ニ對シ爲替手形ヨリ生ズル權利ヲ取得

ス但シ更ニ爲替手形ヲ裏書スルコトヲ得ズ

被參加人ヨリ後ノ裏書人ハ義務ヲ免ル

參加支拂ノ競合ノ場合ニ於テハ最モ多數ノ義務ヲ免レシムルモノ優先ス事情ヲ知リ此ノ規定ニ反シテ參加シタル者ハ義務ヲ免ルベカリシ者ニ對スル遡求權ヲ失フ

第九章　複本及謄本

第一節　複本

第六十四條　爲替手形ハ同一內容ノ數通ヲ以テ之ヲ振出スコトヲ得

此ノ複本ニハ其ノ證券ノ文言中ニ番號ヲ附スルコトヲ要ス之ヲ缺クトキハ各通ハ之ヲ各別ノ爲替手形ト看做ス

一通限ニテ振出ス旨ノ記載ナキ手形ノ所持人ハ自己ノ費用ヲ以テ複本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所持人ハ自己ノ直接ノ裏書人ニ對シテ其ノ請求ヲ爲シ其ノ裏書人ハ自己ノ裏書人ニ對シテ手續ヲ爲スコトニ依リテ之ニ協力シ順次振出人ニ及ブベキモノトス各裏書人ハ新ナル複本ニ裏書ヲ再記スルコトヲ要ス

第六十五條　複本ノ一通ノ支拂ハ其ノ支拂ガ他ノ複本ヲ無效ナラシムル旨ノ記載ナキトキト雖モ義務ヲ免レシム但シ支拂人ハ引受ヲ爲シタル各通ニシテ返還ヲ受ケザルモノニ付責任ヲ負フ

數人ニ各別ニ複本ヲ讓渡シタル裏書人及其ノ後ノ裏書人ハ其ノ署名アル各通ニシテ返還ヲ受ケザルモノニ付責任ヲ負フ

第六十六條　引受ノ爲複本ノ一通ヲ送付シタル者ハ他ノ各通ニ此ノ一通ヲ保持スル者ノ名稱ヲ記載スベシ其ノ者ハ他ノ一通ノ正當ナル所持人ニ對シ之ヲ引渡スコトヲ要ス

保持者ガ引渡ヲ拒ミタルトキハ所持人ハ拒絕證書ニ依リ左ノ事實ヲ證スルニ非ザレバ遡求權ヲ行フコトヲ得ズ

一　引受ノ爲送付シタル一通ガ請求ヲ爲スモ引渡サレザリシコト

二　他ノ一通ヲ以テ引受又ハ支拂ヲ受クルコト能ハザリシコト

第二節　謄本

第六十七條　爲替手形ノ所持人ハ其ノ謄本ヲ作ル權利ヲ有ス

謄本ニハ裏書其ノ他原本ニ揭ゲタル一切ノ事項ヲ正

確ニ再記シ且其ノ末尾ヲ示スコトヲ要ス

謄本ニハ原本ト同一ノ方法ニ從ヒ且同一ノ效力ヲ以テ裏書又ハ保證ヲ爲スコトヲ得

第六十八條　謄本ニハ原本ノ保持者ヲ表示スベシ保持者ハ謄本ノ正當ナル所持人ニ對シ其ノ原本ヲ引渡スコトヲ要ス

保持者ガ引渡ヲ拒ミタルトキハ所持人ハ拒絕證書ニ依リ原本ガ請求ヲ爲スモ引渡サレザリシコトヲ證スルニ非ザレバ謄本ニ裏書又ハ保證ヲ爲シタル者ニ對シ遡求權ヲ行フコトヲ得ズ

謄本作成前ニ爲シタル最後ノ裏書ノ後ニ「爾後裏書ハ謄本ニ爲シタルモノノミ效力ヲ有ス」ノ文句其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ガ原本ニ存スルトキハ原本ニ爲シタル其ノ後ノ裏書ハ之ヲ無效トス

第十章　變造

第六十九條　爲替手形ノ文言ノ變造ノ場合ニ於テハ其ノ變造後ノ署名者ハ變造シタル文言ニ從ヒテ責任ヲ負ヒ變造前ノ署名者ハ原文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第十一章　時效

第七十條　引受人ニ對スル爲替手形上ノ請求權ハ滿期ノ日ヨリ三年ヲ以テ時效ニ罹ル

所持人ノ裏書人及振出人ニ對スル請求權ハ適法ノ時期ニ作ラシメタル拒絕證書ノ日附ヨリ、無費用償還文句アル場合ニ於テハ滿期ノ日ヨリ一年ヲ以テ時效ニ罹ル

裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ對スル請求權ハ其ノ裏書人ガ手形ノ受戻ヲ爲シタル日又ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル日ヨリ六月ヲ以テ時效ニ罹ル

第七十一條　時效ノ中斷ハ其ノ中斷ノ事由ガ生ジタル者ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生ズ

第十二章　通則

第七十二條　滿期ガ法定ノ休日ニ當ル爲替手形ハ之ニ次グ第一ノ取引日ニ至ル迄其ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ズ又爲替手形ニ關スル他ノ行爲殊ニ引受ノ爲ノ呈示及拒絕證書ノ作成ハ取引日ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得

休日ヲ法定ノ休日トスル一定ノ期間內ニ前項ノ行爲ヲ爲スベキ場合ニ於テハ期間ハ其ノ滿了ニ次グ第一ノ取引日迄之ヲ伸長ス期間中ノ休日ハ之ヲ期間ニ算入ス

第七十三條　法定又ハ約定ノ期間ニハ其ノ初日ヲ算入セズ

第七十四條　恩惠日ハ法律上ノモノタルト裁判上ノモノタルトヲ問ハズ之ヲ認メズ

第二編　約束手形

第七十五條　約束手形ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　證券ノ文言中ニ其ノ證券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載スル約束手形ナルコトヲ示ス文字

二　一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單純ナル約束

三　滿期ノ表示

四　支拂ヲ爲スベキ地ノ表示

五　支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指圖スル者ノ名稱

六　手形ヲ振出ス日及地ノ表示

七　手形ヲ振出ス者（振出人）ノ署名

第七十六條　前條ニ掲グル事項ノ何レカヲ缺ク證券ハ約束手形タル效力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

滿期ノ記載ナキ約束手形ハ之ヲ一覽拂ノモノト看做ス

振出地ハ特別ノ表示ナキ限リ之ヲ支拂地ニシテ且振出人ノ住所地タルモノト看做ス

振出地ノ記載ナキ約束手形ハ振出人ノ名稱ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス

第七十七條　左ノ事項ニ關スル爲替手形ニ付テノ規定ハ約束手形ノ性質ニ反セザル限リ之ヲ約束手形ニ準用ス

一　裏書（第十一條乃至第二十條）

二　滿期（第三十三條乃至第三十七條）

三　支拂（第三十八條乃至第四十二條）

四　支拂拒絶ニ因ル遡求（第四十三條乃至第五十條、第五十二條乃至第五十四條）

五　參加支拂（第五十五條、第五十九條乃至第六十三條）

六　謄本（第六十七條及第六十八條）

七　變造（第六十九條）

八　時效（第七十條及第七十一條）

九　休日、期間ノ計算及恩惠日ノ禁止（第七十二條乃至第七十四條）

第三者方ニテ又ハ支拂人ノ住所地ニ非ザル地ニ於テ支拂ヲ爲スベキ爲替手形（第四條及第二十七條）、利息ノ約定（第五條）、支拂金額ニ關スル記載ノ差異（第六條）、第七條ニ規定スル條件ノ下ニ爲サレタル署名ノ效果、權限ナクシテ又ハ之ヲ超エテ爲シタル者ノ署名ノ效果（第八條）及白地爲替手形（第十條）ニ關スル規定モ亦之ヲ約束手形ニ準用ス

保證ニ關スル規定（第三十條乃至第三十二條）モ亦之ヲ約束手形ニ準用ス第三十一條末項ノ場合ニ於テ何人ノ爲ニ保證ヲ爲シタルカヲ表示セザルトキハ約束手形ノ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十八條　約束手形ヲ振出人ハ爲替手形ノ引受人ト同一ノ義務ヲ負フ

一覽後定期拂ノ約束手形ハ第二十三條ニ規定スル期間內ニ振出人ノ一覽ノ爲之ヲ呈示スルコトヲ要ス一覽後ノ期間ハ振出人ガ手形ニ一覽ノ旨ヲ記載シテ署名シタル日ヨリ進行ス振出人ガ日附アル一覽ノ旨ノ記載ヲ拒ミタルトキハ拒絶證書ニ依リテ之ヲ證スルコトヲ要ス（第二十五條）其ノ日附ハ一覽後ノ期間ノ初日トス

附　則

第七十九條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和八年勅令第三百十五號ヲ以テ昭和九年一月一日ヨリ施行）

第八十條　商法第四編第一章乃至第三章及商法施行法第百二十四條乃至第百二十六條ハ之ヲ削除ス但シ商法其ノ他ノ法令ノ規定ノ適用上之ニ依ルベキ場合ニ於テハ仍其ノ效力ヲ有ス

第八十一條　本法施行前ニ振出シタル爲替手形及約束手形ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第八十二條　本法ニ於テ署名トアルハ記名捺印ヲ含ム

第八十三條　第三十八條第二項（第七十七條第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ手形交換所ハ司法大臣之ヲ指定ス

第八十四條　拒絶證書ノ作成ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十五條　爲替手形又ハ約束手形ヨリ生ジタル權利ガ手續ノ欠缺又ハ時效ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人、引受人又ハ裏書人ニ對シ其ノ受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十六條　裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ對スル爲替手形上及約束手形上ノ請求權ノ消滅時效ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル場合ニ在リテハ前者ニ對シ訴訟告知ヲ爲スニ因リテ中斷ス

前項ノ規定ニ因リテ中斷シタル時效ハ裁判ノ確定シタル時ヨリ更ニ其ノ進行ヲ始ム

第八十七條　本法ニ於テ休日トハ祭日、祝日、日曜日

其ノ他ノ一般ノ休日ヲ謂フ

第八十八條　爲替手形及約束手形ニ依リ義務ヲ負フ者ノ能力ハ其ノ本國法ニ依リ之ヲ定ム其ノ國ノ法律ガ他國ノ法律ニ依ルコトヲ定ムルトキハ其ノ他國ノ法律ヲ適用ス

前項ニ掲グル法律ニ依リ能力ヲ有セザル者ト雖モ他ノ國ノ領域ニ於テ署名ヲ爲シ其ノ國ノ法律ニ依レバ能力ヲ有スベキトキハ責任ヲ負フ

第八十九條　爲替手形上及約束手形上ノ行爲ノ方式ハ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

爲替手形上及約束手形上ノ行爲ガ前項ノ規定ニ依リ有效ナラザル場合ト雖モ後ノ行爲ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依レバ適式ナルトキハ後ノ行爲ハ前ノ行爲ガ不適式ナルコトニ因リ其ノ效力ヲ妨ゲラルルコトナシ

日本人ガ外國ニ於テ爲シタル爲替手形上及約束手形上ノ行爲ハ其ノ行爲ガ日本ノ法律ニ規定スル方式ニ適合スル限リ他ノ日本人ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

第九十條　爲替手形ノ引受人及約束手形ノ振出人ノ義務ノ效力ハ其ノ證券ノ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

前項ニ掲グル者ヲ除キ爲替手形又ハ約束手形ニ依リ債務ヲ負フ者ノ署名ヨリ生ズル效力ハ其ノ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム但シ遡求權ヲ行使スル期間ハ一切ノ署名者ニ付證券ノ振出地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第九十一條　爲替手形ノ所持人ガ證券ノ振出ノ原因タル債權ヲ取得スルヤ否ヤハ證券ノ振出地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第九十二條　爲替手形ノ引受ヲ手形金額ノ一部ニ制限シ得ルヤ否ヤ及所持人ニ一部支拂ヲ受諾スル義務アリヤ否ヤハ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

前項ノ規定ハ約束手形ノ支拂ニ之ヲ準用ス

第九十三條　拒絕證書ノ方式及作成期間其ノ他爲替手形上及約束手形上ノ權利ノ行使又ハ保存ニ必要ナル行爲ノ方式ハ拒絕證書ヲ作ルベキ地又ハ其ノ行爲ヲ爲スベキ地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第九十四條　爲替手形又ハ約束手形ノ喪失又ハ盜難ノ場合ニ爲スベキ手續ハ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

○小切手法

（昭和八年七月二十九日　法律第五十七號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル小切手法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

小切手法

第一章　小切手ノ振出及方式

第一條　小切手ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　證券ノ文言中ニ其ノ證券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載スル小切手ナルコトヲ示ス文字

二　一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單純ナル委託

三　支拂ヲ爲スベキ者（支拂人）ノ名稱

四　支拂ヲ爲スベキ地ノ表示

五　小切手ヲ振出ス日及地ノ表示

六　小切手ヲ振出ス者（振出人）ノ署名

第二條　前條ニ掲グル事項ノ何レカヲ缺ク證券ハ小切手タル效力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

支拂人ノ名稱ニ附記シタル地ハ特別ノ表示ナキ限リ之ヲ支拂地ト看做ス支拂人ノ名稱ニ數箇ノ地ノ附記アルトキハ小切手ハ初頭ニ記載シアル地ニ於テ之ヲ支拂フベキモノトス

前項ノ記載其ノ他何等ノ表示ナキ小切手ハ振出地ニ於テ之ヲ支拂フベキモノトス

振出地ノ記載ナキ小切手ハ振出人ノ名稱ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス

第三條　小切手ハ其ノ呈示ノ時ニ於テ振出人ノ處分シ得ル資金アル銀行ニ宛テ且振出人ヲシテ資金ヲ小切手ニ依リ處分スルコトヲ得シムル明示又ハ默示ノ契約ニ從ヒ之ヲ振出スベキモノトス但シ此ノ規定ニ從ハザルトキト雖モ證券ノ小切手タル效力ヲ妨ゲズ

第四條　小切手ハ引受ヲ爲スコトヲ得ズ小切手ニ爲シタル引受ノ記載ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

第五條　小切手ハ左ノ何レカトシテ之ヲ振出スコトヲ得

一　記名式又ハ指圖式

二　記名式ニシテ「指圖禁止」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載スルモノ

三　持參人拂式

記名ノ小切手ニシテ「又ハ持參人ニ」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シタルモノハ之ヲ持參人拂式小切手ト看做ス

受取人ノ記載ナキ小切手ハ之ヲ持參人拂式小切手ト看做ス

第六條　小切手ハ振出人ノ自己指圖ニテ之ヲ振出スコトヲ得

小切手ハ第三者ノ計算ニ於テ之ヲ振出スコトヲ得

小切手ハ振出人ノ自己宛ニテ之ヲ振出スコトヲ得

第七條　小切手ニ記載シタル利息ノ約定ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

第八條　小切手ハ支拂人ノ住所地ニ在ルト又ハ其ノ他ノ地ニ在ルトヲ問ハズ第三者ノ住所ニ於テ支拂フベキモノト爲スコトヲ得但シ其ノ第三者ハ銀行タルコトヲ要ス

第九條　小切手ノ金額ヲ文字及數字ヲ以テ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ文字ヲ以テ記載シタル金額ヲ小切手金額トス

小切手ノ金額ヲ文字ヲ以テ又ハ數字ヲ以テ重復シテ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ最小金額ヲ小切手金額トス

第十條　小切手ニ小切手債務ヲ負擔スル能力ナキ者ノ署名、偽造ノ署名、假設人ノ署名又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ小切手ノ署名者若ハ其ノ本人ニ義務ヲ負ハシムルコト能ハザル署名アル場合ト雖モ他ノ署名者ノ債務ハ之ガ爲其ノ效力ヲ妨ゲラルルコトナシ

第十一條　代理權ヲ有セザル者ガ代理人トシテ小切手ニ署名シタルトキハ自ラ其ノ小切手ニ因リ義務ヲ負フ其ノ者ガ支拂ヲ爲シタルトキハ本人ト同一ノ權利ヲ有ス權限ヲ超エタル代理人ニ付亦同ジ

第十二條　振出人ハ支拂ヲ擔保ス振出人ガ之ヲ擔保セザル旨ノ一切ノ文言ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

第十三條　未完成ニテ振出シタル小切手ニ豫メ爲シタル合意ト異ル補充ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ違反ハ之ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ小切手ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二章　讓渡

第十四條　記名式又ハ指圖式ノ小切手ハ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

記名式小切手ニシテ「指圖禁止」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シタルモノハ指名債權ノ讓渡ニ關スル方式ニ從ヒ且其ノ效力ヲ以テノミ之ヲ讓渡スコトヲ得

裏書ハ振出人其ノ他ノ債務者ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得此等ノ者ハ更ニ小切手ヲ裏書スルコトヲ得

第十五條　裏書ハ單純ナルコトヲ要ス裏書ニ附シタル條件ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

一部ノ裏書ハ之ヲ無效トス

支拂人ノ裏書モ亦之ヲ無效トス

持參人拂ノ裏書ハ白地式裏書ト同一ノ效力ヲ有ス

支拂人ニ對シテ爲シタル裏書ハ受取證書タル效力ノミヲ有ス但シ支拂人ガ數箇ノ營業所ヲ有スル場合ニ於テ小切手ノ振宛ヲラレタル營業所以外ノ營業所ニ對シテ爲シタル裏書ハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條　裏書ハ小切手又ハ之ト結合シタル紙片（補箋）ニ之ヲ記載シ裏書人署名スルコトヲ要ス

裏書ハ被裏書人ヲ指定セズシテ之ヲ爲シ又ハ單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得（白地式裏書）此ノ後ノ場合ニ於テハ裏書ハ小切手ノ裏面又ハ補箋ニ之ヲ爲スニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ

第十七條　裏書ハ小切手ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ移轉ス

裏書ガ白地式ナルトキハ所持人ハ

一　自己ノ名稱又ハ他人ノ名稱ヲ以テ白地ヲ補充スルコトヲ得

二　白地式ニ依リ又ハ他人ヲ表示シテ更ニ小切手ヲ裏書スルコトヲ得

三　白地ヲ補充セズ且裏書ヲ爲サズシテ小切手ヲ第二三者ニ讓渡スコトヲ得

第十八條　裏書人ハ反對ノ文言ナキ限リ支拂ヲ擔保ス

裏書人ハ新ナル裏書ヲ禁ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ裏書人ハ小切手ノ爾後ノ被裏書人ニ對シ擔保ノ責ヲ負フコトナシ

第十九條　裏書シ得ベキ小切手ノ占有者ガ裏書ノ連續ニ依リ其ノ權利ヲ證明スルトキハ之ヲ適法ノ所持人ト看做ス最後ノ裏書ガ白地式ナル場合ト雖モ亦同ジ

抹消シタル裏書ハ此ノ關係ニ於テハ之ヲ記載セザルモノト看做ス白地式裏書ニ次デ他ノ裏書アルトキハ其ノ裏書ヲ爲シタル者ハ白地式裏書ニ因リテ小切手ヲ取得シタルモノト看做ス

第二十條　持參人拂式小切手ニ裏書ヲ爲シタルトキハ裏書人ハ遡求ニ關スル規定ニ從ヒ責任ヲ負フ但シ之ガ爲證券ハ指圖式小切手ニ變ズルコトナシ

第二十一條　事由ノ何タルヲ問ハズ小切手ノ占有ヲ失ヒタル者アル場合ニ於テ其ノ小切手ヲ取得シタル所

持人ハ小切手ガ持參人拂式ノモノナルトキ又ハ裏書シ得ベキモノニシテ其ノ所持人ガ第十九條ノ規定ニ依リ權利ヲ證明スルトキハ之ヲ返還スル義務ヲ負フコトナシ但シ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ之ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條　小切手ニ依リ請求ヲ受ケタル者ハ振出人其ノ他所持人ノ前者ニ對スル人的關係ニ基ク抗辯ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ其ノ債務者ヲ害スルコトヲ知リテ小切手ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條　裏書ニ「回收ノ爲」「取立ノ爲」「代理ノ爲」其ノ他單ナル委任ヲ示ス文言アルトキハ所持人ハ小切手ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ行使スルコトヲ得但シ所持人ハ代理ノ爲ノ裏書ノミヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ債務者ガ所持人ニ對抗スルコトヲ得ル抗辯ハ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ベカリシモノニ限ル

代理ノ爲ノ裏書ニ依ル委任ハ委任者ノ死亡又ハ其ノ者ガ無能力ト爲リタルコトニ因リ終了セズ

第二十四條　拒絶證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ヲ作成後ノ裏書又ハ呈示期間經過後ノ裏書ハ指名債權ノ讓渡ノ效力ノミヲ有ス

日附ノ記載ナキ裏書ハ拒絶證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成前又ハ呈示期間經過前ニ之ヲ爲シタルモノト推定ス

第三章　保證

第二十五條　小切手ノ支拂ハ其ノ金額ノ全部又ハ一部ニ付保證ニ依リ之ヲ擔保スルコトヲ得

支拂人ヲ除クノ外第三者ハ前項ノ保證ヲ爲スコトヲ得小切手ニ署名シタル者ト雖モ亦同ジ

第二十六條　保證ハ小切手又ハ補箋ニ之ヲ爲スベシ

保證ハ「保證」其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ以テ表示シ保證人署名スベシ

小切手ノ表面ニ爲シタル單ナル署名ハ之ヲ保證ト看做ス但シ振出人ノ署名ハ此ノ限ニ在ラズ

保證ニハ何人ノ爲ニ之ヲ爲スカヲ表示スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十七條　保證人ハ保證セラレタル者ト同一ノ責任ヲ負フ

保證ハ其ノ擔保シタル債務ガ方式ノ瑕疵ヲ除キ他ノ如何ナル事由ニ因リテ無效ナルトキト雖モ之ヲ有效

ト爲スベキトキハ保證人ガ小切手ノ支拂ヲ爲シタルトキハ保證セラレタル者及其ノ者ノ小切手上ノ債務者ニ對シ小切手ヨリ生ズル權利ヲ取得ス

第四章　呈示及支拂

第二十八條　小切手ハ一覽拂ノモノトス之ニ反スル一切ノ記載ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

振出ノ日附トシテ記載シタル日ヨリ前ニ支拂ノ爲呈示シタル小切手ハ呈示ノ日ニ於テ之ヲ支拂フベキモノトス

第二十九條　國內ニ於テ振出シ且支拂フベキ小切手ハ十日內ニ支拂ノ爲之ヲ呈示スルコトヲ要ス

支拂ヲ爲スベキ國ト異ル國ニ於テ振出シタル小切手ハ振出地及支拂地ガ同一洲ニ存スルトキハ二十日內又異ル洲ニ存スルトキハ七十日內ニ之ヲ呈示スルコトヲ要ス

前項ニ關シテハ歐羅巴洲ノ一國ニ於テ振出シ地中海沿岸ノ一國ニ於テ支拂フベキ小切手又ハ地中海沿岸ノ一國ニ於テ振出シ歐羅巴洲ノ一國ニ於テ支拂フベキ小切手ハ同一洲內ニ於テ振出シ且支拂フベキモノト看做ス

本條ニ揭グル期間ノ起算日ハ小切手ニ振出ノ日附トシテ記載シタル日トス

第三十條　小切手ガ曆ヲ異ニスル二地ノ間ニ振出シタルモノナルトキハ振出ノ日ヲ支拂地ノ曆ノ應當日ニ換フ

第三十一條　手形交換所ニ於ケル小切手ノ呈示ハ支拂ノ爲ノ呈示タル效力ヲ有ス

第三十二條　小切手ノ支拂委託ノ取消ハ呈示期間經過後ニ於テノミ其ノ效力ヲ生ズ

支拂委託ノ取消ナキトキハ支拂人ハ期間經過後ト雖モ支拂ヲ爲スコトヲ得

第三十三條　振出ノ後振出人ガ死亡シ又ハ能力ヲ失フモ小切手ノ效力ニ影響ヲ及ボスコトナシ

第三十四條　小切手ノ支拂人ハ支拂ヲ爲スニ當リ所持人ニ對シ小切手ニ受取ヲ證スル記載ヲ爲シテ之ヲ交付スベキコトヲ請求スルコトヲ得

所持人ハ一部支拂ヲ拒ムコトヲ得ズ

一部支拂ノ場合ニ於テハ支拂人ハ其ノ支拂アリタル旨ノ小切手上ノ記載及受取證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第三十五條　裏書シ得ベキ小切手ノ支拂ヲ爲ス支拂人

ハ裏書ノ連續ノ整否ヲ調査スル義務アルモ裏書人ノ署名ヲ調査スル義務ナシ

第三十六條　支拂地ノ通貨ニ非ザル通貨ヲ以テ支拂フベキ旨ヲ記載シタル小切手ニ付テハ其ノ呈示期間內ハ支拂ノ日ニ於ケル價格ニ依リ其ノ國ノ通貨ヲ以テ支拂ヲ爲スコトヲ得呈示ヲ爲スモ支拂ナカリシトキハ所持人ハ其ノ選擇ニ依リ呈示ノ日又ハ支拂ノ日ノ相場ニ從ヒ其ノ國ノ通貨ヲ以テ小切手ノ金額ヲ支拂フベキコトヲ請求スルコトヲ得

外國通貨ノ價格ハ支拂地ノ慣習ニ依リ之ヲ定ム但シ振出人ハ小切手ニ定メタル換算率ニ依リ支拂金額ヲ計算スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ振出人ガ特種ノ通貨ヲ以テ支拂フベキ旨(外國通貨現實支拂文句)ヲ記載シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

振出國ト支拂國トニ於テ同名異價ヲ有スル通貨ニ依リ小切手ノ金額ヲ定メタルトキハ支拂地ノ通貨ニ依リテ之ヲ定メタルモノト推定ス

第五章　線引小切手

第三十七條　小切手ノ振出人又ハ所持人ハ小切手ニ線引ヲ爲スコトヲ得線引ハ次條ニ定ムル效力ヲ有ス

線引ハ小切手ノ表面ニ二條ノ平行線ヲ引キテ之ヲ爲スベシ線引ハ一般又ハ特定タルコトヲ得

二條ノ線內ニ何等ノ指定ヲ爲サザルカ又ハ「銀行」若ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ記載シタルトキハ線引ハ之ヲ一般トス二條ノ線內ニ銀行ノ名稱ヲ記載シタルトキハ線引ハ之ヲ特定トス

一般線引ハ之ヲ特定線引ニ變更スルコトヲ得ルモ特定線引ハ之ヲ一般線引ニ變更スルコトヲ得ズ

線引又ハ被指定銀行ノ名稱ノ抹消ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

第三十八條　一般線引小切手ハ支拂人ニ於テ銀行ニ對シ又ハ支拂人ノ取引先ニ對シテノミ之ヲ支拂フコトヲ得

特定線引小切手ハ支拂人ニ於テ被指定銀行ニ對シテノミ又被指定銀行ガ支拂人ナルトキハ自己ノ取引先ニ對シテノミ之ヲ支拂フコトヲ得但シ被指定銀行ハ他ノ銀行ヲシテ小切手ノ取立ヲ爲サシムルコトヲ得

銀行ハ自己ノ取引先又ハ他ノ銀行ヨリノミ線引小切手ヲ取得スルコトヲ得銀行ハ此等ノ者以外ノ者ノ爲ニ線引小切手ノ取立ヲ爲スコトヲ得ズ

數箇ノ特定線引アル小切手ハ支拂人ニ於テ之ヲ支拂フコトヲ得ズ但シ二箇ノ線引アル場合ニ於テ其ノ一ガ手形交換所ニ於ケル取立ノ爲ニ爲サレタルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前四項ノ規定ヲ遵守セザル支拂人又ハ銀行ハ之ガ爲ニ生ジタル損害ニ付小切手ノ金額ニ達スル迄賠償ノ責ニ任ズ

第六章　支拂拒絕ニ因ル遡求

第三十九條　適法ノ時期ニ呈示シタル小切手ノ支拂ナキ場合ニ於テ左ノ何レカニ依リ支拂拒絕ヲ證明スルトキハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シ其ノ遡求權ヲ行フコトヲ得

一　公正證書(拒絕證書)

二　小切手ニ呈示ノ日ヲ表示シテ記載シ且日附ヲ附シタル支拂人ノ宣言

三　適法ノ時期ニ小切手ヲ呈示シタルモ其ノ支拂ナカリシ旨ヲ證明シ且日附ヲ附シタル手形交換所ノ宣言

第四十條　拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ハ呈示期間經過前ニ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス

期間ノ末日ニ呈示アリタルトキハ拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ハ之ニ次グ第一ノ取引日ニ之ヲ作ラシムルコトヲ得

第四十一條　所持人ハ拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成ノ日ニ次グ又ハ無費用償還文句アル場合ニ於テハ呈示ノ日ニ次グ四取引日內ニ自己ノ裏書人及振出人ニ對シ支拂拒絕アリタルコトヲ通知スルコトヲ要ス各裏書人ハ通知ヲ受ケタル日ニ次グ二取引日內ニ前ノ通知者全員ノ名稱及宛所ヲ示シテ自己ノ受ケタル通知ヲ自己ノ裏書人ニ通知シ順次振出人ニ及ブモノトス此ノ期間ハ各其ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ進行ス

前項ノ規定ニ從ヒ小切手ノ署名者ニ通知ヲ爲ストキハ同一期間內ニ其ノ保證人ニ同一ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

裏書人ガ其ノ宛所ヲ記載セズ又ハ其ノ記載ガ讀ミ難キ場合ニ於テハ其ノ裏書人ノ直接ノ前者ニ通知スルヲ以テ足ル

通知ヲ爲スベキ者ハ如何ナル方法ニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得單ニ小切手ヲ返付スルニ依リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得

通知ヲ爲スベキ者ハ適法ノ期間內ニ通知ヲ爲シタル

コトヲ證明スルコトヲ要ス此ノ期間内ニ通知ヲ爲ス書面ヲ郵便ニ付シタル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ遵守シタルモノト看做ス

前項ノ期間内ニ通知ヲ爲サザル者ハ其ノ權利ヲ失フコトナシ但シ過失ニ因リテ生ジタル損害アルトキハ小切手ノ金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ

第四十二條　振出人、裏書人又ハ保證人ハ證券ニ記載シ且署名シタル「無費用償還」、「拒絶證書不要」ノ文句其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ニ依リ所持人ニ對シ其ノ遡求權ヲ行フ爲ノ拒絶證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ文言ハ所持人ニ對シ法定期間内ニ於ケル小切手ノ呈示及通知ノ義務ヲ免除スルコトナシ期間ノ不遵守ハ所持人ニ對シ之ヲ援用スル者ニ於テ其ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス

振出人ガ第一項ノ文言ヲ記載シタルトキハ一切ノ署名者ニ對シ其ノ效力ヲ生ズ裏書人又ハ保證人ガ之ヲ記載シタルトキハ其ノ裏書人又ハ保證人ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生ズ振出人ガ此ノ文言ヲ記載シタルニ拘ラズ所持人ガ拒絶證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ヲ作ラシメタルトキハ其ノ費用ハ所持人之ヲ負擔ス裏書人又ハ保證人ガ此ノ文言ヲ記載シタル場合ニ於テ拒絶證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成アリタルトキハ一切ノ署名者ヲシテ其ノ費用ヲ償還セシムルコトヲ得

第四十三條　小切手上ノ各債務者ハ所持人ニ對シ合同シテ其ノ責ニ任ズ

所持人ハ前項ノ債務者ニ對シ其ノ債務ヲ負ヒタル順序ニ拘ラズ各別又ハ共同ニ請求ヲ爲スコトヲ得

小切手ノ署名者ニシテ之ヲ受戻シタルモノモ同一ノ權利ヲ有ス

債務者ノ一人ニ對スル請求ハ他ノ債務者ニ對スル請求ヲ妨ゲズ既ニ請求ヲ受ケタル者ノ後者ニ對シテモ亦同ジ

第四十四條　所持人ハ遡求ヲ受クル者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

一　支拂アラザリシ小切手ノ金額

二　年六分ノ率ニ依ル呈示ノ日以後ノ利息

三　拒絶證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ費用、通知ノ費用及其ノ他ノ費用

第四十五條　小切手ヲ受戻シタル者ハ其ノ前者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

一　其ノ支拂ヒタル總金額

二　前號ノ金額ニ對シ年六分ノ率ニ依リ計算シタル支拂ノ日以後ノ利息

三　其ノ支出シタル費用

第四十六條　遡求ヲ受ケタル又ハ受クベキ債務者ハ支拂ト引換ニ拒絶證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言、受取ヲ證スル記載ヲ爲シタル計算書及小切手ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

小切手ヲ受戻シタル裏書人ハ自己及後者ノ裏書ヲ抹消スルコトヲ得

第四十七條　法定ノ期間内ニ於ケル小切手ノ呈示又ハ拒絶證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成ガ避クベカラザル障碍（國ノ法令ニ依ル禁制其ノ他ノ不可抗力）ニ因リテ妨ゲラレタルトキハ其ノ期間ヲ伸長ス

所持人ハ自己ノ裏書人ニ對シ遲滯ナク其ノ不可抗力ヲ通知シ且小切手又ハ補箋ニ其ノ通知ヲ記載シ日附ヲ附シテ之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ他ニ付テハ第四十一條ノ規定ヲ準用ス

不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ遲滯ナク支拂ノ爲小切手ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ヲ作ラシムルコトヲ要ス

不可抗力ガ所持人ニ於テ其ノ裏書人ニ不可抗力ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ十五日ヲ超エテ繼續スルトキハ呈示期間經過前ニ其ノ通知ヲ爲シタル場合ト雖モ呈示又ハ拒絶證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ヲ要セズシテ遡求權ヲ行フコトヲ得

所持人又ハ所持人ガ小切手ノ呈示又ハ拒絶證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成ヲ委任シタル者ニ付テノ單純ナル人的事由ハ不可抗力ヲ構成スルモノト認メズ

第七章　複本

第四十八條　一國ニ於テ振出シ他ノ國ニ於テ若ハ振出國ノ海外領土ニ於テ支拂フベキ小切手、一國ノ海外領土ニ於テ振出シ其ノ國ニ於テ支拂フベキ小切手、一國ノ同一海外領土ニ於テ振出シ且支拂フベキ小切手又ハ一國ノ一海外領土ニ於テ振出シ其ノ國ノ他ノ海外領土ニ於テ支拂フベキ小切手ハ持參人拂ノモノヲ除クノ外同一內容ノ數通ヲ以テ之ヲ振出スコトヲ得數通ヲ以テ小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ證券ノ

文言中ニ番號ヲ附スルコトヲ要ス之ヲ缺クトキハ各通ハ之ヲ各別ノ小切手ト看做ス

第四十九條　複本ノ一通ノ支拂ハ其ノ支拂ガ他ノ複本ヲ無效ナラシムル旨ノ記載ナキトキト雖モ義務ヲ免レシム

數人ニ各別ニ複本ヲ讓渡シタル裏書人及其ノ後ノ裏書人ハ其ノ署名アル各通ニシテ返還ヲ受ケザルモノニ付責任ヲ負フ

第八章　變造

第五十條　小切手ノ文言ノ變造ノ場合ニ於テハ其ノ變造後ノ署名者ハ變造シタル文言ニ從ヒテ責任ヲ負ヒ變造前ノ署名者ハ原文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第九章　時效

第五十一條　所持人ノ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對スル遡求權ハ呈示期間經過後六月ヲ以テ時效ニ罹ル

小切手ノ支拂ヲ爲スベキ債務者ノ他ノ債務者ニ對スル遡求權ハ其ノ債務者ガ小切手ノ受戻ヲ爲シタル日又ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル日ヨリ六月ヲ以テ時效ニ罹ル

第五十二條　時效ノ中斷ハ其ノ中斷ノ事由ガ生ジタル者ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生ズ

第十章　支拂保證

第五十三條　支拂人ハ小切手ニ支拂保證ヲ爲スコトヲ得

支拂保證ハ小切手ノ表面ニ「支拂保證」其ノ他支拂ヲ爲ス旨ノ文字ヲ以テ表示シ日附ヲ附シテ支拂人署名スベシ

第五十四條　支拂保證ハ單純ナルコトヲ要ス

支拂保證ニ依リ小切手ノ記載事項ニ加ヘタル變更ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

第五十五條　支拂保證ヲ爲シタル支拂人ハ呈示期間ノ經過前ニ小切手ノ呈示アリタル場合ニ於テノミ其ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フ

支拂ナキ場合ニ於テ前項ノ呈示アリタルコトハ第三十九條ノ規定ニ依リ之ヲ證明スルコトヲ要ス

第四十四條及第四十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條　支拂保證ニ因リ振出人其ノ他ノ小切手上ノ債務者ハ其ノ責ヲ免ルルコトナシ

第五十七條　第四十七條ノ規定ハ支拂保證ヲ爲シタル支拂人ニ對スル權利ノ行使ニ付之ヲ準用ス

第五十八條　支拂保證ヲ爲シタル支拂人ニ對スル小切手上ノ請求權ハ呈示期間經過後一年ヲ以テ時效ニ罹ル

第十一章　通則

第五十九條　本法ニ於テ「銀行」ナル文字ハ法令ニ依リテ銀行ト同視セラルル人又ハ施設ヲ含ム

第六十條　小切手ノ呈示及拒絕證書ノ作成ハ取引日ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得

小切手ニ關スル行爲ヲ爲ス爲殊ニ呈示又ハ拒絕證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成ノ爲法令ニ規定シタル期間ノ末日ガ法定ノ休日ニ當ル場合ニ於テハ期間ハ其ノ滿了ニ次グ第一ノ取引日迄之ヲ伸長ス期間中ノ休日ハ之ヲ期間ニ算入ス

第六十一條　本法ニ規定スル期間ニハ其ノ初日ヲ算入セズ

第六十二條　恩惠日ハ法律上ノモノタルト裁判上ノモノタルトヲ問ハズ之ヲ認メズ

附則

第六十三條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（昭和八年勅令第三百十五號ヲ以テ昭和九年一月一日ヨリ施行）

第六十四條　商法第四編第四章ハ之ヲ削除ス

第六十五條　本法施行前ニ振出シタル小切手ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第六十六條　本法施行後六月內ニ日本ニ於テ振出ス小切手ハ振出地ノ記載ヲ缺クトキト雖モ小切手タル效力ヲ有ス

第六十七條　本法ニ於テ署名トアルハ記名捺印ヲ含ム

第六十八條　朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島又ハ勅令ヲ以テ指定スル亞細亞洲ノ地域ニ於テ振出シタル日本內地ニ於テ支拂フベキ小切手ノ呈示期間ハ勅令ヲ以テ之ヲ伸長スルコトヲ得

第六十九條　第三十一條ノ手形交換所ハ司法大臣之ヲ指定ス

第七十條　拒絕證書ノ作成ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十一條　小切手ノ振出人ガ第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五千圓以下ノ過料ニ處ス

第七十二條　小切手ヨリ生ジタル權利ガ手續ノ欠缺又ハ時效ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人、裏書人又ハ支拂保證ヲ爲シタル支拂人ニ對シ其ノ受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコト

ヲ得

第七十三條　裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ對スル小切手上ノ請求權ノ消滅時效ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル場合ニ在リテハ前者ニ對シ訴訟告知ヲ爲スニ因リテ中斷ス

前項ノ規定ニ因リテ中斷シタル時效ハ裁判ノ確定シタル時ヨリ更ニ其ノ進行ヲ始ム

第七十四條　振出人又ハ所持人ガ證券ノ表面ニ「計算ノ爲」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シテ現金ノ支拂ヲ禁ジタル小切手ニシテ外國ニ於テ振出シ日本ニ於テ支拂フベキモノハ一般線引小切手タル效力ヲ有ス

第七十五條　本法ニ於テ休日トハ祭日、祝日、日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ヲ謂フ

第七十六條　小切手ニ依リ義務ヲ負フ者ノ能力ハ其ノ本國法ニ依リ之ヲ定ム其ノ國ノ法律ガ他國ノ法律ニ依ルコトヲ定ムルトキハ其ノ他國ノ法律ヲ適用ス

前項ニ掲グル法律ニ依リ能力ヲ有セザル者ト雖モ他ノ國ノ領域ニ於テ署名ヲ爲シ其ノ國ノ法律ニ依レバ能力ヲ有スベキトキハ其責任ヲ負フ

第七十七條　小切手ノ支拂人タルコトヲ得ル者ハ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ支拂人タルコトヲ得ザル者ヲ支拂人トシタル爲小切手ガ無效ナルトキト雖モ之ト同一ノ規定ナキ他ノ國ニ於テ其ノ小切手ニ爲シタル署名ヨリ生ズル債務ハ之ガ爲其ノ效力ヲ妨ゲラルルコトナシ

第七十八條　小切手上ノ行爲ノ方式ハ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム但シ支拂地ノ屬スル國ノ法律ノ規定スル方式ニ依ルヲ以テ足ル

小切手上ノ行爲ガ前項ノ規定ニ依リ有效ナラザル場合ト雖モ後ノ行爲ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依レバ適式ナルトキハ後ノ行爲ハ前ノ行爲ガ不適式ナルコトニ因リ其ノ效力ヲ妨ゲラルルコトナシ

日本人ガ外國ニ於テ爲シタル小切手上ノ行爲ハ其ノ行爲ガ日本ノ法律ニ規定スル方式ニ適合スル限リ他ノ日本人ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

第七十九條　小切手ヨリ生ズル義務ノ效力ハ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム但シ遡求權ヲ行使スル期間ハ一切ノ署名者ニ付證券ノ振出地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第八十條　左ノ事項ハ小切手ノ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

一　小切手ハ一覽拂タルコトヲ要スル否ヤ、一覽後定期拂トシテ振出シ得ル否ヤ及先日附小切手ノ效力

二　呈示期間

三　小切手ニ引受、支拂保證、確認又ハ査證ヲ爲シ得ル否ヤ及此等ノ記載ノ效力

四　所持人ハ一部支拂ヲ請求シ得ル否ヤ及一部支拂ヲ受諾スル義務アリヤ否ヤ

五　小切手ニ線引ヲ爲シ得ル否ヤ、小切手ニ「計算ノ爲」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シ得ル否ヤ及線引又ハ「計算ノ爲」ノ文字若ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ノ記載ノ效力

六　所持人ハ資金ニ對シ特別ノ權利ヲ有スル否ヤ及此ノ權利ノ性質

七　振出人ハ小切手ノ支拂ノ委託ヲ取消シ又ハ支拂差止ノ手續ヲ爲シ得ル否ヤ

八　小切手ノ喪失又ハ盜難ノ場合ニ爲スベキ手續

九　裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對スル遡求權保全ノ爲拒絶證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ヲ必要トスル否ヤ

第八十一條　拒絶證書ノ方式及作成期間其ノ他小切手上ノ權利ノ行使又ハ保存ニ必要ナル行爲ノ方式ハ拒絶證書ヲ作ルベキ地又ハ其ノ行爲ヲ爲スベキ地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

○拒絶證書令（昭和八年十二月十三日勅令第三百十六號）

朕拒絶證書令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

拒絶證書令

第一條　手形（爲替手形、約束手形）及小切手ノ拒絶證書ハ公證人又ハ執達吏之ヲ作ル

第二條　拒絶證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ公證人又ハ執達吏之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　拒絶者及被拒絶者ノ名稱

二　拒絶者ニ對スル請求ノ趣旨及拒絶者ガ其ノ請求ニ應ゼザリシコト、拒絶者ニ面會スルコト能ハザリシコト又ハ請求ヲ爲スベキ場所ガ知レザリシコト

三　請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハザリシ地及年月日

四　拒絶證書作成ノ場所及年月日

五　法定ノ場所外ニ於テ拒絶證書ヲ作ルトキハ拒絶者ガ之ヲ承諾シタルコト

支拂人ガ手形法第二十四條第一項ノ規定ニ依リ第二ノ呈示ヲ爲スベキコトヲ請求シタルトキハ拒絶證書ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三條　拒絶證書ノ作成ハ手形若ハ小切手又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス

拒絶證書ハ手形又ハ小切手ノ裏面ニ記載シタル事項ニ據ル、シテ之ヲ作リ附箋ニ依ル場合ニ於テハ公證人又ハ執達吏其ノ接目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第四條　手形又ハ小切手ノ數通ノ複本又ハ原本及謄本ヲ呈示シタル場合ニ於テ拒絶證書ヲ作ルトキハ其ノ作成ハ一通ノ複本若ハ原本又ハ附箋ニ依リ之ヲ爲スヲ以テ足ル

前項ノ規定ニ依リテ拒絶證書ヲ作リタルトキハ他ノ複本又ハ謄本ニ其ノ旨ヲ記載シ公證人又ハ執達吏之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　手形法第六十八條第二項（同法第七十七條第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル拒絶證書ノ作成ハ手形ノ謄本又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス

引受ノ一部ノ拒絶ニ因ル拒絶證書ノ作成ハ公證人又ハ執達吏ニ於テ手形ノ謄本ヲ作リ其ノ謄本又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス

第三條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條　數人ニ對スル請求又ハ同一人ニ對スル數回ノ請求ニ付テハ一通ノ拒絶證書ヲ作ラシムルヲ以テ足ル

第七條　拒絶證書ハ請求ヲ爲シタル場所ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要ス但シ拒絶者ノ承諾アルトキハ他ノ場所ニ於テ之ヲ作ルコトヲ妨ゲズ

請求ヲ爲スベキ場所ガ知レザルトキハ拒絶證書ヲ作ルベキ公證人又ハ執達吏ハ其ノ地ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲スコトヲ要ス若シ問合ヲ爲スモ知レザルトキハ其ノ官署若ハ公署又ハ自己ノ役場ニ於テ拒絶證書ヲ作ルコトヲ得

第八條　公證人又ハ執達吏ガ拒絶證書ヲ作リタルトキハ其ノ謄本ニ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ其ノ役場ニ備フルコトヲ要ス

一　爲替手形、約束手形又ハ小切手ノ別及番號アルトキハ其ノ番號

二　金額

三　振出人、支拂人及支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指圖スル者ノ名稱

四　振出ノ年月日及振出地

五　滿期及支拂地

六　支拂ノ爲指定セラレタル第三者、豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ其ノ名稱

拒絶證書ガ滅失シタル場合ニ於テ利害關係人ノ請求アリタルトキハ前項ノ記載ヲ爲シタル謄本ニ依リテ謄本ヲ作リ之ヲ利害關係人ニ交付スルコトヲ要ス此ノ謄本ハ原本ト同一ノ效力ヲ有ス

附　則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○小切手ノ呈示期間ノ特例ニ關スル件（昭和八年十二月十三日勅令第三百十七號）

朕小切手ノ呈示期間ノ特例ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　朝鮮、臺灣、樺太又ハ關東州ニ於テ振出シ日本內地ニ於テ支拂フベキ小切手ノ呈示期間ハ之ヲ二十日トス

南洋群島ニ於テ振出シ日本內地ニ於テ支拂フベキ小切手ノ呈示期間ハ之ヲ六十日トス

第二條　日本及滿洲國以外ノ亞細亞洲ノ地域ニ於テ振出シ日本內地ニ於テ支拂フベキ小切手ノ呈示期間ハ之ヲ六十日トス

附　則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

小切手ノ呈示期間ノ特例ニ關スル件　小切手法ノ適用ニ付銀行ト同視スベキ人又ハ施設ヲ定ムルノ件　手形法第八十三條及小切手法第六十九條ノ規定ニ依ル手形交換所

○小切手法ノ適用ニ付銀行ト同視スベキ人又ハ施設ヲ定ムルノ件（昭和八年十二月二十八日勅令第三百二十九號）

改正　昭和一一年第四二四號、昭和一三年第七〇三號

朕小切手法ノ適用ニ付銀行ト同視スベキ人又ハ施設ヲ定ムルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

小切手法ノ適用ニ付テハ左ニ掲グルモノヲ銀行ト同視ス

信用組合

産業組合中央金庫

商工組合中央金庫

庶民金庫

附　則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○手形法第八十三條及小切手法第六十九條ノ規定ニ依ル手形交換所（昭和八年十二月二十日司法省令第三十八號）

改正　昭和九年第一六號、昭和一〇年第一號、同年第二三號、昭和一一年第一五號、昭和一二年第二一號、昭和一四年第一四號、昭和一五年第二二號、同年第四二號、同年第六四號、同年第六五號、同年第六七號、昭和一六年第七號、同年第三八號、同年第四五號、同年第六〇號、同年第六五號、同年第七三號、同年第九一號、昭和一七年第七九號

手形法第八十三條及小切手法第六十九條ノ規定ニ依リ別表ノ手形交換所ヲ指定ス

附　則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年司法省令第二十四號ハ之ヲ廢止ス

（別表）

名稱	所在地
東京手形交換所	東京府東京市
京都手形交換所	京都府京都市
大阪手形交換所	大阪府大阪市
堺手形交換所	大阪府堺市
横濱手形交換所	神奈川縣横濱市
須賀手形交換所	神奈川縣横須賀市
神戸手形交換所	兵庫縣神戸市
尼崎手形交換所	兵庫縣尼崎市
長崎手形交換所	長崎縣長崎市
佐世保手形交換所	長崎縣佐世保市
新潟手形交換所	新潟縣新潟市
桐生手形交換所	群馬縣桐生市
宇都宮手形交換所	栃木縣宇都宮市
津手形交換所	三重縣津市
四日市手形交換所	三重縣四日市市
名古屋手形交換所	愛知縣名古屋市
豐橋手形交換所	愛知縣豐橋市
一宮手形交換所	愛知縣一宮市
靜岡手形交換所	靜岡縣靜岡市
濱松手形交換所	靜岡縣濱松市
沼津手形交換所	靜岡縣沼津市
清水手形交換所	靜岡縣清水市
岐阜手形交換所	岐阜縣岐阜市
大垣手形交換所	岐阜縣大垣市
松本手形交換所	長野縣松本市
仙臺手形交換所	宮城縣仙臺市
福島手形交換所	福島縣福島市
盛岡手形交換所	岩手縣盛岡市
青森手形交換所	青森縣青森市
弘前手形交換所	青森縣弘前市
秋田手形交換所	秋田縣秋田市
福井手形交換所	福井縣福井市
金澤手形交換所	石川縣金澤市
富山手形交換所	富山縣富山市
高岡手形交換所	富山縣高岡市
松江手形交換所	島根縣松江市
岡山手形交換所	岡山縣岡山市
廣島手形交換所	廣島縣廣島市
呉手形交換所	廣島縣呉市
尾道手形交換所	廣島縣尾道市
福山手形交換所	廣島縣福山市
和歌山手形交換所	和歌山縣和歌山市
高松手形交換所	香川縣高松市
松山手形交換所	愛媛縣松山市
福岡手形交換所	福岡縣福岡市
久留米手形交換所	福岡縣久留米市
門司手形交換所	福岡縣門司市
小倉手形交換所	福岡縣小倉市
若松手形交換所	福岡縣若松市
八幡手形交換所	福岡縣八幡市
佐賀手形交換所	佐賀縣佐賀市
熊本手形交換所	熊本縣熊本市
鹿兒島手形交換所	鹿兒島縣鹿兒島市
札幌手形交換所	北海道札幌市
函館手形交換所	北海道函館市
小樽手形交換所	北海道小樽市
室蘭手形交換所	北海道室蘭市
旭川手形交換所	北海道旭川市
釧路手形交換所	北海道釧路市

○銀行法（昭和二年三月三十日法律第二十一號）

改正　昭和一四年第六八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル銀行法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

銀行法

第一條　左ニ掲グル業務ヲ營ム者ハ之ヲ銀行トス

一　預金ノ受入ト金錢ノ貸付又ハ手形ノ割引トヲ併セ爲スコト

二　爲替取引ヲ爲スコト

營業トシテ預金ノ受入ヲ爲ス者ハ之ヲ銀行ト看做ス

第二條　銀行業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

第三條　銀行業ハ資本金百萬圓以上ノ株式會社ニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ但シ勅令ヲ以テ指定スル地域ニ本店又ハ支店ヲ有スル銀行ノ資本金ハ二百萬圓ヲ下ルコトヲ得ズ

前項但書ノ規定ニ依リ地域ノ指定アリタル場合ニ於テ其ノ地域ニ本店又ハ支店ヲ有スル銀行ニシテ資本金二百萬圓未滿ノモノハ指定ノ日ヨリ五年ヲ限リ前項但書ノ資本金ニ依ラザルコトヲ得

第四條　銀行ハ其ノ商號中ニ銀行ナル文字ヲ用フベシ

銀行ニ非ザルモノハ其ノ商號中ニ銀行タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第五條　銀行ハ擔保附社債信託法ニ依リ擔保附社債ニ關スル信託業ヲ營ミ又ハ保護預リ其ノ他ノ銀行業ニ附隨スル業務ヲ營ムノ外他ノ業務ヲ營ムコトヲ得ズ

第六條　銀行ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

一　商號ヲ變更セントスルトキ

二　資本金ヲ變更セントスルトキ

三　支店其ノ他ノ營業所又ハ代理店ヲ設置セントスルトキ

四　本店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ變更セントスルトキ

五　支店以外ノ營業所ヲ支店ニ變更セントスルトキ

第七條　銀行ハ代理店主ヲシテ其ノ代理事務ニ關シ代理店ノ出張所其ノ他ノ從タル營業所又ハ復代理店ヲ設ケシムルコトヲ得ズ

銀行ノ代理店主ハ其ノ代理事務ニ關シ代理店ノ出張所其ノ他ノ從タル營業所又ハ復代理店ヲ設クルコトヲ得ズ

第八條　銀行ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツベシ

第九條　銀行ノ營業年度ハ一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄トス

第十條　銀行ハ營業年度毎ニ業務報告書ヲ作成シテ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第十一條　銀行ハ營業年度毎ニ主務大臣ノ定ムル樣式ニ依リ貸借對照表ヲ作成シテ之ヲ公告スベシ

第十二條　銀行ノ監査役ハ銀行ノ業務及財產ノ狀況ニ關スル調査ノ結果ヲ記載シタル監査書ヲ毎營業年度二回作成シテ之ヲ本店ニ備ヘ置クベシ

第十三條　銀行ノ常務ニ從事スル取締役又ハ支配人ガ他ノ會社ノ常務ニ從事セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十四條　銀行ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ

其ノ效力ヲ生ゼズ

第十五條　銀行ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第百條第一項ノ規定ニ依リテ爲スベキ催告ハ預金者ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ要セズ

第十六條　銀行ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第百條第一項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スコトヲ得合併ニ因ル株式併合ノ場合ニ於テ商法第三百七十七條第一項但書ノ期間ニ付亦同ジ

第十七條　銀行ガ合併ニ因リテ貯蓄銀行法第一條第一項ノ業務ニ屬スル契約ニ基ク權利義務ヲ承繼シタル場合ニ於テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ニ關スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ妨ゲズ

貯蓄銀行法第九條、第十條及第十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　銀行ノ休日ハ祭日、祝日、日曜日其ノ他銀行ノ營業所所在地ニ行ハルル一般ノ休日ニ限ル

銀行ガ天災其ノ他避クベカラザル事變ニ因リ臨時ニ休業スルトキハ直ニ其ノ旨ヲ公告シ地方長官ニ屆出ヅベシ

第十九條　銀行ガ預金ノ拂戻ヲ停止スルトキハ直ニ其ノ旨ヲ公告シ事由ヲ具シテ主務大臣ニ屆出ヅベシ

第二十條　主務大臣ハ何時ニテモ銀行ヲシテ其ノ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ監査書其ノ他ノ書類帳簿ヲ提出セシムルコトヲ得

第二十一條　主務大臣ハ何時ニテモ部下ノ官吏ニ命ジテ銀行ノ業務及財産ノ狀況ヲ檢査セシムルコトヲ得

第二十二條　主務大臣ハ銀行ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ業務ノ停止又ハ財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十三條　銀行ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ取締役、監査役ノ改任ヲ命ジ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十四條　主務大臣ハ業務ノ停止ヲ命ゼラレタル銀行ニ對シ其ノ整理ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十五條　銀行業ノ廢止又ハ銀行ノ解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十六條　銀行ガ其ノ目的ヲ變更シ他ノ業務ヲ營ム會社トシテ存續スル場合ニ於テハ銀行ニ關スル事務ヲ管理スル主務大臣ハ其ノ會社ガ預金債務ヲ完濟スルニ至ル迄財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得合併ニ因リ銀行ニ非ザル會社ガ銀行ノ預金債務ヲ承繼シタル場合亦同ジ

第二十條及第二十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條　銀行ガ營業ノ免許ヲ取消サレタルトキハ之ニ因リテ解散ス

前項ノ場合ニ於テ清算人ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所之ヲ選任ス其ノ清算人ノ解任亦同ジ

第二十八條　前條ノ場合ヲ除クノ外裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ清算人ヲ解任シタルトキハ裁判所ハ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第二十九條　裁判所ハ銀行ノ清算事務及財産ノ狀況ヲ檢査シ、財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他清算ノ監督ニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十條　銀行ノ清算、破産又ハ强制和議ノ場合ニ於テ裁判所ハ銀行ノ檢査監督ニ從事スル官吏ニ對シ意見ヲ求メ又ハ檢査若ハ調査ヲ囑託スルコトヲ得

第三十一條　銀行ノ清算、破産又ハ强制和議ノ場合ニ於テ銀行ノ檢査監督ニ從事スル官吏ハ裁判所ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第三十二條　本法施行地外ニ本店ヲ有スル銀行ガ本法施行地內ニ支店、出張所又ハ代理店ヲ設ケ銀行業ヲ營マントスルトキハ各營業所毎ニ代表者ヲ定メ第二條ノ規定ニ依ル免許ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタルトキハ該營業所ハ本法ノ適用ニ付之ヲ銀行ト看做ス此ノ場合ニ於テハ第三條乃至第六條、第八條、第十二條乃至第十七條、第二十五條及第二十七條乃至前條ノ規定ニ拘ラズ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第一項ノ免許ニ付テハ主務大臣ハ特ニ必要ナル制限ヲ附スルコトヲ得

第三十三條　主務大臣ノ免許ヲ受ケズシテ銀行業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役、支配人、清算人又ハ本法施行地外ニ本店ヲ有スル銀行ノ本法施行地ニ於ケル代表者ヲ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　業務報告書又ハ監査書ノ不實ノ記載、虚僞ノ公告其ノ他ノ方法ニ依リ官廳又ハ公衆ヲ欺罔シタルトキ

二　本法ニ依ル檢査ニ際シ帳簿書類ノ隱蔽、不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ檢査ヲ妨ゲタルトキ

第三十五條　左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役、支配人、代理店主(代理店主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社員、取締役其ノ他法人ノ代表者又ハ外國會社ノ代表者)、清算人又ハ本法施行地外ニ本店ヲ有スル銀行ノ本法施行地ニ於ケル代表者ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　第五條乃至第八條又ハ第十三條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　第十七條ニ於テ準用スル貯蓄銀行法第九條ノ規定ニ違反シタルトキ

三　本法ニ依リ銀行ニ備ヘ置クベキ書類ノ備付若ハ主務大臣ニ提出スベキ書類ノ提出ヲ怠リ、之ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ之ニ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

四　本法ニ定メタル屆出若ハ公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不實ノ屆出若ハ公告ヲ爲シタルトキ

五　第二十二條、第二十三條、第二十六條又ハ第二十九條ノ規定ニ依リ主務大臣又ハ裁判所ノ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

六　本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第三十六條　第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十七條　銀行ガ本法ニ依リ爲スベキ公告ハ新聞紙ニ依ル

ベシ

附則

第三十八條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和二年勅令第三百二十六號ヲ以テ昭和三年一月一日ヨリ施行）

第三十九條　銀行條例ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リテ營業ノ認可ヲ受ケタル銀行ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ第四十條及第四十一條ノ定ムル制限ニ從ヒ本法ニ依リテ免許ヲ受ケタル銀行ト看做ス

舊法ニ依リテ爲シタル認可、處分其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四十條　前條第二項ノ銀行ニシテ株式會社又ハ外國銀行以外ノモノハ本法施行後五年ヲ限リ仍其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

商法施行前ニ設立シタル合資會社ニシテ舊法ニ依リ營業ノ認可ヲ受ケタル銀行ガ本法施行後五年內ニ其ノ組織ヲ變更シ又ハ合併ニ因リ株式會社ト爲リタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ組織變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第四十一條　第三十九條第二項ノ銀行ノ資本金ニ付テハ本法施行後五年ヲ限リ第三條第一項本文ノ規定ヲ適用セズ第三十九條第二項ノ銀行ノ合併ニ因リテ設立シタル銀行ノ資本金ニ付亦同ジ

命令ヲ以テ定ムル人口一萬未滿ノ地ニ本法施行ノ際現ニ本店ヲ有スル銀行ニ付テハ第三條第一項本文ノ規定ヲ適用セズ但シ其ノ資本金ハ本法施行後五年內ニ五十萬圓以上ト爲スコトヲ要ス

第四十二條　本法施行ノ際現ニ銀行ニシテ商號中ニ銀行ナル文字ヲ用ヒザルモノ及銀行ニ非ズシテ其ノ商號中ニ銀行タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルモノニ付テハ本法施行後六月ヲ限リ第四條ノ規定ヲ適用セズ

第四十三條　本法施行ノ際現ニ第五條ノ業務以外ノ業務ヲ營ム銀行ハ本法施行後五年ヲ限リ仍其ノ業務ヲ繼續スルコトヲ得

第四十四條　第三十九條第二項ノ銀行ノ本法施行ノ際現ニ有スル本店及支店以外ノ營業所又ハ代理店ハ本法施行後一年內ニ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ存續スルコトヲ得ズ

前項ノ認可申請書ハ本法施行後三月內ニ主務大臣ニ提出スベシ

第四十五條　本法施行ノ際現ニ銀行ノ常務ニ從事スル取締役又ハ支配人ニシテ他ノ會社ノ常務ニ從事スル者ハ本法施行後一年ヲ限リ主務大臣ノ認可ヲ受ケズシテ引續キ其ノ會社ノ常務ニ從事スルコトヲ得

第四十六條　第三十九條第二項ノ銀行ニシテ株式會社又ハ外國銀行以外ノモノノ業務廢止ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第四十七條　本法中取締役ニ關スル規定ハ第三十九條第二項ノ銀行ニシテ株式會社又ハ外國銀行以外ノモノニ付テハ其ノ營業主（營業主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社員）ニ之ヲ準用ス

○貯蓄銀行法（大正十年四月十四日）

（法律第七十四號）

改正　昭和二年第二四號、昭和六年第四一號、昭和一一年第四四號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル貯蓄銀行法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

貯蓄銀行法

第一條　左ニ掲クル業務ヲ營ム者ハ之ヲ貯蓄銀行トス

一　複利ノ方法ニ依リ預金ヲ受入ルルコト

二　一回十圓未滿ノ金額ヲ預金トシテ受入ルルコト

三　豫メ拂戻ノ期限ヲ定メ定期ニ又ハ一定ノ期間內ニ於テ數回ニ預金ヲ受入ルルコト

四　期限ヲ定メテ一定金額ノ給付ヲ爲スコトヲ約シ定期ニ又ハ一定ノ期間內ニ於テ數回ニ金錢ヲ受入ルルコト

貯蓄銀行ニ非サルモノハ前項ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス但シ貯蓄銀行ニ非サル銀行カ預金取引ヲ有スル者ヨリ其ノ者トノ取引ノ結果生シタル十圓未滿ノ金額ヲ其ノ預金ニ受入レ又ハ小切手ニ依リ支拂ヲ爲スヘキ預金取引ヲ有スル者ヨリ十圓未滿ノ金額ヲ其ノ預金ニ受入ルル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　貯蓄銀行業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

前項ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ定款及業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面ヲ添附シ之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第三條　貯蓄銀行業ハ資本金五十萬圓以上ノ株式會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第四條　貯蓄銀行ハ其ノ商號中ニ貯蓄銀行ナル文字ヲ用ウヘシ

貯蓄銀行ニ非サルモノハ其ノ商號中ニ貯蓄銀行タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第五條　貯蓄銀行ハ第一條第一項ノ業務ノ外左ニ掲クル業務ヲ併セ營ムコトヲ得

一　定期預リ金

二　保護預リ

三　債權ノ取立

四　公共團體又ハ產業組合ノ金錢出納事務ノ取扱

五　公共團體又ハ產業組合ヨリノ要求拂預リ金

六　國債、地方債又ハ特別ノ法令ニ依リ設立シタル法人ノ債券ノ割賦販賣

七　國債其ノ他前號ニ揭クル有價證券ノ募集又ハ其ノ元利金支拂ノ取扱

第六條　貯蓄銀行ハ本法ニ規定セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第七條　貯蓄銀行カ貯蓄銀行ノ營ムコトヲ得サル業務ニ屬スル契約ニ基ク權利義務ヲ合併ニ因リテ承繼シタル場合ニ於テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ妨ケス

第八條　貯蓄銀行ハ小切手ニ依リ支拂ヲ爲ス第一條第一項第一號第二號ノ預金取引ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　貯蓄銀行ハ第一條第一項及第五條第一號第五號第六號ノ規定ニ依リ受入レタル金額ノ三分ノ一以上ノ金額ニ相

當スル國債ヲ供託スヘシ但シ供託金額中受入金額ノ五分ノ一ヲ超ユル額ニ付テハ第十一條第一項第一號ノ有價證券ヲ以テ國債ニ代フルコトヲ得

貯蓄銀行ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ大藏省預金部ヘノ預ケ金ヲ以テ前項ノ供託ニ代フルコトヲ得

第一項ノ受入金額ハ毎年年末日現在ニ依リ之ヲ定ム

第十條 預金者、第一條第一項第四號ノ規定ニ依ル給付金ノ債權者及第五條第六號ノ規定ニ依ル有價證券ノ給付ヲ受クヘキ債權者ハ其ノ預金、給付金及有價證券ノ給付ヲ受クヘキ債權ニ關シテハ前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債及有價證券竝ニ供託ニ代ヘタル大藏省預金部ヘノ預ケ金ニ付他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

前項ノ規定ニ依リ優先辨濟ヲ受クル範圍ハ預金額、給付金額又ハ給付ヲ受クヘキ有價證券ノ時價ヲ限度トス但シ給付金又ハ有價證券ノ給付ヲ受クヘキ債權ニシテ給付金又ハ有價證券ノ給付時期到來セサルモノニ付テハ既ニ拂込ミタル金額ヲ限度トス

第十一條 貯蓄銀行ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 國債、地方債、社債、株式又ハ滿洲國有價證券ノ應募、引受又ハ買入

二 國債其ノ他前號ニ掲クル有價證券ヲ質トスル貸付

三 不動產ヲ抵當トスル貸付

四 預金者ニ對シ其ノ預金額ヲ限度トスル貸付

五 第一條第一項第四號ノ規定ニ依ル給付金ノ債權者ニ對シ其ノ給付金額ヲ限度トスル貸付

六 第五條第六號ノ規定ニ依ル有價證券ノ給付ヲ受クヘキ債權者ニ對シ既ニ拂込ミタル賦拂金ヲ限度トスル貸付

七 道府縣市町村ニ對スル一年內ノ貸付

八 割賦債還ノ方法ニ依ル二年內ノ貸付

九 銀行若ハ大藏省預金部ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金

十 主務大臣ノ定ムル所ニ依リ信託會社ヘ爲ス金錢又ハ有價證券ノ信託

十一 銀行又ハ信託會社ノ引受アル手形ノ買入

前項ニ規定スル社債、株式及滿洲國有價證券ニ付テハ其ノ種類ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十二條 貯蓄銀行ノ所有シ又ハ貸付金若ハ預ケ金ノ擔保トシテ受入ルル一會社ノ株式ハ該會社ノ總株式ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十三條 一人ニ對スル貸付金額ハ拂込資本金及準備金ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條第一項第三號又ハ第七號ノ規定ニ依ル貸付金ノ總額ハ各拂込資本金及準備金ノ總額ヲ、第十一條第一項第八號ノ規定ニ依ル貸付金ノ總額ハ拂込資本金及準備金ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條第一項第五號ノ貸付金額中既ニ受入レタル金額ヲ超過スル額ニ付テハ確實ナル擔保又ハ保證アルコトヲ要ス

第十一條第一項第八號ノ規定ニ依ル貸付金ハ一人ニ付千圓以下トシ且確實ナル二人以上ノ保證アルコトヲ要ス

第十四條 一銀行ニ對スル預ケ金及其ノ銀行ノ引受ケタル手形ノ買入高ノ總額ハ第一條第一項及第五條第一號第五號第六號ニ規定スル受入金ノ十分ノ一ヲ限度トシ且該銀行ノ拂込資本金及準備金ノ四分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス但シ其ノ總額中國債其ノ他第十一條第一項第一號ニ掲クル有價證券ノ總額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條第三項ノ規定ハ前項ノ受入金ノ額ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ一信託會社ニ對スル信託財產及其ノ信託會社ノ引受ケタル手形ノ買入高ノ總額ニ付之ヲ準用ス

第十五條 貯蓄銀行カ其ノ財產ヲ以テ債務ヲ完濟スルコト能ハサルニ至リタルトキハ第一條第一項及第五條第一號第五號第六號ノ規定ニ依ル契約ニ基ク銀行ノ債務ニ付各取締役ハ連帶シテ其ノ辨償ノ責ニ任ス

前項ノ責任ハ取締役ノ退任登記前ノ債務ニ付退任登記後二年間仍存續ス

第十六條 貯蓄銀行ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 定款ヲ變更セムトスルトキ

二 業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セムトスルトキ

主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ業務ノ種類若ハ方法ヲ制限シ又ハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十七條 有價證券割賦販賣業法ハ第一條及第八條乃至第十一條ノ規定ニ限リ貯蓄銀行ニシテ第五條第六號ノ業務ヲ營ム者ニ付之ヲ適用ス

第十八條 主務大臣ノ免許ヲ受ケスシテ貯蓄銀行業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 左ノ場合ニ於テハ貯蓄銀行ノ取締役、監査役又ハ清算人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第六條、第八條、第九條、第十一條乃至第十四條及第十六條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第十六條第二項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

三 有價證券割賦販賣業法第十條ノ規定ニ違反シタルトキ

第二十條 第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十一條 本法ニ別段ノ規定ヲ設ケサル事項ニ付テハ銀行法ニ依ル

銀行法第十五條又ハ第二十六條ノ規定ノ適用ニ付テハ第一條第一項第四號ノ規定ニ依ル給付金及第五條第六號ノ規定ニ依リ給付ヲ爲スヘキ有價證券ハ之ヲ預金ト看做ス

第二十二條 貯蓄銀行業ヲ營ム者ニハ其ノ納付スヘキ營業收益稅額ノ二分ノ一ヲ免除ス

附則

第二十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年勅令第二百八十四號ヲ以テ大正十一年一月一日ヨリ施行）

第二十四條 貯蓄銀行條例ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リテ營業ノ認可ヲ受ケタル貯蓄銀行ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リテ免許ヲ受ケタル貯蓄銀行ト看做ス

舊法ニ依リテ爲シタル認可、處分其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十五條 前條第二項ノ貯蓄銀行ノ資本金ニ付テハ本法施行後五年ヲ限リ仍舊法ニ依ル

第二十六條　第二十四條第二項ノ貯蓄銀行ニシテ現ニ其ノ商號中ニ貯蓄銀行又ハ貯金銀行ナル文字ヲ用ウルモノニ限リ第四條第一項ノ規定ニ拘ラス仍其ノ商號ヲ用ウルコトヲ得

第二十七條　第二十四條第二項ノ貯蓄銀行カ第九條ノ規定ニ依リテ爲スヘキ供託ニ付テハ本法施行後二年ヲ限リ仍舊法ニ依ル但シ其ノ期間内ニ於テ新ニ供託ヲ爲ス場合ニ於テハ第一條第一項ノ規定ニ依リ受入レタル金額ノ四分ノ一迄ハ國債ニ限ル

第二十八條　本法施行前貯蓄銀行ノ爲シタル契約ニシテ本法ニ依リ貯蓄銀行ノ爲スコトヲ得サル業務ニ屬スルモノニ付テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ得

第二十九條　本法施行ノ際現ニ貯蓄銀行ノ所有スル公債、社債又ハ株式ニシテ第十一條第一項第一號ノ規定ニ依リ應募、引受又ハ買入ヲ爲スコトヲ得サルモノハ本法施行後三年ヲ限リ仍之ヲ所有スルコトヲ得

本法施行ノ際現ニ貯蓄銀行ノ所有スル株式ニシテ第十二條ノ規定ニ依ル限度ヲ超ユルモノニ付テハ本法施行後三年内ニ之ヲ其ノ限度ニ適合セシムヘシ

第三十條　本法施行ノ際一銀行ニ對スル預ケ金及其ノ銀行ノ引受ケタル手形ノ買入高ノ總額カ第十四條第一項ノ規定ニ依ル限度ヲ超ユル場合ニ於テハ本法施行後二年内ニ之ヲ其ノ限度ニ適合セシムヘシ

第三十一條　貯蓄銀行ノ取締役ニシテ本法施行前退任シタル者ノ貯蓄銀行條例第三條ノ規定ニ依ル責任ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第三十二條　本法施行前貯蓄銀行條例第一條ノ事業ヲ廢止シタル者ハ既ニ結結シタル契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ貯蓄銀行條例第三條乃至第六條ノ二及第九條ノ二ノ規定ヲ準用ス

第三十三條　本法施行ノ際貯蓄銀行ニ非スシテ現ニ大正四年法律第二十三號附則第四項ノ規定ニ依リ本法第一條第一項第三號第四號ノ業務ヲ繼續スル者ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

○無盡業法（昭和六年四月一日法律第四十二號）

改正　昭和一三年第二七號、昭和一四年六八號、昭和一六年第八〇號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル無盡業法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

無盡業法

第一條　本法ニ於テ無盡ト稱スルハ一定ノ口數ト給付金額トヲ定メ定期ニ掛金ヲ拂込マシメ一口毎ニ抽籤、入札其ノ他類似ノ方法ニ依リ掛金者ニ對シ金錢ノ給付ヲ爲スヲ謂フ無盡類似ノ方法ニ依リ金錢、有價證券其ノ他ノ財産ノ給付ヲ爲スモノ亦同シ但シ賭博又ハ富籤ニ類似スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　無盡ハ營業トシテ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行爲トス

第三條　無盡業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

前項ノ免許ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ定款、事業方法ヲ記載シタル書面及無盡契約約款ヲ添附シ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第四條　無盡業ハ資本金十萬圓以上ニシテ拂込金額五萬圓以上ノ株式會社ニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

第五條　無盡會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用フベシ

金錢及有價證券以外ノ財産ノ給付ヲ爲ス無盡ヲ業トスル無盡會社ハ前項ノ外其ノ商號中ニ其ノ給付ヲ爲ス主タル財産ノ種類ヲ示スベキ文字ヲ用フベシ

無盡會社ニ非ザルモノハ其ノ商號中ニ無盡ヲ業トスル者タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第六條　無盡會社ハ他ノ業務ヲ營ムコトヲ得ズ

第七條　無盡會社ノ營業區域ハ道府縣ノ區域内ニ於テ之ヲ定ムベシ但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ營業區域ハ定款中ニ之ヲ記載スベシ

第八條　無盡會社ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

一　定款ヲ變更セントスルトキ

二　事業方法又ハ無盡契約約款ヲ變更セントスルトキ

三　出張所又ハ代理店ヲ設置セントスルトキ

四　本店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ變更セントスルトキ

第九條　無盡會社ハ代理店主ヲシテ其ノ代理事務ニ關シ代理店ヲ出張所其ノ他ノ從タル營業所又ハ復代理店ヲ設ケシムルコトヲ得ズ

無盡會社ノ代理店主ハ其ノ代理事務ニ關シ代理店ノ出張所其ノ他ノ從タル營業所又ハ復代理店ヲ設クルコトヲ得ズ

第十條　無盡會社ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ズ

一　有價證券ノ應募、引受又ハ買入

二　有價證券又ハ不動産ヲ擔保トスル貸付

三　金錢ノ給付ヲ爲ス無盡ノ掛金者ニ對シ契約給付金額ヲ限度トスル貸付

四　銀行若ハ庶民金庫ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金

五　命令ノ定ムル所ニ依リ信託會社ヘ爲ス金錢信託

六　金錢及有價證券以外ノ財産ノ給付ヲ爲ス無盡ノ給付ヲ爲必要ナル財産ノ取得等ニシテ命令ヲ以テ定ムルモ

ノ

無盡會社前項第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ國債、地方債竝ニ特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ノ債券及株式以外ノ有價證券ノ應募、引受若ハ買入又ハ之ヲ擔保トスル貸付ヲ爲サントスルトキハ豫メ其ノ有價證券ノ種類ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第一項第三號ノ規定ニ依ル貸付金額中既ニ拂込ミタル金額ヲ超過スル額ニ付テハ確實ナル擔保又ハ保證アルコトヲ要ス

第十一條 無盡會社ガ會社財產ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハザルニ至リタルトキハ無盡契約ニ基ク會社ノ債務ニ付各取締役ハ連帶シテ其ノ辨償ノ責ニ任ズ

前項ノ責任ハ取締役ノ退任登記前ノ債務ニ付退任登記後二年間仍存續ス

第十二條 無盡會社竝ニ其ノ取締役、監査役、使用人及代理店主ハ何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ自己ノ計算ニ於テ其ノ會社又ハ其ノ會社ニ第二十一條ノ六ノ規定ニ依ル管理ヲ委託シタル無盡會社ト無盡契約ヲ爲スコトヲ得ズ

第十三條 無盡會社ハ無盡ノ缺口又ハ掛金ノ拂込ヲ爲サザル者アル場合ト雖モ第一回ノ抽籤、入札其ノ他類似ノ方法ヲ行ヒタル後ハ掛金者ノ不利益ニ給付ヲ變更シ又ハ掛金額ヲ增加スルコトヲ得ズ

第十四條 無盡會社ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツベシ

第十五條 無盡會社ノ營業年度ハ一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄トス

第十六條 無盡會社ハ營業年度毎ニ業務報告書ヲ作成シテ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第十七條 無盡會社ハ營業年度毎ニ主務大臣ノ定ムル樣式ニ依リ貸借對照表ヲ作成シ新聞紙ニ依リ之ヲ公告スベシ

第十八條 無盡會社ノ監査役ハ無盡會社ノ業務及財產ノ狀況ニ關スル調査ノ結果ヲ記載シタル監査書ヲ毎營業年度一回作成シテ之ヲ本店ニ備ヘ置クベシ

第十九條 無盡會社ノ常務ニ從事スル取締役又ハ支配人ガ他ノ會社ノ常務ニ從事セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十條 掛金者ハ無盡會社ニ對シ其ノ加入シタル無盡ノ掛金者五分ノ一以上ノ同意ヲ以テ其ノ加入シタル無盡ニ關シ命令ノ定ムル事項ニ付說明書ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第二十一條 無盡會社ノ合併又ハ營業ノ全部若ハ一部ノ讓渡若ハ讓受ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十一條ノ二 無盡會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第百條第一項ノ規定ニ依リテ爲スベキ催告ハ掛金者ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ要セズ

第二十一條ノ三 無盡會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第百條第一項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スコトヲ得

合併ニ因ル株式併合ノ場合ニ於テ商法第三百七十七條第一項但書ノ期間ニ付亦同ジ

第二十一條ノ四 無盡會社ガ其ノ營業全部ノ讓渡又ハ他ノ無盡會社ノ營業全部ノ讓受ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間內ニ決議ノ要旨及其ノ債權者ニシテ營業全

部ノ讓渡又ハ讓受ニ異議アラバ一定ノ期間內ニ之ヲ述ブベキ旨ヲ公告シ且掛金者以外ノ知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ一月ヲ下ルコトヲ得ズ

債權者ガ前項ノ期間內ニ異議ヲ述ベザリシトキハ營業全部ノ讓渡又ハ讓受ヲ承認シタルモノト看做ス

第一項ノ期間內ニ債權者ガ異議ヲ述ベタルトキハ營業全部ノ讓渡又ハ讓受ヲ爲サントスル無盡會社ハ辨濟ヲ爲シ若ハ相當ノ擔保ヲ供シ又ハ債權者ニ辨濟ヲ受ケシムルコトヲ目的トシテ信託會社ニ相當ノ財產ヲ信託スルコトヲ要ス

第二十一條ノ五 無盡會社ガ其ノ營業全部ノ讓渡ヲ爲シタルトキハ遲滯無ク其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ公告アリタルトキハ營業全部ノ讓渡ヲ爲シタル無盡會社ノ掛金者ニ對シ民法第四百六十七條ノ規定ニ依ル確定日附アル證書ヲ以テスル通知アリタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ其ノ公告ノ日附ヲ以テ確定日附トス

第二十一條ノ六 無盡會社ハ契約ヲ以テ他ノ無盡會社ニ其ノ業務及財產ノ管理ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ契約ハ各無盡會社ニ於テ株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ商法第三百四十三條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十一條ノ七 前條第一項ノ契約ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十一條ノ八 前條ノ認可アリタルトキハ各無盡會社ハ遲滯ナク其ノ旨及契約ノ要旨ヲ公告シ且管理ヲ委託シタル無盡會社ニ在リテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨竝ニ受託無盡會社ノ商號及本店ノ所在地ヲ登記スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ委託無盡會社ノ本店及支店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十一條ノ九 本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外委託無盡會社ト受託無盡會社トノ間ノ關係ハ委任ニ關スル規定ニ從フ

第二十一條ノ十 受託無盡會社ガ委託無盡會社ノ爲ニ無盡契約其ノ他ノ取引ヲ爲スニハ委託無盡會社ノ爲ニスルコトヲ表示スルコトヲ要ス

前項ノ表示ヲ爲サズシテ爲シタル無盡契約其ノ他ノ取引ハ之ヲ自己ノ爲ニ爲シタルモノト看做ス

商法第三十八條第一項ノ規定ハ受託無盡會社ニ之ヲ準用ス

民法第四十四條第一項ノ規定ハ管理ノ委託アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條ノ十一 管理契約ノ解除ハ株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ商法第三百四十三條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十一條ノ七ノ規定ハ第一項ノ解除ニ之ヲ準用ス

第二十一條ノ十二 管理契約ノ解除又ハ終了アリタルトキハ各無盡會社ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十二條 主務大臣ハ何時ニテモ無盡會社ヲシテ其ノ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ監査書其ノ他ノ書類帳簿ヲ提出セシムルコトヲ得

第二十三條　主務大臣ハ何時ニテモ無盡會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第二十四條　主務大臣ハ無盡會社ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ事業方法若ハ無盡契約約款ノ變更、業務ノ停止又ハ財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　無盡會社ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ取締役、監査役ノ改任ヲ命ジ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十六條　主務大臣ハ業務ノ停止ヲ命ゼラレタル無盡會社ニ對シ其ノ整理ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十七條　無盡業ノ廢止又ハ無盡會社ノ解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十八條　無盡會社ガ其ノ目的ヲ變更シ他ノ業務ヲ營ム會社トシテ存續スル場合ニ於テハ無盡會社ニ關スル事務ヲ管理スル主務大臣ハ其ノ會社ガ掛金者ニ對スル債務ヲ完濟スルニ至ル迄財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得合併ニ因リ無盡會社ニ非ザル會社ガ無盡會社ノ掛金者ニ對スル債務ヲ承繼シタル場合亦同ジ

第二十二條及第二十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條　無盡會社ガ營業ノ免許ヲ取消サレタルトキハ之ニ因リテ解散ス

前項ノ場合ニ於テ淸算人ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所之ヲ選任ス其ノ淸算人ノ解任亦同ジ

第三十條　前條ノ場合ヲ除クノ外裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ淸算人ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ淸算人ヲ解任シタルトキハ裁判所ハ淸算人ヲ選任スルコトヲ得

第三十一條　裁判所ハ無盡會社ノ淸算事務及財産ノ狀況ヲ檢査シ、財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他淸算ノ監督ニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　無盡會社ノ淸算、破産又ハ强制和議ノ場合ニ於テ裁判所ハ無盡會社ノ檢査監督ニ從事スル官吏ニ對シ意見ヲ求メ又ハ檢査若ハ調査ヲ囑託スルコトヲ得

第三十三條　無盡會社ノ淸算、破産又ハ强制和議ノ場合ニ於テ無盡會社ノ檢査監督ニ從事スル官吏ハ裁判所ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第三十四條　無盡會社ニ非ズシテ無盡ノ管理ヲ業トスル會社（以下無盡管理會社ト稱ス）ハ其ノ管理スル無盡ノ掛金ノ拂込ナキ場合ニ於テ掛金者ニ代リ掛金ノ拂込ヲ爲ス責ニ任ズ

第三十五條　無盡管理會社ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

掛金ノ拂込又ハ給付金ノ支拂ニ關スル訴ニ於テハ無盡管理會社ハ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得

第三十六條　主務大臣ノ免許ヲ受ケズシテ無盡業ヲ營ミタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條　左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役、支配人若ハ淸算人又ハ第二十一條ノ六ノ規定ニ依ル管理ノ受託無盡會社ノ取締役、監査役若ハ支配人ヲ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　業務報告書又ハ監査書ノ不實ノ記載、虛僞ノ公告其ノ他ノ方法ニ依リ官廳又ハ公衆ヲ欺罔シタルトキ

二　本法ニ依ル檢査ニ際シ帳簿書類ノ隱蔽、不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ檢査ヲ妨ゲタルトキ

第三十八條　左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役、支配人、代理店主（代理店主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社員、取締役其ノ他法人ノ代表者）若ハ淸算人又ハ第二十一條ノ六ノ規定ニ依ル管理ノ受託無盡會社ノ取締役、監査役若ハ支配人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　第六條、第八條、第九條、第十條、第十三條、第十四條、第十七條又ハ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　第七條ノ規定ニ依リ定メタル營業區域外ニ於テ營業ヲ爲シタルトキ

三　無盡會社ガ第十二條ノ規定ニ違反シタルトキ

四　正當ノ理由ナクシテ第十二條ノ說明書ノ交付ヲ拒ミ又ハ之ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタルトキ

四ノ二　第二十一條ノ四ノ規定ニ違反シテ營業全部ノ讓渡又ハ讓受ヲ爲シタルトキ

五　本法ニ依リ無盡會社ニ備ヘ置クベキ書類ノ備附若ハ主務大臣ニ提出スベキ書類ノ提出ヲ怠リ、之ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ之ニ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

六　第二十四條、第二十五條、第二十八條又ハ第三十一條ノ規定ニ依リ主務大臣又ハ裁判所ノ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

七　本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第三十九條　第十二條ノ規定ニ違反シタル取締役、監査役、使用人又ハ代理店主（代理店主法人ナリトキハ其ノ業務ヲ執行スル社員、取締役其ノ他法人ノ代表者）ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

前項ノ場合ニ於テハ無盡會社又ハ第二十一條ノ六ノ規定ニ依ル管理ノ受託無盡會社ノ取締役及監査役ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

第四十條　第五條第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十一條　（削除）

第四十二條　本法中主務大臣ノ職權ニ屬スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十三條　本法中無盡會社並ニ其ノ取締役、監査役、支配人、使用人、淸算人及代理店主ニ關スル規定ハ無盡管理會社並ニ其ノ取締役、監査役、支配人、使用人、淸算人及代理店主ニ、無盡業ニ關スル規定ハ無盡管理業ニ之ヲ準用ス

附　則

第四十四條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和六年勅令第百五十八號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

第四十五條　從前ノ規定ニ依リテ免許ヲ受ケタル株式會社以外ノ無盡業者ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法施行後五年ヲ限リ仍其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

本法中無盡會社ニ關スル規定ハ前項ノ無盡業者ニ之ヲ準用ス

第四十六條　從前ノ規定ニ依リテ免許ヲ受ケタル無盡業者ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノニ付テハ第四條ノ改正規定ニ拘ラズ本法施行後五年ヲ限リ仍從前ノ規定ニ依ル

第四十七條　從前ノ規定ニ依リテ免許ヲ受ケタル無盡業者ニシテ前條ノ期限迄ニ第四條ノ改正規定ノ要件ヲ具備セザルモノガ其ノ期限迄ニ爲シタル無盡契約ニ付テハ之ガ完了ニ使用人又ハ代理店主（代理店主法人ナリトキハ其ノ業務ヲ執行スル社員、取締役其ノ他法人ノ代表者）ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

至ル迄其ノ契約ニ關スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ無盡業者ガ前項ノ業務以外ニ無盡業ヲ營ミタルトキハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 從前ノ規定ニ依リテ免許ヲ受ケタル無盡業者ノ本法施行ノ際現ニ有スル本店及支店以外ノ營業所又ハ代理店ハ本法施行後一年內ニ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ存續スルコトヲ得ズ

前項ノ認可申請書ハ本法施行後三月內ニ主務大臣ニ提出スベシ

第四十九條 本法施行ノ際現ニ無盡會社ノ常務ニ從事スル取締役又ハ支配人ニシテ他ノ會社ノ常務ニ從事スル者ハ本法施行後一年ヲ限リ主務大臣ノ認可ヲ受ケズシテ引續キ其ノ會社ノ常務ニ從事スルコトヲ得

第五十條 第四十五條第一項ノ無盡業者ニシテ會社ニ非ザルモノノ業務廢止ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第五十一條 本法中取締役ニ關スル規定ハ第四十五條第一項ノ無盡業者ニ付テハ其ノ營業主（營業主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社員）ニ之ヲ準用ス

第五十二條 從前ノ第三十一條第一項又ハ第三十二條ノ無盡業者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第五十三條 非訟事件手續法第百三十六條、第百三十七條及第百三十八條ノ二中「銀行」ヲ「銀行又ハ無盡業若ハ無盡管理業ヲ營ム會社」ニ改ム

附 則（昭和十三年法律第二十七號附則）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十三年勅令第百七十三號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

本法施行前免許ヲ受ケタル無盡會社ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノニ付テハ第四條ノ改正規定ニ拘ラズ本法施行後五年ヲ限リ仍從前ノ規定ニ依ル

本法施行前免許ヲ受ケタル無盡會社ニシテ前項ノ期限迄ニ第四條ノ改正規定ノ要件ヲ具備セザルモノガ其ノ期限迄ニ爲シタル無盡契約ニ付テハ之ガ完了ニ至ル迄其ノ契約ニ關スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ無盡會社ガ前項ノ業務以外ニ無盡業ヲ營ミタルトキハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則（昭和十六年法律第八十號附則）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條、第五條及第十條第一項第六號ノ改正規定施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十六年勅令第千百號ヲ以テ昭和十七年一月一日ヨリ施行）

第一條ノ改正規定施行ノ際現ニ金錢及有價證券以外ノ財產ノ給付ヲ爲ス無盡ヲ業トスル者ハ同條ノ改正規定施行前ニ爲シタル無盡契約ニ付テハ之ガ完了ニ至ル迄其ノ契約ニ關スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第十六條、第二十二條乃至第二十五條、第三十五條、第三十七條、第三十八條及第四十二條ノ規定ヲ準用ス

第二項ノ場合ニ於テ無盡ヲ業トスル者ガ同項ノ業務以外ニ無盡業ヲ營ミタルトキハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一條ノ改正規定施行ノ際迄一年以上引續キ他ノ事業ト共ニ金錢及有價證券以外ノ財產ノ給付ヲ爲ス無盡業ヲ營ム會社ニ對シ無盡業ノ免許ヲ爲ス場合ニ於テ主務大臣ハ五年內ノ期間ヲ定メ其ノ營ム他ノ事業ノ兼營ヲ認可スルコトヲ得

庶民金庫法第十七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十七條ノ二（略）

○信託業法（大正十一年四月二十一日 法律第六十五號）

改正 昭和四年第六七號

設帝國議會ノ協賛ヲ經タル信託業法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

信託業法

第一條 信託業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

前項ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ定款並業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面ヲ添附シ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第二條 信託業ハ資本金百萬圓以上ノ株式會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 信託會社ハ其ノ商號中ニ信託ナル文字ヲ用ウヘシ

信託會社ニ非サルモノハ其ノ商號中ニ信託業者タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス但シ擔保附社債ニ關スル信託業ヲ營ム者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 信託會社ハ左ニ揭クル財產以外ノモノノ信託ノ引受ヲ爲スコトヲ得ス

一 金錢
二 有價證券
三 金錢債權
四 動產
五 土地及其ノ定着物
六 地上權及土地ノ賃借權

第五條 信託會社ハ左ニ揭クル業務ニ限リ之ヲ併セ營ムコトヲ得

一 保護預リ
二 債務ノ保證
三 不動產賣買ノ媒介又ハ金錢若ハ不動產ノ貸借ノ媒介
四 公債社債若ハ株式ノ募集、其ノ拂込金ノ受入又ハ其ノ元利金若ハ配當金ノ支拂ノ取扱
五 財產ニ關スル遺言ノ執行
六 會計ノ檢查
七 左ノ事項ニ關スル代理事務
　イ 財產ノ取得、管理、處分又ハ貸借
　ロ 財產ノ整理又ハ清算
　ハ 債權ノ取立
　ニ 債務ノ履行

主務大臣ハ債務ノ保證ニ付命令ヲ以テ必要ナル制限ヲ設クルコトヲ得

第六條 信託會社ハ擔保附社債信託法ニ依リ擔保附社債ニ關スル信託業ヲ營ムコトヲ得

第七條 信託會社ハ信託業務ノ違反ニ因リテ受益者ニ生スルコトアルヘキ損害ノ擔保トシテ命令ノ定ムル所ニ依リ資本金ノ十分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スヘシ但シ其ノ金額ハ百萬圓ヲ超ユルコトヲ要セス

第八條 受益者ハ信託會社カ前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債ニ付他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第九條 信託會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ運用方法ノ特定セサル金錢信託ニ限リ元本ニ損失ヲ來シタル場合又ハ豫メ一定シタル額ノ利益ヲ得サリシ場合ニ於テ之ヲ補塡シ又ハ補足スル契約ヲ爲スコトヲ得

第十條 信託法第二十二條第一項但書ノ規定ハ信託會社ニ之ヲ適用セス

信託會社ハ金錢信託ニ付其ノ運用ニ依リ取得シタル財産カ取引所ノ相場アルモノナルトキハ信託行爲ニ依リ受益者ニ對シ負擔スル債務ヲ履行スル爲必要ナル場合ニ限リ信託行爲ノ定ムル所ニ依リ之ヲ固有財産ト爲スコトヲ得

第十一條　信託會社ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

一　公債、社債又ハ株式ノ應募、引受又ハ買入
二　公債其ノ他前號ニ掲クル有價證券ヲ質トスル貸付
三　動産ノ買入又ハ動産ヲ擔保トスル貸付
四　不動産ノ買入
五　不動産又ハ法令ニ依リテ設定シタル財團ヲ抵當トスル貸付
六　公共團體又ハ産業組合ニ對スル貸付
七　銀行ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金
八　銀行又ハ信託會社ノ引受アル手形ノ買入

前項第三號ニ規定スル動産ニ付テハ其ノ種類ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一項第四號ノ規定ニ依ル不動産ノ買入價格ノ總額ハ拂込資本金及準備金ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條　信託會社ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第十三條　信託會社ハ毎半年業務報告書ヲ作リ之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

貸借對照表ハ毎半年新聞紙ニ依リテ之ヲ公告スヘシ

第十四條　信託會社ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十五條　信託會社ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一　定款ヲ變更セムトスルトキ
二　業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セムトスルトキ
三　代理店ヲ設置セムトスルトキ

第十六條　合併後存續スル信託會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル信託會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル信託會社ノ信託ニ關スル權利義務ヲモ承繼ス

信託會社ノ合併ニ付異議ヲ述ヘタル受益者アルトキハ其ノ信託ニ付テハ信託法第四十二條及第四十九條第一項第三項ノ規定ヲ準用ス

第十七條　主務大臣ハ何時ニテモ信託會社ヲシテ其ノ業務ノ報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第十八條　主務大臣ハ信託會社ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ業務ノ種類若ハ方法ノ變更又ハ業務ノ停止ヲ命シ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十九條　信託會社カ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ取締役監査役ノ改任ヲ命シ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十條　主務大臣ノ免許ヲ受ケスシテ信託業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　左ノ場合ニ於テハ信託會社ノ取締役、監査役又ハ清算人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一　第四條、第五條第一項、第七條、第十一條乃至第十三條及第十五條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　第九條ノ規定又ハ同條ニ基ク命令ニ違反シテ信託ニ付補塡又ハ補足ノ契約ヲ爲シタルトキ
三　第十條ノ規定ニ違反シテ信託財産ヲ固有財産ト爲シタルトキ
四　第十七條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サス又ハ檢査ヲ妨ケタルトキ
五　本法ノ命令又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ
六　信託會社カ信託法第二十八條ノ規定ニ依リテ爲スヘキ信託財産ノ管理ヲ爲ササルトキ
七　信託會社カ信託法第三十九條ニ規定スル事務ノ處理若ハ計算ヲ爲サス又ハ財産目錄ヲ作ラサルトキ
八　信託會社カ正當ノ理由ナクシテ信託法第四十條ノ規定ニ依ル閲覽ノ請求ヲ拒ミ又ハ說明ヲ爲ササルトキ

第二十二條　第三條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十三條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本法ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年勅令第五百十二號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ施行）

本法施行ノ際迄一年以上引續キ信託業ヲ營ム者ニシテ本法施行後六月內ニ信託業ノ免許ヲ申請スルモノニハ本法施行後五年ヲ限リ第二條ノ規定ヲ適用セス但シ其ノ資本金ハ二十五萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

本法施行ノ際現ニ信託業ヲ營ム者ニシテ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノハ本法施行前其ノ爲シタル契約ニシテ本法ニ依リ信託會社ノ爲スコトヲ得サル業務ニ屬スルモノニ付テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍之ヲ繼續スルコトヲ得

○擔保附社債信託法（明治三十八年三月十三日法律第五十二號）

改正　明治四二年第二九號、明治四五年第一四號、大正三年第三號、大正一一年第六六號、昭和八年第四四號、昭和一三年第八三號、昭和一四年第六八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル擔保附社債信託法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

擔保附社債信託法

第一章　總　則

第一條　本法ニ於テ信託會社ト稱スルハ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム會社ヲ謂フ

第二條　社債ニ物上擔保ヲ附セムトスルトキハ其ノ社債ヲ發行スル會社ト信託會社トノ信託契約ニ從ヒ之ヲ發行スヘシ

第三條　本法ニ依ル信託ノ引受ハ之ヲ商行爲トス

第四條　社債ニ附スルコトヲ得ヘキ物上擔保ハ左ニ掲クルモノニ限ル

一　動産質
二　證書アル債權質
二ノ二　株式質
三　不動産抵當
四　船舶抵當
五　鐵道抵當
六　工場抵當
七　鑛業抵當
八　軌道抵當
九　運河抵當

十　漁業財團抵當
十一　自動車交通事業抵當
株式ヲ物上擔保ノ目的ト爲サムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第五條　擔保附社債ニ關スル信託事業ハ特別ノ法律ニ依ル場合ヲ除クノ外主務官廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第六條　信託會社ハ銀行事業ヲ除クノ外他ノ事業ヲ兼ヌルコトヲ得ス但シ銀行事業ヲ兼營セサル株式會社ニ在リテハ信託業法ニ依リ信託業ヲ營ムコトヲ得

第七條　信託會社ノ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ總額ハ百萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

第八條　信託會社ハ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ拂込金額カ五十萬圓ニ達スル迄其ノ事業ニ著手スルコトヲ得ス

第九條　信託ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第十條　主務官廳ハ何時ニテモ信託會社ヲシテ其ノ事業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財產ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第十一條　主務官廳ハ信託會社ノ業務又ハ會社財產ノ狀況カ信託事業ノ執行ニ適セスト認ムルトキハ其ノ事業ノ停止又ハ業務執行方法ノ變更ヲ命シ其ノ他委託會社及社債權者ノ利益ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十二條　信託會社カ法令、定款若ハ主務官廳ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其ノ事業ノ停止若ハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第十三條　擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ專業トスル會社ハ免許ノ取消ニ因リテ解散ス

第十四條　信託會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務官廳ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第十五條　商法第百二十二條、第百三十二條第二項、第百三十八條、第四百十七條第二項、第四百二十六條第二項、其ノ準用規定、有限會社法第七十二條第二項又ハ第七十四條第二項ニ定ムル清算人ノ選任又ハ解任ハ主務官廳ニ於テ之ヲ爲ス

商法第四百二十六條第二項（同法第四百五十八條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）及有限會社法第七十四條第二項ニ依ル請求ハ委託會社又ハ社債權者集會ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第十六條　信託會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
主務官廳ハ何時ニテモ前項ノ監督ニ必要ナル檢査ヲ爲スコトヲ得

第十七條　外國ニ於テ物上擔保附社債ヲ募集セムトスル會社ハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ外國會社ト信託契約ヲ締結スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ信託ヲ引受ケタル外國會社カ日本ニ支店ヲ有セサルトキハ日本ニ於ケル代表者ヲ定ムヘシ

商事會社ハ前項ノ代表者タルコトヲ得

第二項ノ規定ニ依リ代表者ヲ定メタルトキハ遲滯ナク其ノ氏名及住所又ハ商號及本店ヲ主務官廳ニ屆出ヘシ

日本ニ於ケル外國會社ノ代表者ハ信託事務ニ關シテハ信託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ト同一ノ權限ヲ有ス

第二章　信託證書

第十八條　信託契約ハ信託證書ニ依リ之ヲ締結スヘシ

第十九條　信託證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ委託會社及受託會社ノ代表者之ニ署名スヘシ

一　委託會社及受託會社ノ商號

二　社債ノ總額

三　各社債ノ金額
四　社債發行ノ價額又ハ其ノ最低價額
五　社債ノ利率
六　社債償還ノ方法及期限
七　利息支拂ノ方法及期限
八　債券ニ記載スヘキ事項ノ表示及利札附ナルトキハ其ノ旨ノ表示
九　擔保ノ種類、目的物、順位、先順位ノ擔保ヲ附シタル債權ノ金額其ノ他目的物ニ關シ擔保權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ權利ノ表示
十　第三十二條ニ依ル社債ナルトキハ其ノ事實及各會社ノ負擔部分
十一　委託及受託ノ表示
十二　證書作成ノ年月日

第十九條ノ二　社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テハ信託證書ニハ前條第三號乃至第八號ニ掲ケタル事項ニ代ヘ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示
二　社債ノ利率ノ最高限度

信託契約ニ於テ第一回又ハ其ノ後ニ發行スル社債ニ付發行金額及前條第三號乃至第八號ニ掲ケタル事項ヲ定メタルトキハ其ノ事項ヲモ記載スヘシ

第十九條ノ三　社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テ信託契約ニ前條第二項ノ事項ヲ定メサルトキハ委託會社ハ受託會社トノ契約ヲ以テ其ノ發行毎ニ之ヲ定ムヘシ

前項ノ契約ハ信託契約ト同一ノ效力ヲ有ス

第十九條ノ四　前條第一項ノ契約ハ委託會社及受託會社ノ代表者ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第七十七條第二項ノ規定ハ前項ノ契約證書ニ之ヲ準用ス

第十九條ノ五　各社債ノ金額ハ社債ノ總額ニ付均一ナルカ又ハ最低額ヲ以テ整除シ得ヘキモノナルコトヲ要ス

第二十條　信託證書ハ委託會社及受託會社ニ於テ各自其ノ一通ヲ保存スヘシ

前項ノ信託證書ハ其ノ原本ヲ本店ニ、其ノ謄本ヲ各支店ニ備置クヘシ

第二十一條　信託證書ノ原本又ハ謄本ハ委託會社ノ株主、債權者又ハ社債應募者ノ請求アルトキハ營業時間內何時ニテモ之ヲ閲覽セシムヘシ

第三章　社債募集

第二十二條　信託契約ニ依リ物上擔保附社債ヲ募集スル會社ハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

一　第十九條第一號乃至第七號及第十號ニ掲ケタル事項
二　物上擔保附社債ナルコト
三　信託證書ノ表示
四　擔保ノ價格ヲ知ラシムルニ必要ナル程度ニ於テ第十九條第九號ニ掲ケタル事項ノ概要ノ表示
四ノ二　受託會社カ擔保ノ價格ニ付調査シタル結果ノ表示
五　前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘサル總額
六　會社ノ資本及拂込ミタル株金ノ總額
七　最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財產ノ額
八　信託證書若ハ其ノ謄本ヲ應募者ノ閲覽ニ供スヘキ時及場所

社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲモ公告スヘシ但シ第十九條第三號乃至第七號ニ掲ケタル事項ハ其ノ回ニ發行スル社債ニ關スルモノトス

一　社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示及其ノ回ノ發行金額

二　既ニ發行ニ係ル每回ノ金額、其ノ未償還額並未償還額ノ利率及償還期限

三　其ノ回ノ發行ニ付第十九條ノ四第一項ノ契約證書アルトキハ其ノ證書ノ表示

四　前號ニ掲ケタル契約證書若ハ其ノ謄本ヲ應募者ノ閲覧ニ供スヘキ時及場所

前二項ノ公告ハ受託會社ノ承認ヲ得テ之ヲ爲スヘシ

第二十三條　委託會社ハ信託契約ニ依リ社債ノ募集ヲ受託會社ニ委任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十四條　前條ノ場合ニ於テハ第二十二條ニ掲ケタル公告ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ公告ニハ受託會社カ委託會社ニ代リテ社債ノ募集ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

第二十五條　受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ社債ノ總額ヲ引受クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第二十二條及前條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ要セス

第二十六條　前條第一項ノ場合ニ於テ受託會社ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ受託會社ニ通知シテ前項ノ債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十七條　受託會社カ第二十五條第一項ニ依リ引受ケタル社債ヲ讓渡サムトスルトキハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

前項ノ公告ニ記載スヘキ事項ニ付テハ第二十二條ノ規定ヲ準用ス

受託會社ハ社債ヲ讓受ケムトスル者ノ請求アルトキハ營業時間內何時ニテモ信託證書又ハ其ノ謄本ヲ閲覧セシムヘシ

第二十八條　受託會社カ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ委託會社ニ代リテ其ノ社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十九條　委託會社又ハ受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ從ヒ第三者ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムルコトヲ得

前項ニ依ル社債總額ノ引受ハ之ヲ商行爲トス

第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ受託會社ニ對シテ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十條　第二十五條第二項、第二十七條第一項、第二項及第二十八條ノ規定ハ前條第一項ニ依リ第三者カ社債ノ總額ヲ引受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

前條第一項ニ依リ第三者カ社債ノ總額ヲ引受ケタル場合ニ於テハ其ノ第三者カ擔保ノ價格ニ付調査シタル結果ノ表示

ヲ以テ第二十二條第一項第四號ノ二ニ掲ケタル事項ニ代フルコトヲ得

第三十一條　委託會社又ハ受託會社ハ信託證書ノ謄本ヲ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ

前項ノ謄本ハ委託會社又ハ受託會社ノ代表者之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ

第二十七條第三項ノ規定ハ第一項ノ謄本ニ之ヲ準用ス

第三十一條ノ二　社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テハ其ノ最終ノ回ノ發行ハ信託證書作成ノ日ヨリ五年內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十一條ノ三　社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テ未タ發行セサルモノアルトキハ委託會社ハ受託會社トノ契約ヲ以テ社債ノ總額ヲ其ノ既ニ發行シタル額ニ至ルマテ減額スルコトヲ得受託會社ハ正當ノ事由ナクシテ契約ノ締結ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ契約ノ締結ニ因リ受託會社ノ受ケタル損害ハ委託會社之ヲ賠償スルコトヲ要ス

第十九條ノ三第二項及第七十七條ノ規定ハ第一項ノ契約ニ之ヲ準用ス

第三十二條　會社ハ合同シテ社債ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社債ノ募集ヲ受託會社ニ委任シ又ハ受託會社ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムヘシ

第三十三條　前條ノ場合ニ於テハ受託會社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十三條ノ二　社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テハ其ノ各回ノ發行金額ノ引受ヲ以テ社債ノ總額ノ引受トス

第三十四條　委託會社ハ商法第三百五條第一項ノ規定ニ從ヒ左ノ事項ヲ登記スヘシ

一　第十九條第一號乃至第三號、第五號乃至第七號、第九號及第十號ニ掲ケタル事項

二　第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事項

三　第二十三條ニ依ル委任又ハ第二十五條第一項ニ依ル引受アリタルトキハ其ノ事實

四　第二十九條第一項ニ依ル引受アリタルトキハ其ノ事實及引受人ノ氏名又ハ商號

社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テハ其ノ第一回ノ發行ニ付テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外第二十二條第二項第一號及第三號ニ掲ケタル事項ヲモ登記シ第二回以後ノ發行ニ付テハ其ノ回ノ發行金額並第十九條第三號、第五號乃至第七號、第二十二條第二項第三號、前項第三號及第四號ニ掲ケタル事項ヲ其ノ發行每ニ登記スヘシ

第四章　債券

第三十五條　信託證書ニ依ル債券ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　第十九條第一號乃至第三號、第五號乃至第七號ニ掲ケタル事項

二　第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事項

二ノ二　社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スルトキハ第二十二條第二項第一號及第三號ニ掲ケタル事項

三　債券ノ番號

四　前條第一項第三號及第四號ニ掲ケタル事項

第三十六條　受託會社ハ委託會社カ信託契約ノ條款ニ適合スル債券ヲ發行シタルトキハ其ノ請求ニ依リ債券カ信託證書ニ依ル債券ナルコトヲ證明シテ之ヲ委託會社又ハ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘシ

前項ノ證明ハ各債券ニ記載シテ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

第三十七條　信託證書ニ依ル債券ハ前條ノ證明アルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十八條　受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ其ノ旨ヲ各債券ニ記載シ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ適用セス

第三十九條　受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ商法第三百七條及其ノ準用規定ニ依ル記載ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲シ商法第三百八條及其ノ準用規定ニ依ル請求ハ受託會社ニ對シテ之ヲ爲ス

第五章　社債原簿

第四十條　會社カ物上擔保附社債ヲ發行シタルトキハ社債原簿ニ商法第三百十七條ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　第十九條第一號、第九號及第十號ニ掲ケタル事項

二　第三十四條第一項第二號乃至第四號ニ掲ケタル事項

社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テハ社債原簿ニ其ノ發行毎ニ前項ニ掲ケタルモノノ外第二十二條第二項第一號及第三號ニ掲ケタル事項ヲモ記載スヘシ

第四十一條　委託會社ハ社債原簿ノ謄本ヲ作成シテ之ヲ受託會社ニ交付スヘシ

前項ノ謄本ハ委託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ

第四十二條　受託會社ハ前條ノ謄本ヲ其ノ本店ニ備置キ社債權者ノ請求アルトキハ營業時間內何時ニテモ之ヲ閲覽セシムヘシ

第四十三條　社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ都度委託會社ハ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ受託會社ニ通知スヘシ

受託會社ハ前項ノ書面ヲ受ケタルトキハ之ヲ社債原簿ノ謄本ニ添附シテ保存スヘシ

第四十四條　受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ社債原簿ハ受託會社ニ於テ之ヲ作成シ其ノ本店ニ備置クヘシ

商法第二百六十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條　前條第一項ノ場合ニ於テハ受託會社ニ於テ社債原簿ノ謄本ヲ作成シテ之ヲ委託會社ニ交付スヘシ

第四十一條第二項、第四十二條、第四十三條及商法第二百六十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條　委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ其ノ謄本ヲ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ

第四十一條第二項及第四十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十七條　委託會社、受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者カ社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生スヘキ取扱ヲ爲シタルトキハ其ノ都度書面ヲ以テ社債原簿ヲ備フル會社ニ之ヲ通知スヘシ

第六章　社債權者集會

第四十八條　受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ必要アルトキハ何時ニテモ社債權者集會ヲ招集スルコトヲ得

第四十九條　委託會社又ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ハ集會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ提出シテ社債權者集會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケタル者カ其ノ請求アリタル後二週間內ニ集會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其ノ請求ヲ爲シタル者ハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ招集ヲ爲スコトヲ得

第五十條　第十五條第二項、第八十九條、第九十四條又ハ第九十九條ニ定メタル集會ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ニ於テ自ラ之ヲ招集スルコトヲ得

前項ノ招集ハ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會社本店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第九十四條又ハ第九十九條ニ定メタル集會ハ委託會社モ亦自ラ之ヲ招集スルコトヲ得

第五十一條　商法第二百三十二條第一項乃至第三項ノ規定ハ社債權者集會ノ招集ニ之ヲ準用ス

第五十二條　社債權者集會ノ決議ハ信託契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外行使セラレタル議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第六十四條、第六十七條第一項、第七十五條、第八十五條、第八十六條及第九十七條第一項ニ記載シタル事項ノ決議ハ記名債券ヲ有スル者及第二項ノ規定ニ依リ債券ヲ供託シタル者ノ半數以上ニシテ社債總額ノ半數以上ニ當ル社債權者カ議決權ヲ行使シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

商法第二百三十九條第二項乃至第四項ノ規定ハ社債權者集會ノ決議ニ之ヲ準用ス

集會ニ出席セサル社債權者ハ信託契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外書面ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得

各社債權者ハ社債ノ最低金額毎ニ一箇ノ議決權ヲ有ス但シ社債ノ最低金額ノ十一倍以上ヲ有スル社債權者ノ議決權ハ信託契約ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得

第五十三條　第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者又ハ其ノ代表者ハ社債權者集會ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十四條　受託會社ノ代表者ハ社債權者集會カ第八十九條第二項ニ規定シタル事項ニ付招集セラレタル場合ヲ除クノ外之ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十五條　社債權者集會ヲ招集スル者ハ前二條ニ掲ケタル者又ハ其ノ代表者ニ招集ノ通知ヲ發スヘシ

商法第二百三十二條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ通知ニ之ヲ準用ス

第五十六條　社債權者集會又ハ之ヲ招集シタル者ニ於テ必要ト認ムルトキハ委託會社ニ通知シテ其ノ代表者ノ出席ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條　社債權者集會招集ノ手續又ハ其ノ議決ノ方法カ本法又ハ信託契約ノ條款ニ違反スルトキハ委託會社、受託會社又ハ各社債權者ハ其ノ決議ノ無效ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ決議ノ日ヨリ一箇月內ニ之ヲ爲スヘシ

社債權者カ第一項ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ債券ヲ供託シ且招集ヲ爲シタル者ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スヘシ

第五十八條　社債權者集會ニ於テ決議スヘキ事項ハ本法ニ規定アルモノノ外特ニ信託契約ニ定メタルモノニ限ル

第五十九條　社債權者集會ヲ招集シタル者ハ決議錄ヲ作成スヘシ

第六十條　受託會社ハ社債權者集會ノ決議錄ノ原本又ハ謄本ヲ本店及支店ニ備置クヘシ

受託會社ハ委託會社又ハ社債權者ノ請求アルトキハ營業時間內何時ニテモ前項ノ決議錄ヲ閱覽セシムヘシ

第六十一條　受託會社以外ノ者カ決議錄ヲ作成シタルトキハ自ラ其ノ原本ヲ保存シ其ノ謄本ヲ受託會社ニ交付スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ謄本ニ之ヲ準用ス

第六十二條　社債權者集會ノ費用ハ受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ於テ招集シタル場合ヲ除ク外集會ヲ招集シタル者ニ於テ之ヲ負擔ス

第六十三條　社債權者集會ノ決議ハ受託會社之ヲ執行ス但シ其ノ性質カ受託會社ニ於テ執行スルコトヲ許ササルトキハ集會ニ於テ之ヲ執行スヘキ者ヲ定ム

第六十四條　信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ社債權者集會ニ於テ一人又ハ數人ノ代表者ヲ選任シ其ノ決議スヘキ事項ノ決定ヲ之ニ委任スルコトヲ得

代表者ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者又ハ社債總額ノ千分ノ一以上ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ選任ス

代表者數人アル場合ニ於テ集會ニ於テ別段ノ定ヲ爲ササルトキハ代表者ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第六十五條　代表者ハ第六十三條但書ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシムルコトヲ得

第六十六條　代表者就任シタルトキハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社、受託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

第六十七條　社債權者集會ハ何時ニテモ代表者ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

第六十七條ノ二　社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テ或ル回ノミノ社債權者ニ利害ノ關係アリテ其ノ他ノ回ノ社債權者ニ損害ヲ及ホササル事項ハ其ノ回ノ社債權者ノ集會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ社債權者ノ集會ニハ社債權者集會ニ關スル規定ヲ準用ス

第六十七條ノ三　社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テ社債權者集會ノ決議カ或ル回ノミノ社債權者ニ損害ヲ及

ホスヘキトキハ其ノ回ノ社債權者ノ集會ノ決議アルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第七章　信託契約ノ效力

第六十八條　受託會社ハ公平且誠實ニ信託事務ヲ處理スヘシ

第六十九條　受託會社ハ委託會社及社債權者ニ對シテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ信託事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第七十條　信託契約ニ依ル物上擔保ハ信託證書ニ記載シタル總社債ノ爲ニ受託會社ニ歸屬ス

受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ擔保權ヲ保存シ且實行スルノ義務ヲ負フ

第七十一條　社債權者ハ其ノ債權額ニ應シ平等ニ擔保ノ利益ヲ享受ス

第七十二條　信託契約ニ依ル物上擔保ハ社債成立以前ニ於テモ其ノ效力ヲ生ス

第七十三條　民法第三百四十八條、第三百七十五條及商法第五百十五條ノ規定ハ信託契約ニ依ル擔保權ニ之ヲ適用セス

第七十四條　受託會社ハ委託會社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ追加スルコトヲ得

第七十五條　受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ委託會社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ變更スルコトヲ得

第七十六條　前二條ノ契約ハ信託契約ト同一ノ效力ヲ有ス

第七十七條　第七十四條及第七十五條ノ契約ハ委託會社及受託會社ノ代表者ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ公告シ委託會社及受託會社遲滯ナク各自之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第二十條、第二十一條及第三十一條ノ規定ハ前項ノ契約證書ニ之ヲ準用ス

第七十八條　信託契約ニ依ル擔保權ハ總社債權者ノ爲ニノミ之ヲ行使スルコトヲ得

第七十九條　委託會社カ定期ニ社債ノ一部ヲ償還スヘキ場合ニ於テ其ノ償還ヲ遲延シ二箇月ヲ經過シタルトキハ受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ一定ノ期間內ニ支拂ヲ爲スヘキ旨及其ノ期間內ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失ハシムル旨ヲ委託會社ニ催告スルコトヲ得

委託會社カ前項ノ期間內ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失フ

第一項ノ催告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第八十條　前條ニ依リ委託會社カ期限ノ利益ヲ失ヒタルトキハ受託會社ハ遲滯ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第八十一條　前二條ノ規定ハ委託會社カ社債ノ利息ノ支拂ヲ遲延シ三箇月ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十二條　社債カ期限ニ至リ辨濟セラレス又ハ委託會社カ社債ノ辨濟ヲ完了セスシテ解散シタルトキハ受託會社、遲滯ナク社債權者集會ノ決議ニ依リ擔保權ヲ實行スヘシ

民法第三百五十四條ノ規定ハ信託契約ニ依ル動產質ニ之ヲ適用セス

第八十三條　受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ付與セラレタル執

行力アル正本ニ基キ擔保物ニ付强制執行ヲ爲シ又ハ競賣法ニ依ル競賣ノ申立若ハ委任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ債權者ニ對スル異議ハ受託會社ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得

第八十四條　受託會社ハ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ社債權者ノ爲ニ債權ノ辨濟ヲ得ルニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第八十五條　受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ總社債ニ付支拂ヲ猶豫シ、不履行ニ因リテ生シタル責任ヲ免除シ又ハ和解ヲ爲スコトヲ得

第八十六條　受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ總社債權者ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲シ又ハ被告手續ニ屬スル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第八十七條　受託會社カ第八十二條、第八十五條又ハ前條ニ掲ケタル行爲ヲ完了シタルトキハ遲滯ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第二項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第八十八條　受託會社カ社債權者ノ爲ニ辨濟ヲ得タル金額ハ遲滯ナク債權額ニ應シテ各社債權者ニ交付スヘシ

受託會社カ前項ノ金額ヲ自己ノ爲ニ費消シタルトキハ民法第六百四十七條ノ規定ヲ準用ス

社債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ社債權者カ受領ヲ拒ミ若ハ受領スルコト能ハサルトキハ受託會社ハ其ノ社債權者ノ爲ニ前項ノ金額ヲ供託スヘシ

受託會社ハ必要アル場合ニ於テハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ第一項及第三項ノ行爲ヲ委任スルコトヲ得

第八十九條　受託會社カ總社債權者ノ爲ニ爲スヘキ行爲ヲ怠リタルトキハ主務官廳ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ特別代理人ヲ選任シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

社債權者ト受託會社トノ利益相反スル場合ニ於テ總社債權者ノ爲ニ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス必要アルトキ亦前項ニ同シ

第九十條　本法ニ依リ總社債權者ニ代リテ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス場合ニ於テハ各別ニ社債權者ヲ表示スルコトヲ要セス

第九十一條　受託會社ハ委託會社ニ對シ信託事務ノ處理ニ付相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ民法第六百四十八條第二項及第三項ノ規定ハ信託契約ニ之ヲ準用ス

第九十二條　委託會社ハ受託會社カ信託事務ヲ處理スルニ付正當ニ支出シタル一切ノ費用及支出ノ日以後ニ於ケル其ノ利息ヲ償還シ及過失ナクシテ受ケタル一切ノ損害ヲ賠償スル義務ヲ負フ

受託會社ハ信託事務ヲ處理スルニ付要スル費用ノ前拂ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ關シ之ヲ準用ス

第九十三條　信託契約ニ依ル物上擔保ハ前條第一項ノ規定ニ依リ受託會社ニ生スヘキ債權ノ爲ニモ其ノ效力ヲ有ス

受託會社ハ前項ノ債權ニ付社債權者ニ優先シテ擔保物ニ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第九十四條　受託會社カ故意若ハ過失ニ因リ物上擔保ヲ消滅セシメ又ハ其ノ價格ヲ減少セシメタルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲシテ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ委託會社カ供託金ノ上ニ質權ヲ設定シタルモノト看做ス

前項ノ質權ハ信託契約ニ依ル物上擔保ト看做ス

第九十五條　委託會社、第六十四條第一項ニ依リ選任セラレタル代表者又ハ社債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債權者ハ何時ニテモ受託會社ニ於ケル擔保物保管ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ其ノ債券ヲ受託會社ニ供託スルニ非サレハ前項ノ檢査ヲ爲スコトヲ得ス

第九十六條　民法第二百九十八條第三項ノ規定ハ信託契約ニ依ル質權ニ之ヲ準用セス

第八章　信託事務ノ承繼及終了

第九十七條　受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ又ハ委託會社及社債權者集會ノ同意アルトキハ信託事務ヲ承繼スヘキ會社ヲ定メテ辭任スルコトヲ得

信託事務ヲ承繼スヘキ會社カ外國會社ナルトキハ第十七條第一項ノ規定ヲ準用ス

第九十八條　受託會社ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ辭任スルコトヲ得

第九十九條　受託會社カ其ノ義務ニ違反シ又ハ信託事務ヲ處理スルニ不適任ナルトキ其ノ他正當ノ事由アルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲ解任スルコトヲ得

第百條　前二條ノ規定ニ依リ受託會社カ辭任シ若ハ解任セラレタルトキ又ハ免許ヲ取消サレ若ハ解散シタルトキハ主務官廳ハ更ニ受託會社ヲ選任シテ信託事務ヲ承繼セシムヘシ

第百一條　第九十七條ニ依ル信託事務ノ承繼ハ委託會社、前受託會社及新受託會社ノ代表者ノ署名シタル契約書ヲ作成スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

前項ノ契約ヲ締結シタルトキハ各會社ハ遲滯ナク書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ屆出ヘシ

前條ニ依ル承繼ハ新受託會社ニ對スル主務官廳ノ命令書ヲ交付スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第百二條　信託事務ノ承繼ハ第九十七條ニ依ル場合ニ於テハ委託會社、前受託會社及新受託會社、第百條ニ依ル場合ニ於テハ委託會社及新受託會社遲滯ナク各自之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第百三條　第九十七條ニ依リ定メラレ又ハ第百條ニ依リ選任セラレタル新受託會社ハ前受託會社ノ締約シタル條款ニ從ヒ信託事務ヲ處理スヘシ

社債權者又ハ委託會社ノ爲ニ前受託會社ニ歸屬シタル權利義務ハ前受託會社ノ辭任、解任、免許ノ取消又ハ解散ノ時ニ遡リテ新受託會社ニ移轉ス但シ前受託會社ノ契約違反又ハ不法行爲ニ因リテ生シタル責任ハ此ノ限ニ在ラス

第百四條　前受託會社ノ不法處分ニ因リ賀物ノ占有ヲ得タル者カ惡意ナリシトキハ新受託會社カ其ノ者ノ爲ニ占有ヲ奪ハレタルモノト看做ス

第百五條　前受託會社ノ取締役、之ヲ代表スル社員、清算人

又ハ破產管財人ハ遲滯ナク其ノ委託會社又ハ社債權者ノ爲ニ保管スル物及信託事務ニ關スル書類ヲ新受託會社ニ移付シ其ノ他信託事務ヲ新受託會社ニ引繼ク爲必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スヘシ

前項ニ揭ケタル引繼ヲ完了シタルトキハ各會社ハ共同シテ書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ屆出ヘシ

前項ノ屆書ニハ移付シタル物ノ目錄ヲ添附スヘシ

第百六條　承繼ニ關スル事務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第十六條第二項ノ規定ハ前項ノ監督ニ之ヲ準用ス

第百七條　受託會社カ信託事務ヲ終了シタルトキハ總計算書ヲ作成シテ之ヲ公告スヘシ

第九章　罰則

第百八條　第五條ノ規定ニ違反シテ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム者ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

第百九條　左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、清算人、破產管財人、第八十九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一　第六條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　第八條ノ規定ニ違反シタルトキ

三　本法ニ依ル主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ

四　本法ニ依ル主務官廳ノ檢査ヲ妨ケタルトキ

五　第十七條第一項又ハ第九十七條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

六　本法ニ依リ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

七　委託會社ニ於テ債券ヲ發行シタル場合ニ於テ第三十六條ニ定メタル手續ヲ履行セスシテ之ヲ交付シタルトキ

八　第七十條第二項ニ依ル擔保權ノ保存又ハ實行ヲ怠リタルトキ

九　第八十八條第一項又ハ同條第三項ノ規定ニ違反シタルトキ

十　第九十五條第一項ニ依ル檢査ヲ妨ケタルトキ

十一　第百五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ

十二　社債權者集會ノ決議ニ依ルヘキ場合ニ於テ之ニ依ラス又ハ之ニ違反シタルトキ

十三　社債權者集會又ハ其ノ代表者ニ對シテ不實ノ報告ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

十四　第百十九條ノ二ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

第百十條　左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、清算人、破產管財人、第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者、第六十四條ノ代表者、第八十九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一　本法ニ定メタル屆出、公告若ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲シタルトキ

二　本法ニ依リ交付スヘキ書類ヲ交付セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

三　本法ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ理由ナクシテ閱覽セシメサリシトキ

四　本法ニ依リ備置クヘキ書類ヲ備置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

第百十一條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附則

第百十二條　本法ニ依リ署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

第百十三條　擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム合名會社及合資會社ノ設立登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ非訟事件手續法第百七十九條第二項ニ揭ケタル書面ノ外主務官廳ノ免許書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ

既設ノ會社カ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム免許ヲ受ケタルニ因リ其ノ登記ヲ申請スルトキ亦前項ニ同シ

第百十四條　信託會社ノ登記スヘキ事項ニシテ主務官廳ノ免許ヲ要スルモノニ付テハ免許書ノ到達ノ日ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第百十五條　主務官廳カ第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ依リ事業ノ停止ヲ命シ又ハ免許ヲ取消シタルトキハ登記所ハ主務官廳ノ囑託ニ因リテ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第百十六條　本法ニ依ル社債ノ登記ノ申請書ニハ非訟事件手續法第百九十一條ニ揭ケタル書面ノ外信託證書及第十九條ノ四第一項ノ契約證書アルトキハ其ノ證書ヲ添附スヘシ

第百十七條　本法ニ依ル社債ノ登記事項ニ變更ヲ生シタルトキハ委託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ハ遲滯ナク其ノ登記ヲ申請スヘシ

前項ノ登記ノ申請書ニハ其ノ變更ヲ證スル書類ヲ添附スヘシ

第百十八條　信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登記ニ付テハ受託會社ヲ登記權利者トス

第百十九條　信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ不動產登記法第百十六條又ハ第百十七條ニ依ル債權額ノ記載ハ社債ノ總額ヲ表示スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テ社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スルトキハ不動產登記法第百十六條又ハ第百十七條ノ規定ニ拘ラス申請書ニハ社債ノ總額、社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示及社債ノ利率ノ最高限度ノミヲ記載スヘシ

第百十九條ノ二　信託契約ニ依ル物上擔保附社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テ社債ヲ發行シタルトキハ其ノ回ノ發行金額ニ付引受又ハ募集ノ完了シタル日ヨリ二週間內ニ其ノ回ノ發行金額及其ノ回ノ社債ニ關スル第十九條第五號乃至第七號ニ揭ケタル事項ヲ登記スヘシ

商法第三百五條第四項ノ規定ハ前項ニ規定スル登記ノ期間ニ之ヲ準用ス

第一項ノ登記ハ其ノ社債ヲ擔保スル權利ノ登記ニ附記シテ之ヲ爲ス

第百二十條　本法施行ノ期日ハ勅命ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十八年勅令第百八十五號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

附則（昭和八年法律第四十四號附則）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和八年勅令第百十四號ヲ以テ同年五月二十日ヨリ施行）

鐵道抵當法第三十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三十條ノ二（本文訂正）

鐵道抵當法第九十二條第四號中（本文訂正）

登錄稅法第十六條ノ四ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十六條ノ五（略）

附　則（昭和十三年法律第八十三號附則）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○有價證券引受業法（昭和十三年三月三十一日法律第五十四號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル有價證券引受業法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

有價證券引受業法

第一條　本法ニ於テ有價證券引受業トハ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス營業ヲ謂フ

前項ノ有價證券ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　有價證券引受業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

第三條　有價證券引受業ハ資本金二百萬圓以上ノ株式會社ニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

第四條　第二條ノ免許ヲ受ケタル者（以下證券引受會社ト稱ス）ハ有價證券引受業ニ附隨スル業務又ハ有價證券ノ賣買若ハ其ノ媒介ノ外他ノ業務ヲ營ムコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ許可ヲ受クルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五條　證券引受會社ハ他ノ法律ノ制限ニ拘ラズ社債募集ノ委託ヲ受ケ又ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ナキニ至リタル場合ノ事務承繼者ト爲ルコトヲ得

第六條　證券引受會社ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

一　商號ヲ變更セントスルトキ

二　資本金ヲ變更セントスルトキ

三　支店其ノ他ノ營業所又ハ代理店ヲ設置セントスルトキ

四　本店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ變更セントスルトキ

第七條　證券引受會社ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第八條　證券引受會社ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツベシ

第九條　證券引受會社ノ營業年度ハ六月ヨリ十一月迄及十二月ヨリ五月迄トス

第十條　證券引受會社ハ營業年度毎ニ業務報告書ヲ作成シテ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第十一條　證券引受會社ハ營業年度毎ニ主務大臣ノ定ムル樣式ニ依リ貸借對照表ヲ作成シ新聞紙ニ依リ之ヲ公告スベシ

第十二條　主務大臣ハ何時ニテモ證券引受會社ヲシテ其ノ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ其ノ帳簿書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第十三條　主務大臣ハ何時ニテモ部下ノ官吏ニ命ジテ證券引受會社ノ業務及財產ノ狀況ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十四條　主務大臣ハ證券引受會社ノ業務又ハ財產ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ業務ノ停止ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十五條　證券引受會社ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ取締役、監査役ノ改任ヲ命ジ又ハ營業ノ

免許ヲ取消スコトヲ得

第十六條　主務大臣ハ業務ノ停止ヲ命ゼラレタル證券引受會社ニ對シ其ノ整理ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十七條　主務大臣ノ免許ヲ受ケズシテ有價證券引受業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役又ハ支配人ヲ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十條ノ規定ニ違反シ業務報告書ヲ提出セズ又ハ虛僞ノ業務報告書ヲ提出シタルトキ

二　第十一條ノ規定ニ違反シ公告ヲ爲サズ又ハ虛僞ノ公告ヲ爲シタルトキ

三　第十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ報告ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ報告ヲ爲シ又ハ帳簿書類ヲ提出セザルトキ

四　第十三條ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタルトキ

第十九條　左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役又ハ支配人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　第四條、第六條又ハ第八條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　第十條ノ規定ニ依ル業務報告書ノ提出又ハ第十一條ノ規定ニ依ル公告ヲ怠リタルトキ

三　本法ニ基キテ爲ス命令ニ違反シタルトキ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ニ定ムル過料ニ之ヲ準用ス

第二十條　銀行、信託會社又ハ特別ノ法律ニ依リ設立セラレタル法人ニシテ有價證券引受業ヲ營ム者ニハ本法ヲ適用セズ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十三年勅令第四百五十九號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

本法施行ノ際現ニ有價證券引受業ヲ營ム者又ハ其ノ營業ヲ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ三月ヲ限リ第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ營業ヲ爲スコトヲ得

前項ニ揭グル者前項ノ期間內ニ第二條ノ免許ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル免許又ハ不免許ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

本法施行ノ際迄一年以上引續キ有價證券引受業ヲ營ム者第二項ノ期間內ニ免許ヲ申請スルトキハ本法施行後二年ヲ限リ第三條及第四條ノ規定ヲ適用セズ

○有價證券引受業法第一條第二項ノ規定ニ依リ有價證券ノ種類ヲ定ムルノ件

（昭和十三年六月二十九日勅令第四百六十號）

朕有價證券引受業法第一條第二項ノ規定ニ依リ有價證券ノ種類ヲ定ムルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

有價證券引受業法第一條第二項ノ規定ニ依リ有價證券ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　國債證券

二　地方債證券

三　特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ノ發行スル債券
四　前號ニ屬セザル社債券
五　外國又ハ外國法人ノ發行スル證券ニシテ前各號ノ證券ノ性質ヲ有スルモノ

附　則

本令ハ有價證券引受業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○有價證券業取締法（昭和十三年三月二十九日法律第三十二號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル有價證券業取締法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

有價證券業取締法

第一條　本法ニ於テ有價證券業トハ取引所ニ依ラザル有價證券ノ賣買又ハ其ノ媒介ヲ爲ス營業ヲ謂フ但シ銀行、信託會社及有價證券割賦販賣業者ノ營ムモノハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ有價證券ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　有價證券業ヲ營マントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ免許ヲ受クベシ

第三條　前條ノ免許ノ年限ハ五年トス

第四條　第二條ノ免許ヲ受クル者ハ免許料ヲ納ムベシ
前項ノ免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ第二條ノ免許ヲ受クルコトヲ得ズ
一　破產者ニシテ復權ヲ得ザルモノ
二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後三年ヲ經過スルニ至ル迄ノ者
三　取引所ノ會員又ハ取引員ニシテ除名セラレ除名ノ日ヨリ三年ヲ經過セザルモノ
四　第六條第二項又ハ第十四條ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレ取消ノ日ヨリ三年ヲ經過セザル者
五　營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者又ハ禁治產者ニシテ其ノ法定代理人ガ前各號ノ一ニ該當スルモノ
六　法人ニシテ其ノ業務ヲ執行スル役員中第一號乃至第四號ノ一ニ該當スル者アルモノ

第六條　第二條ノ免許ヲ受ケタル者（有價證券業者）前條第一號乃至第三號、第五號又ハ第六號ニ該當スルニ至リタルトキハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ
主務大臣ハ不正ノ手段ニ依リ第二條ノ免許ヲ受ケタル者アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第七條　有價證券業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ營業保證金ヲ供託スベシ
前項ノ營業保證金ハ主務大臣ノ認許シタル有價證券ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第八條　有價證券業者ト其ノ業務ニ關シ取引ヲ爲シタル者ハ其ノ取引ニ關シ生ジタル債權ニ關シ前條ノ營業保證金ニ付他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第九條　有價證券業者ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ
一　商號ヲ變更セントスルトキ
二　支店其ノ他ノ營業所又ハ代理店ヲ設置セントスルトキ
三　本店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ變更セントスルトキ

第十條　有價證券業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ營業ニ關スル帳簿ヲ備ヘ必要ナル事項ヲ之ニ記載スベシ

第十一條　有價證券業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ業務報告書ヲ作成シテ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第十二條　行政官廳必要アリト認ムルトキハ有價證券業者ニ對シ其ノ業務若ハ財產ニ關スル報告ヲ命ジ又ハ當該官吏ヲシテ有價證券業者ノ營業所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財產ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十三條　行政官廳ハ有價證券業者ノ業務又ハ財產ノ狀況ニ依リ之ト取引ヲ爲ス者ノ利益ヲ保護スル爲必要アリト認ムルトキハ業務ヲ停止シ又ハ制限シ、財產ノ供託ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十四條　有價證券業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ主務大臣ハ第二條ノ免許ヲ取消シ又ハ業務ヲ停止シ若ハ制限スルコトヲ得
一　業務ニ關シ詐僞ノ行爲ヲ以テ他人ヨリ金錢若ハ有價證券ノ交付ヲ受ケタルトキ又ハ業務ニ關シ他人ニ交付スベキ金錢若ハ有價證券ヲ不正ニ領得シタルトキ
二　業務ニ關シ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ヲ爲シタルトキ
三　本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキ

第十五條　第二條ノ規定ニ違反シ免許ヲ受ケズシテ有價證券業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　有價證券業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
一　第九條ノ規定ニ依リ認可ヲ受クベキ事項ヲ認可ヲ受ケズシテ爲シタルトキ
二　第十條ノ規定ニ依ル帳簿ヲ備ヘズ又ハ之ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタルトキ
三　第十一條ノ規定ニ依ル業務報告書ノ提出ヲ爲サズ又ハ之ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタルトキ
四　第十二條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタルトキ又ハ同條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキ
五　第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

第十七條　法人又ハ人ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十八條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條　前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十三年勅令第四百五十七號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

本法施行ノ際現ニ有價證券業ヲ營ム者又ハ其ノ營業ヲ相續ニ因リテ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ六月ヲ限リ第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得

前項ノ者前項ノ期間內ニ第二條ノ免許ヲ申請シタル場合ニ於

テ其ノ申請ニ對スル免許又ハ不免許ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

○有價證券業取締法ニ依ル有價證券ノ種類及免許料ノ件（昭和十三年六月二十九日勅令第四百五十八號）

朕有價證券業取締法ニ依ル有價證券ノ種類及免許料ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　有價證券業取締法第一條ノ有價證券ノ種類ハ左ニ掲グルモノトス

一　國債證券
二　地方債證券
三　社債券
四　產業債券
五　商工債券
六　恩給債券
七　庶民債券
八　株券
九　外國又ハ外國法人ノ發行スル證券ニシテ前各號ノ證券ノ性質ヲ有スルモノ

第二條　有價證券業取締法第四條ノ免許料ハ五十圓トス

前項ノ免許料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムベシ

附則

本令ハ有價證券業取締法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○取引所法（明治二十六年三月四日法律第五號）

敬正　明治三二年第五八號、大正三年第三三號、大正一一年第六〇號、昭和四年第二九號、昭和一四年第六八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル取引所法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

取引所法

第一章　取引所ノ設立

第一條　賣買取引ノ繁盛ナル地區內ノ商人ハ政府ノ免許ヲ受ケテ一種若ハ數種ノ物件ノ取引所ヲ設立スルコトヲ得

第二條　同種ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ハ一地區一箇所ニ限リ設立スルコトヲ得但シ其ノ地區ハ〔農商務大臣〕之ヲ定ム

第三條　取引所ノ免許年限ハ十箇年トス但シ土地商業ノ情況ニ依リ更ニ繼續ノ出願ヲ爲スコトヲ得

第四條　株式會社組織ノ取引所ハ他ノ株式會社組織ノ取引所ヲ合併スル場合ニ限リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ存在シタル地區內ニ支所ヲ設クルコトヲ得支所ノ數ハ其ノ合併ニ依リ消滅スル取引所及支所ノ數ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條ノ二　有價證券ヲ賣買取引スル市場ハ取引所ト看做シ本法ニ依ルニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第二章　取引所ノ組織

第五條　取引所ハ土地商業ノ情況及賣買取引スヘキ物件ノ種類ニ依リ會員組織又ハ株式會社組織ト爲スコトヲ得

第六條　會員組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ會員ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得

株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ取引員ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得

第七條　取引所ハ法人トシテ財產ヲ所有シ及之ヲ處分スルコトヲ得

取引所ノ責任ハ其ノ財產ニ限ルモノトス

第八條　取引所ハ政府ノ認可ヲ受ケ取引所ノ賣買取引ニ附帶スル業務ヲ營ムコトヲ得

第二十二條ノ規定ニ依リ賠償ノ責ニ任スル株式會社組織ノ取引所ハ倉庫業ヲ除クノ外前項ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス但シ物件又ハ銘柄ノ一部ニ付賠償ノ責ニ任セサル場合ニ於テ其ノ一部ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條　取引所ノ定款ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三章　取引所ノ會員及取引員

第十條　取引所ノ取引員トナラムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ

第十一條　帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル會社ニ非サレハ取引所ノ會員又ハ取引員トナルコトヲ得ス

無能力者、復權セサル家資分散者及破產者並本法ニ依リ除名セラレ除名ノ日ヨリ五箇年ヲ經過セサル者ハ會員トナルコトヲ得ス

懲役若ハ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ刑法第二編第十六章乃至第十九章第二十三章第三十五章乃至第三十九章、舊刑法第二編第四章第一節乃至第五節第二百六十條乃至第二百六十二條第八章第九章第三節第三編第二章第一節第二節第四節乃至第六節、通貨及證券模造取締法、明治三十八年法律第六十六號、紙幣類似證券取締法、印紙犯罪處罰法、商法第四百八十六條乃至第四百九十七條、商法中改正法律施行法第一條ニ於テ謂フ舊法第二百六十一條、明治二十三年法律第三十二號商法第三編第九章、同年法律第百一號、有限會社法第七十七條乃至第八十四條、保險業法第九十八條ノ三若ハ本法第三十一條乃至第三十二條ノ五ノ規定ニ依リ刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ刑ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ五箇年ヲ經過セサル者ハ取引員トナルコトヲ得ス前項ニ該當スル者亦同シ

合名會社、合資會社又ハ株式合資會社ニ在リテハ其ノ無限責任社員ノ全員カ帝國臣民タルモノ、株式會社又ハ有限會社ニ在リテハ其ノ資本ノ半額以上及議決權ノ過半數カ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬シ其ノ取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ノ全員カ帝國臣民タルモノニ非サレハ會員又ハ取引員トナルコトヲ得ス無限責任社員又ハ取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員中前二項ニ該當スル者アル場合亦同シ

第十一條ノ二　會員前條第一項、第二項又ハ第四項ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ取引所ヨリ脫退ス

〔農商務大臣〕ハ不正ノ手段ニ依リ會員トナリタル者又ハ前條第一項、第二項若ハ第四項ニ該當スル者ニシテ會員トナリタル者アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ除名シ又ハ其ノ取引所ヨリ脫退セシムルコトヲ得

取引員前條第一項、第三項又ハ第四項ニ該當スルニ至リタルトキハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

〔農商務大臣〕ハ不正ノ手段ニ依リ取引員タルノ免許ヲ受ケタル者又ハ前條第一項、第三項若ハ第四項ニ該當スル者ニシテ免許ヲ受ケタル者アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ除名シ又ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十一條ノ三　取引員取引所ノ役員タル認可ヲ受ケタルトキハ其ノ免許ハ效力ヲ失フ

第十一條ノ四　會員又ハ取引員ハ第二項但書ノ場合ヲ除クノ外支店、出張所其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス二以上ノ場所ヲ以テ同一取引所ノ賣買取引ノ取扱ヲ爲ス場所ト爲スコトヲ得ス

何人ト雖取引所ノ賣買取引ノ委託ノ代理、媒介又ハ取次ヲ營業ト爲スコトヲ得ス但シ會員又ハ取引員ニシテ〔農商務大臣〕ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　會員又ハ取引員ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトヲ問ハス取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第十三條　取引員ハ其ノ免許ヲ受クルトキ免許料ヲ納ムヘシ

免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　會員又ハ取引員ハ身元保證金ヲ其ノ取引所ニ納ムヘシ

第十五條　取引所ハ其ノ秩序ヲ保持スルカ爲定款ノ規定ニ依リ會員又ハ取引員ノ營業ヲ停止シ千圓以内ノ過怠金ヲ課シ且政府ノ認可ヲ受ケ會員又ハ取引員ヲ除名スルコトヲ得

第十五條ノ二　取引所ハ其ノ定款ヲ以テ會員若ハ取引員トナルニ必要ナル條件ヲ定メ又ハ其ノ員數ヲ制限スルコトヲ得

第十一條ノ二ノ規定ハ會員若ハ取引員カ前項ノ要件ヲ缺クニ至リタル場合又ハ之ヲ缺ク者ニシテ會員若ハ取引員トナリタル者アルコトヲ發見シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條ノ三　取引員ハ廢業後ト雖其ノ取引所ニ於ケル取引ノ結了及監督ノ目的ノ範圍内ニ於テハ取引結了後二週間ヲ經過スル迄仍廢業セサルモノト看做ス

取引員死亡シ、解散シ若ハ除名セラレ又ハ其ノ免許カ取消サレ若ハ效力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ其ノ取引所ニ於ケル取引ノ結了ニ至ル迄亦前項ニ同シ

前項ノ規定ハ會員ノ死亡、解散、除名及脫退ノ場合ニ之ヲ準用ス

前三項ノ場合ニ於テ會員又ハ取引員ノ行爲ヲ爲ス者ナキトキハ取引所ハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ他人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

第四章　取引所ノ役員及商議員會

第十六條　取引所ノ役員ハ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ株主中ヨリ二箇年以内ノ任期ヲ以テ之ヲ選擧シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

取引所ノ役員左ノ如シ

理事長　一人
理事　二人以上
監査役　若干人

理事長及理事ハ會員ニ非サル者ヲ選擧スルモ妨ケナシ

第十一條第三項ニ該當スル者ハ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス

取引員トノ間ニ賚金ノ供與、損益ノ分配其ノ他取引員ノ營業ニ付特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其ノ取引所又ハ之ト同種ノ物件ヲ取引スル株式會社組織ノ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス

第十六條ノ二　役員前條第四項ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ取引員ノ免許ヲ受ケタルトキハ其ノ職ヲ失フ理事長又ハ理事他ノ取引所ノ理事長又ハ理事タル認可ヲ受ケタルトキ亦同シ

〔農商務大臣〕ハ不正ノ手段ニ依リ役員タルノ認可ヲ受ケタル者若ハ前條ノ規定ニ違反シテ役員トナリタル者アルコトヲ發見シ又ハ役員ニシテ第十七條第二項ノ規定ニ違反スル者アリト認メタルトキハ之ヲ解職スルコトヲ得

第十六條ノ三　〔農商務大臣〕ハ役員ノ職務ヲ行フ者ナキ場合

ニ於テ必要ト認ムルトキハ假ニ役員ヲ選任スルコトヲ得

第十七條　株式會社組織ノ取引所ノ役員又ハ使用人ハ何人ノ名ヲ以テスルヲ問ハス其ノ取引所ノ取引物件ニ付取引所ニ於ケル賣買取引ヲ爲シ又ハ其ノ委託ヲ爲スコトヲ得ス

株式會社組織ノ取引所ノ役員又ハ使用人ハ其ノ取引所又ハ之ト同種ノ物件ヲ取引スル取引所ノ取引員トノ間ニ賚金ノ供與、損益ノ分配其ノ他取引員ノ營業ニ付特別ノ利害關係ヲ有スルコトヲ得ス

第十七條ノ二　取引所ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ商議員會ヲ置キ取引所ニ關スル重要ナル事項ヲ付議スヘシ

第五章　取引所ノ賣買取引

第十八條　取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ三箇月、米ニ在リテハ三箇月、蠶絲ニ在リテハ六箇月、其ノ他ノ商品ニ在リテハ勅令ノ定ムル期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十九條　取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシムルコトヲ得

第二十一條　取引所ハ賣買取引ノ責任ヲ履行セサル者アルトキハ其ノ證據金及身元保證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ供スルコトヲ得

第二十二條　取引所ハ〔農商務大臣〕ノ認可ヲ受ケ賣買取引ノ違約ヨリ生スル損害ニ付賠償ノ責ニ任スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ取引所ハ其ノ賠償シタル金額及之ニ關スル諸費ノ追償ヲ其ノ違約者ニ要求スルコトヲ得

第二十二條ノ二　株式會社組織ノ取引所ハ前條ノ規定ニ依リ賠償ノ責ニ任スルトキハ營業保證金ヲ政府ニ納ムヘシ

第二十三條　取引所ハ賣買取引高ニ應シ賣買雙方ヨリ手數料ヲ徵收スルコトヲ得其ノ率ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條　取引所ハ證據金及身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

第二十四條ノ二　取引所ノ賣買取引ノ委託者ハ會員又ハ取引員カ委託契約ニ違ヒタル場合ニ於テ其ノ違約ニ因ル債權ニ關シ違約シタル會員又ハ取引員ノ身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

前條ノ優先權ハ前項ノ優先權ニ對シ優先ノ效力ヲ有ス

第二十五條　會員又ハ取引員ハ委託ヲ受ケタル取引所ノ賣買取引ニ付取引所ニ於テ其ノ賣付、買付又ハ受渡ヲ爲サスシテ之ヲ爲シタルト同一又ハ類似ノ計算ヲ以テ委託者ニ對シ其ノ決濟ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタル會員又ハ取引員ハ取引所之ニ一箇月以上ノ營業停止ヲ命シ又ハ之ヲ除名スヘシ

第二十六條　取引所ハ命令ノ定ムル所ニ依リ公定相場ヲ決定シ之ヲ公示スヘシ

取引所ハ命令ノ定ムル所ニ依リ各會員又ハ各取引員ノ賣買高ヲ公示スヘシ

第二十六條ノ二　差金取引ヲ爲ス取引所類似施設ヲ爲シ又ハ其ノ施設ニ依リテ取引ヲ爲スコトヲ得ス

第六章　取引所ノ監督

第二十七條　〔農商務大臣〕ハ取引所ノ行爲法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　取引所ノ解散
二　取引所ノ停止
三　取引所一部ノ停止若ハ禁止
四　役員ノ解職
五　會員又ハ取引員ノ營業停止若ハ除名

第二十八條　〔農商務大臣〕ハ必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ取引所ノ業務、帳簿、財産其ノ他一切ノ物件及會員又ハ取引員ノ帳簿ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取引所ノ役員會員及取引員ハ其ノ物件ヲ提供シ質問ニ應答スヘシ

第二十九條　〔農商務大臣〕ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ定款ヲ改正セシメ又ハ其ノ決議及處分ヲ停止シ、禁止シ若ハ取消スコトヲ得

第三十條　取引所任意ノ解散ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第七章　罰則

第三十一條　第十七條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第二項ノ特別ノ利害關係ヲ生スルコトヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條　第十一條ノ四ノ規定ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條ノ二　取引所ノ役員又ハ取引所ニ於ケル受渡物件ノ格付ヲ爲ス者其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第三十二條ノ三　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　取引所ノ役員又ハ取引所ニ於ケル受渡物件ノ格付ヲ爲ス者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者
二　取引所ニ於ケル相場ヲ僞リテ公示シタル者
三　公示若ハ頒布ノ目的ヲ以テ虛僞ノ相場ヲ記載シタル文書ヲ作製シタル者又ハ之ヲ頒布シタル者
四　免許ヲ受ケスシテ取引所ヲ設立シタル者又ハ第二十六條ノ二ノ規定ニ違反シタル者

前項第一號ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十二條ノ四　取引所ニ於ケル相場ノ變動ヲ圖ル目的ヲ以テ虛僞ノ風說ヲ流布シ、僞計ヲ用ヒ又ハ暴行若ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條ノ五　取引所ニ依ラスシテ取引所ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第百八十六條ノ適用ヲ妨ケス

第三十二條ノ六　會員又ハ取引員ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ第十一條ノ四ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得

第三十二條ノ七　本法ノ罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ行爲ヲ爲シタル理事、取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用ス

附　則

第三十三條　取引所ノ稅則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手數料及積立金ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條　本法ハ明治二十六年十月一日ヨリ施行ス

明治九年布告第百五號米商會所條例、明治十一年布告第八號株式取引所條例、明治二十年勅令第十一號取引所條例、明治十三年布告第二十一號、明治十五年布告第四十六號、明治十六年布告第四號及同年布告第二十九號ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十六條　本法發布以前ヨリ營業スル米商會所、株式取引所ハ本法ニ依リ更ニ免許ヲ受ケ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ二箇月以前ニ於テ出願ノ手續ヲ爲ササルモノハ此ノ限ニ在ラス

附　則（昭和四年法律第二十九號附則）

本法ハ昭和四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ニ爲シタル取引所ニ於ケル賣買取引ハ其ノ賣買取引カ完了スルニ至ル迄舊法ノ規定ヲ適用ス

○保險業法（昭和十四年三月二十九日 法律第四十一號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル保險業法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

保險業法

第一章　總則

第一條　保險事業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

前項ノ免許ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一　定款

二　事業方法書

三　普通保險約款

四　保險料及責任準備金算出方法書

五　財産利用方法書

第二條　主務大臣必要アリト認ムルトキハ前條ノ免許ヲ申請シタル者ヲシテ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得

前項ノ供託金ハ主務大臣ノ認許シタル有價證券ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第三條　保險事業ハ資本又ハ基金ノ總額十萬圓以上ノ株式會社又ハ相互會社ニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

第四條　保險會社ハ其ノ商號又ハ名稱中ニ其ノ營ム主タル保險事業ノ種類ヲ示スコトヲ要ス

保險會社ニ非ザルモノハ其ノ商號又ハ名稱中ニ保險事業者タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第五條　保險會社ハ他ノ事業ヲ營ムコトヲ得ズ

第六條　保險會社ノ常務ニ從事スル取締役若ハ監査役又ハ支配人ガ他ノ會社ノ常務ニ從事セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第七條　保險會社ハ生命保險事業ト損害保險事業トヲ併セ營ムコトヲ得ズ但シ生命保險事業ヲ營ム會社ハ生命保險ノ再保險事業ヲ營ムコトヲ得

第八條　主務大臣ハ何時ニテモ保險會社ヲシテ其ノ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ當該官吏ヲシテ保險會社ノ營業所、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財産ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムルコトヲ要ス

第九條　主務大臣保險會社ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ業務執行ノ方法ノ變更又ハ財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條　保險會社ガ第一條第二項ニ掲グル書類ニ定メタル事項ノ變更ヲ爲スニハ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

主務大臣保險會社ノ業務若ハ財産ノ狀況ニ依リ又ハ事情ノ變更ニ依リ必要アリト認ムルトキハ前項ノ事項ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

主務大臣保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルベキ者ノ利益ヲ保護スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ第一項ノ變更認可ノ際現ニ存スル保險契約ニ付テモ亦將來ニ向テ其ノ變更ノ效力ノ及ブモノト爲スコトヲ得

前項ノ處分アリタルトキハ保險會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨及變更ノ要旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第十一條　保險會社命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ事業ニ關シ統制協定ヲ爲シタルトキハ之ヲ主務大臣ニ屆出ヅルコトヲ要ス之ヲ變更又ハ廢止シタルトキ亦同ジ

主務大臣前項ノ統制協定ガ公益ニ反シ又ハ保險事業ノ健全ナル發達ヲ害スト認ムルトキハ其ノ變更又ハ取消ヲ命ズルコトヲ得

主務大臣保險事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ保險會社ニ對シ第一項ノ統制協定ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ同項ノ統制協定ノ加盟會社若ハ非加盟會社ニ對シ其ノ統制協定ノ全部若ハ一部ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十二條　保險會社ガ法令、主務大臣ノ命令若ハ第一條第二項ニ掲グル書類ニ定メタル特ニ重要ナル事項ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ取締役若ハ監査役ノ解任若ハ事業ノ停止ヲ命ジ又ハ事業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二章　株式會社

第十三條　保險事業ヲ營ム株式會社ノ定款ニハ商法第百六十六條第一項ニ掲グル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　保險ノ種類及營業ノ範圍

二　設立費用ノ償却ノ方法

第十四條　株式申込證ニハ前條及商法第百七十五條第二項ニ掲グル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第十五條　會社ハ第十三條及商法第百八十八條第二項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第十六條　會社ハ設立費用及營業費ノ全額ヲ償却シタル後ニ非ザレバ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ズ

商法第二百九十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條　會社ガ資本減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間內ニ決議ノ要旨及貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十八條、第百十二條第二項第三項、第百二十條及第百二十八條第三項ノ規定ハ資本減少ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　會社ガ資本減少又ハ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第百條第一項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スコトヲ得資本減少又ハ合併ニ依ル株式併合ノ場合ニ於テ商法第三百七十七條第一項但書ノ期間ニ付亦同ジ

第十九條　保險事業ヲ營ム株式會社ハ其ノ組織ヲ變更シテ之ヲ相互會社ト爲スコトヲ得

前項ノ相互會社ノ基金ハ第三條ノ規定ニ拘ラズ其ノ總額十萬圓ヲ下リ又ハ之ヲ設ケザルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テハ損失ノ塡補ニ備フル爲主務大臣ノ必要ト認ムル額ノ準備金ヲ設クルコトヲ要ス

第二十條　組織變更ハ株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ商法第三百四十三條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十一條　會社ガ組織變更ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間內ニ決議ノ要旨及貸借對照表ヲ公告シ且株主名簿ニ記載アル質權者ニハ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第百十二條第二項及第三項竝ニ商法第九十九條及第百條ノ

規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ商法第百條第一項但書中二月トアルハ之ヲ一月トス

第二十二條　會社ガ前條第一項ノ公告ヲ爲シタル日以後保險契約ヲ爲サントスルトキハ保險契約者タラントスル者ニ組織變更ノ手續中ノ旨ヲ通知シ其ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ承諾ヲ爲シタル保險契約者ハ組織變更ノ手續ノ關係ニ於テハ之ヲ保險契約者ニ非ザル者ト看做ス

第二十三條　第二十一條第一項ノ公告ニ對シ第百十二條第二項ノ期間內ニ異議ヲ述ベタル保險契約者ノ數及其ノ保險金額ガ同條第三項ニ定ムル割合ヲ超エザルトキハ取締役ハ商法第百條ノ手續ノ終了後遲滯ナク保險契約者總會ヲ招集スルコトヲ要ス

商法第二百二十四條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ於テ會社ノ保險契約者ニ對スル通知ニ之ヲ準用ス

第二十四條　會社ハ組織變更ノ決議ニ於テ保險契約者總會ニ代ルベキ機關ニ關スル定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ機關ニハ保險契約者總會ニ關スル規定ヲ準用ス

第一項ノ定ヲ爲シタルトキハ其ノ機關ノ構成ノ要領ヲ第二十一條第一項ノ公告ニ記載スルコトヲ要ス

第二十五條　保險契約者總會ニ於テハ保險契約者ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス

第三十九條第三項及商法第二百三十八條ノ規定ハ保險契約者總會ニ之ヲ準用ス

第二十六條　取締役ハ組織變更ニ關スル事項ヲ保險契約者總會ニ報告スルコトヲ要ス

第二十七條　保險契約者總會ニ於テハ定款ノ變更其ノ他相互會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス

第二十條第一項ノ決議ハ前項ノ決議ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得但シ會社ノ債權者ノ利益ヲ害スルコトヲ得ズ

前項ノ變更ガ株主ニ損害ヲ及ボスベキトキハ株主總會ノ同意アルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第二十條第二項ノ規定ヲ準用ス

商法第百八十七條第二項ノ規定ハ第一項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第二十八條　組織變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十九條　株式會社ガ其ノ組織ヲ變更シタルトキハ本店及主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、支店及從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間內ニ株式會社ニ付テハ解散ノ登記、相互會社ニ付テハ第四十條第二項ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ノ申請書ニハ第二十條第一項ノ決議、第二十一條第一項ノ公告、第二十七條ノ決議及同意、前條ノ認可、第百十二條第三項ノ異議竝ニ商法第百條ノ手續ノ終了ヲ證スル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十條　株式會社ノ保險契約者ハ組織變更ニ因リ其ノ相互會社ニ入社ス

第三十一條　第百十六條竝ニ商法第二百八條第一項、第二百九條第一項第二項、第三百七十六條第一項及第三百八十條ノ規定ハ組織變更ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ商法第三百八十條第三項中第百三十七條トアルハ之ヲ第百八條トス

第三十二條　生命保險ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルベキ者ハ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額ニ付會社ノ總財產ノ上ニ先取特權ヲ有ス

前項ノ先取特權ノ順位ハ民法第三百六條第一號ニ揭グル先取特權ニ次グ

第三十三條　前條第一項ニ揭グル者ハ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額ニ付會社ガ本法ニ依ル主務大臣ノ命令ニ依リ供託シタル財產ノ上ニ他ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第三章　相互會社

第一節　設立

第三十四條　相互會社ノ發起人ハ定款ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

一　保險ノ種類及事業ノ範圍
二　名稱
三　事務所ノ所在地
四　基金ノ總額
五　基金ノ醵出者ガ有スベキ權利
六　基金及設立費用ノ償却ノ方法
七　剩餘金分配ノ方法
八　會社ガ公告ヲ爲ス方法
九　會社ノ成立後ニ讓受クルコトヲ約シタル財產アルトキハ其ノ財產、價格及讓渡人ノ氏名
十　存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第三十五條　相互會社ハ其ノ名稱中ニ相互會社ナル文字ヲ用フルコトヲ要ス

第三十六條　基金ノ拂込ハ金錢以外ノ財產ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ズ

商法第百七十一條第二項、第百七十七條第一項及第百八十九條ノ規定ハ基金ノ拂込ニ之ヲ準用ス

第三十七條　相互會社ノ設立ニハ百人以上ノ社員アルコトヲ要ス

第三十八條　發起人ニ非ザル者ガ社員タラントスルトキハ入社申込證二通ニ保險ノ目的及保險金額ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス但シ會社ノ成立後社員タラントスル者ハ此ノ限ニ在ラズ

入社申込證ハ發起人之ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　定款ノ認證ノ年月日及其ノ認證ヲ爲シタル公證人ノ氏名
二　第三十四條ニ揭グル事項
三　基金ノ醵出者ノ氏名及住所竝ニ其ノ各自ガ醵出スル金額
四　發起人ノ氏名及住所
五　發起人ガ報酬ヲ受クベキトキハ其ノ報酬ノ額
六　設立ノ際募集セントスル社員ノ數
七　一定ノ時期迄ニ創立總會ガ終結セザルトキハ入社ノ申込ヲ取消スコトヲ得ベキコト
八　民法第九十三條但書ノ規定ハ會社ノ成立前ニ於ケル入社ノ申込ニハ之ヲ適用セズ

第三十九條　基金ノ第一回ノ拂込ガ終了シ且社員ガ豫定ノ數ニ滿チタルトキハ發起人ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スルコトヲ要ス

創立總會ニ於テハ社員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス

第五十二條竝ニ商法第二百三十二條第一項第二項、第二百三十三條、第二百三十九條第三項第四項、第二百四十條、第二百四十三條、第二百四十四條及第二百四十七條乃至第二百五十三條ノ規定ハ相互會社ノ創立總會ニ之ヲ準用ス但シ商法第二百四十七條第一項中第三百四十三條トアルハ之ヲ保險業法第三十九條第二項トス

第四十條　相互會社ノ設立ノ登記ハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一　第三十四條第一號、第二號及第四號乃至第十號ニ揭グル事項

二　事務所

三　取締役及監査役ノ氏名及住所

四　取締役ニシテ會社ヲ代表セザル者アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏名

五　數人ノ取締役ガ共同シ又ハ取締役ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スベキコトヲ定メタルトキハ其ノ規定

第四十一條　社員總會ニ於テ發起人ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員ガ訴ノ提起ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一月內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第五十七條第二項、第五十八條第二項乃至第五項、第五十九條及商法第二百七十七條第一項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條　商法第九條、第十一條乃至第十五條、第十九條乃至第二十一條、第三十條乃至第四十三條、第四十五條乃至第四十八條、第五十條、第五十一條、第五十四條、第五十五條、第五十七條乃至第六十一條、第六十四條第二項、第六十五條乃至第六十七條、第百六十五條、第百六十六條第二項、第百六十七條、第百八十一條乃至第百八十七條、第百九十三條乃至第百九十六條及第百九十八條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス但シ商法第百九十六條中第三百四十三條トアルハ之ヲ保險業法第三十九條第二項トス

第二節　社員ノ權利義務

第四十三條　社員ハ會社ノ債權者ニ對シ直接ニ義務ヲ負フコトナシ

第四十四條　會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ハ保險料ヲ限度トス

第四十五條　社員ハ保險料ノ拂込ニ付相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ズ

第四十六條　會社ハ定款ヲ以テ保險金額ノ削減ニ關スル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

第四十七條　損害保險ヲ目的トスル相互會社ノ社員ガ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ會社ノ承諾ヲ得テ讓渡人ノ權利義務ヲ承繼スルコトヲ得

第四十八條　生命保險ヲ目的トスル相互會社ノ社員ハ會社ノ承諾ヲ得テ他人ヲシテ其ノ權利義務ヲ承繼セシムルコトヲ得

第四十九條　社員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　社員ノ氏名及住所

二　各社員ノ保險契約ノ種類、保險金額及保險料

第五十條　商法第二百二十四條第一項及第二項ノ規定ハ會社ノ入社申込人又ハ社員ニ對スル通知又ハ催告ニ之ヲ準用ス但シ保險關係ニ屬スル事項ノ通知又ハ催告ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三節　會社ノ機關

第五十一條　會社ハ定款ヲ以テ社員總會ニ代ルベキ機關ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ機關ニハ社員總會ニ關スル規定ヲ準用ス

第五十二條　社員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十三條　十分ノ一以上ノ社員ハ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得但シ此ノ權利ノ行使ニ付定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

商法第二百三十七條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十四條　商法第二百三十一條、第二百三十二條第一項第二項、第二百三十三條、第二百三十四條第一項、第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條、第二百三十九條第一項第三項第四項、第二百四十條、第二百四十三條、第二百四十四條、第二百四十五條第一項第四號第二項及第二百四十六條乃至第二百五十三條ノ規定ハ相互會社ノ社員總會ニ之ヲ準用ス但シ商法第二百四十五條第一項及第二項ノ規定ハ會社ノ入社申込人又ハ社員ニ對スル通知又ハ催告ニ之ヲ準用ス但シ保險關係ニ屬スル事項ノ通知又ハ催告ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三節　會社ノ機關

第五十一條　會社ハ定款ヲ以テ社員總會ニ代ルベキ機關ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ機關ニハ社員總會ニ關スル規定ヲ準用ス

第五十二條　社員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十三條　十分ノ一以上ノ社員ハ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得但シ此ノ權利ノ行使ニ付定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

商法第二百三十七條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十四條　商法第二百三十一條、第二百三十二條第一項第二項、第二百三十三條、第二百三十四條第一項、第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條、第二百三十九條第一項第三項第四項、第二百四十條、第二百四十三條、第二百四十四條、第二百四十五條第一項第四號第二項及第二百四十六條乃至第二百五十三條ノ規定ハ相互會社ノ社員總會ニ之ヲ準用ス但シ商法第二百四十五條第一項及第二項ノ規定ハ會社ノ入社申込人又ハ社員ニ對スル通知又ハ催告ニ之ヲ準用ス但シ保險關係ニ屬スル事項ノ通知又ハ催告ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五十五條　取締役ハ定款及總會ノ議事錄ヲ各事務所ニ、社員名簿ヲ主タル事務所ニ備置クコトヲ要ス

社員及會社ノ債權者ハ事業時間內何時ニテモ前項ニ揭グル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第五十六條　取締役ハ定款及總會ノ議事錄ヲ各事務所ニ、社員名簿ヲ主タル事務所ニ備置クコトヲ要ス

社員及會社ノ債權者ハ事業時間內何時ニテモ前項ニ揭グル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條　社員總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキハ會社ハ決議ノ日ヨリ一月內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ訴ニ付テハ社員總會ノ決議ニ依ルニ非ザレバ取下、和解又ハ請求ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ズ

第五十八條　社員總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員ガ訴ノ提起ヲ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ請求ノ日ヨリ一月內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス但シ訴提起ノ請求ヲ爲ス者ニ付定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第一項ノ訴ニ付テハ訴提起ノ請求ヲ爲シタル社員ノ議決權

ノ過半數ノ同意アルニ非ザレバ取下、和解又ハ請求ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ズ

第一項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ監査役ノ請求ニ依リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

會社ガ敗訴シタルトキハ請求ヲ爲シタル社員ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ズ

第五十九條　前條ノ請求ヲ爲シタル社員ハ特ニ會社ノ代表者ヲ指定スルコトヲ得

第六十條　商法第二百五十四條乃至第二百五十八條、第二百六十條乃至第二百六十二條、第二百六十五條、第二百六十六條及第二百六十九條乃至第二百七十二條ノ規定ハ相互會社ノ取締役ニ之ヲ準用ス但シ商法第二百七十二條第一項中第二百三十七條トアルハ之ヲ保險業法第五十三條トス

第六十一條　社員總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員ガ訴ノ提起ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一月內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

此ノ場合ニ於テハ第五十七條第二項、第五十八條第一項但書第二項第三項第五項、第五十九條及商法第二百七十七條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

前項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ取締役ノ請求ニ依リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第六十二條　商法第二百五十四條、第二百五十六條但書、第二百五十七條、第二百五十八條、第二百六十六條、第二百六十九條、第二百七十條、第二百七十二條乃至第二百七十六條、第二百七十七條第一項及第二百七十八條ノ規定ハ相互會社ノ監査役ニ之ヲ準用ス但シ商法第二百七十二條第一項中第二百三十七條トアルハ之ヲ保險業法第五十三條トス

第四節　會社ノ計算

第六十三條　會社ハ損失ノ塡補ニ備フル爲毎事業年度ノ剩餘金中ヨリ準備金ヲ積立ツルコトヲ要ス

前項ノ準備金ノ總額及毎年積立ツベキ其ノ最低額ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第六十四條　會社ハ損失ヲ塡補シタル後ニ非ザレバ基金利息ノ支拂ヲ爲スコトヲ得ズ

基金ノ償却又ハ剩餘金ノ分配ハ設立費用及事業費ノ全額ヲ償却シ且前條ノ準備金ヲ控除シタル後ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

前二項ノ規定ニ違反シテ基金利息ノ支拂、基金ノ償却又ハ剩餘金ノ分配ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

第六十五條　基金ヲ償却スルトキハ其ノ償却スル金額ト同一ノ金額ヲ積立ツルコトヲ要ス

第六十六條　剩餘金ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ各事業年度ノ終ニ於ケル社員ニ之ヲ分配ス

第六十七條　商法第二百八十一條乃至第二百八十五條及第二百九十五條ノ規定ハ相互會社ノ計算ニ之ヲ準用ス

第五節　定款ノ變更

第六十八條　定款ノ變更ヲ爲スニハ社員總會ノ決議アルコトヲ要ス

第三十九條第二項及商法第三百四十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六節　社員ノ退社

第六十九條　社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス

一　定款ニ定メタル事由ノ發生

二　保險關係ノ消滅

商法第百六十一條ノ規定ハ相互會社ノ社員ガ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十條　退社員ハ定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ權利ニ屬スル金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

退社員ガ會社ニ對シテ負擔シタル債務アルトキハ會社ハ前項ノ金額ノ中ヨリ之ヲ控除スルコトヲ得

第七十一條　退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ拂戻ハ退社アリタル日ノ屬スル事業年度ノ終ヨリ三月內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

退社員ノ拂戻請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二年間之ヲ行ハザルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第七節　解散

第七十二條　會社ガ解散ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ認可ノ日ヨリ二週間內ニ決議ノ要旨及貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第百十二條第二項乃至第四項、第百十六條及第百二十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十三條　商法第五十六條第三項、第九十六條、第九十八條第二項、第九十九條、第百條、第百二條、第百三條、第百四條第一項第三項、第百五條乃至第百十一條、第四百八條第一項第二項、第四百十二條第一項、第四百十三條第一項第二項、第四百十四條第一項及第四百十五條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス但シ商法第百條第一項但書中二月トアルハ之ヲ一月トシ第四百十四條第一項中第百八十八條トアルハ之ヲ保險業法第四十條トス

第三十九條第二項ノ規定ハ商法第五十六條第三項ノ規定ニ依ル選任ニ之ヲ準用ス

第八節　清算

第七十四條　會社ガ解散シタルトキハ合併及破產ノ場合ヲ除クノ外本節ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第七十五條　清算人ハ左ノ順序ニ從ヒテ會社財產ヲ處分スルコトヲ要ス

一　一般ノ債務ノ辨濟

二　社員ノ保險金額及第百三十四條第二項ノ規定ニ依リテ社員ニ拂戻スベキ金額ノ支拂

三　基金ノ償却

第七十六條　殘餘財產ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ剩餘金ノ分配ト同一ノ割合ヲ以テ之ヲ社員ニ分配スルコトヲ要ス

第七十七條　第五十三條、第五十六條乃至第五十九條及第六十一條並ニ商法第百十六條、第百二十三條乃至第百二十五條、第百二十八條、第百二十九條第二項、第百三十一條但書、第百三十四條、第二百三十一條、第二百三十六條、第二百三十八條、第二百四十四條第二項、第二百四十五條第一項第四號第二項、第二百四十七條、第二百四十九條、第二百五十四條第二項、第二百五十八條、第二百六十一條、第二百六十五條、第二百六十六條、第二百六十九條乃至第二百七十二條、第二百七十四條乃至第二百七十六條、第二百七十七條第一項、第二百七十八條、第二百八十二條乃至

第二百八十四條、第四百十七條乃至第四百二十四條、第四百二十六條第一項及第四百二十七條乃至第四百二十九條ノ規定ハ相互會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ商法第二百四十五條第一項及第二百四十七條第一項中第三百四十三條トアルハ之ヲ保險業法第三十九條第二項トシ商法第二百四十五條第二項中第二百六十八條又ハ第二百七十九條トアルハ之ヲ保險業法第五十八條又ハ第六十一條トシ商法第二百七十二條第一項中第二百三十七條トアルハ之ヲ保險業法第五十三條トス

第九節　補則

第七十八條　商法第二編第四章第七節及第九節第二款ノ規定ハ其ノ性質ノ許サザルモノヲ除クノ外相互會社ニ之ヲ準用ス但シ同法第三百八十一條第一項及第四百五十二條第一項中三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主トアルハ之ヲ十分ノ一以上ノ社員トス

第七十九條　非訟事件手續法中株式會社ニ關スル規定ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ相互會社ニ之ヲ準用ス

第八十條　相互會社ガ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ營利ヲ目的トセザル社團法人ト同一ノ登錄稅ヲ納ムルコトヲ要ス

第八十一條　相互會社ニハ營業收益稅ヲ課セズ

第四章　計算

第八十二條　保險會社ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ其ノ帳簿ヲ閉鎖シ總會終結ノ後遲滯ナク財產目錄、貸借對照表、事業報告書及損益計算書竝ニ基金ノ償却、基金利息ノ支拂、準備金及利益又ハ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ヲ主務大臣ニ提出スルコトヲ要ス

前項ノ書類ノ樣式ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十三條　保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルベキ者ハ會社ノ定時總會終結ノ後其ノ事業時間內何時ニテモ前條ニ揭グル書類ノ閱覽ヲ求メ又ハ定款若ハ保險約款ニ定メタル費用ヲ支拂ヒテ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第八十四條　保險會社ノ財產目錄ニ記載スル有價證券中命令ヲ以テ定ムル國債又ハ利拂及償還確實ナリト認メラルル債券ニ付テハ商法第三十四條第一項及第二百八十五條ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ均等利廻評價ノ方法ニ依ル價額ヲ附スルコトヲ得

第八十五條　保險會社ノ設立費用及初ノ五年度ノ事業費ハ會社成立ノ後十年ヲ超エザル期間內ニ定款ノ定ムル所ニ從ヒ毎年其ノ一部ヲ償却スルコトヲ得

商法第二百八十六條ノ規定ハ保險事業ヲ營ム株式會社ニハ之ヲ適用セズ

第八十六條　保險會社ハ財產ノ評價換又ハ賣却ニ因リ計上シタル利益ガ之ニ因リ計上シタル損失ヲ超ユルトキハ其ノ差額ヲ準備金トシテ積立ツルコトヲ要ス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ全部又ハ一部ヲ積立テザルコトヲ得

第八十七條　前條ノ準備金ハ缺損ノ塡補又ハ財產ノ評價換若ハ賣却ニ因リ計上シタル損失ガ之ニ因リ計上シタル利益ヲ超ユルトキ其ノ差額ノ塡補ニ充ツル場合ヲ除クノ外主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第八十八條　保險會社ハ毎決算期ニ保險契約ノ種類ニ從ヒ責任準備金ヲ計算シ且之ヲ特ニ設ケタル帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

商法第三十三條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十九條　生命保險會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險計理人ヲ選任シ保險數理ニ關スル事項ヲ擔當セシムルコトヲ要ス

主務大臣保險計理人ガ其ノ職務ヲ怠リ又ハ其ノ職務ヲ行フニ不適當ナル行爲ヲ爲シタリト認ムルトキハ其ノ解任ヲ命ズルコトヲ得

第九十條　保險計理人ハ會社ガ本法ニ依リ主務大臣ニ提出スル書類ニ揭グル事項中責任準備金其ノ他ノ保險契約ニ關スル準備金、未收保險料及保險約款ノ規定ニ依ル貸付金ノ計算ノ正當ナルコトヲ確認スルコトヲ要ス

保險計理人前條第一項ノ事項ニ付主務大臣ノ諮問ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク答申ヲ爲スコトヲ要ス

第九十一條　保險會社ノ監査役ハ會社ノ業務及財產ノ狀況ニ關スル調査ノ結果ヲ記載シタル監査書ヲ毎事業年度二回作成シ之ヲ本店又ハ主タル事務所ニ備置クコトヲ要ス

第五章　會社ノ管理

第九十二條　保險會社ハ契約ヲ以テ他ノ保險會社ニ其ノ業務及財產ノ管理ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ契約ハ各會社ニ於テ株主總會又ハ社員總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ商法第三百四十三條又ハ本法第三十九條第二項ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第九十三條　前條第一項ノ契約ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

ヲ要ス

商法第三十三條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十九條　生命保險會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險計理人ヲ選任シ保險數理ニ關スル事項ヲ擔當セシムルコトヲ要ス

主務大臣保險計理人ガ其ノ職務ヲ怠リ又ハ其ノ職務ヲ行フニ不適當ナル行爲ヲ爲シタリト認ムルトキハ其ノ解任ヲ命ズルコトヲ得

第九十條　保險計理人ハ會社ガ本法ニ依リ主務大臣ニ提出スル書類ニ揭グル事項中責任準備金其ノ他ノ保險契約ニ關スル準備金、未收保險料及保險約款ノ規定ニ依ル貸付金ノ計算ノ正當ナルコトヲ確認スルコトヲ要ス

保險計理人前條第一項ノ事項ニ付主務大臣ノ諮問ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク答申ヲ爲スコトヲ要ス

第九十一條　保險會社ノ監査役ハ會社ノ業務及財產ノ狀況ニ關スル調査ノ結果ヲ記載シタル監査書ヲ毎事業年度二回作成シ之ヲ本店又ハ主タル事務所ニ備置クコトヲ要ス

第五章　會社ノ管理

第九十二條　保險會社ハ契約ヲ以テ他ノ保險會社ニ其ノ業務及財產ノ管理ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ契約ハ各會社ニ於テ株主總會又ハ社員總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ商法第三百四十三條又ハ本法第三十九條第二項ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第九十三條ノ規定ハ第一項ノ解除ニ之ヲ準用ス

第九十四條　前條ノ認可アリタルトキハ各會社ハ遲滯ナク其ノ旨及契約ノ要旨ヲ公告シ且管理ヲ委託シタル會社ニ在リテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨竝ニ受託會社ノ商號又ハ名稱及其ノ本店又ハ主タル事務所ヲ登記スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ委託會社ノ本店及支店又ハ各事務所ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十五條　本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外委託會社ト受託會社トノ間ノ關係ハ委任ニ關スル規定ニ從フ

第九十六條　受託會社ガ委託會社ノ爲ニ保險契約其ノ他ノ取引ヲ爲スニハ委託會社ノ爲ニスルコトヲ表示スルコトヲ要ス

前項ノ表示ヲ爲サズシテ爲シタル保險契約其ノ他ノ取引ハ之ヲ自己ノ爲ニ爲シタルモノト看做ス

商法第三十八條第一項及第三項ノ規定ハ受託會社ニ之ヲ準用ス

民法第四十四條第一項ノ規定ハ管理ノ委託アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第九十七條　管理契約ノ解除ハ株主總會又ハ社員總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ商法第三百四十三條又ハ本法第三十九條第二項ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第九十八條　管理契約ノ解除又ハ終了アリタルトキハ各會社ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第九十九條　主務大臣保險會社ノ業務又ハ財產ノ狀況ニ依リ會社ヲシテ合併、業務及財產ノ管理ノ委託又ハ契約ノ移轉

ヲ爲サシムルコトヲ適當ト認ムルトキハ會社ニ對シ之ヲ勸告スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ主務大臣必要ト認ムルトキハ相手會社ヲ指定シ且其ノ會社ニ對シテモ前項ノ事項ヲ勸告スルコトヲ得

第百條　主務大臣保險會社ノ業務又ハ財產ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ト認ムルトキ又ハ業務ノ狀況著シク不良ニシテ公益上其ノ事業ノ繼續ヲ不適當ト認ムルトキハ事業ノ停止、業務及財產ノ管理又ハ契約ノ移轉ノ命令ヲ爲スコトヲ得

第百一條　前條又ハ第百三十七條第一項ノ管理ハ主務大臣ノ選任シタル保險管理人之ヲ爲ス

保險會社ハ正當ノ事由ナクシテ保險管理人タルコトヲ拒否スルコトヲ得ズ

保險管理人ハ管理ヲ受クル會社ニ代リ保險契約其ノ他ノ取引並ニ財產ノ管理及處分ヲ爲ス權限ヲ有ス

主務大臣ハ保險管理人又ハ管理ヲ受クル會社ニ對シ管理ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

主務大臣必要アリト認ムルトキハ保險管理人ヲ解任スルコトヲ得

第九十六條第一項第二項及第四項並ニ商法第三十八條第一項及破產法第百六十三條乃至第百六十六條ノ規定ハ保險管理人ニ之ヲ準用ス但シ破產法中裁判所トアルハ之ヲ主務大臣トス

第百二條　主務大臣管理ノ命令ヲ爲シタルトキハ直ニ會社ノ本店又ハ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ其ノ旨ヲ通知シ且會社ノ本店及支店又ハ各事務所ノ所在地ノ登記所ニ其ノ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス

登記所ガ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第百三條　管理ノ命令アリタルトキハ管理ヲ受クル會社ノ事業ハ之ヲ停止ス但シ主務大臣必要アリト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ停止セザルモノト爲スコトヲ得

第百四條　主務大臣必要アリト認ムルトキハ管理ヲ受クル會社ノ保險契約ニ付計算ノ基礎ノ變更、保險金額ノ削減及將來ノ保險料ノ減額又ハ契約條項ノ變更ヲ爲スコトヲ得

管理ヲ受クル會社ガ株式會社ナル場合ニ於テ主務大臣必要アリト認ムルトキハ株主ノ名義書換ノ禁止ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ保險金額ノ削減及將來ノ保險料ノ減額又ハ契約條項ノ變更ノ處分アリタルトキハ會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨及變更ノ要旨ヲ公告スルコトヲ要ス前項ノ規定ニ依リ株主ノ名義書換ノ禁止ノ處分アリタルトキ亦同ジ

第百五條　保險會社保險管理人タルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ管理ヲ受クル會社ニ對シ合併又ハ保險契約ノ移轉ニ關シ協議ヲ爲スコトヲ得

第百六條　管理ノ必要ナキニ至リタルトキハ主務大臣管理ノ終了ヲ命ズ

第百二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百七條　商法第三百八十一條第一項第三項、第三百八十六條第一項第一號乃至第五號第十號第十一號、同條第二項中

此等ニ關係アル部分、第三百八十七條第一項、第三百八十八條乃至第三百九十一條、第三百九十七條及第三百九十八條ノ規定ハ管理ヲ受クル保險會社ニハ之ヲ適用セズ

第六章　解散

第百八條　保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一　存立時期ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生

二　株主總會又ハ社員總會ノ決議

三　會社ノ合併

四　保險契約全部ノ移轉

五　會社ノ破產

六　免許ノ取消

七　解散ヲ命ズル裁判

會社ガ前項第六號ノ事由ニ因リテ解散シタルトキハ主務大臣ハ直ニ會社ノ本店及支店又ハ各事務所ノ所在地ノ登記所ニ其ノ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス

登記所ガ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第百九條　解散、合併及保險契約ノ移轉ニ關スル決議ハ商法第三百四十三條又ハ本法第三十九條第二項ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第百十條　解散ノ決議、合併及保險契約ノ移轉ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第百十一條　保險會社ハ契約ヲ以テ責任準備金算出ノ基礎ヲ同ジクスル保險契約ノ全部ヲ包括シテ他ノ保險會社ニ移轉スルコトヲ得

會社ハ前項ノ契約ヲ以テ會社財產ヲ移轉スベキコトヲ定ムルコトヲ得但シ主務大臣ガ其ノ會社ノ債權者ノ利益ヲ保護スルニ必要ト認ムル財產ヲ留保スルコトヲ要ス

第百十二條　保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ第百九條ノ決議ノ日ヨリ二週間內ニ移轉契約ノ要旨及各會社ノ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ公告ニハ移轉セラルベキ保險契約者ニシテ異議アラバ一定ノ期間內ニ之ヲ述ブベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ一月ヲ下ルコトヲ得ズ

前項ノ期間內ニ異議ヲ述ベタル保險契約者ガ移轉セラルベキ保險契約者總數ノ十分ノ一ヲ超エ又ハ其ノ保險金額ガ移轉セラルベキ保險金總額ノ十分ノ一ヲ超ユルトキハ保險契約ノ移轉ヲ爲スコトヲ得ズ第百十四條ノ規定ニ依リ契約條項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ異議ヲ述ベタル保險契約者ニシテ其ノ變更ヲ受クベキ者ガ變更ヲ受クベキ保險契約者總數ノ十分ノ一ヲ超エ又ハ其ノ保險金額ガ變更ヲ受クベキ保險契約者ノ保險金總額ノ十分ノ一ヲ超ユルトキ亦同ジ

前二項ノ規定ハ相互會社ガ第五十一條第一項ノ機關ニ依ラズシテ保險契約移轉ノ決議ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第百十三條　保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ株主總會又ハ社員總會ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ノ移轉ヲ爲シ又ハ爲サザルニ至ル時迄其ノ移轉セントスル保險契約ト同種ノ保險契約ヲ爲スコトヲ得ズ

第百十四條　保險契約全部ノ移轉ヲ爲ス場合ニ於テハ會社ハ移轉スベキ保險契約ニ付移轉契約ヲ以テ計算ノ基礎ノ變更、保險金額ノ削減及將來ノ保險料ノ減額又ハ契約條項ノ

變更ヲ定ムルコトヲ得

第百十五條　前條ノ規定ニ依リ保險金額ノ削減ヲ定ムル場合ニ於テハ保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ株主總會又ハ社員總會ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ノ移轉ヲ爲シ又ハ爲サザルニ至ル時迄其ノ財產ノ處分ヲ爲シ又ハ債務ヲ負擔スベキ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ但シ會社ノ維持ニ必要ナル費用ヲ支出スル場合又ハ財產ノ保全其ノ他特別ノ必要ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケ財產ヲ處分スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

保險契約ノ移轉アリタルトキハ保險契約ニ因リテ生ジタル債權ニシテ前項ノ規定ニ依リ支拂ヲ停止セラレタルモノニ付テハ移轉契約ニ定メタル保險金額削減ノ割合ニ依リ其ノ金額ヲ削減シテ支拂ヲ爲スコトヲ要ス

前條ノ規定ニ依リ契約條項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ其ノ變更ヲ爲サントスル會社亦第一項ニ同ジ但シ保險契約ニ因リテ生ジタル債務ヲ辨濟シ又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ變更ニ關セザル行爲ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第百十六條　會社ガ保險契約ノ移轉ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス移轉ヲ爲サザルニ至リタルトキ亦同ジ

第百十七條　保險契約ノ移轉ヲ爲シタル會社ガ其ノ保險契約ニ付有スル權利義務ハ移轉ヲ受ケタル會社之ヲ承繼ス移轉契約ヲ以テ移轉スベキコトヲ定メタル財產ニ付亦同ジ

保險契約移轉ノ決議ノ後ニ於テ移轉スベキ保險契約ニ付爲シタル收支其ノ他移轉スベキ保險契約又ハ財產ニ付生ジタル變更ハ移轉ヲ受ケタル會社ニ歸ス

第百十八條　保險契約ノ移轉アリタル場合ニ於テ移轉ヲ受ケタル會社ガ相互會社ナルトキハ其ノ保險契約者ハ其ノ會社ニ入社ス

第百十九條　會社ハ解散ノ後ト雖モ三月內ニ限リ保險契約移轉ノ決議ヲ爲スコトヲ得

第百三十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セズ但シ保險契約ノ移轉ヲ爲サザルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百二十條　保險契約ノ移轉ニ因ル解散ノ登記ノ申請書ニハ移轉契約書、各會社ノ株主總會又ハ社員總會ノ決議錄竝ニ第百十二條ノ公告及異議竝ニ保險契約移轉ノ認可ヲ證スル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十一條　保險會社第百條又ハ第百三十七條第一項ノ規定ニ依ル契約ノ移轉ノ命令ヲ受ケタル場合ニ於テ相手會社ノ指定アルトキハ其ノ會社、指定ナキトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ他ノ保險會社ニ對シ契約ノ移轉ニ關シ協議ヲ爲スコトヲ要ス

主務大臣前項ノ指定又ハ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ相手會社ニ對シ之ヲ通知ス

第一項ノ協議ハ各會社ニ於テ株主總會又ハ社員總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第一項ノ協議調ヒタルトキハ各會社ハ遲滯ナク主務大臣ニ其ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

第百九條ノ規定ハ第三項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第百二十二條　主務大臣ノ命令ニ依リ契約ノ移轉ヲ爲ス場合ニ於テハ會社ハ前條第一項ノ協議ヲ以テ移轉スベキ保險契約ニ關スル準備金ノ金額ニ相當スル財產ヲ移轉スベキコトヲ定ムルコトヲ要ス

第百十一條乃至第四項、第百十六條及第百二十條ノ規定ハ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リテ爲シタル合併ハ異議ヲ述ベタル保險契約者其ノ他保險契約ニ因リテ生ジタル權利ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第百二十九條　會社ガ合併ヲ爲ス場合ニ於テハ合併契約ヲ以テ其ノ保險契約ニ關スル計算ノ基礎又ハ契約條項ノ變更ヲ定ムルコトヲ得

第百十三條及第百十五條第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ契約條項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ其ノ變更ヲ爲サントスル會社ニ之ヲ準用ス

第百三十條　相互會社ハ他ノ保險會社ト合併ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ相互會社ナルコトヲ要ス但シ合併ヲ爲ス會社ノ一方ガ株式會社ナルトキハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ株式會社ナルコトヲ得

相互會社ト株式會社トノ合併ノ場合ニ於テハ各本法又ハ商法ノ合併ニ關スル規定ニ從フコトヲ要ス

合併契約書ニ記載スベキ事項其ノ他合併ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第百三十一條　前條ノ合併アリタル場合ニ於テ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ガ相互會社ナルトキハ合併ニ因リテ解散スル會社ノ保險契約者ハ其ノ會社ニ入社シ株式會社ナルトキハ相互會社ノ社員ハ其ノ地位ヲ失フ但シ保險關係ニ屬スル權利義務ハ合併契約ノ定ムル所ニ從

ヲ定ムルコトヲ要ス

第百十一條第二項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百十四條及第百十五條ノ規定ハ前條第一項ノ協議ニ之ヲ準用ス

第百二十三條　主務大臣契約ノ移轉ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ移轉スベキ保險契約ニ關スル計理ニ付特別ノ計算ヲ爲スベキコトヲ命ジ其ノ他移轉ヲ受クル會社ノ保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルベキ者ノ利益ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第百二十四條　契約ノ移轉ニ關スル協議ヲ爲サズ若ハ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ主務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ契約ノ移轉ニ付必要ナル決定ヲ爲スコトヲ得

主務大臣前項ノ決定ヲ爲サントスルトキハ豫メ各會社ノ意見ヲ徵スルコトヲ要ス

第百二十五條　主務大臣ノ命令ニ依ル契約ノ移轉ハ主務大臣ノ認可又ハ決定ニ依リ其ノ效力ヲ生ズ

前項ノ認可又ハ決定アリタルトキハ會社ハ遲滯ナク其ノ旨及契約ノ移轉ニ關スル協議又ハ決定ノ要旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第百二十六條　第百三條、第百四條、第百十七條、第百十八條及第百二十條ノ規定ハ主務大臣ノ命令ニ依ル契約ノ移轉ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百二十七條　保險會社ハ其ノ營業ノ讓渡ヲ爲スコトヲ得ズ

第百二十八條　保險會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間內ニ合併契約ノ要旨及各會社ノ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

ヒ合併後存續スル株式會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル株式會社之ヲ承繼ス

前項ノ規定ニ依リ合併後存續スル會社ニ入社スベキ者ハ商法第四百十二條第一項ノ規定ニ依ル社員總會ニ於テ社員ト同一ノ權利ヲ有ス但シ合併契約ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條及第三十九條第二項第三項竝ニ商法第百八十二條、第百八十三條及第百八十七條第二項ノ規定ハ合併ニ因リテ設立スル相互會社ノ創立總會ニ之ヲ準用ス

第七章　清算

第百三十二條　保險會社ガ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務大臣ハ清算人ヲ選任ス

商法第百二十二條、第百三十八條及第四百十七條第二項ニ定ムル清算人ノ選任ハ主務大臣之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ利害關係人ノ請求ナクシテ之ヲ爲スコトヲ得

商法第百二十九條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

主務大臣ハ監査役又ハ三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主若ハ十分ノ一以上ノ社員ノ請求ニ依リ清算人ヲ解任スルコトヲ得但シ此ノ請求ヲ爲ス社員ニ付定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ主務大臣ハ前項ノ請求ナクシテ清算人ヲ解任スルコトヲ得

商法第四百二十六條第二項ノ規定ハ保險事業ヲ營ム株式會社ノ清算人ニハ之ヲ適用セズ

第百三十三條　前條ノ規定ニ依リ清算人ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社ヲシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其ノ額ハ主務大臣之ヲ定ム

第百三十四條　保險會社ガ第百八條第一項第二號、第六號又ハ第七號ニ揭グル事由ニ因リテ解散シタルトキハ保險金額ヲ支拂フベキ事由ガ解散ノ日ヨリ三月內ニ生ジタルトキニ限リ保險金額ヲ支拂フコトヲ要ス

前項ノ期間經過ノ後ハ生命保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額、損害保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ未ダ經過セザル期間ニ對スル保險料ヲ拂戻スコトヲ要ス

第百三十五條　商法第四百二十三條第二項中裁判所トアルハ保險會社ニ付テハ之ヲ主務大臣トス

第百三十六條　主務大臣ハ保險會社ノ清算事務及財產ノ狀況ヲ檢査シ、財產ノ供託ヲ命ジ其ノ他清算ノ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第百三十七條　主務大臣ハ解散シタル保險會社ノ業務又ハ財產ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ業務及財產ノ管理又ハ契約ノ移轉ノ命令ヲ爲スコトヲ得

第百十九條第二項ノ規定ハ前項ノ命令アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第八章　罰則

第百三十八條　第一條第一項ノ規定ニ違反シ免許ヲ受ケズシテ保險事業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十九條　保險管理人、保險計理人又ハ相互會社ノ發起人、第七十三條第一項ニ於テ準用スル商法第五十六條第三項ノ設立委員、取締役、監査役、第六十條若ハ第六十二條ニ於テ準用スル商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者若ハ支配人其ノ他事業ニ關スル或種類若ハ特定ノ事項ノ委任ヲ受ケタル使用人自己若ハ第三者ヲ利シ又ハ會社ヲ害センコトヲ圖リテ其ノ任務ニ背キ會社ニ財產上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ七年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

相互會社ノ清算人、第七十七條ニ於テ準用スル商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者又ハ第七十八條ノ整理委員、監督員若ハ管理人前項ニ揭グル行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ

第百四十條　第二十四條第一項又ハ第五十一條第一項ノ機關ヲ構成スル者自己若ハ第三者ヲ利シ又ハ保險契約者若ハ社員ヲ害センコトヲ圖リテ其ノ任務ニ背キ保險契約者若ハ社員ニ財產上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四十一條　前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百四十二條　第百三十九條第一項ニ揭グル者又ハ相互會社ノ檢査役ハ左ノ場合ニ於テハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　會社ノ設立ノ場合ニ於テ社員ノ數、基金總額ノ引受若ハ基金ノ拂込ニ付又ハ第三十四條第四號乃至第六號第九號若ハ第三十八條第二項第三號第五號ニ揭グル事項ニ付裁判所又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二　何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ會社ノ計算ニ於テ不正ニ其ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

三　法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ基金ノ償却、基金利息ノ支拂又ハ利益若ハ剩餘金ノ配當ヲ爲シタルトキ

四　會社ノ事業ノ範圍外ニ於テ投機取引ノ爲ニ會社財產ヲ處分シタルトキ

第百四十三條　前四條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第百四十四條　第百三十九條若ハ第百四十條ニ揭グル者又ハ相互會社ノ檢査役若ハ第七十八條ノ監査委員其ノ職務ニ關シ不正ノ請託ヲ受ケ財產上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

第百四十五條　左ニ揭グル事項ニ關シ不正ノ請託ヲ受ケ財產上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　保險契約者總會、相互會社ノ創立總會又ハ社員總會ニ於ケル發言又ハ議決權ノ行使

二　第二章、第三章及第七章ニ定ムル訴ノ提起又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主若ハ十分ノ一以上ノ社員ノ權利ノ行使

前項ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

第百四十六條　第百四十四條第一項又ハ前條第一項ノ場合ニ於テ犯人ノ收受シタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部

ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第百四十七條　第百四十四條第二項又ハ第百四十五條第二項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第百四十八條　保險計理人第九十條第一項ノ規定ニ違反シ正當ノ事由ナクシテ確認ヲ爲サズ又ハ不正ノ確認ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四十九條　法人又ハ人ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第百三十八條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第百五十條　第百三十八條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第百五十一條　第百三十九條、第百四十條、第百四十二條又ハ第百四十四條第一項ニ揭グル者ガ法人ナルトキハ本章ノ罰則ハ其ノ行爲ヲ爲シタル取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ニ之ヲ適用ス

第百五十二條　保險會社ノ發起人、設立委員、取締役、監査役、檢査役、清算人、第九十二條第一項ノ管理ノ受託會社、保險管理人、整理委員、監督員、商法第三百九十八條第一項（第七十八條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ管理人、監査委員、商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第二項若ハ第二百七十二條第一項（第六十條、第六十二條又ハ第七十七條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ職務代行者又ハ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ五千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　第五條ノ規定ニ違反シテ他ノ事業ヲ營ミタルトキ

二　第六條ノ規定ニ違反シテ他ノ會社ノ常務ニ從事シタルトキ

三　本法ニ基キテ爲ス主務大臣ノ命令ニ違反シタルトキ

四　本法ニ定ムル檢査又ハ調査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタルトキ

五　官廳、總會又ハ第二十四條第一項若ハ第五十一條第一項ノ機關ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

六　第十條第一項ノ規定ニ違反シテ第一條第二項ニ揭グル書類ニ定メタル事項ノ變更ヲ爲シタルトキ

七　本法ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

八　本法ニ定ムル公告、通知若ハ屆出ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告、通知若ハ屆出ヲ爲シタルトキ

九　本法ノ規定ニ違反シ正當ノ事由ナクシテ書類ノ閲覽又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ拒ミタルトキ

十　第十四條又ハ第三十八條第二項ノ規定ニ違反シテ入社申込證ヲ作ラズ又ハ株式申込證若ハ入社申込證ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

十一　第十七條又ハ第十八條ノ規定ニ違反シテ資本減少ノ手續ヲ爲シタルトキ

十二　第二十條乃至第二十七條ノ規定ニ違反シテ組織變更ノ手續ヲ爲シタルトキ

十三　定款、社員名簿、議事錄、財產目錄、貸借對照表、事業報告書、監査書、事務報告書、決算報告書、第四十二條ニ於テ準用スル商法第三十二條第一項ノ帳簿、第七十八條ノ調査書、損益計算書又ハ基金ノ償却、基金利息ノ支拂若ハ準備金及剩餘金ノ配當ニ關スル議案ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

十四　第五十六條第一項（第七十七條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第九十一條又ハ第六十七條及第七十七條ニ於テ準用スル商法第二百八十二條第一項ノ規定ニ違反シテ帳簿又ハ書類ヲ備置カザルトキ

十五　第五十四條ニ於テ準用スル商法第二百三十三條又ハ第二百三十四條第一項ノ規定ニ違反シテ社員總會若ハ第五十一條第一項ノ機關ヲ招集シ若ハ招集セズ又ハ定款ニ定メタル地以外ノ地ニ於テ之ヲ招集シタルトキ

十六　本法又ハ定款ニ定メタル取締役、監査役又ハ保險計理人ノ員數ヲ缺クニ至リタル場合ニ於テ其ノ選任手續ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

十七　第十九條第三項、第六十三條、第六十五條、第八十六條又ハ第八十七條ノ規定ニ違反シテ準備金ヲ積立テズ又ハ之ヲ使用シタルトキ

十八　第八十八條第一項ノ規定ニ違反シテ責任準備金ノ計算ヲ爲サズ又ハ之ヲ帳簿ニ記載セザルトキ

十九　第七十二條ノ規定ニ違反シテ解散ノ手續ヲ爲シタルトキ

二十　第七十五條又ハ第七十六條若ハ定款ノ規定ニ違反シテ會社財產ヲ處分シ又ハ殘餘財產ヲ分配シタルトキ

二十一　第七十七條ニ於テ準用スル商法第百二十四條第三項ノ規定ニ違反シテ破產宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ第七十八條ニ於テ準用スル商法第四百三十一條第二項ノ規定ニ違反シテ特別清算開始ノ申立ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二十二　清算ノ結了ヲ遲延セシムル目的ヲ以テ第七十七條ニ於テ準用スル商法第四百二十一條第一項ノ期間ヲ不當ニ定メタルトキ

二十三　第七十七條又ハ第七十八條ニ於テ準用スル商法第四百二十三條又ハ第四百三十八條ノ規定ニ違反シテ債務ノ辨濟ヲ爲シタルトキ

二十四　第七十八條ニ於テ準用スル商法第四百四十五條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

二十五　第七十八條ニ於テ準用スル商法第三百八十六條、第四百三十二條、第四百三十七條又ハ第四百五十四條第一項ノ規定ニ依ル裁判所ノ財產保全ノ處分ニ違反シタルトキ

二十六　第百一條第二項ノ規定ニ違反シ正當ノ事由ナクシテ保險管理人タルコトヲ拒否シタルトキ

二十七　主務大臣ノ選任シタル保險管理人若ハ清算人又ハ裁判所ノ選任シタル管理人若ハ清算人ニ事務ノ引渡ヲ爲サザルトキ

二十八　第百三條（第百二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ違反シテ事業ヲ營ミタルトキ

二十九　第百十二條ノ規定ニ違反シテ保險契約移轉ノ手續ヲ爲シタルトキ

三十　第百二十七條ノ規定ニ違反シテ營業ノ讓渡ヲ爲シタルトキ

三十一　第百二十八條第一項第二項、第百三十條第三項又ハ第七十三條ニ於テ準用スル商法第九十九條若ハ第百條ノ規定ニ違反シテ合併ノ手續ヲ爲シタルトキ

三十二　第百十三條又ハ第百十五條（第百二十九條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ違反シテ保險契約、財產ノ處分又ハ債務ヲ負擔スベキ行爲ヲ爲シタルトキ

第百五十三條　保險計理人第九十條第二項ノ規定ニ違反シテ答申ヲ爲サズ又ハ虛僞ノ答申ヲ爲シタルトキハ五千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百五十四條　第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第百五十五條　不正ノ競爭ノ目的ヲ以テ相互會社ノ登記シタル名稱ト同一若ハ類似ノ商號若ハ名稱ヲ使用シ又ハ不正ノ目的ヲ以テ他ノ相互會社ノ事業ナリト誤認セシムベキ商號若ハ名稱ヲ使用シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第百五十六條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ第百五十二條乃至前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附　則

第百五十七條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十四年勅令第九百三號ヲ以テ昭和十五年一月一日ヨリ施行）

第百五十八條　本法ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法施行前ニ生ジタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リテ生ジタル效力ヲ妨ゲズ

第百五十九條　明治三十三年七月一日前設立シタル保險會社ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リテ事業ノ免許ヲ受ケタル保險會社ト看做ス

第百六十條　從前ノ規定ニ依リテ爲シタル認可、處分其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第百六十一條　商法中改正法律施行法（以下新商法施行法ト稱ス）第四條、第五條、第九條、第十一條、第十二條第一項、第十七條、第十八條、第十九條第一項第三項、第二十二條第一項第二項、第二十三條第一項、第二十四條、第二十五條第一項、第二十九條第一項、第三十條、第三十二條乃至第三十四條、第四十一條乃至第四十五條、第四十八條第一項第二項、第五十條、第五十一條及第五十四條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス但シ同法第三十三條第一項中新法第百九十七條トアルハ之ヲ保險業法第四十一條トシ第四十三條中新法第二百六十七條トアルハ之ヲ保險業法第五十七條トシ第四十四條中新法第二百六十八條トアルハ之ヲ保險業法第五十八條トス

前項ニ於テ準用スル新商法施行法第十二條第一項、第二十三條第一項又ハ第二十九條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ相互會社ノ取締役ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第一項ニ於テ準用スル新商法施行法第四十八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ相互會社ノ取締役及其ノ職務ヲ行フ監査役ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス同條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ其ノ相互會社ノ清算人及其ノ職務ヲ行フ監査役ニ付亦同ジ

第百六十二條　本法施行前ニ會社ガ資本減少ノ決議ヲ爲シ又ハ各會社ガ保險契約移轉若ハ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ資本減少、保險契約移轉又ハ合併ニ付テハ從前ノ規定ヲ適用ス但シ資本減少又ハ合併ニ付新商法施行法第十八條、第十九條第一項第三項、第六十四條及第六十五條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第百六十三條　本法施行ノ際現ニ保險會社ノ常務ニ從事スル取締役若ハ監査役又ハ支配人ニシテ他ノ會社ノ常務ニ從事スル者ハ本法施行後一年ヲ限リ第六條ノ規定ニ拘ラズ主務大臣ノ認可ヲ受ケズシテ引續キ其ノ會社ノ常務ニ從事スルコトヲ得

第百六十四條　本法施行ノ際現ニ生命保險會社ニ於テ保險數理ニ關スル事項ヲ擔當スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行後三年ヲ限リ之ヲ本法ニ依ル保險計理人ト看做ス

第百六十五條　第百五十五條ノ規定ハ本法施行前ニ商號又ハ名稱ヲ使用シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第百六十六條　本法施行前ニ從前ノ第五章ノ規定ヲ適用スベキ行爲アリタルトキハ本法施行後ト雖モ其ノ規定ヲ適用ス

本法施行後從前ノ規定ニ依ルベキ場合ニ於テ從前ノ第五章ノ規定ヲ適用スベキ行爲アリタルトキハ第八章ノ規定ヲ適用ス

第百六十七條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ第百六十一條第二項及第三項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第百六十八條　本法ニ依リ署名スベキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

第百六十九條　外國人又ハ外國法人ガ本法施行地內ニ支店、從タル事務所又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム場合ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百七十條　本法施行ノ際必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○倉庫業法（昭和十年四月六日 法律第四十一號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル倉庫業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

倉庫業法

第一條　倉庫營業者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ預證券及質入證券又ハ倉荷證券ヲ發行スルコトヲ得ズ但シ勅令ヲ以テ指定シタル倉庫營業者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　前條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫、營業規則及保管料率表ヲ具シ主務大臣ニ之ヲ申請スベシ

第三條　第一條ノ許可ヲ受ケタル者事業計畫、營業規則又ハ保管料率表ヲ變更セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ニ屆出ヲ爲スベシ

第四條　主務大臣必要アリト認ムルトキハ第一條ノ許可ヲ爲スニ當リ之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第五條　第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ正當ノ事由アルニ非ザレバ寄託ノ引受ヲ拒ムコトヲ得ズ

第六條　第一條ノ許可ヲ受ケタル者預證券及質入證券又ハ倉荷證券ヲ發行スル場合ニ於テハ寄託者ノ爲ニ受寄物ヲ火災保險ニ付スベシ但シ寄託者ガ反對ノ意思ヲ表示シタル場合又ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條　第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ業務報告書ヲ作成シテ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第八條　行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一條ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ業務ニ關スル報告ヲ命ジ又ハ當該官吏ヲシテ第一條ノ許可ヲ受ケタル者ノ業務及設備ノ狀況ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ臨檢ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證票ヲ携帶スベシ

第九條　主務大臣ハ第一條ノ許可ヲ受ケタル者ノ業務又ハ設備ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ事業計畫、營業規則又ハ保管料率表ノ變更ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條　主務大臣ハ第一條ノ許可ヲ受ケタル者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ第四條ノ規定ニ依リ許可ニ附シタル制限若ハ條件ニ違反シタルトキハ預證券及質入證券若ハ倉荷證券ノ發行ノ停止ヲ命ジ又ハ第一條ノ許可ノ取消ヲ爲スコトヲ得主務大臣第一條ノ許可ヲ受ケタル者ノ行爲ガ著シク寄託者又ハ預證券、質入證券若ハ倉荷證券ノ所持人ノ利益ヲ害シ又ハ害スルノ虞アリト認ムルトキ亦同ジ

第十一條　第一條ノ許可ヲ受ケタル者死亡シタル場合ニ於テハ其ノ倉庫營業ヲ相續ニ因リテ承繼シタル者ハ之ヲ第一條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第十二條　本法中主務大臣ノ職權ハ命令ヲ以テ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第十三條　第一條ノ規定ニ違反シ主務大臣ノ許可ヲ受ケズシテ又ハ第十條ノ規定ニ依ル發行停止ノ命令ニ違反シテ預證券及質入證券又ハ倉荷證券ヲ發行シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　第一條ノ許可ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第三條ノ規定ニ違反シ主務大臣ニ屆出ヲ爲サズシテ事業計畫、營業規則又ハ保管料率表ヲ變更シタルトキ

二　第七條若ハ第八條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虚僞ノ報告ヲ爲シ又ハ第八條ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタルトキ

三　第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルトキ

第十五條　倉庫營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十六條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ倉庫營業者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十年勅令第二百七十九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

本法施行ノ際現ニ倉庫營業ヲ行フ者又ハ其ノ承繼人ハ本法施行ノ日ヨリ二年ヲ限リ第一條ノ規定ニ拘ラズ預證券及質入證券又ハ倉荷證券ヲ發行スルコトヲ得

前項ニ掲グル者前項ノ期間内ニ第一條ノ許可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

倉庫營業者前二項ノ規定ニ依リ預證券及質入證券又ハ倉荷證券ヲ發行シタルトキハ其ノ發行ノ日ヨリ前二項ノ期間内第七條乃至第十條、第十三條、第十四條第二號及第三號、第十五條並ニ第十六條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ第一條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

○船舶法（明治三十二年三月八日法律第四十六號）

改正　明治三八年第六八號、昭和一四年第六八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル船舶法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

船舶法

第一條　左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス

一　日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶

二　日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶

三　日本ニ本店ヲ有スル商事會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社及ヒ有限會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

四　日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

第二條　日本船舶ニ非サレハ日本ノ國籍ヲ揭クルコトヲ得ス

第三條　日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若クハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若クハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第四條　日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス

船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ囑託スルコトヲ得

外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシムルトキハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ得

第五條　日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登錄ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第六條　日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ揭ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス

第七條　日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ揭ケ且名稱、船籍港、香號、積量、喫水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス

第八條　日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條　船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其船舶ノ積量ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條　登錄シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間內ニ變更ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條　船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間內ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス船舶國籍證書カ毀損シタルトキ亦同シ

第十二條　船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間內ニ更ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス

第十三條　日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失若クハ毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ船長ハ最初ニ到著シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

前二項ノ規定ニ從ヒテ假船舶國籍證書ヲ請受クルコト能ハサルトキハ其後最初ニ到著シタル地ニ於テ之ヲ請受クルコトヲ得

第十四條　日本船舶カ滅失若クハ沈沒シタルトキ、解撤セラレタルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シ若クハ第二十條ニ揭クル船舶トナリタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間內ニ抹消ノ登錄ヲ爲シ且遲滯ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六ヶ月間分明ナラサルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ船舶所有者カ抹消ノ登錄ヲ爲ササルトキハ管海官廳ハ一ヶ月內ニ之ヲ爲スヘキコトヲ催告シ正當ノ理由ナクシテ尙其手續ヲ爲ササルトキハ職權ヲ以テ抹消ノ登錄ヲ爲スコトヲ得

第十五條　日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域內ニ船籍港ヲ定メサルトキハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十六條　外國ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十七條　外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有效期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

日本ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有效期間ハ六ヶ月ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ期間ヲ超ユルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ更ニ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十八條　船舶カ船籍港ニ到著シタルトキハ假船舶國籍證書ハ有效期間滿了前ト雖モ其效力ヲ失フ

第十九條　第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第二十條　前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶及ヒ端舟其他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第二十一條　前條ニ揭ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積量ノ測度ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條　日本船舶ニ非スシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ揭ケタルトキハ船長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但捕獲ヲ避ケントスル

目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ揭ケタルトキハ此限ニ在ラス
日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニ非サル旗章ヲ揭ケタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス

第二十四條 官吏ヲ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登錄ヲ爲サシメタル者ハ二月以上三年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ〔百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加〕ス
前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法〔未遂犯罪〕ノ例ニ依リテ處斷ス

第二十五條 第六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第七條ノ規定ニ從ヒテ日本ノ國旗ヲ揭ケサルトキハ船長ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ又ハ第八條乃至第十二條若クハ第十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ノ規定ハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ニ定メタル罪ニ付テハ刑法〔數人共犯〕ノ例ヲ適用セス

第三十條 第二十七條ノ場合ニ於テ刑法〔第七十八條乃至第八十條〕ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論スヘカラサルトキハ其法定代理人ヲ罰ス

第三十一條 第二十七條ノ規定ハ船舶管理人又ハ商事會社其他ノ法人ノ代表者若クハ清算人ニ之ヲ適用ス

第三十二條 管海官廳ノ事務ハ外國ニ在リテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官之ヲ行フ

附則

第三十三條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十四條 船舶ノ登記ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十九年法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十五條 商法第四編ノ規定ハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テセサルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス

第三十六條 明治三年正月二十七日布告商船規則、同十二年第五號布告、同年第十九號布告、同十四年第十二號布告其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ抵觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十七條 本法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ登錄ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス
前項ノ規定ニ從ヒテ船舶國籍證書ヲ請受クルマテハ登簿船免狀又ハ船鑑札ハ船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十八條 本法施行ノ際登簿船假免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキ場合ニ於テハ假免狀ハ有效期間ノ滿了ニ至ルマテハ假船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス但船舶カ籍港ニ到著シタルトキハ此限ニ在ラス
登簿船假免狀ノ有效期間カ滿了シタルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第三十九條 第十四條ノ規定ハ本法施行前ニ同條ニ揭ケタル事由カ生シタルモ未タ同登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサル場合ニ之ヲ準用ス但同條ニ定メタル二週間ノ期間ハ船舶所有者カ本法施行前ニ事實ヲ知リタルトキト雖モ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
本法施行前ニ踪跡ヲ失ヒタル船舶ニシテ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサルトキ亦同シ
前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條 本法施行前ヨリ存否カ分明ナラサル船舶ニシテ未タ舊法ノ期間カ經過セサルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル六个月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十一條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

民事訴訟法

○民事訴訟法……一
○民事訴訟法中改正法律施行法……九四
○民事訴訟費用法……九六
○民事訴訟用印紙法……九八
○民事訴訟法ニ依リ國ヲ代表スルニ付テノ規定……一〇〇
○人事訴訟手續法……一〇一
○人事訴訟手續法第一條第三項ノ住所地指定……一〇一
○人事訴訟手續法第三章ニ依リ爲スヘキ公告方法……一〇一
○非訟事件手續法……一一一
○非訟事件手續法第二條第三項ノ規定ニ依ル管轄裁判所指定……一一四
○商事非訟事件印紙法……一一四
○競賣法……一一五
○破產法……一一九
○和議法……一二五
○小作調停法……一二九
○小作調停法ノ施行期日及施行外地區指定ノ件……一二三
○小作調停ノ手數料等ニ關スル件……一二三
○借地借家調停法……一二四
○借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件(大正一一年)……一二六
○同　上(大正一四年)……一二六
○同　上(昭和一四年)……一二七
○同　上(昭和一五年)……一二七
○借地借家調停ノ手數料等ニ關スル件……一二九
○借地借家臨時處理法……一三〇
○借地借家臨時處理法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件……一三一
○人事調停法……一三一
○人事調停ノ手數料等ニ關スル件……一三三
○商事調停法……一三三
○商事調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件……一三四
○商事調停ノ手數料等ニ關スル件……一三四
○金錢債務臨時調停法……一三五
○金錢債務臨時調停ノ手數料等ニ關スル件……一三六

民事訴訟法目次

○民事訴訟法（明治二三年法律第二九號）……一
第一編　總　則……一
第一章　裁判所……一
第一節　管　轄……一
第二節　裁判所職員ノ除斥、忌避及回避……四
第二章　當事者……五
第一節　當事者能力及訴訟能力……五
第二節　共同訴訟……七
第三節　訴訟參加……七
第四節　訴訟代理人及輔佐人……九
第三章　訴訟費用……一〇
第一節　訴訟費用ノ負擔……一〇
第二節　訴訟費用ノ擔保……一三
第三節　訴訟上ノ救助……一四
第四章　訴訟手續……一五
第一節　口頭辯論……一五
第二節　期日及期間……一八
第三節　送　達……一九
第四節　裁　判……二一
第五節　訴訟手續ノ中斷及中止……二四
第二編　第一審ノ訴訟手續……二六
第一章　地方裁判所ノ訴訟手續……二六
第一節　訴……二六
第二節　辯論ノ準備……二八
第三節　證　據……二九
第一款　總　則……二九
第二款　證人訊問……三一
第三款　鑑　定……三三
第四款　書　證……三四
第五款　檢　證……三六
第六款　當事者訊問……三七
第七款　證據保全……三七
第二章　區裁判所ノ訴訟手續……三八
第三編　上　訴……三九
第一章　控　訴……三九
第二章　上　告……四二
第三章　抗　告……四四
第四編　再　審……四五
第五編　督促手續……四六
第六編　強制執行……四八

第一章　總　則……四八
第二章　金錢ノ債權ニ付テノ强制執行……五八
第一節　動產ニ對スル强制執行……五八
第一款　通　則……五八
第二款　有體動產ニ對スル强制執行……六二
第三款　債權及ヒ他ノ財產權ニ對スル强制執行……六七
第四款　配當手續……六七
第二節　不動產ニ對スル强制執行……六九
第一款　通　則……六九
第二款　强制競賣……七九
第三款　强制管理……八一
第三節　船舶ニ對スル强制執行……八一
第三章　金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ强制執行……八三
第四章　假差押及假處分……八四
第七編　公示催告手續……八七
第八編　仲裁手續……九〇
附　則……九三
○民事訴訟法中改正法律施行法（大正一五年法律第六二號）……九四
○民事訴訟費用法（明治二三年法律第六四號）……九六
○民事訴訟用印紙法（明治二三年法律第六五號）……九八
○民事訴訟法ニ依リ國ヲ代表スルニ付テノ規定（明治二四年勅令第三號）……一〇〇
○人事訴訟手續法（明治三一年法律第一三號）……一〇一
第一章　婚姻事件及ヒ養子緣組事件ニ關スル手續　一〇一
第二章　親子關係事件、相續人廢除事件及ヒ隱居事件ニ關スル手續……一〇四
第三章　禁治產及ヒ準禁治產ニ關スル手續……一〇五
第四章　失踪ニ關スル手續……一〇八
附　則……一一〇
○人事訴訟手續法第一條第三項ノ住所地指定（明治三一年司法省令第八號）……一一〇
○人事訴訟手續法第三章ニ依リ爲スヘキ公告方法（明治三一年司法省令第九號）……一一〇
○非訟事件手續法（明治三一年法律第一四號）……一一一
第一編　總　則……一一一
第二編　民事非訟事件……一一三
第一章　法人ニ關スル事件……一一三
第二章　財產ノ管理ニ關スル事件……一一三
第三章　信託ニ關スル事件……一一六
第四章　裁判上ノ代位ニ關スル事件……一一七
第五章　保存、供託、保管及ヒ鑑定ニ關スル事件　一一七

第六章　離籍、隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ親族會ニ關スル事件……一一八
第七章　相續ノ承認及ヒ拋棄ニ關スル事件……一一九
第八章　遺言ノ確認及ヒ執行……一二〇
第九章　法人及ヒ夫婦財產契約ノ登記……一二一
第三編　商事非訟事件……一二二
第一章　會社及ヒ競賣ニ關スル事件……一二二
第二章　社債ニ關スル事件……一二五
第三章　會社ノ整理ニ關スル事件……一二五
第四章　會社ノ淸算ニ關スル事件……一二八
第五章　商業登記……一三〇
第一節　通　則……一三〇
第二節　商號ノ登記……一三三
第三節　未成年者、妻及ヒ法定代理人ノ登記……一三三
第四節　支配人及ヒ會社ノ淸算人ノ登記……一三四
第五節　合名會社及ヒ合資會社ノ登記……一三四
第六節　株式會社ノ登記……一三六
第七節　株式合資會社ノ登記……一三八
第八節　有限會社ノ登記……一三九
第九節　外國會社ノ登記……一四一
附　則……一四二
○非訟事件手續法第二條第三項ノ規定ニ依ル管轄裁判所指定（大正五年司法省令第一四號）……一四三
○商事非訟事件印紙法（明治二三年法律第六六號）……一四三
○競賣法（明治三一年法律第一五號）……一四三
第一章　通　則……一四三
第二章　動產ノ競賣……一四三
第三章　不動產ノ競賣……一四五
第四章　船舶ノ競賣……一四七
第五章　增價競賣……一四七
附　則……一四八
○破產法（大正一一年法律第七一號）……一四九
第一編　實體規定……一四九
第一章　總　則……一四九
第二章　破產財團……一四九
第三章　破產債權……一五〇
第四章　財團債權……一五二
第五章　法律行爲ニ關スル破產ノ效力……一五三
第六章　否認權……一五五
第七章　取戻權……一五七
第八章　別除權……一五七
第九章　相殺權……一五八
第二編　手續規定……一五八
第一章　總　則……一五八

第二章　破產宣告……一六〇
第三章　破產管財人……一六三
第四章　監査委員……一六四
第五章　債權者集會……一六四
第六章　破產財團ノ管理及換價……一六五
第七章　破產債權ノ屆出及調査……一六九
第八章　配當……一七一
第九章　强制和議……一七四
第十章　破產廢止……一七九
第十一章　小破產……一八〇
第三編　復權……一八〇
第四編　罰則……一八一
附則……一八二
○和議法（大正一一年法律第七二號）……一八三
第一章　總則……一八三
第二章　和議ノ開始……一八四
第三章　和議債權及其ノ屆出……一八六
第四章　債權者集會……一八六
第五章　和議ノ認否……一八七
第六章　和議ノ廢止……一八八
第七章　讓步及和議ノ取消……一八八
第八章　罰則……一八八
附則……一八九
○小作調停法（大正一三年法律第一八號）……一八九
○小作調停法ノ施行期日及施行外地區指定ノ件（大正一三年勅令第二二八號）……一九〇
○小作調停ノ手數料等ニ關スル件（大正一三年勅令第二五三號）……一九三
○借地借家調停法（大正一一年法律第四一號）……一九三
○借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件（大正一一年勅令第三三八號）……一九四
○同　上（大正一四年勅令第一二六號）……一九六
○同　上（昭和一四年勅令第八六五號）……一九六
○同　上（昭和一五年勅令第六二二號）……一九七
○借地借家調停ノ手數料等ニ關スル件（大正一一年勅令第三三九號）……一九七
○借地借家臨時處理法（大正一三年法律第一六號）……一九九
○借地借家臨時處理法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件（大正一三年勅令第一七四號）……二〇〇
○人事調停法（昭和一四年法律第一一號）……二〇二
○人事調停ノ手數料等ニ關スル件（昭和一四年勅令第三六三號）……二〇二
○商事調停法（大正一五年法律第四二號）……二〇三

○商事調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件（大正一五年勅令第三二二號）……二〇四
○商事調停ノ手數料等ニ關スル件（大正一五年勅令第三二三號）……二〇四
○金錢債務臨時調停法（昭和七年法律第二六號）……二〇五
○金錢債務臨時調停ノ手數料等ニ關スル件（昭和七年勅令第二五一號）……二〇六

○民事訴訟法（明治二十三年四月二十一日法律第二十九號）

改正　大正一五年第六一號、昭和六年第一七號、昭和一〇年第一五號、昭和一三年第一九號、昭和一六年第五七號

朕民事訴訟法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム　此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スベキコトヲ命ス

民事訴訟法中改正法律（大正十五年四月二十四日法律第六十一號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル民事訴訟法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

民事訴訟法中左ノ通改正ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年勅令第百五號ヲ以テ昭和四年十月一日ヨリ施行）

第一編　總則

第一章　裁判所

第一節　管轄

第一條　訴ハ被告ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二條　人ノ普通裁判籍ハ住所ニ依リテ定ル

日本ニ住所ナキトキ又ハ住所ノ知レサルトキハ普通裁判籍ハ居所ニ依リ、居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所ニ依リテ定ル

第三條　大使、公使其ノ他外國ニ在リテ治外法權ヲ享クル日本人カ前條ノ規定ニ依リ普通裁判籍ヲ有セサルトキハ其ノ者ノ普通裁判籍ハ東京市ニ在ルモノトス

第四條　法人其ノ他ノ社團又ハ財團ノ普通裁判籍ハ其ノ主タル事務所又ハ營業所ニ依リ、事務所又ハ營業所ナキトキハ主タル業務擔當者ノ住所ニ依リテ定ル

國ノ普通裁判籍ハ訴訟ニ付國ヲ代表スル官廳ノ所在地ニ依リテ定ル

第一項ノ規定ハ外國ノ社團又ハ財團ノ普通裁判籍ニ付テハ日本ニ於ケル事務所、營業所又ハ業務擔當者ニ之ヲ適用ス

第五條　財產權上ノ訴ハ義務履行地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第六條　寄留者ニ對スル財產權上ノ訴ハ寄留地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第七條　軍人、軍屬又ハ船員ニ對スル財產權上ノ訴ハ軍事用ノ廳舍ノ所在地又ハ艦船ノ本籍若ハ船籍ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第八條　日本ニ住所ナキ者又ハ住所ノ知レサル者ニ對スル財產權上ノ訴ハ請求若ハ其ノ擔保ノ目的又ハ差押フルコトヲ得ヘキ被告ノ財產ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第九條　事務所又ハ營業所ヲ有スル者ニ對スル訴ハ其ノ事務所又ハ營業所ニ於ケル業務ニ關スルモノニ限リ其ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十條　船舶又ハ航海ニ關シ船舶所有者其ノ他船舶ノ利用ヲ爲ス者ニ對スル訴ハ船籍ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十一條　船舶債權其ノ他船舶ヲ以テ擔保スル債權ニ基ク訴ハ船舶ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十二條　會社其ノ他ノ社團ヨリ社員ニ對スル訴又ハ社員ヨリ社員ニ對スル訴ハ社員タル資格ニ基クモノニ限リ會社其ノ他ノ社團ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ規定ハ社團又ハ財團ヨリ役員ニ對スル訴及會社ヨリ發起人又ハ檢査役ニ對スル訴ニ之ヲ準用ス

第十三條　會社其ノ他ノ社團ノ債權者ヨリ社員ニ對スル訴ハ社員タル資格ニ基クモノニ限リ前條ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十四條　第十二條及前條ノ規定ハ社團、財團、社員又ハ社團ノ債權者ヨリ社員、役員、發起人又ハ檢査役タリシ者ニ對スル訴及社員タリシ者ヨリ社員ニ對スル訴ニ之ヲ準用ス

第十五條　不法行爲ニ關スル訴ハ其ノ行爲アリタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

船舶ノ衝突其ノ他海上ノ事故ニ基ク損害賠償ノ訴ハ損害ヲ受ケタル船舶カ最初ニ到達シタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十六條　海難救助ニ關スル訴ハ救助アリタル地又ハ救助セラレタル船舶カ最初ニ到達シタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十七條　不動產ニ關スル訴ハ不動產所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十八條　登記又ハ登錄ニ關スル訴ハ登記又ハ登錄ヲ爲スヘキ地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十九條　相續權ニ關スル訴又ハ遺留分若ハ遺贈其ノ他死亡ニ因リテ效力ヲ生スヘキ行爲ニ關スル訴ハ相續開始ノ時ニ於ケル被相續人ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第二十條　相續債權其ノ他相續財產ノ負擔ニ關スル訴ニシテ前條ノ規定ニ該當セサルモノハ相續財產ノ全部又ハ一部カ前條ノ裁判所ノ管轄區域內ニ在ルトキニ限リ其ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第二十一條　一ノ訴ヲ以テ數個ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ第一條乃至前條ノ規定ニ依リ一ノ請求ニ付管轄權ヲ有スル裁判所ニ其ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二十二條　裁判所構成法ニ依リ管轄カ訴訟ノ目的ノ價額ニ依リテ定ルトキハ其ノ價額ハ訴ヲ以テ主張スル利益ニ依リテ之ヲ算定ス

前項ノ價額ヲ算定スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ハ千圓ヲ超過スルモノト看做ス

第二十三條　一ノ訴ヲ以テ數個ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ價額ヲ合算ス

果實、損害賠償、違約金又ハ費用ノ請求カ訴訟ノ附帶ノ目的ナルトキハ其ノ價額ハ之ヲ訴訟ノ目的ノ價額ニ算入セス

第二十四條　左ノ場合ニ於テハ關係アル裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ管轄裁判所ヲ定ム

一　管轄裁判所及裁判所構成法第十三條第二項ノ規定ニ依リテ之ニ代ルヘキ裁判所カ法律上又ハ事實上裁判權ヲ行フコト能ハサルトキ

二　裁判所ノ管轄區域明確ナラサル爲管轄裁判所カ定ラサルトキ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二十五條　當事者ハ第一審ニ限リ合意ニ依リ管轄裁判所ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ合意ハ一定ノ法律關係ニ基ク訴ニ關シ且書面ヲ以テ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效ナシ

第二十六條　被告カ第一審裁判所ニ於テ管轄違ノ抗辯ヲ提出セスシテ本案ニ付辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ其ノ裁判所ハ管轄權ヲ有ス

第二十七條　第一條、第五條乃至第二十一條、第二十五條及前條ノ規定ハ訴ニ付專屬管轄ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十八條　裁判所ハ管轄ニ關スル事項ニ付職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得

第二十九條　裁判所ノ管轄ハ起訴ノ時ヲ標準トシテ之ヲ定ム

第三十條　裁判所ハ訴訟ノ全部又ハ一部カ其ノ管轄ニ屬セスト認ムルトキハ決定ヲ以テ之ヲ管轄裁判所ニ移送ス

第三十一條　裁判所ハ其ノ管轄ニ屬スル訴訟ニ付著キ損害又ハ遲滯ヲ避クル爲必要アリト認ムルトキハ其

ノ專屬管轄ニ屬スルモノヲ除クノ外申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ訴訟ノ全部又ハ一部ヲ他ノ管轄裁判所ニ移送スルコトヲ得

第三十二條　移送ノ裁判ハ移送ヲ受ケタル裁判所ヲ羈束ス

移送ヲ受ケタル裁判所ハ更ニ事件ヲ他ノ裁判所ニ移送スルコトヲ得ス

第三十三條　移送ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

移送ノ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三十四條　移送ノ裁判確定シタルトキハ訴訟ハ初ヨリ移送ヲ受ケタル裁判所ニ繫屬シタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ移送ノ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ書記ハ其ノ裁判ノ正本ヲ訴訟記錄ニ添附シ移送ヲ受ケタル裁判所ノ書記ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス

第二節　裁判所職員ノ除斥、忌避及回避

第三十五條　判事ハ左ノ場合ニ於テハ法律上其ノ職務ノ執行ヨリ除斥セラル

判事又ハ其ノ妻若ハ妻タリシ者カ事件ノ當事者ナルトキ又ハ事件ニ付當事者ト共同權利者、共同義務者若ハ償還義務者タル關係ヲ有スルトキ

一　判事カ當事者ノ四親等內ノ血族若ハ三親等內ノ姻族ナルトキ又ハナリシトキ

三　判事カ當事者ノ後見人、後見監督人、保佐人又ハ戶主若ハ家族ナルトキ

四　判事カ事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

五　判事カ事件ニ付當事者ノ代理人又ハ輔佐人ナルトキ又ハナリシトキ

六　判事カ事件ニ付仲裁判斷ニ關與シ又ハ不服ヲ申立テラレタル前審ノ裁判ニ關與シタルトキ但シ他ノ裁判所ノ囑託ニ因リ受託判事トシテ其ノ職務ヲ行フコトヲ妨ケス

第三十六條　除斥ノ原因アルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ除斥ノ裁判ヲ爲ス

第三十七條　判事ニ付裁判ノ公正ヲ妨クヘキ事情アルトキハ當事者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

當事者カ判事ノ面前ニ於テ辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ其ノ判事ヲ忌避スルコトヲ得ス但シ忌避ノ原因カ其ノ後ニ生シ又ハ當事者カ其ノ原因アルコトヲ知ラサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條　第三十六條又ハ前條ニ規定スル申立ハ其ノ原因ヲ開示シテ判事所屬ノ裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

除斥又ハ忌避ノ原因ハ申立ヲ爲シタル日ヨリ三日內ニ之ヲ疏明スルコトヲ要ス前條第二項但書ノ事實亦同シ

第三十九條　合議裁判所ノ判事ノ除斥又ハ忌避ニ付テハ其ノ裁判所、區裁判所ノ判事ノ除斥又ハ忌避ニ付テハ其ノ裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

第四十條　判事ハ其ノ除斥又ハ忌避ニ付裁判ニ關與スルコトヲ得ス但シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十一條　除斥又ハ忌避ヲ理由アリトスル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス之ヲ理由ナシトスル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十二條　除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ其ノ申立ニ付テノ裁判ノ確定ニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スルコトヲ要ス但シ急速ヲ要スル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條　第三十五條及第三十七條第一項ノ場合ニ於テハ判事ハ監督權アル判事ノ許可ヲ得テ回避スルコトヲ得

第四十四條　本節ノ規定ハ裁判所書記ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ裁判ハ書記所屬ノ裁判所之ヲ爲ス

第二章　當事者

第一節　當事者能力及訴訟能力

第四十五條　當事者能力、訴訟能力及訴訟無能力者ノ法定代理ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外民法其ノ他ノ法令ニ從フ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權亦同シ

第四十六條　法人ニ非サル社團又ハ財團ニシテ代表者又ハ管理人ノ定アルモノハ其ノ名ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルルコトヲ得

第四十七條　共同ノ利益ヲ有スル多數者ニシテ前條ノ規定ニ該當セサルモノハ其ノ中ヨリ總員ノ爲ニ原告若ハ被告ト爲ルヘキ一人若ハ數人ヲ選定シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ得

訴訟ノ繫屬ノ後前項ノ規定ニ依リテ原告又ハ被告ト爲ルヘキ者ヲ定メタルトキハ他ノ當事者ハ當然訴訟ヨリ脫退ス

第四十八條　前條ノ規定ニ依リテ選定セラレタル當事

者中死亡其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ資格ヲ喪失シタル者アルトキハ他ノ當事者ニ於テ總員ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第四十九條　未成年者及禁治産者ハ法定代理人ニ依リテノミ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得但シ未成年者カ獨立シテ法律行爲ヲ爲スコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十條　準禁治産者、妻又ハ法定代理人カ相手方ノ提起シタル訴又ハ上訴ニ付訴訟行爲ヲ爲スニハ保佐人ノ同意、夫ノ許可又ハ親族會ノ同意其ノ他ノ授權ヲ要セス

準禁治産者、妻又ハ法定代理人カ訴、控訴若ハ上告ノ取下、和解、請求ノ拋棄若ハ認諾又ハ第七十二條ノ規定ニ依ル脫退ヲ爲スニハ常ニ特別ノ授權アルコトヲ要ス

第五十一條　外國人ハ其ノ本國法ニ依レハ訴訟能力ヲ有セサルトキト雖日本ノ法律ニ依レハ訴訟能力ヲ有スヘキトキハ之ヲ訴訟能力者ト看做ス

第五十二條　法定代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス第四十七條ノ規定ニ依ル當事者ノ選定及變更亦同シ

前項ノ書面ハ訴訟記錄ニ之ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十三條　訴訟能力、法定代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アルトキハ裁判所ハ期間ヲ定メテ其ノ補正ヲ命シ若遲滯ノ爲損害ヲ生スル虞アルトキハ一時訴訟行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十四條　訴訟能力、法定代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アル者カ爲シタル訴訟行爲ハ其ノ欠缺ナキニ至リタル當事者又ハ法定代理人ノ追認ニ因リ行爲ノ時ニ遡リテ其ノ效力ヲ生ス

第五十五條　第五十三條及前條ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依ル當事者カ訴訟行爲ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條　法定代理人ナキ場合又ハ法定代理人カ代理權ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ未成年者又ハ禁治産者ニ對シ訴訟行爲ヲ爲サムトスル者ハ遲滯ノ爲損害ヲ受クル虞アルコトヲ疏明シテ受訴裁判所ノ裁判長ニ特別代理人ノ選任ヲ申請スルコトヲ得

裁判所ハ何時ニテモ特別代理人ヲ改任スルコトヲ得

特別代理人カ訴訟行爲ヲ爲スニハ後見人ト同一ノ授權アルコトヲ要ス

特別代理人ノ選任及改任ノ命令ハ特別代理人ニモ之ヲ送達スルコトヲ要ス

第五十七條　法定代理權ノ消滅ハ本人又ハ代理人ヨリ之ヲ相手方ニ通知スルニ非サレハ其ノ效ナシ

前項ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依ル當事者ノ變更ニ之ヲ準用ス

第五十八條　本法中法定代理及法定代理人ニ關スル規定ハ法人ノ代表者及法人ニ非スシテ其ノ名ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルルコトヲ得ル社團又ハ財團ノ代表者又ハ管理人ニ之ヲ準用ス

第二節　共同訴訟

第五十九條　訴訟ノ目的タル權利又ハ義務カ數人ニ付共通ナルトキ又ハ同一ノ事實上及法律上ノ原因ニ基クトキハ其ノ數人ハ共同訴訟人トシテ訴ヘ又ハ訴ヘラルルコトヲ得訴訟ノ目的タル權利又ハ義務カ同種ニシテ事實上及法律上同種ノ原因ニ基クトキ亦同シ

第六十條　他人間ノ訴訟ノ目的ノ全部又ハ一部ヲ自己ノ爲ニ請求スル者ハ其ノ訴訟ノ繫屬中當事者雙方ヲ共同被告トシ第一審ノ受訴裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條　共同訴訟人ノ一人ノ訴訟行爲又ハ之ニ對スル相手方ノ訴訟行爲及其ノ一人ニ付生シタル事項ハ他ノ共同訴訟人ニ影響ヲ及ホサス

第六十二條　訴訟ノ目的カ共同訴訟人ノ全員ニ付合一ニノミ確定スヘキ場合ニ於テハ其ノ一人ノ訴訟行爲ハ全員ノ利益ニ於テノミ其ノ效力ヲ生ス

共同訴訟人ノ一人ニ對スル相手方ノ訴訟行爲ハ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ生ス

共同訴訟人ノ一人ニ付訴訟手續ノ中斷又ハ中止ノ原因アルトキハ其ノ中斷又ハ中止ハ全員ニ付其ノ效力ヲ生ス

第六十三條　第五十條第一項ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ於テ共同訴訟人ノ一人カ提起シタル上訴ニ付他ノ共同訴訟人ノ爲スヘキ訴訟行爲ニ之ヲ準用ス

第三節　訴訟參加

第六十四條　訴訟ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル第三者ハ其ノ訴訟ノ繫屬中當事者ノ一方ヲ補助スル爲訴訟ニ參加スルコトヲ得

第六十五條　參加ノ申出ハ參加ノ趣旨及理由ヲ具シ參加ニ依リテ訴訟行爲ヲ爲スヘキ裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

書面ニ依リテ參加ノ申出ヲ爲シタル場合ニ於テハ其

ノ書面ハ之ヲ當事者雙方ニ送達スルコトヲ要ス

參加ノ申出ハ參加人トシテ爲シ得ル訴訟行爲ト共ニ之ヲ爲スコトヲ得

第六十六條　當事者カ參加ニ付異議ヲ述ヘタルトキハ參加ノ理由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ參加ノ許否ニ付決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十七條　當事者カ參加ニ付異議ヲ述ヘスシテ辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ異議ヲ述フル權利ヲ失フ

第六十八條　參加人ハ參加ニ付異議アル場合ニ於テモ參加ヲ許ササル裁判確定セサル間ハ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

參加人ノ訴訟行爲ハ當事者カ之ヲ援用シタルトキハ參加ヲ許ササル裁判確定シタル場合ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第六十九條　參加人ハ訴訟ニ付攻擊又ハ防禦ノ方法ノ提出、異議ノ申立、上訴ノ提起其ノ他一切ノ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得但シ參加ノ時ニ於ケル訴訟ノ程度ニ從ヒ爲スコトヲ得サルモノハ此ノ限ニ在ラス

參加人ノ訴訟行爲カ被參加人ノ訴訟行爲ト牴觸スルトキハ其ノ效力ヲ有セス

第七十條　前條ノ規定ニ依リテ參加人カ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得ス又ハ其ノ訴訟行爲カ效力ヲ有セサリシ場合、被參加人カ參加人ノ訴訟行爲ヲ妨ケタル場合及被參加人カ參加人ノ爲スコト能ハサル訴訟行爲ヲ故意又ハ過失ニ因リテ爲ササリシ場合ヲ除クノ外裁判ハ參加人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七十一條　訴訟ノ結果ニ因リテ權利ヲ害セラルヘキコトヲ主張スル第三者又ハ訴訟ノ目的ノ全部若ハ一部カ自己ノ權利ナルコトヲ主張スル第三者ハ當事者トシテ訴訟ニ參加スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十二條及第六十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十二條　前條ノ規定ニ依リ自己ノ權利ヲ主張スル爲訴訟ニ參加シタル者アル場合ニ於テハ參加前ノ原告又ハ被告ハ相手方ノ承諾ヲ得テ訴訟ヨリ脫退スルコトヲ得但シ判決ハ脫退シタル當事者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七十三條　訴訟ノ繫屬中其ノ訴訟ノ目的タル權利ノ全部又ハ一部ヲ讓受ケタルコトヲ主張シ第七十一條ノ規定ニ依リテ訴訟參加ヲ爲シタルトキハ其ノ參加

ハ訴訟ノ繫屬ノ初ニ遡リテ時效ノ中斷又ハ法律上ノ期間遵守ノ效力ヲ生ス

第七十四條　訴訟ノ繫屬中第三者カ其ノ訴訟ノ目的タル債務ヲ承繼シタルトキハ裁判所ハ當事者ノ申立ニ因リ其ノ第三者ヲシテ訴訟ヲ引受ケシムルコトヲ得

裁判所ハ前項ノ規定ニ依リテ決定ヲ爲ス前當事者及第三者ヲ審訊スルコトヲ要ス

第七十二條ノ規定中脫退及判決ノ效力ニ關スルモノハ第一項ノ規定ニ依リテ訴訟ノ引受アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十五條　訴訟ノ目的カ當事者ノ一方及第三者ニ付合一ニノミ確定スヘキ場合ニ於テハ其ノ第三者ハ共同訴訟人トシテ訴訟ニ參加スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十六條　當事者ハ訴訟ノ繫屬中參加ヲ爲スコトヲ得ル第三者ニ其ノ訴訟ノ告知ヲ爲スコトヲ得

訴訟告知ヲ受ケタル者ハ更ニ訴訟告知ヲ爲スコトヲ得

第七十七條　訴訟告知ハ理由及訴訟ノ程度ヲ記載シタル書面ヲ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ書面ハ相手方ニモ之ヲ送達スルコトヲ要ス

第七十八條　訴訟告知ヲ受ケタル者カ參加セサリシ場合ニ於テモ第七十條ノ規定ノ適用ニ付テハ參加スルコトヲ得ヘカリシ時ニ參加シタルモノト看做ス

第四節　訴訟代理人及輔佐人

第七十九條　法令ニ依リテ裁判上ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ外辯護士ニ非サレハ訴訟代理人タルコトヲ得ス但シ區裁判所ニ於テハ許可ヲ得テ辯護士ニ非サル者ヲ訴訟代理人ト爲スコトヲ得

前項ノ許可ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第八十條　訴訟代理人ノ權限ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス

前項ノ書面カ私文書ナルトキハ裁判所ハ當該吏員ノ認證ヲ受クヘキ旨ヲ訴訟代理人ニ命スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ當事者カ口頭ヲ以テ訴訟代理人ヲ選任シ裁判所書記カ調書ニ其ノ陳述ヲ記載シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第八十一條　訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反訴、參加、强制執行、假差押及假處分ニ關スル訴訟行爲ヲ爲シ且辨濟ヲ受領スルコトヲ得

左ニ掲クル事項ニ付テハ特別ノ委任ヲ受クルコトヲ

要ス

一　反訴ノ提起

二　訴ノ取下、和解、請求ノ拋棄若ハ認諾又ハ第七十二條ノ規定ニ依ル脫退

三　控訴、上告又ハ其ノ取下

四　代理人ノ選任

訴訟代理權ハ之ヲ制限スルコトヲ得ス但シ辯護士ニ非サル訴訟代理人ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條　前條ノ規定ハ法令ニ依リテ裁判上ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ權限ヲ妨ケス

第八十三條　數人ノ訴訟代理人アルトキハ各自當事者ヲ代理ス

當事者カ前項ノ規定ニ異ル定ヲ爲スモ其ノ效力ヲ生セス

第八十四條　訴訟代理人ノ事實上ノ陳述ハ當事者カ直ニ之ヲ取消シ又ハ更正シタルトキハ其ノ效力ヲ生セス

第八十五條　訴訟代理權ハ當事者ノ死亡若ハ訴訟能力ノ喪失、當事者タル法人ノ合併ニ因ル消滅、當事者タル受託者ノ信託ノ任務終了又ハ法定代理人ノ死亡、訴訟能力ノ喪失若ハ代理權ノ消滅、變更ニ因リテ消滅セス

第八十六條　一定ノ資格ヲ有スル者ニシテ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲訴訟ノ當事者タルモノノ訴訟代理人ノ代理權ハ當事者ノ資格ノ喪失ニ因リテ消滅セス

前項ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依リテ選定セラレタル當事者カ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十七條　第五十二條第二項、第五十三條、第五十四條及第五十七條ノ規定ハ訴訟代理ニ之ヲ準用ス

第八十八條　當事者又ハ訴訟代理人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ輔佐人ト共ニ出頭スルコトヲ得此ノ許可ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

輔佐人ノ陳述ハ當事者又ハ訴訟代理人カ直ニ之ヲ取消シ又ハ更正セサルトキハ自ラ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三章　訴訟費用

第一節　訴訟費用ノ負擔

第八十九條　訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第九十條　裁判所ハ事情ニ從ヒ勝訴ノ當事者ヲシテ其ノ權利ノ伸張若ハ防禦ニ必要ナラサル行爲ニ因リテ生シタル訴訟費用又ハ訴訟ノ程度ニ於テ相手方ノ權利ノ伸張若ハ防禦ニ必要ナリシ行爲ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ヘタル當事者トノ間ニ於ケル負擔ニ關シ之ヲ準用ス參加ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト相手方トノ間ニ於ケル負擔ニ付亦同シ

第九十一條　當事者カ適當ノ時期ニ攻擊若ハ防禦ノ方法ヲ提出セサル爲又ハ期日若ハ期間ノ懈怠其ノ他當事者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ訴訟ヲ遲滯セシメタルトキハ裁判所ハ之ヲシテ其ノ勝訴ノ場合ニ於テモ遲滯ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十二條　一部敗訴ノ場合ニ於テ各當事者ノ負擔スヘキ訴訟費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム但シ事情ニ從ヒ當事者ノ一方ヲシテ訴訟費用ノ全部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十三條　共同訴訟人ハ平等ノ割合ヲ以テ訴訟費用ヲ負擔ス但シ裁判所ハ事情ニ從ヒ共同訴訟人ヲシテ連帶シテ訴訟費用ヲ負擔セシメ又ハ他ノ方法ニ依リ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

裁判所ハ前項ノ規定ニ拘ラス權利ノ伸張又ハ防禦ニ必要ナラサル行爲ヲ爲シタル當事者ヲシテ其ノ行爲ニ因リテ生シタル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十四條　第八十九條乃至前條ノ規定ハ當事者カ參加ニ付異議ヲ述ヘタル場合ニ於テハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ヘタル當事者トノ間ニ於ケル負擔ニ關シ之ヲ準用ス參加ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト相手方トノ間ニ於ケル負擔ニ付亦同シ

第九十五條　裁判所ハ事件ヲ完結スル裁判ニ於テ職權ヲ以テ其ノ審級ニ於ケル訴訟費用ノ全部ニ付裁判ヲ爲スコトヲ要ス但シ事情ニ從ヒ事件ノ一部又ハ中間ノ爭ニ關スル裁判ニ於テ其ノ費用ノ裁判ヲ爲スコトヲ得

第九十六條　上級裁判所カ本案ノ裁判ヲ變更スル場合ニ於テハ訴訟ノ總費用ニ付裁判ヲ爲スコトヲ要ス事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所カ其ノ事件ヲ完結スル裁判ヲ爲ス場合亦同シ

第九十七條　當事者カ裁判所ニ於テ和解ヲ爲シタル場合ニ於テ和解ノ費用及訴訟費用ノ負擔ニ付別段ノ定ヲ爲ササルトキハ其ノ費用ハ各自之ヲ負擔ス

第九十八條　法定代理人、訴訟代理人、裁判所書記又ハ執達吏カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ無益ナル費用ヲ生セシメタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ此等ノ者ニ對シ其ノ費用額ノ償還ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ハ法定代理人又ハ訴訟代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者カ其ノ代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權アルコトヲ證明スルコト能ハス又ハ追認ヲ得サリシ場合ニ於テ其ノ訴訟行爲ニ因リテ生シタル訴訟費用ニ之ヲ準用ス

前二項ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第九十九條　裁判所カ前條第二項ノ場合ニ於テ訴ヲ却下シタルトキハ訴訟費用ハ代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者ノ負擔トス

第百條　裁判所カ訴訟費用ノ負擔ヲ定ムル裁判ニ於テ其ノ額ヲ定メサルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ其ノ裁判カ執行力ヲ生シタル後申立ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ定ム

訴訟費用額ノ確定ヲ求ムル申立ヲ爲スニハ費用計算書及其ノ謄本竝費用額ノ疏明ニ必要ナル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第一項ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百一條　裁判所ハ訴訟費用額ヲ定ムル決定ヲ爲ス前相手方ニ費用計算書ノ謄本ヲ交付シ陳述ヲ爲スヘキ旨竝一定ノ期間內ニ費用計算書及費用額ノ疏明ニ必要ナル書面ヲ提出スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

相手方カ期間內ニ前項ノ書面ヲ提出セサルトキハ裁判所ハ申立人ノ費用ノミニ付裁判ヲ爲スコトヲ得但シ相手方ノ費用額ノ確定ヲ求ムル申立ヲ妨ケス

第百二條　裁判所カ訴訟費用額ヲ定ムル裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ前條第二項ノ場合ヲ除クノ外各當事者ノ負擔スヘキ費用ハ其ノ對當額ニ付相殺アリタルモノト看做ス

第百三條　第九十七條ノ場合ニ於テ當事者カ訴訟費用ノ負擔ヲ定メ其ノ額ヲ定メサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ其ノ額ヲ定ムルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第百條第二項第三項、第百一條及前條ノ規定ヲ準用ス

第百四條　前條ノ場合ヲ除クノ外訴訟カ裁判ニ因ラスシテ完結シタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ訴訟費用ノ額ヲ定メ且其ノ負擔ヲ命スルコトヲ要ス參加又ハ之ニ付テノ異議ノ取下アリタルトキ亦同シ

第八十九條乃至第九十四條、第百條第二項第三項、第百一條及第百二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百五條　裁判所ハ裁判所書記ヲシテ訴訟費用額ノ計算ヲ爲サシムルコトヲ得

第百六條　費用ヲ要スル行爲ニ付テハ裁判所ハ當事者ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

當事者カ裁判所ノ命ニ從ヒ費用ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ前項ノ行爲ヲ爲ササルコトヲ得

第二節　訴訟費用ノ擔保

第百七條　原告カ日本ニ住所、事務所及營業所ヲ有セサルトキハ裁判所ハ被告ノ申立ニ因リ訴訟費用ノ擔保ヲ供スヘキコトヲ原告ニ命スルコトヲ要ス擔保ニ不足ヲ生シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ請求ノ一部ニ付爭ナキ場合ニ於テ其ノ額カ擔保ニ十分ナルトキハ之ヲ適用セス

第百八條　擔保ヲ供スヘキ事由アルコトヲ知リタル後被告カ本案ニ付辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ擔保ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第百九條　擔保ノ申立ヲ爲シタル被告ハ原告カ擔保ヲ供スル迄應訴ヲ拒ムコトヲ得

第百十條　裁判所ハ擔保ヲ供スヘキコトヲ命スル決定ニ於テ擔保額及擔保ヲ供スヘキ期間ヲ定ムルコトヲ要ス

擔保額ハ被告カ各審ニ於テ支出スヘキ費用ノ總額ヲ標準トシテ之ヲ定ム

第百十一條　擔保ノ申立ニ關スル裁判ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百十二條　擔保ヲ供スルニハ金錢又ハ裁判所カ相當ト認ムル有價證券ヲ供託スルコトヲ要ス但シ當事者カ別段ノ契約ヲ爲シタルトキハ其ノ契約ニ依ル

第百十三條　被告ハ訴訟費用ニ付前條ノ規定ニ依リテ供託シタル金錢又ハ有價證券ノ上ニ質權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第百十四條　原告カ擔保ヲ供スヘキ期間內ニ之ヲ供セサルトキハ裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ訴ヲ却下スルコトヲ得但シ判決前擔保ヲ供シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百十五條　擔保ヲ供シタル者カ擔保ノ事由止ミタルコトヲ證明シタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ擔保取消ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

擔保ヲ供シタル者カ擔保取消ニ付擔保權利者ノ同意ヲ得タルコトヲ證明シタルトキ亦前項ニ同シ

訴訟ノ完結後裁判所カ擔保ヲ供シタル者ノ申立ニ因リ擔保權利者ニ對シ一定ノ期間內ニ其ノ權利ヲ行使スヘキ旨ヲ催告シ擔保權利者カ其ノ行使ヲ爲ササルトキハ擔保取消ニ付擔保權利者ノ同意アリタルモノ

ト看做ス

第一項及第二項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百十六條　裁判所ハ擔保ヲ供シタル者ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ供託シタル擔保物ノ變換ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ハ供託シタル擔保ヲ契約ニ因リテ他ノ擔保ニ變換スルコトヲ妨ケス

第百十七條　第百九條、第百十條第一項及第百十一條乃至前條ノ規定ハ他ノ法令ニ依リテ訴ノ提起ニ付供スヘキ擔保ニ之ヲ準用ス

第三節　訴訟上ノ救助

第百十八條　訴訟費用ヲ支拂フ資力ナキ者ニ對シテハ裁判所ハ申立ニ因リ訴訟上ノ救助ヲ與フルコトヲ得但シ勝訴ノ見込ナキニ非サルトキニ限ル

第百十九條　訴訟上ノ救助ハ各審ニ於テ之ヲ與フ

救助ノ事由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス

第百二十條　訴訟上ノ救助ハ訴訟及强制執行ニ付左ノ效力ヲ生ス

一　裁判費用ノ支拂ノ猶豫

二　執達吏及裁判所ニ於テ附添ヲ命シタル辯護士ノ報酬及立替金ノ支拂ノ猶豫

三　訴訟費用ノ擔保ノ免除

第百二十一條　訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル者ノ爲ニノミ其ノ效力ヲ有ス

裁判所ハ訴訟ノ承繼人ニ對シ猶豫シタル費用ノ支拂ヲ命ス

第百二十二條　訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者カ訴訟費用ノ支拂ヲ爲ス資力ヲ有スルコト判明シ又ハ之ヲ有スルニ至リタルトキハ訴訟記錄ノ存スル裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ救助ヲ取消シ猶豫シタル訴訟費用ノ支拂ヲ命スルコトヲ得

第百二十三條　訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ニ支拂ヲ猶豫シタル費用ハ其ノ負擔ヲ命セラレタル相手方ヨリ直接ニ之ヲ取立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テ辯護士又ハ執達吏ハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ有スル債務名義ニ依リ報酬及立替金ニ付費用額ヲ定ムル申立及强制執行ヲ爲スコトヲ得

辯護士又ハ執達吏ハ報酬及立替金ニ付當事者ニ代リ第百三條又ハ第百四條ノ裁判ヲ求ムル申立ヲ爲スコトヲ得

第百二十四條　本節ニ規定スル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四章　訴訟手續

第一節　口頭辯論

第百二十五條　當事者ハ訴訟ニ付裁判所ニ於テ口頭辯論ヲ爲スコトヲ要ス但シ決定ヲ以テ完結スヘキ事件ニ付テハ裁判所口頭辯論ヲ爲スヘキカ否ヲ定ム

前項但書ノ規定ニ依リテ口頭辯論ヲ爲ササル場合ニ於テハ裁判所ハ當事者ヲ審訊スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第百二十六條　口頭辯論ハ裁判長之ヲ指揮ス

裁判長ハ發言ヲ許シ又ハ其ノ命ニ從ハサル者ニ發言ヲ禁スルコトヲ得

第百二十七條　裁判長ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲事實上及法律上ノ事項ニ關シ當事者ニ對シテ問ヲ發シ又ハ立證ヲ促スコトヲ得

陪席判事ハ裁判長ニ告ケテ前項ニ規定スル處置ヲ爲スコトヲ得

當事者ハ裁判長ニ對シ必要ナル發問ヲ求ムルコトヲ得

第百二十八條　裁判長ハ前條ノ規定ニ依リテ當事者ヲシテ釋明セシムヘキ事項ヲ指示シ口頭辯論期日前準備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第百二十九條　當事者カ辯論ノ指揮ニ關スル裁判長ノ命又ハ第百二十七條若ハ前條ノ規定ニ依ル裁判長若ハ陪席判事ノ處置ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキハ裁判所決定ヲ以テ其ノ異議ニ付裁判ヲ爲ス

第百三十條　受命判事ヲシテ其ノ職務ヲ行ハシムヘキ場合ニ於テハ裁判長其ノ判事ヲ指定ス

裁判所ノ爲ス囑託ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判長之ヲ爲ス

第百三十一條　裁判所ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　當事者本人又ハ其ノ法定代理人ノ出頭ヲ命スルコト

二　訴訟書類又ハ訴訟ニ於テ引用シタル文書其ノ他ノ物件ニシテ當事者ノ所持スルモノヲ提出セシムルコト

三　當事者又ハ第三者ノ提出シタル文書其ノ他ノ物件ヲ裁判所ニ留置クコト

四　檢證ヲ爲シ又ハ鑑定ヲ命スルコト

五　必要ナル調査ヲ囑託スルコト

前項ニ規定スル檢證、鑑定及調査ノ囑託ニ付テハ證據調ニ關スル規定ヲ準用ス

第百三十二條　裁判所ハ口頭辯論ノ制限、分離若ハ併合ヲ命シ又ハ其ノ命ヲ取消スコトヲ得

第百三十三條　裁判所ハ終結シタル口頭辯論ノ再開ヲ命スルコトヲ得

第百三十四條　辯論ニ與ル者カ日本語ニ通セサルトキ又ハ聾若ハ啞ナルトキハ通事ヲ立會ハシム但シ聾者又ハ啞者ニハ文字ヲ以テ問ヒ又ハ陳述ヲ爲サシムルコトヲ得

鑑定人ニ關スル規定ハ通事ニ之ヲ準用ス

第百三十五條　裁判所ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナル陳述ヲ爲スコト能ハサル當事者、代理人又ハ輔佐人ノ陳述ヲ禁シ辯論續行ノ爲新期日ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ陳述ヲ禁シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ辯護士ノ附添ヲ命スルコトヲ得

訴訟代理人ノ陳述ヲ禁シ又ハ辯護士ノ附添ヲ命シタルトキハ本人ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第百三十六條　裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス和解ヲ試ミ又ハ受命判事若ハ受託判事ヲシテ之ヲ試ミシムルコトヲ得

裁判所又ハ受命判事若ハ受託判事ハ和解ノ爲當事者本人又ハ其ノ法定代理人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

第百三十七條　攻擊又ハ防禦ノ方法ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外口頭辯論ノ終結ニ至ル迄之ヲ提出スルコトヲ得

第百三十八條　原告又ハ被告カ最初ニ爲スヘキ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ本案ノ辯論ヲ爲ササルトキハ其ノ者ノ提出シタル訴狀、答辯書其ノ他ノ準備書面ニ記載シタル事項ハ之ヲ陳述シタルモノト看做シ出頭シタル相手方ニ辯論ヲ命スルコトヲ得

第百三十九條　當事者カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ時機ニ後レテ提出シタル攻擊又ハ防禦ノ方法ハ之カ爲訴訟ノ完結ヲ遲延セシムヘキモノト認メタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ却下ノ決定ヲ爲スコトヲ得

攻擊又ハ防禦ノ方法ニシテ其ノ趣旨明瞭ナラサルモノニ付當事者カ必要ナル釋明ヲ爲サス又ハ釋明ヲ爲スヘキ期日ニ出頭セサルトキ亦前項ニ同シ

第百四十條　當事者カ口頭辯論ニ於テ相手方ノ主張シタル事實ヲ明ニ爭ハサルトキハ其ノ事實ヲ自白シタルモノト看做ス但シ辯論ノ全趣旨ニ依リ其ノ事實ヲ爭ヒタルモノト認ムヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

相手方ノ主張シタル事實ヲ知ラサル旨ノ陳述ヲ爲シタル者ハ其ノ事實ヲ爭ヒタルモノト推定ス

第百四十一條　當事者カ訴訟手續ニ關スル規定ノ違背ヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシ場合ニ於テ遲滯ナク異議ヲ述ヘサルトキハ之ヲ述フル權利ヲ失フ但シ抛棄スルコトヲ得サルモノハ此ノ限ニ在ラス

第百四十二條　口頭辯論ニ付テハ裁判所書記期日毎ニ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第百四十三條　調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ裁判長及裁判所書記之ニ署名捺印シ裁判長支障アルトキハ陪席判事其ノ席次ニ從ヒ順次之ニ代リテ署名捺印シ且其ノ事由ヲ記載スルコトヲ要ス但シ判事皆支障アルトキハ書記其ノ旨ヲ記載スルヲ以テ足ル

一　事件ノ表示

二　判事及裁判所書記ノ氏名

三　立會ヒタル檢事ノ氏名

四　出頭シタル當事者、代理人、輔佐人及通事竝關係人ノ氏名

五　辯論ノ場所及年月日

六　辯論ヲ公開シタルコト又ハ公開セサル場合ニ於テハ其ノ理由

第百四十四條　調書ニハ辯論ノ要領ヲ記載シ殊ニ左ノ事項ヲ明確ニスルコトヲ要ス

一　和解、認諾、抛棄、取下及自白

二　證人、鑑定人ノ宣誓及陳述

三　檢證ノ結果

四　裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及當事者ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項

五　書面ニ作ラサル裁判

六　裁判ノ言渡

第百四十五條　調書ニハ書面、寫眞其ノ他裁判所ニ於テ適當ト認ムルモノヲ引用シ訴訟記錄ニ添附シテ之ヲ調書ノ一部ト爲スコトヲ得

第百四十六條　調書ノ記載ハ申立ニ因リ法廷ニ於テ關係人ニ之ヲ讀聞カセ又ハ閲覽セシメ且調書ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

調書ノ記載ニ付關係人カ異議ヲ述ヘタルトキハ調書

ニ其ノ趣旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第百四十七條　口頭辯論ノ方式ニ關スル規定ノ遵守ハ調書ニ依リテノミ之ヲ證スルコトヲ得但シ調書カ滅失シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百四十八條　裁判所必要アリト認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ速記者ヲシテ口頭辯論ニ於ケル陳述ノ全部又ハ一部ヲ筆記セシムルコトヲ得

第百四十九條　第百四十二條乃至前條ノ規定ハ裁判所ノ審訊、受命判事又ハ受託判事ノ審問及證據調ニ之ヲ準用ス

第百五十條　申立其ノ他ノ申述ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭ヲ以テ申述ヲ爲スニハ裁判所書記ノ面前ニ於テ陳述ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ書記調書ヲ作リ之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第百五十一條　當事者ハ訴訟記錄ノ閲覽若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ訴訟ニ關スル事項ノ證明書ノ交付ヲ裁判所書記ニ請求スルコトヲ得利害關係ヲ疏明シタル第三者亦同シ

訴訟記錄ノ正本、謄本又ハ抄本ニハ其ノ正本、謄本又ハ抄本ナルコトヲ記載シ書記之ニ署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二節　期日及期間

第百五十二條　期日ハ裁判長之ヲ定ム

受命判事又ハ受託判事ノ審問ノ期日ハ其ノ判事之ヲ定ム

期日ノ指定ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス口頭辯論ニ於ケル最初ノ期日ノ變更ハ顯著ナル事由ノ存セサルトキト雖當事者ノ合意アル場合ニ於テハ之ヲ許ス準備手續ニ於ケル最初ノ期日ノ變更亦同シ

第百五十三條　期日ハ已ムコトヲ得サル場合ニ限リ日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第百五十四條　期日ニ於ケル呼出ハ呼出狀ヲ送達シテ之ヲ爲ス但シ當該事件ニ付出頭シタル者ニ對シテハ期日ヲ告知スルヲ以テ足ル

第百五十五條　期日ハ事件ノ呼上ヲ以テ之ヲ開始ス

第百五十六條　期間ノ計算ハ民法ニ從フ

期間ノ末日カ日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ニ當ルトキハ期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス

第百五十七條　期間ヲ定ムル裁判ニ於テ始期ヲ定メサルトキハ其ノ期間ハ裁判カ效力ヲ生シタル時ヨリ進

行ヲ始ム

第百五十八條　裁判所ハ法定期間又ハ其ノ定メタル期間ヲ伸長シ又ハ之ヲ短縮スルコトヲ得但シ不變期間ハ此ノ限ニ在ラス

不變期間ニ付テハ裁判所ハ遠隔ノ地ニ住所又ハ居所ヲ有スル者ノ爲附加期間ヲ定ムルコトヲ得

裁判長、受命判事又ハ受託判事ハ其ノ定メタル期間ヲ伸長シ又ハ之ヲ短縮スルコトヲ得

第百五十九條　當事者カ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ不變期間ヲ遵守スルコト能ハサリシ場合ニ於テハ其ノ事由ノ止ミタル後一週間內ニ限リ懈怠シタル訴訟行爲ノ追完ヲ爲スコトヲ得此ノ期間ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス

第三節　送達

第百六十條　送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第百六十一條　送達ニ關スル事務ハ裁判所書記之ヲ取扱フ

前項ノ事務ノ取扱ハ送達地ノ區裁判所ノ書記ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第百六十二條　送達ハ執達吏又ハ郵便ニ依リ之ヲ爲スト雖モ郵便ニ依ル送達ニ在リテハ郵便集配人ヲ以テ送達ヲ爲ス吏員トス

第百六十三條　當該事件ニ付出頭シタル者ニ對シテハ裁判所書記自ラ送達ヲ爲スコトヲ得

第百六十四條　送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書類ノ謄本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

送達スヘキ書類ノ提出ニ代ヘ調書ヲ作リタルトキハ其ノ調書ノ謄本又ハ抄本ヲ交付シテ送達ヲ爲ス

第百六十五條　訴訟無能力者ニ對スル送達ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ爲ス

第百六十六條　數人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキ場合ニ於テハ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル

第百六十七條　軍事用ノ廳舍又ハ艦船ニ屬スル者ニ對スル送達ハ其ノ廳舍又ハ艦船ノ長ニ之ヲ爲ス

第百六十八條　在監者ニ對スル送達ハ監獄ノ長ニ之ヲ爲ス

第百六十九條　送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス但シ法定代理人ニ對スル送達ハ本人ノ營業所又ハ事務所ニ於テモ之ヲ

爲スコトヲ得

送達ヲ受クヘキ者カ日本ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スルコト明ナラサルトキハ送達ハ其ノ者ニ出會ヒタル場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スル者カ送達ヲ受クルコトヲ拒マサルトキ亦同シ

第百七十條　當事者、法定代理人又ハ訴訟代理人ハ受訴裁判所ノ所在地ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有セサルトキハ其ノ裁判所ノ所在地ニ於テ送達ヲ受クヘキ場所及送達受取人ヲ定メ之ヲ屆出ツルコトヲ要ス

送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ屆出ヲ爲ササルトキハ其ノ者ニ對シテ送達スヘキ書類ハ前條第一項ノ規定ニ依リ送達スヘキ場所ニ宛テ書留郵便ニ付シテ之ヲ發送スルコトヲ得

第一項ノ屆出ハ送達ヲ受クヘキ者カ受訴裁判所ノ所在地ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スル場合ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第百七十一條　送達ヲ爲スヘキ場所ニ於テ送達ヲ受クヘキ者ニ出會ハサルトキハ事務員、雇人又ハ同居者ニシテ事理ヲ辨識スルニ足ルヘキ知能ヲ具フル者ニ書類ヲ交付スルコトヲ得

前項ニ揭クル者其ノ他書類ノ交付ヲ受クヘキ者カ正當ノ事由ナクシテ之ヲ受クルコトヲ拒ミタルトキハ送達ヲ爲スヘキ場所ニ書類ヲ差置クコトヲ得

第百七十二條　前條ノ規定ニ依リテ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ裁判所書記書類ヲ書留郵便ニ付シテ之ヲ發送スルコトヲ得

第百七十三條　第百七十條第二項又ハ前條ノ規定ニ依リテ書類ヲ郵便ニ付シテ發送シタル場合ニ於テハ其ノ發送ノ時ニ於テ送達アリタルモノト看做ス

第百七十四條　日曜日其ノ他ノ一般ノ休日又ハ日出前日沒後ニ於テ執達吏ニ依ル送達ヲ爲スニハ裁判長ノ許可アルコトヲ要ス

前項ノ許可アリタルトキハ裁判所書記ハ送達スヘキ書類ニ其ノ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ違背スル送達ハ書類ノ交付ヲ受クヘキ者カ之ヲ受取リタル場合ニ限リ其ノ效力ヲ有ス

第百七十五條　外國ニ於テ爲スヘキ送達ハ裁判長其ノ國ノ管轄官廳又ハ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使若ハ領事ニ囑託シテ之ヲ爲ス

第百七十六條　出陣ノ軍隊若ハ外國駐在ノ軍隊ニ屬スル者又ハ役務ニ服スル艦船ノ乘組員ニ對スル送達ハ裁判長上班司令官廳ニ囑託シテ之ヲ爲ス

前項ノ送達ニ付テハ第百六十七條ノ規定ヲ準用ス

第百七十七條　送達ヲ爲シタル吏員ハ書面ヲ作リ送達ニ關スル事項ヲ記載シ之ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス

第百七十八條　當事者ノ住所、居所其ノ他送達ヲ爲スヘキ場所カ知レサル場合又ハ外國ニ於テ爲スヘキ送達ニ付第百七十五條ノ規定ニ依ルコト能ハス若ハ之ニ依ルモ其ノ效ナシト認ムヘキ場合ニ於テハ申立ニ因リ裁判長ノ許可ヲ得テ公示送達ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ訴訟ノ遲滯ヲ避クル爲必要アリト認ムルトキハ申立ナキトキト雖公示送達ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

同一ノ當事者ニ對スル爾後ノ公示送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第百七十九條　公示送達ハ裁判所書記送達スヘキ書類ヲ保管シ何時ニテモ送達ヲ受クヘキ者ニ交付スヘキ旨ヲ裁判所ノ掲示場ニ掲示シテ之ヲ爲ス但シ呼出狀ノ送達ハ呼出狀ヲ掲示場ニ貼附シテ之ヲ爲ス

裁判所ハ公示送達アリタルコトヲ官報又ハ新聞紙ニ掲載スヘキコトヲ命スルコトヲ得但シ外國ニ於テ爲スヘキ送達ニ付テハ公示送達アリタルコトヲ郵便ニ付シテ通知スルコトヲ得

第百八十條　公示送達ハ前條第一項ノ規定ニ依ル掲示ヲ始メ又ハ貼附ヲ爲シタル日ヨリ二週間ヲ經過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス但シ第百七十八條第三項ノ公示送達ハ掲示ヲ始メ又ハ貼附ヲ爲シタル日ノ翌日ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

前項ノ期間ハ之ヲ短縮スルコトヲ得ス

第百八十一條　送達ニ關スル裁判長ノ權限ハ受命判事、受託判事及送達地ノ區裁判所ノ判事亦之ヲ有ス

第四節　裁判

第百八十二條　訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁判所ハ終局判決ヲ爲ス

第百八十三條　訴訟ノ一部カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁判所ハ其ノ一部ニ付終局判決ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ口頭辯論ノ併合ヲ命シタル數個ノ訴訟中其ノ一ヵ裁判ヲ爲スニ熟スル場合及本訴又ハ反訴カ裁判ヲ爲スニ熟スル場合ニ之ヲ準用ス

第百八十四條　獨立シタル攻擊又ハ防禦ノ方法其ノ他中間ノ爭ニ付裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁判所ハ中間判決ヲ爲スコトヲ得請求ノ原因及數額ニ付爭アル場合ニ於テ其ノ原因ニ付亦同シ

第百八十五條　裁判所ハ判決ヲ爲スニ當リ其ノ爲シタ

ル口頭辯論ノ全趣旨及證據調ノ結果ヲ斟酌シ自由ナル心證ニ依リ事實上ノ主張ヲ眞實ト認ムヘキカ否ヲ判斷ス

第百八十六條　裁判所ハ當事者ノ申立テサル事項ニ付判決ヲ爲スコトヲ得ス

第百八十七條　判決ハ其ノ基本タル口頭辯論ニ關與シタル判事之ヲ爲ス

判事ノ更迭アル場合ニ於テハ當事者ハ從前ノ口頭辯論ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス

第百八十八條　判決ハ言渡ニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第百八十九條　判決ノ言渡ハ判決原本ニ基キ裁判長主文ヲ朗讀シテ之ヲ爲ス

裁判長ハ相當ト認ムルトキハ判決ノ理由ヲ朗讀シ又ハ口頭ヲ以テ其ノ要領ヲ告クルコトヲ得

第百九十條　判決ノ言渡ハ口頭辯論終結ノ日ヨリ二週間內ニ之ヲ爲ス但シ事件繁雜ナルトキ其ノ他特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

判決ノ言渡ハ當事者カ在廷セサル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第百九十一條　判決ニハ左ノ事項ヲ記載シ判決ヲ爲シタル判事之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　主文
二　事實及爭點
三　理由
四　當事者及法定代理人
五　裁判所

事實及爭點ノ記載ハ口頭辯論ニ於ケル當事者ノ陳述ニ基キ要領ヲ摘示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

判事判決ニ署名捺印スルニ支障アルトキハ他ノ判事判決ニ其ノ事由ヲ記載シテ署名捺印スルコトヲ要ス

第百九十二條　判決ハ言渡後遲滯ナク之ヲ裁判所書記ニ交付シ書記ハ言渡及交付ノ日ヲ附記シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

第百九十三條　判決ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間內ニ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

判決ノ送達ハ正本ヲ以テ之ヲ爲ス

第百九十四條　判決ニ違算、書損其ノ他之ニ類スル明白ナル誤謬アルトキハ裁判所ハ何時ニテモ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ更正決定ヲ爲スコトヲ得

更正決定ハ判決ノ原本及正本ニ之ヲ附記スルコトヲ要ス但シ正本ニ附記スルコト能ハサルトキハ決定ノ正本ヲ作リ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

更正決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得但シ判決ニ對シ適法ノ控訴アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百九十五條　裁判所カ請求ノ一部ニ付裁判ヲ脫漏シタルトキハ訴訟ハ其ノ請求ノ部分ニ付仍裁判所ニ繫屬ス

訴訟費用ノ裁判ヲ脫漏シタル場合ニ於テハ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ訴訟費用ニ付裁判ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ第百四條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依ル訴訟費用ノ裁判ハ本案判決ニ對シ適法ノ控訴アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ控訴裁判所ハ訴訟ノ總費用ニ付裁判ヲ爲ス

第百九十六條　財產權上ノ請求ニ關スル判決ニ付テハ裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ擔保ヲ供シ又ハ供セシシテ假執行ヲ爲スコトヲ得ヘキコトヲ宣言スルコトヲ得

裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ擔保ヲ供シテ假執行ヲ免ルルコトヲ得ヘキコトヲ宣言スルコトヲ得

前二項ノ宣言ハ判決主文ニ之ヲ揭クルコトヲ要ス

第百九十七條　第百十二條、第百十三條、第百十五條及第百十六條ノ規定ハ前條ノ擔保ニ之ヲ準用ス

第百九十八條　假執行ノ宣言ハ其ノ宣言又ハ本案判決ヲ變更スル判決ノ言渡ニ因リ變更ノ限度ニ於テ其ノ效力ヲ失フ

本案判決ヲ變更スル場合ニ於テハ裁判所ハ被告ノ申立ニ因リ其ノ判決ニ於テ假執行ノ宣言ニ基キ被告カ給付シタルモノノ返還及假執行ニ因リ又ハ之ヲ免ルル爲被告ノ受ケタル損害ノ賠償ヲ原告ニ命スルコトヲ要ス

假執行ノ宣言ノミヲ變更シタルトキハ後ニ本案判決ヲ變更スル判決ニ付前項ノ規定ヲ適用ス

第百九十九條　確定判決ハ主文ニ包含スルモノニ限リ既判力ヲ有ス

相殺ノ爲主張シタル請求ノ成立又ハ不成立ノ判斷ハ相殺ヲ以テ對抗シタル額ニ付既判力ヲ有ス

第二百條　外國裁判所ノ確定判決ハ左ノ條件ヲ具備スル場合ニ限リ其ノ效力ヲ有ス

一　法令又ハ條約ニ於テ外國裁判所ノ裁判權ヲ否認セサルコト

二　敗訴ノ被告カ日本人ナル場合ニ於テ公示送達ニ依ラスシテ訴訟ノ開始ニ必要ナル呼出若ハ命令ノ送達ヲ受ケタルコト又ハ之ヲ受ケサルモ應訴シタルコト

三　外國裁判所ノ判決カ日本ニ於ケル公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサルコト

四　相互ノ保證アルコト

第二百一條　確定判決ハ當事者、口頭辯論終結後ノ承繼人又ハ其ノ者ノ爲請求ノ目的物ヲ所持スル者ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス

他人ノ爲原告又ハ被告ト爲リタル者ニ對スル確定判決ハ其ノ他人ニ對シテモ效力ヲ有ス

前二項ノ規定ハ假執行ノ宣言ニ之ヲ準用ス

第二百二條　不適法ナル訴ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

第二百三條　和解又ハ請求ノ拋棄若ハ認諾ヲ調書ニ記載シタルトキハ其ノ記載ハ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第二百四條　決定及命令ハ相當ト認ムル方法ヲ以テ之ヲ告知スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

裁判所書記ハ告知ノ方法、場所及年月日ヲ裁判ノ原本ニ附記シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

第二百五條　訴訟ノ指揮ニ關スル決定及命令ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第二百六條　裁判所書記ノ處分ニ對スル異議ニ付テハ其ノ書記所屬ノ裁判所決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

第二百七條　決定及命令ニハ其ノ性質ニ反セサル限リ判決ニ關スル規定ヲ準用ス

第五節　訴訟手續ノ中斷及中止

第二百八條　當事者カ死亡シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ相續人、相續財產管理人其ノ他法令ニ依リ訴訟ヲ續行スヘキ者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

相續人ハ相續ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ル間ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ得ス

第二百九條　當事者タル法人カ合併ニ因リテ消滅シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ合併ニ因リテ設立シタル法人又ハ合併後存續スル法人ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

前項ノ規定ハ合併ヲ以テ相手方ニ對抗スルコトヲ得サル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百十條　當事者カ訴訟能力ヲ失ヒタルトキ又ハ其ノ法定代理人カ死亡シ若ハ代理權ヲ失ヒタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ法定代理人又ハ訴訟能力ヲ有スルニ至リタル當事者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

第二百十一條　受託者ノ信託ノ任務終了シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ新受託者訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

第二百十二條　一定ノ資格ヲ有スル者カ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲訴訟ノ當事者タル場合ニ於テ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ同一ノ資格ヲ有スル者訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス當事者ノ死亡ニ因リ訴訟手續カ中斷シタル場合亦同シ

第四十七條ノ規定ニ依リテ原告又ハ被告ト爲ルヘキ者ヲ選定シタル訴訟ニ於テ其ノ選定セラレタル當事者ノ全員カ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ選定ヲ爲シタル者ノ總員又ハ新ニ原告若ハ被告トシテ選定セラレタル者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

第二百十三條　第二百八條第一項、第二百九條第一項及第二百十條乃至前條ノ規定ハ訴訟代理人アル間ハ之ヲ適用セス

第二百十四條　當事者カ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ破產財團ニ關スル訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テ破產法ニ依ル受繼アル迄ニ破產手續ノ解止アリタルトキハ破產者ハ當然訴訟手續ヲ受繼ス

第二百十五條　破產法ニ依リテ破產財團ニ關スル訴訟手續ノ受繼アリタル後破產手續ノ解止アリタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ破產者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

第二百十六條　訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第二百十七條　訴訟手續受繼ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ之ヲ相手方ニ通知スルコトヲ要ス

第二百十八條　訴訟手續受繼ノ申立ハ裁判所職權ヲ以テ之ヲ調査シ理由ナシト認メタルトキハ決定ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ要ス

裁判ノ送達後中斷シタル訴訟手續ノ受繼ニ付テハ其ノ裁判ヲ爲シタル裁判所裁判ヲ爲スコトヲ要ス

第二百十九條　裁判所ハ當事者カ訴訟手續ノ受繼ヲ爲ササル場合ニ於テモ職權ヲ以テ其ノ續行ヲ命スルコトヲ得

第二百二十條　天災其ノ他ノ事故ニ因リテ裁判所カ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ訴訟手續ハ其ノ事故ノ止ム迄中止ス

第二百二十一條　當事者カ不定期間ノ故障ニ因リ訴訟手續ヲ續行スルコト能ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ其ノ中止ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ前項ノ決定ヲ取消スコトヲ得

第二百二十二條　判決ノ言渡ハ訴訟手續ノ中斷中ト雖之ヲ爲スコトヲ得

訴訟手續ノ中斷又ハ中止ハ期間ノ進行ヲ止メ訴訟手續ノ受繼ノ通知又ハ續行ノ時ヨリ更ニ全期間ノ進行ヲ始ム

第二編　第一審ノ訴訟手續

第一章　地方裁判所ノ訴訟手續

第一節　訴

第二百二十三條　訴ノ提起ハ訴狀ヲ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百二十四條　訴狀ニハ當事者、法定代理人竝請求ノ趣旨及原因ヲ記載スルコトヲ要ス

準備書面ニ關スル規定ハ訴狀ニ之ヲ準用ス

第二百二十五條　確認ノ訴ハ法律關係ヲ證スル書面ノ眞否ヲ確定スル爲ニモ之ヲ提起スルコトヲ得

第二百二十六條　將來ノ給付ヲ求ムル訴ハ豫メ其ノ請求ヲ爲ス必要アル場合ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得

第二百二十七條　數個ノ請求ハ同種ノ訴訟手續ニ依ル場合ニ限リ一ノ訴ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二百二十八條　訴狀カ第二百二十四條第一項ノ規定ニ違背スル場合ニ於テハ裁判長ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間內ニ欠缺ヲ補正スベキコトヲ命スルコトヲ要ス法律ノ規定ニ從ヒ訴狀ニ印紙ヲ貼用セサル場合亦同シ

原告カ欠缺ノ補正ヲ爲ササルトキハ裁判長ハ命令ヲ以テ訴狀ヲ却下スルコトヲ要ス

前項ノ命令ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告狀ニハ却下セラレタル訴狀ヲ添附スルコトヲ要ス

第二百二十九條　訴狀ハ之ヲ被告ニ送達スルコトヲ要ス

前條ノ規定ハ訴狀ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十條　訴ノ提起アリタルトキハ裁判長ハ口頭辯論ノ期日ヲ定メ當事者ヲ呼出スコトヲ要ス

第二百三十一條　裁判所ニ繫屬スル事件ニ付テハ當事者ハ更ニ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第二百三十二條　原告ハ請求ノ基礎ニ變更ナキ限リ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄請求又ハ請求ノ原因ヲ變更スルコトヲ得但シ之ニ因リ著ク訴訟手續ヲ遲滯セシムヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

請求ノ變更ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

第二百三十三條　裁判所カ請求又ハ請求ノ原因ノ變更ヲ不當ナリト認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ變更ヲ許ササル旨ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

第二百三十四條　裁判カ訴訟ノ進行中ニ爭ト爲リタル法律關係ノ成立又ハ不成立ニ繫ルトキハ當事者ハ請求ヲ擴張シテ其ノ法律關係ノ確認ノ判決ヲ求ムルコトヲ得但シ其ノ確認ノ請求カ他ノ裁判所ノ管轄ニ專屬セサルトキニ限ル

前項ノ規定ニ依ル請求ノ擴張ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

第二百三十五條　時效ノ中斷又ハ法律上ノ期間遵守ノ爲必要ナル裁判上ノ請求ハ訴ヲ提起シタル時又ハ第二百三十二條第二項若ハ前條第二項ノ規定ニ依リ書面ヲ裁判所ニ提出シタル時ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

第二百三十六條　訴ハ判決ノ確定ニ至ル迄其ノ全部又ハ一部ヲ取下クルコトヲ得

訴ノ取下ハ相手方カ本案ニ付準備書面ヲ提出シ、準備手續ニ於テ申述ヲ爲シ又ハ口頭辯論ヲ爲シタル後ニ在リテハ相手方ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

訴ノ取下ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ口頭辯論ニ於テ又ハ準備手續中受命判事ノ面前ニ於テ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

訴狀送達ノ後ニ在リテハ取下ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

第三項但書ノ場合ニ於テ相手方カ期日ニ出頭セサルトキハ口頭辯論又ハ準備手續ノ調書ノ謄本ヲ之ニ送達スルコトヲ要ス

訴ノ取下ノ書面ノ送達アリタル日ヨリ三月內ニ相手方カ異議ヲ述ヘサルトキハ訴ノ取下ニ同意シタルモノト看做ス第三項但書ノ場合ニ於テ相手方カ期日ニ出頭シタル場合ニ於テハ訴ノ取下アリタル日ヨリ、相手方カ期日ニ出頭セサル場合ニ於テハ前項ノ謄本ノ送達アリタル日ヨリ三月內ニ相手方カ異議ヲ述ヘサルトキ亦同シ

第二百三十七條　訴訟ハ訴ノ取下アリタル部分ニ付テハ初ヨリ繫屬ナカリシモノト看做ス

本案ニ付終局判決アリタル後訴ヲ取下ケタル者ハ同

一ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第二百三十八條　當事者雙方カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ辯論ヲ爲サスシテ退廷シタル場合ニ於テ三月内ニ期日指定ノ申立ヲ爲ササルトキハ訴ノ取下アリタルモノト看做ス

第二百三十九條　被告ハ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄本訴ノ繫屬スル裁判所ニ反訴ヲ提起スルコトヲ得但シ其ノ目的タル請求カ他ノ裁判所ノ管轄ニ專屬セサルトキ及本訴ノ目的タル請求又ハ防禦ノ方法ト牽連スルトキニ限ル

第二百四十條　反訴ニ付テハ本訴ニ關スル規定ニ依ル

第二百四十一條　本訴ノ取下アリタルトキハ被告ハ原告ノ同意ヲ得スシテ反訴ヲ取下クルコトヲ得

第二節　辯論ノ準備

第二百四十二條　口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要ス

第二百四十三條　準備書面ハ之ニ記載シタル事項ニ付相手方カ準備ヲ爲スニ必要ナル期間ヲ存シ之ヲ裁判所ニ提出シ裁判所ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

裁判長ハ準備書面ヲ提出スヘキ期間ヲ定ムルコトヲ得

第二百四十四條　準備書面ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者又ハ代理人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、名稱又ハ商號、職業及住所

二　代理人ノ氏名、職業及住所

三　事件ノ表示

四　攻擊又ハ防禦ノ方法

五　相手方ノ請求及攻擊又ハ防禦ノ方法ニ對スル陳述

六　附屬書類ノ表示

七　年月日

八　裁判所ノ表示

第二百四十五條　當事者ノ所持スル文書ニシテ準備書面ニ引用シタルモノハ準備書面ノ各通ニ其ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

文書ノ一部ノミヲ必要トスルトキハ其ノ抄本ヲ添附シ文書カ大部ナルトキハ其ノ文書ヲ表示スルヲ以テ足ル

第二百四十六條　前條ノ文書ハ相手方ノ求ニ因リ其ノ原本ヲ閲覽セシムルコトヲ要ス

第二百四十七條　準備書面ニ記載セサル事實ハ相手方カ在廷セサルトキハ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得ス

第二百四十八條　外國語ヲ以テ作リタル文書ニハ其ノ譯文ヲ添附スルコトヲ要ス

第二百四十九條　訴訟ニ付テハ受命判事ニ依リ口頭辯論ノ準備手續ヲ爲スコトヲ要ス但シ裁判所相當ト認ムルトキハ直ニ辯論ヲ命シ又ハ訴訟ノ一部若ハ或爭點ノミニ付準備手續ヲ命スルコトヲ得

第二百五十條　準備手續ニ於テハ調書ヲ作リ當事者ノ陳述ニ基キ第二百四十四條第四號及第五號ニ掲クル事項ヲ記載シ殊ニ證據ニ付テハ其ノ申出ヲ明確ニスルコトヲ要ス

受命判事相當ト認ムルトキハ準備書面ヲ以テ前項ノ陳述及調査ニ代フルコトヲ得

第二百五十一條　當事者ノ一方カ期日ニ出頭セサルトキハ前條ノ調書ノ謄本ヲ之ニ送達シ新期日ヲ定メ當事者雙方ヲ呼出スコトヲ得

第二百五十二條　受命判事ハ當事者ヲシテ準備書面ヲ提出セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百四十三條ノ規定ヲ準用ス

第二百五十三條　當事者カ期日ニ出頭セス又ハ前條ノ規定ニ依リ受命判事ノ定メタル期間内ニ準備書面ヲ提出セサルトキハ受命判事ハ準備手續ヲ終結スルコトヲ得

第二百五十四條　當事者ハ口頭辯論ニ於テ準備手續ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス

第二百五十五條　調書又ハ之ニ代ルヘキ準備書面ニ記載セサル事項ハ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得ス但シ其ノ事項カ裁判所職權ヲ以テ調査スヘキモノナルトキ、著ク訴訟ヲ遲滯セシメサルトキ又ハ重大ナル過失ナクシテ準備手續ニ於テ之ヲ提出スルコト能ハサリシコトヲ疏明シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ規定ハ第二百四十七條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

訴狀又ハ準備手續前ニ提出シタル準備書面ニ記載シタル事項ハ調書又ハ之ニ代ルヘキ準備書面ニ記載セサルモノト雖ロ頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第二百五十六條　第百二十六條乃至第百二十九條、第百三十一條、第百三十三條乃至第百四十一條及第二百三十八條ノ規定ハ準備手續ニ之ヲ準用ス

第三節　證據

第一款　總則

第二百五十七條　裁判所ニ於テ當事者カ自白シタル事實及顯著ナル事實ハ之ヲ證スルコトヲ要セス

第二百五十八條　證據ノ申出ハ證スヘキ事實ヲ表示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

證據ノ申出ハ期日前ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第二百五十九條　當事者ノ申出テタル證據ニシテ裁判所ニ於テ不必要ト認ムルモノハ之ヲ取調フルコトヲ

要セス

第二百六十條　證據調ニ付不定期間ノ障碍アルトキハ裁判所ハ證據調ヲ爲ササルコトヲ得

第二百六十一條　裁判所ハ當事者ノ申出テタル證據ニ依リテ心證ヲ得ルコト能ハサルトキ其ノ他必要アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得

第二百六十二條　裁判所ハ必要ナル調査ヲ官廳若ハ公署、外國ノ官廳若ハ公署又ハ學校、商業會議所、取引所其ノ他ノ團體ニ囑託スルコトヲ得

第二百六十三條　證據調ハ當事者カ期日ニ出頭セサル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第二百六十四條　外國ニ於テ爲スヘキ證據調ハ其ノ國ノ管轄官廳又ハ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使若ハ領事ニ之ヲ囑託シテ爲スコトヲ要ス

外國ニ於テ爲シタル證據調ハ其ノ國ノ法律ニ違背スルモ本法ニ違背セサルトキハ其ノ效力ヲ有ス

第二百六十五條　裁判所ハ相當ト認ムルトキハ裁判所外ニ於テ證據調ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ部員ニ命シ又ハ區裁判所ニ囑託シテ證據調ヲ爲サシムルコトヲ得

受託判事カ他ノ區裁判所ニ於テ證據調ヲ爲スコトヲ相當ト認ムルトキハ更ニ證據調ノ囑託ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ受訴裁判所及當事者ニ通知スルコトヲ要ス

第二百六十六條　受託判事ハ證據調ニ關スル記錄ヲ受訴裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第二百六十七條　疏明ハ即時ニ取調フルコトヲ得ヘキ證據ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

裁判所ハ當事者若ハ法定代理人ヲシテ保證金ヲ供託セシメ又ハ其ノ主張ノ眞實ナルコトヲ宣誓セシメ之ヲ以テ疏明ニ代フルコトヲ得

第二百八十六條乃至第二百八十九條ノ規定ハ前項ノ宣誓ニ之ヲ準用ス

第二百六十八條　前條第二項ノ規定ニ依リテ保證金ノ供託ヲ爲シタル當事者又ハ法定代理人カ虚僞ノ申述ヲ爲シタルトキハ裁判所決定ヲ以テ保證金ヲ沒取ス

第二百六十九條　第二百六十七條第二項ノ規定ニ依リテ宣誓ヲ爲シタル當事者又ハ法定代理人カ虚僞ノ申述ヲ爲シタルトキハ宣誓ヲ爲サシメタル裁判所決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第二百七十條　第二百六十八條及前條ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二款　證人訊問

第二百七十一條　裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外何人ト雖證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百七十二條　官吏又ハ官吏タリシ者ヲ證人トシテ職務上ノ祕密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ當該監督官廳ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ他ノ公務員ニ付之ヲ準用ス

第二百七十三條　國務大臣、宮內大臣、內大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計檢査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、敎育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者ヲ證人トシテ職務上ノ祕密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ勅許ヲ得ルコトヲ要ス

第二百七十四條　貴族院若ハ衆議院ノ議員又ハ議員タリシ者ヲ證人トシテ職務上ノ祕密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ院ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第二百七十五條　證人訊問ノ申出ハ證人ヲ指定シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百七十六條　證人ノ呼出狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ表示

二　訊問事項ノ要領

三　出頭セサル場合ニ於ケル法律上ノ制裁

第二百七十七條　證人カ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ之ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ負擔ヲ命シ且五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百七十八條　裁判所ハ正當ノ事由ナクシテ出頭セサル證人ノ勾引ヲ命スルコトヲ得

前項ノ勾引ニハ刑事訴訟法中勾引ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百七十九條　左ノ場合ニ於テハ受命判事又ハ受託判事ヲシテ證人ノ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得

一　證人カ受訴裁判所ニ出頭スル義務ナキトキ又ハ正當ノ事由ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキ

二　證人カ受訴裁判所ニ出頭スルニ付不相當ノ費用又ハ時間ヲ要スルトキ

第二百八十條　證言カ證人又ハ左ニ揭クル者ノ刑事上ノ訴追又ハ處罰ヲ招ク虞アル事項ニ關スルトキハ證人ハ證言ヲ拒ムコトヲ得證言カ此等ノ者ノ恥辱ニ歸スヘキ事項ニ關スルトキ亦同シ

一　證人ノ配偶者、四親等內ノ血族若ハ三親等內ノ

姻族又ハ證人ノ家ノ戸主但シ親族ニ付テハ親族關係カ止ミタル後亦同シ

二　證人ノ後見人又ハ證人ノ後見ヲ受クル者

三　證人カ主人トシテ仕フル者

第二百八十一條　左ノ場合ニ於テハ證人ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

一　第二百七十二條乃至第二百七十四條ノ場合

二　醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辨理士、辯護人、公證人、宗教又ハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者カ職務上知リタル事實ニシテ默祕スヘキモノニ付訊問ヲ受クルトキ

三　技術又ハ職業ノ祕密ニ關スル事項ニ付訊問ヲ受クルトキ

前項ノ規定ハ證人カ默祕ノ義務ヲ免セラレタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百八十二條　證言拒絕ノ理由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス

第二百八十三條　第二百八十一條第一項第一號ノ場合ヲ除クノ外證言拒絕ノ當否ニ付テハ受訴裁判所當事者ヲ審訊シテ裁判ヲ爲ス

證言拒絕ニ關スル裁判ニ對シテハ當事者及證人ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百八十四條　證言拒絕ヲ理由ナシトスル裁判確定シタル後證人カ故ナク證言ヲ拒ムトキハ第二百七十七條ノ規定ヲ準用ス

第二百八十五條　裁判長ハ證人ヲシテ訊問前宣誓ヲ爲サシムルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八十六條　宣誓ハ起立シテ嚴肅ニ之ヲ行フコトヲ要ス

第二百八十七條　裁判長ハ宣誓前宣誓ノ趣旨ヲ諭示シ且僞證ノ罰ヲ警告スルコトヲ要ス

第二百八十八條　宣誓ハ證人ヲシテ宣誓書ヲ朗讀セシメ且之ニ署名捺印セシメテ之ヲ爲ス證人宣誓書ヲ朗讀スルコト能ハサルトキハ裁判長代リテ之ヲ朗讀ス

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默祕セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百八十九條　左ニ掲クル者ヲ證人トシテ訊問スルニハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス

一　十六年未滿ノ者

二　宣誓ノ趣旨ヲ理解スルコト能ハサル者

第二百九十條　第二百八十條ノ規定ニ該當スル證人ニシテ證言拒絕ノ權利ヲ行ハサル者ヲ訊問スルニハ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得

第二百九十一條　證人カ自己又ハ第二百八十條ニ掲クル者ニ著キ利害關係アル事項ニ付訊問ヲ受クルトキハ宣誓ヲ拒ムコトヲ得

第二百九十二條　宣誓ヲ爲サシメスシテ證人ヲ訊問シタルトキハ其ノ旨及事由ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス

第二百九十三條　第二百七十七條、第二百八十二條及第二百八十三條ノ規定ハ證人カ宣誓ヲ拒ム場合ニ之ヲ準用ス

第二百九十四條　裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ證人相互ノ對質ヲ命スルコトヲ得

第二百九十五條　裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ證人ヲシテ文字ノ手記其ノ他必要ナル行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百九十六條　裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ後ニ訊問スヘキ證人ニ在廷ヲ許スコトヲ得

第二百九十七條　證人ハ書類ニ依リテ陳述ヲ爲スコトヲ得ス但シ裁判長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二百九十八條　陪席判事ハ裁判長ニ告ケ證人ニ對シテ問ヲ發スルコトヲ得

第二百九十九條　當事者ハ裁判長ニ對シ必要ナル發問ヲ求メ又ハ其ノ許可ヲ得テ問ヲ發スルコトヲ得

當事者ハ發問ノ許否ニ付異議ヲ述フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ裁判所異議ニ付裁判ヲ爲ス

第三百條　受命判事又ハ受託判事カ證人訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所及裁判長ノ職務ハ其ノ判事之ヲ行フ但シ前條第二項ノ規定ニ依ル異議ノ裁判ハ受訴裁判所之ヲ爲ス

第三款　鑑定

第三百一條　鑑定ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外前款ノ規定ヲ準用ス

第三百二條　鑑定ニ必要ナル學識經驗アル者ハ鑑定ヲ爲ス義務ヲ負フ

第二百八十條又ハ第二百九十一條ノ規定ニ依リテ證言又ハ宣誓ヲ拒ミ得ル者ト同一ノ地位ニ在ル者及第二百八十九條ニ掲クル者ハ鑑定人タルコトヲ得ス

第三百三條　鑑定人ハ之ヲ勾引スルコトヲ得ス

第三百四條　鑑定人ハ受訴裁判所、受命判事又ハ受託判事之ヲ指定ス

第三百五條　鑑定人ニ付誠實ニ鑑定ヲ爲スコトヲ妨クヘキ事情アルトキハ當事者ハ其ノ鑑定人カ鑑定事項ニ付陳述ヲ爲ス前之ヲ忌避スルコトヲ得陳述ヲ爲シタルトキト雖其ノ後ニ忌避ノ原因ヲ生シ又ハ當事者カ其ノ原因アルコトヲ知リタルトキ亦同シ

第三百六條　忌避ノ申立ハ受訴裁判所、受命判事又ハ受託判事ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

忌避ノ事由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス

忌避ヲ理由アリトスル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス之ヲ理由ナシトスル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百七條　宣誓書ニハ良心ニ從ヒ誠實ニ鑑定ヲ爲スコトヲ誓フ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百八條　裁判長ハ鑑定人ヲシテ書面又ハ口頭ヲ以テ共同ニテ又ハ各別ニ意見ヲ述ヘシムルコトヲ得

第三百九條　特別ノ學識經驗ニ依リテ知リ得タル事實ニ關スル訊問ニ付テハ證人訊問ニ關スル規定ニ依ル

第三百十條　裁判所必要アリト認ムルトキハ官廳若ハ公署、外國ノ官廳若ハ公署又ハ相當ノ設備アル法人ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ宣誓ニ關スル規定ヲ除クノ外本款ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ裁判所必要アリト認ムルトキハ官廳、公署又ハ法人ノ指定シタル者ヲシテ鑑定書ノ說明ヲ爲サシムルコトヲ得

第四款　書證

第三百十一條　書證ノ申出ハ文書ヲ提出シ又ハ之ヲ所持スル者ニ其ノ提出ヲ命セムコトヲ申立テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百十二條　左ノ場合ニ於テハ文書ノ所持者ハ其ノ提出ヲ拒ムコトヲ得ス

一　當事者カ訴訟ニ於テ引用シタル文書ヲ自ラ所持スルトキ

二　擧證者カ文書ノ所持者ニ對シ其ノ引渡又ハ閲覽ヲ求ムルコトヲ得ルトキ

三　文書カ擧證者ノ利益ノ爲ニ作成セラレ又ハ擧證者ト文書ノ所持者トノ間ノ法律關係ニ付作成セラレタルトキ

第三百十三條　文書提出ノ申立ニハ左ノ事項ヲ明ニスルコトヲ要ス

一　文書ノ表示

二　文書ノ趣旨

三　文書ノ所持者

四　證スヘキ事實

五　文書提出ノ義務ノ原因

第三百十四條　裁判所カ文書提出ノ申立ヲ理由アリト認メタルトキハ決定ヲ以テ文書ノ所持者ニ對シ其ノ提出ヲ命ス

第三者ニ對シ文書ノ提出ヲ命スル場合ニ於テハ其ノ第三者ヲ審訊スルコトヲ要ス

第三百十五條　文書提出ノ申立ニ關スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百十六條　當事者カ文書提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ文書ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得

第三百十七條　當事者カ相手方ノ使用ヲ妨クル目的ヲ以テ提出ノ義務アル文書ヲ毀滅シ其ノ他之ヲ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタルトキハ裁判所ハ其ノ文書ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得

第三百十八條　第三者カ文書提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百十九條　書證ノ申出ハ第三百十一條ノ規定ニ拘ラス文書ノ所持者ニ其ノ文書ノ送付ヲ囑託セムコトヲ申立テ之ヲ爲スコトヲ得但シ當事者カ法令ニ依リテ文書ノ正本又ハ謄本ノ交付ヲ求ムルコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三百二十條　裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ提出又ハ送付ニ係ル文書ヲ留置クコトヲ得

第三百二十一條　第二百六十五條ノ規定ニ依リテ受命判事又ハ受託判事ヲシテ文書ニ付證據調ヲ爲サシムル場合ニ於テハ裁判所ハ受命判事又ハ受託判事ノ調書ニ記載スヘキ事項ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ調書ニハ文書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第三百二十二條　文書ノ提出又ハ送付ハ原本、正本又ハ認證アル謄本ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

裁判所ハ前項ノ規定ニ拘ラス原本ノ提出ヲ命シ又ハ送付ヲ爲サシムルコトヲ得

裁判所ハ當事者ヲシテ其ノ引用シタル文書ノ謄本又ハ抄本ヲ提出セシムルコトヲ得

第三百二十三條　文書ハ其ノ方式及趣旨ニ依リ官吏其

ノ他ノ公務員カ職務上作成シタルモノト認ムヘキトキハ之ヲ眞正ナル公文書ト推定ス

公文書ノ眞否ニ付疑アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ當該官廳又ハ公署ニ問合ヲ爲スコトヲ得

第三百二十四條　前條ノ規定ハ外國ノ官廳又ハ公署ノ作成ニ係ルモノト認ムヘキ文書ニ之ヲ準用ス

第三百二十五條　私文書ハ其ノ眞正ナルコトヲ證スルコトヲ要ス

第三百二十六條　私文書ハ本人又ハ其ノ代理人ノ署名又ハ捺印アルトキハ之ヲ眞正ナルモノト推定ス

第三百二十七條　文書ノ眞否ハ筆跡又ハ印影ノ對照ニ依リテモ之ヲ證スルコトヲ得

第三百二十八條　第三百十一條、第三百十四條乃至第三百十七條及第三百十九條乃至第三百二十一條ノ規定ハ對照ノ用ニ供スヘキ筆跡又ハ印影ヲ具フル文書其ノ他ノ物件ノ提出又ハ送付ニ之ヲ準用ス

第三者カ正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百二十九條　對照ニ適當ナル筆跡ナキトキハ裁判所ハ對照ノ用ニ供スヘキ文字ノ手記ヲ相手方ニ命スルコトヲ得

相手方カ正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ文書ノ眞否ニ關スル舉證者ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得書樣ヲ變シテ手記シタルトキ亦同シ

第三百三十條　對照ノ用ニ供シタル書類ノ原本、謄本又ハ抄本ハ之ヲ調書ニ添附スルコトヲ要ス

第三百三十一條　當事者又ハ其ノ代理人カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ眞實ニ反シテ文書ノ眞正ヲ爭ヒタルトキハ裁判所決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ文書ノ眞正ヲ爭ヒタル當事者又ハ代理人カ訴訟ノ繫屬中其ノ眞正ナルコトヲ認メタルトキハ裁判所ハ事情ニ依リ前項ノ決定ヲ取消スコトヲ得

第三百三十二條　本款ノ規定ハ證徵ノ爲作リタル物件ニシテ文書ニ非サルモノニ之ヲ準用ス

第五款　檢證

第三百三十三條　檢證ノ申出ハ檢證ノ目的ヲ表示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百三十四條　受命判事又ハ受託判事ハ檢證ヲ爲スニ當リ必要アリト認ムルトキハ鑑定ヲ命スルコトヲ得

第三百三十五條　第三百十一條、第三百十四條乃至第三百十七條及第三百十九條乃至第三百二十一條ノ規定ハ檢證ノ目的ノ提示又ハ送付ニ之ヲ準用ス

第三者カ正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル提示ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六款　當事者訊問

第三百三十六條　裁判所カ證據調ニ依リテ心證ヲ得ルコト能ハサルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ當事者本人ヲ訊問スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當事者ヲシテ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得

第三百三十七條　裁判長必要アリト認ムルトキハ當事者相互又ハ當事者ト證人トノ對質ヲ命スルコトヲ得

第三百三十八條　當事者カ正當ノ事由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ宣誓若ハ陳述ヲ拒ミタルトキハ裁判所ハ訊問事項ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得

第三百三十九條　宣誓シタル當事者カ虚僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ裁判所決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百三十一條第二項ノ規定ハ前項ノ決定ニ之ヲ準用ス

第三百四十條　當事者ヲ訊問シタルトキハ其ノ陳述及宣誓ヲ爲サシメ又ハ爲サシメサルコトヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス

第三百四十一條　第三百三十六條乃至前條ノ規定ハ訴訟ニ於テ當事者ヲ代表スル法定代理人ニ之ヲ準用ス

但シ當事者本人ヲ訊問スルコトヲ妨ケス

第三百四十二條　第二百七十六條、第二百七十九條、第二百八十五條乃至第二百八十九條、第二百九十五條及第二百九十七條乃至第三百條ノ規定ハ本款ノ訊問ニ之ヲ準用ス

第七款　證據保全

第三百四十三條　裁判所ハ豫メ證據調ヲ爲スニ非サレハ其ノ證據ヲ使用スルニ困難ナル事情アリト認ムルトキハ申立ニ因リ本節ノ規定ニ從ヒ證據調ヲ爲スコトヲ得

第三百四十四條　證據保全ノ申立ハ訴訟ノ繫屬中ニ在

リテハ其ノ證據ヲ使用スヘキ審級ノ裁判所ニ、其ノ提起前ニ在リテハ訊問ヲ受クヘキ者若ハ文書ヲ所持スル者ノ居所又ハ檢證物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

急迫ナル場合ニ於テハ訴ノ提起後ト雖前項ノ區裁判所ニ證據保全ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第三百四十五條　證據保全ノ申立ニハ左ノ事項ヲ明ニスルコトヲ要ス

一　相手方ノ表示

二　證スヘキ事實

三　證據

四　證據保全ノ事由

證據保全ノ事由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス

第三百四十六條　證據保全ノ申立ハ相手方ヲ指定スルコト能ハサル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ相手方ト爲ルヘキ者ノ爲ニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ得

第三百四十七條　裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ訴訟ノ繫屬中職權ヲ以テ證據保全ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第三百四十八條　證據保全ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百四十九條　證據調ノ期日ニハ申立人及相手方ヲ呼出スコトヲ要ス但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三百五十條　證據保全ニ關スル記錄ハ本訴訟ノ記錄ノ存スル裁判所ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス

第三百五十一條　證據保全ニ關スル費用ハ訴訟費用ノ一部トス

第二章　區裁判所ノ訴訟手續

第三百五十二條　區裁判所ノ訴訟手續ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外前章ノ規定ヲ準用ス

第三百五十三條　訴ハ口頭ヲ以テ之ヲ提起スルコトヲ得

第三百五十四條　當事者雙方ハ任意ニ裁判所ニ出頭シ訴訟ニ付口頭辯論ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴ノ提起ハ口頭ノ陳述ニ依リテ之ヲ爲ス

第三百五十五條　被告カ反訴ヲ以テ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル請求ヲ爲シタル場合ニ於テ相手方ノ申立アルトキハ區裁判所ハ決定ヲ以テ本訴及反訴ヲ地方裁判所ニ移送スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第三十二條及第三十四條ノ規定ヲ準用ス

移送ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百五十六條　民事上ノ爭ニ付テハ當事者ハ請求ノ趣旨及原因竝爭ノ實情ヲ表示シテ相手方ノ普通裁判籍所在地ノ區裁判所ニ和解ノ申立ヲ爲スコトヲ得

和解調ヒタルトキハ之ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス

和解調ハサル場合ニ於テ裁判所ハ和解ノ期日ニ出頭シタル當事者雙方ノ申立アルトキハ直ニ訴訟ノ辯論ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ和解ノ申立ヲ爲シタル者ハ其ノ申立ヲ爲シタル時ニ於テ訴ヲ提起シタルモノト看做シ和解ノ費用ハ之ヲ訴訟費用ノ一部トス

申立人又ハ相手方カ和解ノ期日ニ出頭セサルトキハ裁判所ハ和解調ハサルモノト看做スコトヲ得

第三百五十七條　口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要セス

相手方カ準備ヲ爲スニ非サレハ陳述ヲ爲スコト能ハスト認ムヘキ事項ハ前項ノ規定ニ拘ラス書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ準備書面ノ提出ニ代ヘ口頭辯論前直接ニ相手方ニ其ノ事項ヲ通知スルコトヲ得

第二百四十七條ノ規定ハ前項ノ通知ヲ爲ササル場合ニ之ヲ準用ス

第三百五十八條　準備手續ニ關スル規定ハ區裁判所ノ訴訟手續ニ之ヲ適用セス

第三百五十九條　判決ニ事實及理由ヲ記載スルニハ請求ノ趣旨及原因ノ要旨、其ノ原因ノ有無竝請求ヲ排斥スル理由タル抗辯ノ要旨ヲ表示スルヲ以テ足ル

第三編　上訴

第一章　控訴

第三百六十條　控訴ハ第一審ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ當事者雙方共ニ控訴ヲ爲ササル旨ノ合意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ合意ハ上告ヲ爲ス權利ヲ留保シテ之ヲ爲スコトヲ得

第二十五條第二項ノ規定ハ第一項ノ合意ニ之ヲ準用ス

第三百六十一條　訴訟費用ノ裁判ニ對シテハ獨立シテ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

第三百六十二條　終局判決前ノ裁判ハ控訴裁判所ノ判斷ヲ受ク但シ不服ヲ申立ツルコトヲ得サル裁判及抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ此ノ限ニ在ラス

第三百六十三條　控訴ハ控訴審ノ終局判決アル迄之ヲ取下クルコトヲ得

第二百三十六條第三項第五項、第二百三十七條第一項及第二百三十八條ノ規定ハ控訴ノ取下ニ之ヲ準用ス

第三百六十四條　控訴ヲ爲ス權利ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得

第三百六十五條　控訴權ノ拋棄ハ控訴提起前ニ在リテハ第一審裁判所、控訴提起後ニ在リテハ控訴裁判所ニ對スル申述ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

控訴提起後ノ控訴權ノ拋棄ハ控訴ノ取下ト共ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

控訴權拋棄ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

第三百六十六條　控訴ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ二週間內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス但シ其ノ期間前提起シタル控訴ノ效力ヲ妨ケス

前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス

第三百六十七條　控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ第一審裁判所又ハ控訴裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

控訴狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者及法定代理人

二　第一審判決ノ表示及其ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲ス旨

第三百六十八條　準備書面ニ關スル規定ハ控訴狀ニ之ヲ準用ス

第三百六十九條　第一審裁判所ニ控訴狀ノ提出アリタルトキハ裁判所書記ハ訴訟記錄ニ控訴狀ヲ添附シテ遲滯ナク之ヲ控訴裁判所ノ書記ニ送付スルコトヲ要ス

控訴裁判所ニ控訴狀ノ提出アリタルトキハ裁判所書記ハ遲滯ナク第一審裁判所ノ書記ニ訴訟記錄ノ送付ヲ求ムルコトヲ要ス

第三百七十條　第二百二十八條ノ規定ハ控訴狀カ第三百六十七條第二項ノ規定ニ違背スル場合、法律ノ規定ニ從ヒ控訴狀ニ印紙ヲ貼用セサル場合及控訴狀ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第三百七十一條　控訴狀ハ之ヲ被控訴人ニ送達スルコトヲ要ス

第三百七十二條　被控訴人ハ控訴權消滅ノ後ト雖ト口頭辯論ノ終結ニ至ル迄附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

第三百七十三條　附帶控訴ハ控訴ノ取下アリタルトキ又ハ不適法トシテ控訴ノ棄却アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ但シ控訴ノ要件ヲ具備スルモノハ之ヲ獨立ノ控訴ト看做ス

第三百七十四條　附帶控訴ニ付テハ控訴ニ關スル規定ニ依ル

第三百七十五條　控訴裁判所ハ第一審ノ判決ニ付不服ノ申立ナキ部分ニ限リ申立ニ因リ決定ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得

第三百七十六條　假執行ニ關スル控訴審ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

前條ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百七十七條　口頭辯論ハ當事者カ第一審ノ判決ノ變更ヲ求ムル限度ニ於テノミ之ヲ爲ス

當事者ハ第一審ニ於ケル口頭辯論ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス

第三百七十八條　前編第一章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外控訴審ノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス

第三百七十九條　第一審ニ於テ爲シタル訴訟行爲ハ控訴審ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第三百八十條　第一審ニ於テ爲シタル準備手續ハ控訴審ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第三百八十一條　控訴審ニ於テハ當事者ハ第一審裁判所カ管轄權ヲ有セサルコトヲ主張スルコトヲ得ス但シ專屬管轄ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三百八十二條　反訴ハ相手方ノ同意アル場合ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得

相手方カ異議ヲ述ヘスシテ反訴ノ本案ニ付辯論ヲ爲シタルトキハ反訴ノ提起ニ同意シタルモノト看做ス

第三百八十三條　不適法ナル控訴ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

第三百八十四條　控訴裁判所ハ第一審判決ヲ相當トスルトキハ控訴ヲ棄却スルコトヲ要ス

判決カ其ノ理由ニ依レハ不當ナル場合ニ於テモ他ノ理由ニ依リテ正當ナルトキハ控訴ヲ棄却スルコトヲ要ス

第三百八十五條　第一審判決ノ變更ハ不服申立ノ限度ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十六條　控訴裁判所ハ第一審判決ヲ不當トスルトキハ之ヲ取消スコトヲ要ス

第三百八十七條　第一審ノ判決ノ手續カ法律ニ違背シ

タルトキハ控訴裁判所ハ判決ヲ取消スコトヲ要ス

第三百八十八條　訴ヲ不適法トシテ却下シタル第一審判決ヲ取消ス場合ニ於テハ控訴裁判所ハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ要ス

第三百八十九條　前條ノ場合ノ外控訴裁判所カ第一審判決ヲ取消ス場合ニ於テ事件ニ付尚辯論ヲ爲ス必要アルトキハ之ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得

第一審裁判所ニ於ケル訴訟手續カ法律ニ違背シタルコトヲ理由トシテ事件ヲ差戻ストキハ其ノ訴訟手續ハ之ニ因リテ取消サレタルモノト看做ス

第三百九十條　事件カ管轄違ナルコトヲ理由トシテ第一審判決ヲ取消ストキハ控訴裁判所ハ判決ヲ以テ事件ヲ管轄裁判所ニ移送スルコトヲ要ス

第三百九十一條　判決ニ事實及理由ヲ記載スルニハ第一審判決ヲ引用スルコトヲ得

第三百九十二條　訴訟完結シタル後上訴ノ提起ナクシテ上訴期間滿了シタルトキハ裁判所書記ハ判決又ハ第三百七十條ノ規定ニ依ル命令ノ正本ヲ訴訟記錄ニ添附シ之ヲ第一審裁判所ノ書記ニ送付スルコトヲ要ス

第二章　上告

第三百九十三條　上告ハ控訴審ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百六十條第二項ノ場合ニ於テハ第一審判決ニ對シ直ニ上告ヲ爲スコトヲ得

第三百九十四條　上告ハ判決カ法令ニ違背シタルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十五條　判決ハ左ノ場合ニ於テハ常ニ法令ニ違背シタルモノトス

一　法律ニ從ヒテ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ

二　法律ニ依リ判決ニ關與スルコトヲ得サル判事カ判決ニ關與シタルトキ

三　專屬管轄ニ關スル規定ニ違背シタルトキ

四　法定代理權、訴訟代理權又ハ代理人カ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アリタルトキ

五　口頭辯論公開ノ規定ニ違背シタルトキ

六　判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルトキ

前項第四號ノ規定ハ第五十四條又ハ第八十七條ノ規定ニ依ル追認アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第三百九十六條　前章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上告及上告審ノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス

第三百九十七條　上告裁判所ノ書記ハ原裁判所ノ書記

ヨリ訴訟記錄ノ送付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ當事者ニ通知スルコトヲ要ス

第三百九十八條　上告狀ニ上告ノ理由ヲ記載セサルトキハ前條ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ上告理由書ヲ提出スルコトヲ要ス

第三百九十九條　上告人カ前條ノ規定ニ違背シ上告理由書ヲ提出セサルトキハ上告裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ上告ヲ却下スルコトヲ得

第四百條　裁判長ハ相當ノ期間ヲ定メ答辯書ヲ提出スヘキコトヲ被上告人ニ命スルコトヲ得

第四百一條　上告裁判所カ上告狀、上告理由書、答辯書其ノ他ノ書類ニ依リ上告ヲ理由ナシト認ムルトキハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スルコトヲ得

第四百二條　上告裁判所ハ上告理由ニ基キ不服ノ申立アリタル限度ニ於テノミ調査ヲ爲ス

第四百三條　原判決ニ於テ適法ニ確定シタル事實ハ上告裁判所ヲ羈束ス

第四百四條　第三百九十三條第二項ノ規定ニ依ル上告アリタル場合ニ於テハ上告裁判所ハ原判決ニ於ケル事實ノ確定カ法律ニ違背シタルコトヲ理由トシテ其ノ判決ヲ破毀スルコトヲ得ス

第四百五條　第四百二條乃至前條ノ規定ハ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ之ヲ適用セス

第四百六條　上告裁判所ハ原判決ニ付不服ノ申立ナキ部分ニ限リ申立ニ因リ決定ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得

第四百七條　上告ヲ理由アリトスルトキハ上告裁判所ハ原判決ヲ破毀シ事件ヲ原裁判所ニ差戻シ又ハ同等ナル他ノ裁判所ニ移送スルコトヲ要ス

差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ新ニ口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲スコトヲ要ス但シ上告裁判所カ破毀ノ理由ト爲シタル事實上及法律上ノ判斷ニ羈束セラル

原判決ニ關與シタル判事ハ前項ノ裁判ニ關與スルコトヲ得ス

第四百八條　左ノ場合ニ於テハ上告裁判所ハ事件ニ付裁判ヲ爲スコトヲ要ス

一　確定シタル事實ニ付法令ノ適用ヲ誤リタルコトヲ理由トシテ判決ヲ破毀スル場合ニ於テ事件カ其ノ事實ニ基キ裁判ヲ爲スニ熟スルトキ

二　事件カ通常裁判所ノ權限ニ屬セサルコトヲ理由トシテ判決ヲ破毀スルトキ

第四百九條　差戻又ハ移送ノ判決アリタルトキハ裁判所書記ハ其ノ判決ノ正本ヲ訴訟記錄ニ添附シ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ノ書記ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス

第三章　抗告

第四百十條　口頭辯論ヲ經スシテ訴訟手續ニ關スル申立ヲ却下シタル決定又ハ命令ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百十一條　決定又ハ命令ヲ以テ裁判ヲ爲スコトヲ得サル事項ニ付決定又ハ命令ヲ爲シタルトキハ當事者ハ之ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百十二條　受命判事又ハ受託判事ノ裁判ニ對シ不服アル當事者ハ受訴裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ裁判カ受訴裁判所ノ裁判ナル場合ニ於テ之ニ對シ抗告ヲ爲シ得ルモノナルトキニ限ル

抗告ハ異議ニ付テノ裁判ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ規定ハ大審院ニ繫屬スル事件ニ付受命判事又ハ受託判事ノ爲シタル裁判ニ之ヲ準用ス

第四百十三條　抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ其ノ決定カ法令ニ違背シタルコトヲ理由トスル場合ニ限リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百十四條　抗告及抗告裁判所ノ訴訟手續ニハ其ノ性質ニ反セサル限リ第一章ノ規定ヲ準用ス但シ前條ノ抗告及之ニ關スル訴訟手續ニハ前章ノ規定ヲ準用ス

第四百十五條　即時抗告ハ裁判ノ告知アリタル日ヨリ一週間內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス

第四百十六條　抗告ハ原裁判所又ハ抗告裁判所ニ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

抗告裁判所カ抗告ヲ受ケタル場合ニ於テ適當ト認ムルトキハ事件ヲ原裁判所ニ送付スルコトヲ得

第四百十七條　原裁判所カ抗告ヲ受ケ又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ事件ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ其ノ裁判ヲ更正スルコトヲ要ス

抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ附シ事件ヲ抗告裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第四百十八條　抗告ハ即時抗告ニ限リ執行停止ノ效力ヲ有ス

抗告裁判所又ハ原裁判ヲ爲シタル裁判所若ハ判事ハ抗告ニ付決定アル迄原裁判ノ執行ヲ停止シ其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第四百十九條　抗告裁判所ハ抗告ニ付口頭辯論ヲ命セサル場合ニ於テハ抗告人其ノ他ノ利害關係人ヲ審訊スルコトヲ得

第四編　再審

第四百二十條　左ノ場合ニ於テハ確定ノ終局判決ニ對シ再審ノ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得但シ當事者カ上訴ニ依リ其ノ事由ヲ主張シタルトキ又ハ之ヲ知リテ主張セサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

一　法律ニ從ヒテ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ

二　法律ニ依リ裁判ニ關與スルコトヲ得サル判事カ裁判ニ關與シタルトキ

三　法定代理權、訴訟代理權又ハ代理人カ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アリタルトキ

四　裁判ニ關與シタル判事カ事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルトキ

五　刑事上罰スヘキ他人ノ行爲ニ因リ自白ヲ爲スニ至リタルトキ又ハ判決ニ影響ヲ及ホスヘキ攻擊若ハ防禦ノ方法ヲ提出スルコトヲ妨ケラレタルトキ

六　判決ノ證據ト爲リタル文書其ノ他ノ物件カ僞造又ハ變造セラレタルモノナリシトキ

七　證人、鑑定人、通事又ハ宣誓シタル當事者若ハ法定代理人ノ虛僞ノ陳述カ判決ノ證據ト爲リタルトキ

八　判決ノ基礎ト爲リタル民事若ハ刑事ノ判決其ノ他ノ裁判又ハ行政處分カ後ノ裁判又ハ行政處分ニ依リテ變更セラレタルトキ

九　判決ニ影響ヲ及ホスヘキ重要ナル事項ニ付判斷ヲ遺脫シタルトキ

十　不服ノ申立アル判決カ前ニ言渡サレタル確定判決ト抵觸スルトキ

前項第四號乃至第七號ノ場合ニ於テハ罰スヘキ行爲ニ付有罪ノ判決若ハ過料ノ裁判確定シタルトキ又ハ證據欠缺外ノ理由ニ因リ有罪ノ確定判決若ハ過料ノ確定裁判ヲ得ルコト能ハサルトキニ限リ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

控訴審ニ於テ事件ニ付本案判決ヲ爲シタルトキハ第一審ノ判決ニ對シ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第四百二十一條　判決ノ基本タル裁判ニ付前條ニ定メタル事由アルトキハ其ノ裁判ニ對シ獨立ノ不服ノ方法ヲ定メタル場合ニ於テモ其ノ事由ヲ以テ判決ニ對

スル再審ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百二十二條　再審ハ不服ノ申立アル判決ヲ爲シタル裁判所ノ專屬管轄トス

審級ヲ異ニスル裁判所カ同一事件ニ付爲シタル判決ニ對スル再審ノ訴ハ上級裁判所併セテ之ヲ管轄ス

第四百二十三條　再審ノ訴訟手續ニハ其ノ性質ニ反セサル限リ各審級ニ於ケル訴訟手續ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百二十四條　再審ノ訴ハ當事者カ判決確定後再審ノ事由ヲ知リタル日ヨリ三十日內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス

判決確定後五年ヲ經過シタルトキハ再審ノ訴ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

再審ノ事由カ判決確定後ニ生シタルトキハ前項ノ期間ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四百二十五條　前條ノ規定ハ代理權ノ欠缺及第四百二十條第一項第十號ニ掲クル事項ヲ理由トスル再審ノ訴ニハ之ヲ適用セス

第四百二十六條　訴狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者及法定代理人

二　不服ノ申立アル判決ノ表示及其ノ判決ニ對シ再審ヲ求ムル旨

三　不服ノ理由

第四百二十七條　本案ノ辯論及裁判ハ不服ノ範圍內ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得

不服ノ理由ハ之ヲ變更スルコトヲ得

第四百二十八條　再審ノ事由アル場合ニ於テモ判決ヲ正當トスルトキハ裁判所ハ再審ノ訴ヲ却下スルコトヲ要ス

第四百二十九條　即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル決定又ハ命令カ確定シタル場合ニ於テ第四百二十條第一項ニ掲クル事由アルトキハ確定判決ニ對スル第四百二十條乃至前條ノ規定ニ準シ再審ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五編　督促手續

第四百三十條　金錢其ノ他ノ代替物又ハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ニ付テハ裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ支拂命令ヲ發スルコトヲ得但シ日本ニ於テ公示送達ニ依ラスシテ其ノ命令ノ送達ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ限ル

第四百三十一條　督促手續ハ債務者ノ普通裁判籍所在地ノ區裁判所又ハ第九條ノ規定ニ依ル管轄區裁判所ノ專屬管轄トス

第四百三十二條　支拂命令ノ申立ニハ其ノ性質ニ反セサル限リ訴ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百三十三條　支拂命令ノ申立カ第四百三十條若ハ管轄ニ關スル規定ニ違背スルトキ又ハ申立ノ趣旨ニ依リ請求ノ理由ナキコト明ナルトキハ其ノ申立ハ之ヲ却下スルコトヲ要ス請求ノ一部ニ付支拂命令ヲ發スルコトヲ得サルトキ其ノ一部ニ付亦同シ

申立却下ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四百三十四條　支拂命令ハ債務者ヲ審訊セスシテ之ヲ發ス

債務者ハ支拂命令ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第四百三十五條　支拂命令ニハ當事者、法定代理人竝請求ノ趣旨及原因ヲ記載シ且債務者カ支拂命令送達ノ日ヨリ二週間內ニ異議ヲ申立テサルトキハ債權者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第四百三十六條　支拂命令ハ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

第四百三十七條　債務者カ假執行ノ宣言前異議ヲ申立テタルトキハ支拂命令ハ其ノ異議ノ範圍內ニ於テ效力ヲ失フ

第四百三十八條　債務者カ支拂命令送達ノ日ヨリ二週間內ニ異議ヲ申立テサルトキハ裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ支拂命令ニ手續ノ費用額ヲ附記シ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ要ス但シ其ノ宣言前異議ノ申立アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

假執行ノ宣言ハ支拂命令ノ原本及正本ニ之ヲ記載シ其ノ正本ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

假執行ノ申立却下ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百三十九條　債權者カ假執行ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ三十日內ニ其ノ申立ヲ爲ササルトキハ支拂命令ハ其ノ效力ヲ失フ

第四百四十條　假執行ノ宣言ヲ附シタル支拂命令送達ノ日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ債務者ハ其ノ支拂命令ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス

第四百四十一條　區裁判所カ異議ヲ不適法ト認ムルト

キハ請求カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テモ決定ヲ以テ其ノ異議ヲ却下スルコトヲ要ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百四十二條　支拂命令ニ對シ適法ナル異議ノ申立アリタルトキハ異議アル請求ニ付テハ其ノ目的ノ價額ニ從ヒ支拂命令ノ申立ノ時ニ於テ其ノ命令ヲ發シタル區裁判所又ハ其ノ區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ訴ノ提起アリタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ督促手續ノ費用ハ之ヲ訴訟費用ノ一部トス

前項ノ規定ニ依リテ地方裁判所ニ訴ノ提起アリタルモノト看做サレタル場合ニ於テハ裁判所書記ハ遲滯ナク訴訟記錄ヲ地方裁判所ノ書記ニ送付スルコトヲ要ス

第四百四十三條　假執行ノ宣言ヲ附シタル支拂命令ニ對シ異議ノ申立ナキトキ又ハ異議却下ノ決定確定シタルトキハ支拂命令ハ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第四百四十四條乃至第四百九十六條　（削除）

第六編　強制執行

第一章　總則

第四百九十七條　強制執行ハ確定ノ終局判決又ハ假執行ノ宣言ヲ附シタル終局判決ニ因リテ之ヲ爲ス

第四百九十七條ノ二　判決カ其判決ニ表示シタル當事者以外ノ者ニ對シ效力ヲ有ス可キトキハ其者ニ對シ又ハ其者ノ爲メニモ之ヲ執行スルコトヲ得但第六十四條ノ規定ニ依ル參加人ニ付テハ此限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ執行力アル正本ノ付與ニ付テハ第五百十九條乃至第五百二十一條ノ規定ヲ準用ス

第四百九十八條　判決ハ適法ナル故障ノ申立又ハ適法ナル上訴ノ提起ニ付キ定メタル期間ノ滿了前ニハ確定セサルモノトス

判決ノ確定ハ故障若クハ上訴ヲ其期間內ニ申立若クハ提起スルニ因リ之ヲ遮斷ス

第四百九十九條　原告若クハ被告カ判決ノ確定ニ付キ證明書ヲ求ムルトキハ第一審裁判所ノ書記ハ記錄ニ基キ之ヲ付與ス

訴訟カ猶ホ上級審ニ於テ繫屬中ナルトキハ上級裁判所ノ書記ハ判決ノ確定ト爲リタル部分ノミニ付キ證明書ヲ付與ス

判決ニ對シ上訴ノ提起ナキ場合ニ非サレハ證明書ヲ付與スルコトヲ得サルトキニ限リ上訴ヲ管轄スル裁判所ノ書記カ不變期間內ニ上訴ノ提起ナキコトヲ認

メタル證明書ヲ以テ足ル

第五百條　再審ヲ求ムル申立アルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ爲ス可キコトヲ命シ及ヒ保證ヲ立テシメテ其爲シタル強制處分ヲ取消ス可キヲ命スルコトヲ得

保證ヲ立テシメスシテ爲ス強制執行ノ停止ハ其執行ニ因リ償フコト能ハサル損害ヲ生ス可キコトヲ疏明スルトキニ限リ之ヲ許ス

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得其裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五百一條乃至第五百十一條　（削除）

第五百十二條　假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シ上訴ヲ提起シタルトキ又ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル支拂命令ニ對シ異議ヲ申立テタルトキハ第五百條ノ規定ヲ準用ス

第五百十三條　本編ノ規定ニ從ヒ原告若クハ被告ニ保證ヲ立ツル義務ヲ負ハシメ若クハ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ許シタル場合ニ於テハ原告若クハ被告ハ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ執行裁判所ニ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ得

保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタルコトニ付テハ求ニ因リ證明書ヲ付與ス可シ

第百十二條、第百十三條、第百十五條及ヒ第百十六條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル保證ニ付キ之ヲ準用ス

第五百十四條　外國裁判所ノ判決ニ因レル强制執行ハ本邦ノ裁判所ニ於テ執行判決ヲ以テ其適法ナルコトヲ言渡シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

執行判決ヲ求ムル訴ニ付テハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ又普通裁判籍ナキトキハ第八條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル裁判所之ヲ管轄ス

第五百十五條　執行判決ハ裁判ノ當否ヲ調査セスシテ之ヲ爲ス可シ

執行判決ヲ求ムル訴ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ却下ス可シ

第一　外國裁判所ノ判決ノ確定ト爲リタルコトヲ證明セサルトキ

第二　外國判決カ第二百條ノ條件ヲ具備セサルトキ

第五百十六條　強制執行ハ執行文ヲ付シタル判決ノ正本ニ基キ之ヲ爲ス

執行力アル正本ハ第一審裁判所ノ書記又訴訟カ上級裁判所ニ繫屬スルトキハ其裁判所ノ書記之ヲ付與ス

執行力アル正本ヲ求ムル申立ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百十七條　執行文ハ判決ノ正本ノ末尾ニ之ヲ附記ス

其文式左ノ如シ

前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ强制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ス

執行文ニハ裁判所書記署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押ス可シ

第五百十八條　執行力アル正本ハ判決ノ確定シタルトキ又ハ假執行ノ宣言アリタルトキニ限リ之ヲ付與ス

判決ノ執行カ其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立ツルコトニ繫ル場合ノ外他ノ條件ニ繫ル場合ニ於テハ債權者カ證明書ヲ以テ其條件ヲ履行シタルコトヲ證スルトキニ限リ執行力アル正本ヲ付與スルコトヲ得

第五百十九條　執行力アル正本ハ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ之ヲ付與シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ一般ノ承繼人ニ對シ之ヲ付與スルコトヲ得但其承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキ又ハ證明書ヲ以テ之ヲ證スルトキニ限ル

此承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキハ之ヲ執行文ニ記載ス可シ

第五百二十條　第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テハ執行力アル正本ハ裁判長ノ命令アルトキニ限リ之ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其命令前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

右命令ハ執行文ニ之ヲ記載ス可シ

第五百二十一條　第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ニ依リ必要ナル證明ヲ爲ス能ハサルトキハ債權者ハ判決ニ基キ執行文ノ付與ニ付キ第一審ノ受訴裁判所ニ訴ヲ起スコトヲ得

第五百二十二條　執行文ノ付與ニ對シ債務者カ異議ヲ申立テタルトキハ其執行文ヲ付與シタル裁判所書記ノ屬スル裁判所之ヲ裁判ス

裁判長ハ其裁判前ニ假處分ヲ爲スコトヲ得殊ニ保證

ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ强制執行ヲ一時停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ强制執行ヲ續行ス可キヲ命スルコトヲ得

第五百二十三條　債權者カ執行力アル正本ノ數通ヲ求メ又ハ前ニ付與シタル正本ヲ返還セスシテ更ニ同一判決ノ正本ヲ求ムルトキハ裁判長ノ命令アルトキニ限リ之ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其命令ノ前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

相手方ヲ審訊セスシテ執行力アル正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ相手方ニ通知ス可シ

正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ明記ス可シ

第五百二十四條　執行力アル正本ノ付與前ニ判決ノ原本ニ原告ノ爲メ若クハ被告ノ爲ニ之ヲ付與スル旨且之ヲ付與スル日時ヲ記載ス可シ

第五百二十五條　執行力アル正本ノ效力ハ之ヲ付與シタル裁判所ノ管轄內ニ止マラス總テ本邦ノ裁判區域內ニ及フモノトス

第五百二十六條　債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ强制執行ヲ爲スモ完全ナル辨濟ヲ得ル能ハサルトキハ數通ノ執行力アル正本ニ基キ數箇ノ地又ハ數箇ノ方法ニテ同時ニ强制執行ヲ爲ス權利ヲ有ス

第五百二十七條　債權者ハ執行ヲ爲ス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ屆出ツ可シ

第五百二十八條　强制執行ハ之ヲ求ムル者及ヒ之ヲ受クル者ノ氏名ヲ判決又ハ之ニ附記スル執行文ニ表示シ且判決ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限リ之ヲ始ムルコトヲ得

判決ノ執行カ其旨趣ニ從ヒ債權者ノ證明ス可キ事實ノ到來ニ繫ルトキ又ハ判決ノ執行カ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ爲シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ承繼人ニ對シ爲ス可キトキハ執行ス可キ判決ノ外尙ホ之ニ附記スル執行文ヲ强制執行ヲ始ムル前ニ送達スルコトヲ要ス

若シ證明書ニ依リ執行文ヲ付與シタルトキハ亦其證書ノ謄本ヲ强制執行ヲ始ムル前ニ送達シ又ハ同時ニ送達スルコトヲ要ス

第五百二十九條　請求ノ主張カ或ル日時ノ到來ニ繫ル

トキハ其日時ノ滿了後ニ限リ強制執行ヲ始ムルコトヲ得

若シ執行カ債權者ヨリ保證ヲ立ツルコトニ繫ルトキハ債權者カ保證ヲ立テタルコトニ付テノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其謄本ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限リ其執行ヲ始ムルコトヲ得

第五百三十條　豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シテ爲ス强制執行ハ其上班司令官廳ニ通知ヲ爲シタル後ニ限リ之ヲ始ムルコトヲ得

此官廳ハ債權者ノ求ニ因リ通知ノ受取證ヲ付與ス可シ

第五百三十一條　强制執行ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ナキトキニ限リ執達吏之ヲ實施ス

債權者ハ强制執行ヲ委任スル爲ニ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

裁判所書記ノ委任シタル執達吏ハ債權者ノ委任シタルモノト看做ス

第五百三十二條　執達吏ハ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス行爲及ヒ職務上ノ義務ノ違背ヨリシテ債權者其他ノ關係人ニ對シ損害ヲ生セシメタルトキハ第一ニ其責ニ任ス

第五百三十三條　債權者執行力アル正本ヲ交付シテ强制執行ヲ委任シタルトキハ執達吏ハ特別ノ委任ヲ受ケサルトキト雖モ支拂其他ノ給付ヲ受取リ其受取リタルモノニ付キ有效ニ受取ノ證書ヲ作リ之ヲ交付シ且債務者ニ於テ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本ヲ債務者ニ交付スルコトヲ得

第五百三十四條　執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルヲ以テ債務者及ヒ第三者ニ對シ强制執行及ヒ前條ニ揭ケタル行爲ヲ實施スル權利ヲ有ス債權者ハ此等ノ者ニ對シ委任ノ欠缺又ハ制限ヲ主張スルコトヲ得ス

執達吏ハ其正本ヲ携帶シ關係人ノ求アルトキハ其資格ヲ證スル爲ニ之ヲ示ス可シ

第五百三十五條　執達吏ハ債務者カ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本及ヒ受取ノ證ヲ之ニ交付シ又其義務ノ一分ヲ盡シタルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シ且受取ノ證ヲ債務者ニ交付ス可シ

債務者カ後ニ債權者ニ對シ受取ノ證ヲ求ムル權利ハ前項ノ規定ニ因リテ妨ケラルルコト無シ

第五百三十六條　執達吏ハ執行ノ爲メ必要ナル場合ニ

於テハ債務者ノ住居、倉庫及ヒ筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉及ヒ筐匣ヲ開カシムル權利ヲ有ス

抵抗ヲ受クル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用ヰ且警察上ノ援助ヲ求ムルコトヲ得若シ兵力ヲ要スルトキハ之ヲ執行裁判所ニ申立ツ可シ

第五百三十七條　執達吏ハ執行行爲ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受クルトキ又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行行爲ヲ爲スニ際シ債務者又ハ成長シタル其家族若クハ雇人ニ出會ハサルトキハ成丁者二人又ハ市町村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシム可シ

第五百三十八條　强制執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル各人ニハ其求ニ因リ執達吏ノ記錄ノ閲覽ヲ許シ及ヒ記錄中ニ存スル書類ノ謄本ヲ付與スルコトヲ要ス

第五百三十九條　夜間及ヒ日曜日竝ニ一般ノ祝祭日ニハ執行裁判所ノ許可アルトキニ限リ執行行爲ヲ爲スコトヲ得

右許可ノ命令ハ强制執行ノ際之ヲ示ス可シ

第五百四十條　執達吏ハ各執行行爲ニ付キ調書ヲ作ル可シ

此調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　調書ヲ作リタル場所、年月日

第二　執行行爲ノ目的物及ヒ其重要ナル事情ノ略記

第三　執行ニ與カリタル各人ノ表示

第四　右各人ノ署名捺印

第五　調書ヲ其各人ニ讀聞セ又ハ閲覽セシメ其承諾ノ後署名捺印ヲ爲シタルコトノ開示

第六　執達吏ノ署名捺印

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ具備スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ記載ス可シ

第五百四十一條　執行行爲ニ屬スル催告其他ノ通知ハ執達吏口頭ヲ以テ之ヲ爲シ且調書ニ之ヲ記載ス可シ

若シ口頭ヲ以テ催告又ハ通知ヲ爲ス能ハサルトキハ第百六十七條、第百六十八條、第百七十一條及ヒ第百七十二條ノ規定ヲ準用シテ其調書ノ謄本ヲ送達シ又別ニ送達證ヲ作ラサルトキハ調書ニ其送達ヲ爲シタルコトヲ記載ス可シ

若シ强制執行ノ地ニ於テモ執行裁判所ノ管轄内ニ於テモ送達ヲ爲ス能ハサルトキハ催告又ハ通知ヲ受ク可キ者ニ郵便ヲ以テ調書ノ謄本ヲ送達シ且之ヲ郵便ニ付シタルコトヲ調書ニ記載ス可シ

第五百四十二條　執行行爲ノ際債務者ニ爲ス可キ送達及ヒ通知ハ債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ之ヲ必要トセス

第五百四十三條　此法律ニ於テ裁判所ニ任カセタル執行行爲ノ處分又ハ其行爲ノ共力ハ執行裁判所トシテ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

法律ニ於テ別段ニ裁判所ヲ指定セサル各箇ノ場合ニ於テハ執行手續ヲ爲ス可キ地又ハ之ヲ爲シタル地ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト看做ス

執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百四十四條　强制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守ス可キ手續ニ關スル申立及ヒ異議ニ付テハ執行裁判所之ヲ裁判ス又執行裁判所ハ第五百二十二條第二項ニ定メタル命ヲ發スル權ヲ有ス

執達吏カ執行委任ヲ受クルヲ拒ミ若クハ委任ニ從ヒ執行行爲ヲ實施スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ執達吏ノ計算セシ手數料ニ付キ異議アルトキハ執行裁判所ハ之ヲ裁判スル權ヲ有ス

第五百四十五條　判決ニ因リテ確定シタル請求ニ關スル債務者ノ異議ハ訴ヲ以テ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ主張ス可シ

右ノ異議ハ此法律ノ規定ニ從ヒ遲クトモ異議ヲ主張スルコトヲ要スル口頭辯論ノ終結後ニ其原因ヲ生シタルトキニ限リ之ヲ許ス

債務者カ數箇ノ異議ヲ有スルトキハ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス

第五百四十六條　前條ノ規定ハ第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テ債務者カ執行文付與ノ際證明シタリト認メラレタル事實ノ到來ニシテ此ニ因リ判決ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭ヒ又ハ認メラレタル承繼ヲ爭フトキハ亦之ヲ準用ス但此場合ニ於テ第五百三十二條ノ規定ニ從ヒ執行文ノ付與ニ對シ異議ヲ申立ツル債務者ノ權ハ此カ爲ニ妨ケラルルコト無シ

第五百四十七條　强制執行ノ續行ハ前二條ノ場合ニ於ケル異議ノ訴ノ提起ニ因リテ妨ケラルルコト無シ

然レトモ異議ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ疏明アリタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ判決ヲ爲スニ至ルマテ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ强制執行ヲ停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ强制執行ヲ

續行ス可キコトヲ命シ又ハ其爲シタル執行處分ヲ保證ヲ立テシメテ取消ス可キヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ又急迫ナル場合ニ於テハ裁判長之ヲ爲スコトヲ得

急迫ナル場合ニ於テハ執行裁判所モ亦此權利ヲ行使スルコトヲ得此場合ニ於テハ執行裁判所ハ受訴裁判所ノ裁判ヲ提出セシムル爲ニ相當ノ期間ヲ定ム可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ債權者ノ申立ニ因リ强制執行ヲ續行ス

第五百四十八條　受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ付キ裁判スル判決ニ於テ前條ニ揭ケタル命ヲ發シ又ハ既ニ發シタル命ヲ取消シ之ヲ變更シ若クハ之ヲ認可スルコトヲ得

判決中前項ニ揭クル事項ニ限リ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

右裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五百四十九條　第三者カ强制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ其强制執行ニ對スル異議ヲ主張シ又債務者ニ於テ其異議ヲ正當ナリトセサルトキハ債權者及ヒ債務者ニ對シテ之ヲ主張ス可シ

右訴ヲ債權者及ヒ債務者ニ對シテ起ストキハ之ヲ共同被告ト爲ス

右訴ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ執行裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス

强制執行ノ停止及ヒ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス但執行處分ノ取消ハ保證ヲ立テシメスシテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百五十條　强制執行ハ左ノ書類ヲ提出シタル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ之ヲ制限ス可シ

第一　執行ス可キ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ强制執行ヲ許サストシテ宣言シ若クハ其停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本

第二　執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル裁判ノ正本

第三　執行ヲ免カルル爲メ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面

第四　執行ス可キ判決ノ後ニ債權者カ辨濟ヲ受ケ

又ハ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタル旨ヲ記載シタル證書

第五百五十一條　前條第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲモ取消ス可ク第四號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可ク第二號ノ場合ニ於テハ其裁判ヲ以テ從前ノ執行行爲ノ取消ヲ命セサルトキニ限リ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可シ

第五百五十二條　強制執行ノ開始後ニ債務者カ死亡スルトキハ強制執行ハ遺產ニ對シ之ヲ續行ス可シ債務者ノ知ルコトヲ要スル執行行爲ヲ實施スル場合ニ於テ相續人アラサルトキ又ハ相續人ノ所在明カナラサルトキハ執行裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ遺產又ハ相續人ノ爲メ特別代理人ヲ任ス可シ

第五百五十三條　強制執行ノ開始後ニ戶主タリシ債務者カ其地位ヲ辭シ又ハ之ヲ失ヒタルトキハ此變更ノ生セシ當時債務者ノ所持シタル財產ニ付キ前條ノ規定ヲ準用ス

第五百五十四條　強制執行ノ費用ハ必要ナリシ部分ニ限リ債務者ノ負擔ニ歸ス此費用ハ強制執行ヲ受クル請求ト同時ニ之ヲ取立ツ可シ

強制執行ノ基本タル判決ヲ廢棄若クハ破毀シタルトキハ其費用ハ之ヲ債務者ニ辨濟ス可シ

第五百五十五條　執行ノ爲メ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ其援助ヲ官廳ニ求ム可シ

第五百五十六條　豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シ兵營及ヒ軍事用廳舍又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ管轄ノ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス

囑託ニ因リ差押ヘタル物ハ債權者ノ委任シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

第五百五十七條　外國ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キ場合ニ於テ其外國官廳カ本邦裁判所ニ法律上ノ共助ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ外國官廳ニ囑託ス可シ

外國駐在ノ本邦領事ニ依リ強制執行ヲ爲シ得ヘキトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ其領事ニ囑託ス可シ

第五百五十八條　強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百五十九條　強制執行ハ左ノ諸件ニ付テモ亦之ヲ

爲スコトヲ得

第一　抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判

第二　假執行ノ宣言ヲ付シタル支拂命令

第三　公證人カ其權限內ニ於テ成規ノ方式ニ依リ作リタル證書但一定ノ金額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ以テ目的トスル請求ニ付キ作リタル證書ニシテ直チニ強制執行ヲ受ク可キ旨ヲ記載シタルモノニ限ル

第五百六十條　前條ニ揭ケタル債務名義及ヒ訴訟上ノ和解竝ニ請求ノ拋棄又ハ認諾ニ因レル强制執行ニハ第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ヲ準用ス但第五百六十一條、第五百六十二條ノ規定ニ依リ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第五百六十一條　假執行ノ宣言ヲ付シタル支拂命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限リ執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

請求ニ關スル異議ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル支拂命令ノ送達後ニ生シタル原因ニ基クトキニ限リ之ヲ許

第五百六十三條　執行文付與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際到來シタリト認メタル承繼ヲ爭フ訴ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル支拂命令ヲ發シタル區裁判所之ヲ管轄ス但其請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキハ管轄地方裁判所ニ其訴ヲ起ス可シ

第五百六十一條ノ二　過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

第五百六十二條　公證人ノ作リタル證書ノ執行力アル正本ハ其證書ヲ保存スル公證人之ヲ付與ス

執行文付與ニ關スル異議ニ付テノ裁判及ヒ更ニ執行文付與ニ付テノ裁判ハ公證人職務上ノ住所ヲ有スル地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

請求ニ關スル異議ノ主張ニ付テハ第五百四十五條第二項ニ規定シタル制限ニ從ハス

執行文付與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ係リ此ニ因リテ證書ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭フ訴ハ債務者カ本邦ニ於テ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第八條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對シ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所之ヲ管

轄ス

第五百六十三條　本編ニ定メタル裁判籍ハ專屬ナリトス

第二章　金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第一節　動產ニ對スル強制執行

第一款　通則

第五百六十四條　動產ニ對スル強制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲ス

差押ハ執行力アル正本ニ揭ゲタル請求ヲ債權者ニ辨濟スル爲メ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フ爲ニ必要ナルモノノ外ニ及ホスコトヲ得ス

差押フ可キ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六十五條　第三者カ差押ヲ受ク可キ物ニ付キ物上ノ擔保權ヲ有スルモ差押ヲ妨クルコトヲ得ス然レトモ第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ訴ヲ以テ賣得金ニ付キ優先ノ辨濟ヲ請求スル權利ハ此カ爲ニ妨ケラルルコト無シ

此場合ニ於テ請求ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ疏明アリタルトキハ裁判所ハ賣得金ノ供託ヲ命ス可シ但此事項ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス

第二款　有體動產ニ對スル強制執行

第五百六十六條　債務者ノ占有中ニ在ル有體動產ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス

其物ハ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキハ之ヲ債務者ノ保管ニ任ス可シ此場合ニ於テハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスルトキニ限リ其效力ヲ生ス

執達吏ハ債務者ニ其差押ヲ爲シタルコトヲ通知ス可シ

第五百六十七條　前條ノ規定ハ債權者又ハ物ノ提出ヲ拒マサル第三者ノ占有中ニ在ル物ノ差押ニ付テモ亦之ヲ準用ス

第五百六十八條　果實ハ未タ土地ヨリ離レサル前ト雖モ之ヲ差押フルコトヲ得然レトモ其差押ハ通常ノ成熟時期ノ前一个月內ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

蠶ハ其多分カ繭ヲ成造スル爲メ揚リ蠶ト爲リタル後ニ非サレハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第五百六十九條　差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然ノ產出物ニモ當然及フモノトス

第五百七十條　左ニ揭クル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一　衣服、寢具、家具及ヒ廚具但此物カ債務者及ヒ其家族ノ爲メ缺ク可カラサルトキニ限ル

第二　債務者及ヒ其家族ニ必要ナル三个月間ノ食料及ヒ薪炭

第三　技術者、職工、勞役者及ヒ穩婆ニ在テハ其營業上缺ク可カラサル物

第四　農業者ニ在テハ其農業上缺ク可カラサル農具、家畜、肥料及ヒ次ノ收穫マテ農業ヲ續行スル爲メ缺ク可カラサル農產物

第五　文武ノ官吏、神職、僧侶、公立私立ノ教育場教師、辯護士、公證人及ヒ醫師ニ在テハ其職業ヲ執行スル爲メ缺ク可カラサル物竝ニ身分相當ノ衣服

第六　文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ニ在テハ第六百十八條ニ規定スル職務上ノ收入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケサル金額但差押ヨリ次期ノ俸給又ハ恩給ノ支拂マテノ日數ニ應シテ之ヲ計算ス

第七　藥舖ニ在テハ調藥ヲ爲ス爲メ缺ク可カラサル器具及ヒ藥品

第八　勳章及ヒ名譽ノ證標

第九　實印其他職業ニ必要ナル印

第十　神體、佛像其他禮拜ノ用ニ供スル物

第十一　系譜

第十二　債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル著述ノ稿本

第十三　債務者及ヒ其家族カ學校ニ於テ使用ニ供スル書籍

前項第二號ノ場合ニ於テ食料又ハ薪炭ニ各數種ノモノアルトキハ執達吏ハ債務者ノ利益ヲ考慮シテ差押ヲ爲ササル範圍ヲ定ムルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ執達吏ハ一應差押ヲ爲シタル上執行裁判所ニ差押フ可キ物ノ指定ヲ求ムルコトヲ得此指定ニ對シテハ當事者ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

債務者ノ承諾アルトキハ第一項第三號乃至第八號ニ揭ケタル物ヲ除ク外之ヲ差押フルコトヲ得

第五百七十條ノ二　差押ニ因リ債務者カ其生活上回復スルコト能ハサル窮迫ノ狀態ニ陷ルノ恐アル場合ニ於テ債務者カ誠實ニシテ債務履行ノ意思アリ且債權

者ノ經濟ニ甚シキ影響ヲ及ホササルモノト認ム可キ顯著ナル事由アルトキハ裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ前條ノ規定ニ依ルノ外必要ナル限度ニ於テ差押フルコトヲ得サル財產ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ裁判ヲ爲シタル後ニ於テ理由消滅シ又ハ事情變更シタルトキハ裁判所ハ當事者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ前項ノ裁判ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ得

第五百二十二條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百七十一條　差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス可シ若シ此カ爲ニ費用ヲ要スルトキハ債權者ヲシテ之ヲ豫納セシメ又債權者數名關係スルトキハ其要求額ノ割合ニ從ヒテ其各債權者ヨリ之ヲ豫納セシム可シ

第五百七十二條　執達吏ハ差押ヲ實施シタル後債權者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ要セスシテ以下數條ノ規定ニ從ヒテ公ノ競賣方法ヲ以テ其差押物ヲ賣却ス可シ

第五百七十三條　競賣ス可キ物ノ中ニ高價ノモノ有ルトキハ執達吏ハ適當ナル鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシム可シ

第五百七十四條　差押金錢ハ之ヲ債權者ニ引渡ス可シ

執達吏カ金錢ヲ取立テタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十五條　差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニハ少ナクトモ七日ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス但差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者及ヒ債務者カ競賣ヲ更ニ早ク爲サンコトヲ合意シタルトキ又ハ差押物ヲ永ク貯藏スルニ付キ不相應ノ費用若クハ其物ノ價格ノ著シク減少スル危害ヲ避ケン爲メ競賣ヲ早ク爲スコトノ必要ナルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十六條　競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲ス但差押債權者及ヒ債務者カ他ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

競賣ノ日時及ヒ場所ハ之ヲ公告ス但其公告ニハ競賣ス可キ物ヲ表示ス可シ

第五百七十七條　最高價競買ノ爲メノ競落ハ其價額ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス

競落物ノ引渡ハ代金ト引換ヘ之ヲ爲ス

最高價競買人競賣條件ニ定メタル支拂期日又ハ其定ナキトキハ競賣期日ノ終ル前ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ

物ノ引渡ヲ求メサルトキハ更ニ其物ヲ競賣ス可シ此場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競買ニ加ハルコトヲ得ス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ヲ擔任ス可シ其高キトキハ剩餘ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百七十八條　競賣ハ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ强制執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直チニ之ヲ止ム可シ

第五百七十九條　執達吏賣得金ヲ領收シタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百八十條　金銀物ハ其金銀ノ實價ヨリ以下ニ競落スルコトヲ許サス其實價マテニ競賣ヲ爲ス者ナキトキハ執達吏ハ金銀ノ實價ニ達スル價額ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第五百八十一條　執達吏有價證券ヲ差押ヘタルトキハ相場アルモノハ賣却日ノ相場ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却シ其相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ競賣ス可シ

第五百八十二條　有價證券ノ記名ナルトキハ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ書換ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

第五百八十三條　無記名ノ證券ニシテ記名ニ換ヘ又ハ他ノ方法ニ依リ流通ヲ止メタルモノナルトキハ執行裁判所ハ其流通回復ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リテ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

第五百八十四條　土地ヨリ離レサル前ニ差押ヘタル果實ノ競賣ハ其成熟ノ後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス執達吏ハ競賣ノ爲メ其收穫ヲ爲サシムル權利アリ

差押ヘタル蠶ノ競賣ハ全ク繭ト爲リタル後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス

第五百八十五條　差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ前數條ノ規定ニ依ラス他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於テ差押物ノ賣却ヲ爲ス可キ旨又ハ執達吏ニ依ラス他ノ者ヲシテ競賣ヲ爲サシム可キ旨ヲ命スルコトヲ得

第五百八十五條ノ二　執行裁判所必要アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ前條ノ裁判ヲ爲スコトヲ得

右裁判所ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五百八十六條　執達吏ハ既ニ差押ヘタル物ニ付キ他ノ債權者ノ爲メ更ニ差押ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス

執達吏ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ノ閲覽ヲ求メテ物ノ照査ヲ爲シ未タ差押ニ係ラサル物ア

ルトキハ之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ヲ交付シ且總テノ差押物ヲ競賣ニ付ス可キコトヲ求ム可シ若シ差押フ可キ物アラサルトキハ照査調書ヲ作リ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

前項ノ求ニ因リ執行ニ關スル債權者ノ委任ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ法律上移轉ス

假差押ニ係ル物ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第五百八十七條　前條ニ揭ケタル物ノ照査手續ハ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ差押ノ效力ヲ生ス

第五百八十八條　適當ナル期間經過スルモ執達吏競賣ヲ爲ササルトキハ差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ハ一定ノ期間內ニ競賣ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ相當ノ命令アランコトヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得

第五百八十九條　民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ執行力アル正本ニ因ラスシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得

第五百九十條　前條ノ配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シ執達吏ニ之ヲ爲ス可シ

第五百九十一條　第五百八十六條第二項及ヒ第五百九十條ノ場合ニ於テ執達吏ハ配當要求ノ有リタルコトヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ執達吏ノ通知アリタルヨリ三日ノ期間內ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ執達吏ニ申立ツ可シ

債務者カ認諾セサルコトヲ執達吏ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間內ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

第五百九十二條　配當ノ要求ハ競賣期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十三條　賣得金ヲ以テ配當ニ與カル各債權者ヲ滿足セシムルニ足ラサル場合ニ於テ債權者間ニ配當ノ協議調ハサルトキハ其賣得金ヲ供託ス可シ

數多ノ債權者ノ爲メ同時ニ金錢ヲ差押ヘタルトキ之ヲ以テ各債權者ヲ滿足セシムルニ足ラサル場合ニ於テモ亦同シ

右ノ場合ニ於テ執達吏ハ其事情ヲ執行裁判所ニ屆出ツ可ク其屆書ニハ執行手續ニ關スル書類ヲ添附ス可シ

第三款　債權及ヒ他ノ財產權ニ對スル強制執行

第五百九十四條　第三者(第三債務者)ニ對スル債務者ノ債權ニシテ金錢ノ支拂又ハ他ノ有體物若クハ有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスルモノノ強制執行ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲ス

第五百九十五條　執行裁判所トシテハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所、此區裁判所ナキトキハ差押フヘキ債權ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所管轄權ヲ有ス

差押フヘキ債權ハ第三債務者ノ普通裁判籍ノ所在地ニ在ルモノトス但物ノ引渡ヲ目的トスル債權及ヒ物上ノ擔保權ヲ有スル債權ハ其物ノ所在地ニ在ルモノトス

第五百九十六條　債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押フ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ

右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十七條　差押命令ハ豫メ第三債務者及ヒ債務者ノ審訊ヲ經スシテ之ヲ發ス

第五百九十八條　金錢ノ債權ヲ差押フ可キトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲ス可カラサルコトヲ命ス可シ

差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達シ又債權者ニハ其送達シタル旨ヲ通知ス可シ

差押ハ第三債務者ニ對スル送達ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百九十九條　抵當アル債權ノ差押ノ場合ニ於テハ債權者ハ債務者ノ承諾ヲ要セスシテ其債權ノ差押ヲ登記簿ニ記入スル權利アリ

此記入ノ申請ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ其申請ハ差押命令ノ申請ト之ヲ併合スルコトヲ得

裁判所ハ義務ヲ負フタル不動產ノ所有者(第三債務者)ニ差押命令ヲ送達シタル後記入ノ手續ヲ爲ス可シ

第六百條　差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アランコトヲ申請スルコトヲ得

右命令ノ送達ニ付テハ第五百九十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百一條　支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スル命令アル場合ニ於テハ其債權ノ存スル限リハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ爲スニ因リ債務者ハ債權ノ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス

第六百二條　取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ全額ニ及スモノトス但執行裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ差押債權者ヲ審訊シテ差押額ヲ其債權者ノ要求額マテニ制限シ其超過スル額ノ處分殊ニ取立ヲ爲スヲ許スコトヲ得其制限シタル部分ニ限リ他ノ債權者ハ配當要求ヲ爲スコトヲ得ス

右許可ハ第三債務者及ヒ債權者ニ通知ス可シ

第六百三條　手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レル債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス

第六百四條　俸給又ハ此ニ類スル繼續收入ノ債權ノ差押ハ債權額ヲ限トシ差押後ニ收入ス可キ金額ニ及フモノトス

第六百五條　職務上收入ノ差押ハ債務者ノ轉官兼任又ハ增俸ニ因ル收入ニモ亦及フモノトス

第六百六條　債務者ハ債權ニ關スル所持ノ證書ヲ差押債權者ニ引渡ス義務アリ債權者ハ差押命令ニ基キ强制執行ノ方法ヲ以テ其證書ヲ債務者ヨリ取上ケシムルコトヲ得

第六百七條　第百九十六條第二項ニ從ヒテ債務者ニ擔保ヲ供セシメテ執行ヲ免カルルコトヲ許ス可キトキハ差押ヘタル金錢債權ニ付テハ取立ノ命令ノミヲ爲ス可シ但此命令ハ第三債務者ヲシテ債務額ヲ供託セシムル效力ノミヲ有ス

第六百八條　債權者取立ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ屆出ツ可シ

第六百九條　差押債權者ハ第三債務者ヲシテ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間內ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシメンコトヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第一　債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度竝ニ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ其限度

第二　債權ニ付キ他ノ者ヨリノ請求ノ有無及ヒ其種類

第三　債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルコトノ有無及ヒ其請求ノ種類

右ノ陳述ヲ求ムル催告ハ之ヲ送達證書ニ記載ス可シ

第三債務者陳述ヲ怠リタルトキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ其責ニ任ス

第六百十條　債權者カ命令ノ旨趣ニ基キ第三債務者ニ對シ訴ヲ起スニ至リタルトキハ一般ノ規定ニ從ヒテ管轄ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ起シ且債務者內國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其訴訟ヲ之ニ告知ス可シ

第六百十一條　債權者カ取立ヲ爲ス可キ債權ノ行用ヲ怠リタルトキハ此カ爲メ債務者ニ生シタル損害ノ責ニ任ス

第六百十二條　債權者ハ命令ニ因リ取立ノ爲メ取得シタル權利ヲ拋棄スルコトヲ得但此カ爲メ其請求ヲ害セラルルコト無シ

此拋棄ハ裁判所ニ屆書ヲ差出シテ之ヲ爲ス但其擔保ハ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達ス可シ

第六百十三條　差押ヘタル債權カ條件附若クハ有期ナルトキ又ハ反對給付ニ繫リ若クハ他ノ理由アリテ其取立ノ困難ナルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ取立ニ換ヘ他ノ換價方法ヲ命スルコトヲ得

債務者內國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其申立ヲ許ス決定前ニ之ヲ審訊ス可シ

第六百十四條　有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル强制執行ハ以下數條ノ規定ヲ斟酌シテ第五百九十八條乃至第六百十二條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第六百十五條　有體動產ノ請求ノ差押ニ付テハ其動產ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

右動產ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關スル規定ヲ適用ス

第六百十六條　不動產ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リ其不動產ヲ不動產所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

引渡シタル不動產ニ付テノ强制執行ハ不動產ニ對スル强制執行ニ付テノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第六百十七條　有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ付テハ支拂ニ換ヘ轉付スル命令ヲ爲スコトヲ得ス

第六百十八條　左ニ揭クル債權ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一　法律上ノ養料

第二　債務者カ義捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈惠ニ因リ受クル繼續ノ收入但債務者及ヒ其家族ノ生活ノ爲メ必要ナルモノニ限ル

第三　下士、兵卒ノ給料竝ニ恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

第四　出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乘組員ニ屬スル軍人、軍屬ノ職務上ノ收入

第五　文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ノ職務上ノ收入、恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

第六　職工、勞役者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲ニ受クル報酬

第一號、第五號、第六號ノ場合ニ於テ職務上ノ收入、恩給其他ノ收入カ一个年間ニ三百圓ヲ超過スルトキ

ハ其超過額ノ半額ヲ差押フルコトヲ得

第六百十九條　數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ債權ノ差押ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第六百二十條　執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ配當ノ要求ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ取立ヲ爲シ其旨ヲ執行裁判所ニ屆出ツルマテ又ハ執達吏カ賣得金ヲ領收スルマテ配當ヲ要求スルコトヲ得但執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ニ付テハ第五百九十條及ヒ第五百九十一條第二項第三項ノ規定ヲ適用ス

支拂ニ換ヘテノ轉付ノ命令アリタル後ハ配當ノ要求ヲ爲スコトヲ得ス

右配當要求ハ職權ヲ以テ之ヲ第三債務者、債務者及ヒ差押債權者ニ送達シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル債權者ノ爲メ要求ノ順序ニ因リ差押ノ效力ヲ生ス

第六百二十一條　金錢ノ債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ債務額ヲ供託スル權利アリ

第三債務者ハ配當ニ與カル或ル債權者ノ求ニ因リ債務額ヲ供託スル義務アリ

第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其事情ヲ裁判所ニ屆出ツ可シ

第六百二十二條　請求カ不動產ニ關スルトキハ第三債務者ハ其不動產所在地ノ區裁判所カ差押債權者又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ命シタル保管人ニ事情ヲ開示シ且送達セラレタル命令ヲ添ヘ其不動產ヲ引渡ス權利ヲ有シ又ハ差押債權者ノ求ニ因リ之ヲ引渡ス義務アリ

第六百二十三條　第三債務者カ取立手續ニ對シテ義務ヲ履行セサルトキハ差押債權者ハ訴ヲ以テ之ヲ履行セシムルコトヲ得

執行力アル正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴訟人トシテ原告ニ加ハル權利アリ

訴ヲ受ケタル第三債務者ハ原告ニ加ハラサル債權者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アランコトヲ口頭辯論ノ第一期日マテニ申立ツルコトヲ得

右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出ヲ受ケタル債權者ニ利害ヲ及ホス效力アリ

第六百二十四條　差押債權者取立手續ヲ怠リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル各債權者ハ一定ノ期間內ニ取立ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ラ取立ヲ爲スコトヲ得

第六百二十五條　不動產ヲ目的トセス又前數條ニ揭ケタル以外ノ財產權ニ對スル强制執行ニ付テハ本款ノ規定ヲ準用ス

若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利ノ管理若クハ讓渡ヲ命スルコトヲ得

第四款　配當手續

第六百二十六條　配當手續ハ動產ニ對スル强制執行ニ際シ競賣期日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ノ期間內ニ債權者間ノ協議調ハサル爲メ金額ヲ供託シタルトキ之ヲ爲ス

第六百二十七條　裁判所ハ事情屆書ニ基キ七日ノ期間內ニ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可キ旨ヲ各債權者ニ催告ス可シ

第六百二十八條　前條ノ期間滿了後裁判所ハ配當表ヲ作ル可シ

右期間ヲ遵守セサル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求竝ニ屆書ノ旨趣及ヒ其憑據書類ニ依リ之ヲ計算ス但後ニ債權額ヲ補充スルコトヲ許サス

第六百二十九條　裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實施ノ爲メ期日ヲ指定シ其期日ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出ス可シ但債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ呼出ヲ爲スコトヲ要セス

配當表ハ各債權者及ヒ債務者ニ閲覽セシムル爲メ遲クトモ期日ノ三日前ニ裁判所書記課ニ之ヲ備置ク可シ

第六百三十條　期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ從ヒテ其配當ヲ實施ス可シ

停止條件附ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託シ民法ニ從ヒテ條件ノ成否ニ依リ後ニ之ヲ支拂ヒ又ハ更ニ配當ス可シ

第五百九十一條第三項ノ場合又ハ假差押ノ場合ニ於テ未タ確定セサル債權其他異議アル債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

配當實施ニ付テハ調書ヲ作ル可シ

第六百三十一條　異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者ハ直チニ陳述ヲ爲ス可シ若シ關係人異議ヲ正當ナリト認ムルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキハ之ニ從ヒ配當表ヲ更正シテ配當ヲ實施ス可シ

異議ノ完結セサルトキハ異議ナキ部分ニ限リ配當ヲ實施ス可シ

第六百三十二條　期日ニ出頭セサル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス

若シ期日ニ出頭セサル債權者カ他ノ債權者ヨリ申立テタル異議ニ關係ヲ有スルトキハ其債權者ハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス

第六百三十三條　期日ニ於テ異議ノ完結セサルトキハ異議ヲ申立テタル債權者ハ他ノ債權者ニ對シ訴ヲ起シタルコトヲ期日ヨリ七日ノ期間內ニ裁判所ニ證明ス可シ若シ其期間ヲ徒過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ拘ハラス配當ノ實施ヲ命ス可シ

第六百三十四條　異議ヲ申立テタル債權者前條ノ期間ヲ怠リタルトキト雖モ配當表ニ從ヒテ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ配當實施ノ爲メ妨ケラルルコト無シ

第六百三十五條　異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ニ付テハ配當裁判所之ヲ管轄ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス若シ數箇ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ一ノ訴ヲ地方裁判所カ管轄スルトキハ其他ノ訴ヲモ亦之ヲ管轄ス但各債權者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受ク可キコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十六條　異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決ニハ配當額ノ係爭部分ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フ可キヤヲ定ム可シ若シ之ヲ定ムルコトヲ適當トセサルトキハ判決ニ於テ新ナル配當表ノ調製及ヒ他ノ配當手續ヲ命ス可シ

第六百三十七條　異議ヲ申立テタル債權者カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス

第六百三十八條　第六百三十六條ノ判決ノ確定シタルコト又ハ前條ノ規定ニ從ヒ異議ヲ取下ケタルモノト看做サレタルコトノ證明アルトキハ配當裁判所ハ之ニ基キ支拂又ハ他ノ配當手續ヲ命ス

第六百三十九條　裁判所ハ配當表ニ依リテ左ノ手續ヲ爲シ配當ヲ實施ス可シ

債權全部ノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ其所持スル執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

債權一分ノミノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返還シ且配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ右債權者ヨリ金額ヲ證記シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

右ノ手續ヲ爲シタルトキハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニス可シ

第二節　不動產ニ對スル強制執行

第一款　通則

第六百四十條　不動產ニ對スル強制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

第一　強制競賣

第二　強制管理

債權者ハ自己ノ選擇ニ依リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ執行セシムルコトヲ得

強制管理ハ假差押ノ執行ノ爲ニモ亦之ヲ爲ス

第六百四十一條　不動產ニ對スル強制執行ニ付テハ其不動產所在地ノ區裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス若シ其不動產數箇ノ區裁判所ノ管轄區內ニ散在スルトキハ各區裁判所管轄權ヲ有ス此場合ニ於テ裁判所必要アリト認ムルトキハ事件ヲ他ノ管轄區裁判所ニ移送スルコトヲ得

強制執行ハ申立ニ因リテ裁判所之ヲ爲ス

第二款　強制競賣

第六百四十二條　強制競賣ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　債權者、債務者及ヒ裁判所ノ表示

第二　不動產ノ表示

第三　競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義

第六百四十三條　申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ添附ス可シ

第一　登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動產ニ付テハ登記判事ノ認證書

第二　登記簿ニ登記アラサル不動產ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ證ス可キ證書

第三　地所ニ付テハ國郡市町村、字、番地、地目、反別若クハ坪數、土地臺帳ニ登錄シタル賃貸價格及ヒ其地所ニ付キ納ム可キ一个年ノ租稅其他ノ公課ヲ證ス可キ證書

第四　建物ニ付テハ國郡市町村、字、番地、構造ノ種類、建坪及ヒ其建物ニ付キ納ム可キ一个年ノ公課ヲ證ス可キ證書

第五　地所、建物ニ付キ賃貸借アル場合ニ於テハ其期限竝ニ借賃及ヒ借賃ノ前拂又ハ敷金ノ差入アルトキハ其額ヲ證ス可キ證書

第二號、第三號及ヒ第四號ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債權者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得但此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシム可シ

強制管理ノ爲メ既ニ不動產ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其執行記錄ニ第一號乃至第五號ノ要件ヲ記載シタルモノ有ルトキハ其證書ヲ添附スルコトヲ要セス

第六百四十四條　競賣手續ノ開始決定ニハ同時ニ債權者ノ爲メ不動產ヲ差押フルコトヲ宣言ス可シ

差押ハ債務者カ不動產ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨ケス

差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第六百四十五條　裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動產ニ付キ强制競賣ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記錄ニ添附スルニ因リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル競賣手續取消ト爲リタルトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動產ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第六百四十六條　配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百四十七條　執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ利害關係人ニ通知ス可シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ右通知アリタルヨリ三日ノ期間內ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判所ニ申出ツ可シ

債務者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間內ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

第六百四十八條　左ニ揭クル者ヲ競賣手續ニ於テノ利害關係人ト爲ス

第一　差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者

第二　債務者

第三　登記簿ニ記入アル不動產上權利者

第四　不動產上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記錄ニ備フ可キ屆出ヲ爲シタル者

第五　知レタル抵當證券ノ所持人及ヒ裏書人

第六百四十九條　差押債權者ノ債權ニ先タツ債權ニ關スル不動產ノ負擔ヲ競落人ニ引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込アルトキニ非サレハ賣却ヲ爲スコトヲ得ス

不動產ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅ス

留置權カ不動產ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

質權カ不動產ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其質權ヲ以テ擔保スル債權及ヒ質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

第六百五十條　權利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知ルトキハ其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知ラサルトキト雖モ競賣手續ヲ續行ス可シ

競賣申立ノ取下ニ因リテ差押ハ消滅ス

第六百五十一條　裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲ス際職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

登記判事ハ前項ノ囑託ニ從ヒテ記入ヲ爲ス可シ

第六百五十二條　登記判事ハ前條ニ揭ケタル記入ヲ爲シタル後登記簿ノ謄本ヲ裁判所ニ送付シ不動產上權利者ヨリ差出シタル證書アルトキハ其抄本ヲモ送付ス可シ

第六百五十三條　豫メ知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨ク可キ事實カ登記判事ノ通知ニ依リ顯ハルルトキハ裁判所ハ其事情ニ因リ直チニ手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間內ニ其障碍ノ消滅シタルコトヲ證明ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ其期間內ニ此證明ヲ爲ササルトキハ期間ノ滿了後職權ヲ以テ手續ヲ取消ス可シ

第六百五十四條　裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ通知シ其不動產ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申出ツ可キコトヲ

ヲ期間ヲ定メテ催告ス可シ

第六百五十五條　裁判所ハ登記判事及ヒ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ通知ヲ受ケタル後鑑定人ヲシテ不動產ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲ス

第六百五十六條　裁判所ハ最低競賣價額ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先タツ不動產上ノ總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル見込ナシトスルトキハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス可シ

右通知ヨリ七日ノ期間內ニ差押債權者カ前項ノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル可キ價額ヲ定メ且其價額ニ應スル競買人ナキ場合ニ於テハ自ラ其價額ヲ以テ買受ク可キ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競賣手續ヲ取消ス可シ

第六百五十七條　裁判所ハ前條第一項ノ債權及ヒ費用ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ル見込アルトキ又ハ差押債權者前條第二項ノ申立ヲ爲シ十分ナル保證ヲ立テタルトキハ職權ヲ以テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告ス

第六百五十八條　競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　不動產ノ表示

第二　租稅其他ノ公課

第三　賃貸借アル場合ニ於テハ其期限竝ニ借賃及ヒ借賃ノ前拂又ハ敷金ノ差入アルトキハ其額

第四　强制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨

第五　競賣期日ノ場所、日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ執達吏ノ氏名竝ニ住所

第六　最低競賣價額

第七　競落期日ノ場所及ヒ日時

第八　執行記錄ヲ閱覽シ得ヘキ場所

第九　登記簿ニ記入ヲ要セサル不動產上權利ヲ有スル者其債權ヲ申出ツ可キ旨

第十　利害關係人競賣期日ニ出頭ス可キ旨

第六百五十九條　競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所內又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム

第六百六十條　競落期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ス

此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

第六百六十一條　競賣期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ掲示シテ之ヲ爲ス

第一　裁判所ノ掲示板

第二　不動產所在地ノ市町村ノ掲示板

此他公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ掲載スルコトヲ得

第六百六十二條　最低競賣價額ヲ除ク外本款ニ掲ケタル賣却條件ノ變更ハ利害關係人ノ合意アルトキニ限リ之ヲ許ス但此合意ハ競賣期日ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百六十二條ノ二　裁判所必要アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ本款ニ掲ケタル賣却條件ヲ變更スルコトヲ得

右裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第一項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ不動產ニ付キ必要ナル取調ヲ爲サシムルコトヲ得

第六百六十三條　競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記錄ヲ各人ノ閱覽ニ供シ又特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競買價額申出ヲ催告ス可シ

第六百六十四條　競買人カ保證トシテ競買價額十分ノ一ニ當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預クルトキニ非サレハ其競買ヲ許サス

第六百六十五條　競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買ノ許アルマテ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

競賣ハ競買價額ヲ申出ツ可キ催告後滿一時間ヲ過クルニ非サレハ之ヲ終局スルコトヲ得ス

第六百六十六條　執達吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後競賣ノ終局ヲ告知ス可シ

他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ責務ヲ免カレ且即時ニ保證ノ返還ヲ求ムル權利アリ

第六百六十七條　競賣ニ付キ作ル可キ調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　不動產ノ表示

第二　差押債權者ノ表示

第三　執行記錄ヲ各人ノ閱覽ニ供シタルコト又特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルコト

第四　競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時

第五　總テノ競買價額竝ニ其申出人ノ氏名、住所又ハ許ス可キ競買ノ申出ナキコト

第六　競賣ノ終局ヲ告知シタル日時

第七　競買ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又ハ保證ヲ立テサル爲メ其競買ヲ許ササルコト

第八　最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタルコト

最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ハ調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ執達吏ハ受取證ヲ取リ之ヲ調書ニ添附ス可シ

第六百六十八條　執達吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノハ三日內ニ裁判所書記ニ之ヲ渡ス可シ

第六百六十九條　最高價競買人執行裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ屆出ツ可シ若シ之ヲ怠リタルトキハ第百七十條第二項及ヒ第百七十三條ノ規定ヲ準用ス

住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ヲ作ラシメテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百七十條　競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競賣價額ヲ相當ニ低減シ新競賣期日ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキモ亦同シ

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

第六百七十一條　裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ爲サシム可シ

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテニ之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述ニ付テモ亦同シ

第六百七十二條　競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス

第一　强制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト

第二　最高價競買人賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動產ヲ取得スル能力ナキコト

第三　法律上ノ賣却條件ニ牴觸シテ競買ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト

第四　競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ揭ケタル要件ノ記載ナキコト

第五　競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲ササルコト

第六　第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セサリシコト

第七　第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト

第八　第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルコト

第六百七十三條　異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス

第六百七十四條　裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ競落ヲ許サス

第六百七十二條第一號乃至第八號ニ揭ケタル事項ノ一アルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サス但第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動產カ讓渡スコトヲ得サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限リ第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠缺カ除去セラレサルトキニ限リ第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セサルトキニ限ル

第六百七十五條　數箇ノ不動產ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ或ル不動產ノ賣得金ヲ以テ各債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ强制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キトキハ他ノ不動產ニ付テハ競落ヲ許サス

此場合ニ於テ債務者ハ其不動產中賣却ス可キモノヲ指定スルコトヲ得

第六百七十六條　第六百七十二條及ヒ第六百七十四條ノ規定ニ從ヒ全ク競落ヲ許ササル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許ス可キトキハ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ定ム可シ

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

第六百七十七條　前條ノ規定ニ從ヒテ新競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ヲ許シ又ハ許ササル決定ノ言渡ヲ爲ス可シ

競落期日ノ調書ニ付テハ第百四十二條乃至第百四十七條ノ規定ヲ準用ス

第六百七十八條　競賣期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因リ不動產カ著シク毀損シタルトキハ最高價競買人タル呼上ヲ受ケタル者ハ其競買ヲ取消ス權利アリ其毀損ノ著シキヤ否ヤハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第六百七十九條　競落ヲ許ス決定ニハ競賣ヲ爲シタル不動產、競落人及ヒ競落ヲ許シタル競買價額ヲ揭ケ又特別ノ賣却條件ヲ以テ競落ヲ爲シタルトキハ其條件ヲモ揭ク可シ